

初めての英語パラメンタリーディベート
A New Introduction to Debating in English 【Book 2】
Parliamentary Debate

小林 良裕 [編著]

 S.A.D. Works

はじめに

(1) 本テキスト作成の意図

本冊子は、「An Introduction to Debating in English Book 1」の続編です。前巻で学んだスピーチの仕方、議論の作り方、反論の仕方などを踏まえて、パラメンタリーディベートを練習していくための内容になっています。

パラメンタリーディベートとは、イギリスで生まれた形式のディベートです。その名前が示唆しており、議会(Parliament)での討論の訓練を目的とした物です。ある論題に対して肯定側、否定側に分かれ、専門の知識を持たない一般の聴衆を説得した方が勝ち、という物です。パラメンタリーディベートにはいくつかのフォーマットがありますが、本教科書ではまず、最も基本的な北米形式(North American Style)を導入し、他のフォーマットに関しては後のレッスンで簡単に導入します。

パラメンタリーディベートの歴史は、19世紀にさかのぼります。オックスフォード大学で1823年に初めてのディベート部が作られ、ケンブリッジ大学との間で試合が行われたと記録が残っています。日本では、1990年代初頭に国際基督教大学に交換留学で訪れたヨーロッパのディベートチャンピオンと、学生団体の招きで来日したプリンストン大学の一行がそれぞれ伝えたのが、その始まりと言われています。

2007年の春、自分が学生生活に一区切りをつけるにあたって、持っている英語ディベートの知識をまとめようと思いました。英語ディベートの形式に慣れるまでには、ある程度の時間がかかります。指導してくれる上級生がおらず練習の機会も限られている、そんな学部1年生が最低限の知識を得られる様に。少しでも多くの人がディベートを続け、大切な物を学び、生涯の友人を得られる様に。そんな思いからこの小冊子を作りました。

(2) テキストの構成と使い方

本書を読むだけでは、ディベートのスキルは身に付きません。誰かコーチをしてくれる人を探して、その人の指導の補助として使ってください。事前に読んで、コーチの人から該当する内容に関して口頭でレクチャーをしてもらい、そしてグループで関連する課題を行ってみてください。

英語ディベートを行う目的に合わせて、本書は3つのパートに分かれています。各パートを書く上で念頭に置いた対象と、その内容は以下の通りです：

Part 1. 導入編：初めてのパラメンタリーディベート

このパートでは、パラメンタリーディベートの各スタイルの中で最も基本的な、North American Styleについて知識を付けます。高校1年生から、大学1年目頃までの人が対象です。自分で試合をする以前に、他の人の試合を見て理解できるようになることが目標です。

Part 2. 基礎編：北米形式をより深める

North American Style に慣れ、日本国内の大会に出場できるようにすることがこのパートの目標です。大会に出て好成績を残せるように、北米形式の各スピーチの仕方をより細かく説明します。

Part 3. 応用編：国際大会に出場する

日本国内の大学生大会に幾つか出場して、結果を出せるようになった人のために、次のステップとして国際大会に出場する上で必要になる知識とスキルを扱います。高校生世界大会に出場を目指す人、大学生向けのアジア地域の大会、そして大学生世界大会に出場を志す人向けの内容です。

(3) その他の注意事項

本テキストでは、英語ディベートで用いられている用語をそのまま使い、必要であればその日本語訳が付記されています。しかしながら、Whip Speech の様に対応する的確な日本語が無い場合は、訳を与えずそのまま英語名のみを用いました。そして、英語ディベートが一部の好事家の所有物とならないように、専門用語の使用は最低限にとどめました。

また、テキスト内ではスピーチの具体例がいくつか示されていますが、それらは英語を外国語とする人間（つまり小林ですが）によって、出来るだけ平易な表現で書かれました。英語を第1言語とする者による例を示すことも可能でしたが、それらは外国語として英語を話すディベート初心者が模範とするにはあまりに敷居が高すぎるため、ここには含めませんでした。

本テキストをきっかけとして、一人でも多くの方にディベートに親しんで頂ければと思います。ディベートを通して、何か大切なものを皆さんが得られますように。

2011年3月

小林良裕

執筆分担

本教科書の執筆者と分担は以下の通りです：

- ◇ 恵良慎一 (ERA, Shinichi)
資料編 初心者向けハンドアウト作成
ICU Debating Society OB.
三井物産 勤務
(大学在籍時に作成された物を、許可を頂き編集して収録させて頂きました)

- ◇ 大庭大 (OBA, Dai)
「Lesson 22. Principle Argument」執筆
ICU Debating Society OB.
東京大学公共政策大学院 在籍

- ◇ 奥田恒 (OKUDA, Hisashi)
「Lesson 25. Philosophy」執筆
ICU Debating Society 2006 年度 部長.
JPDU 2007 年度 副代表
早稲田大学大学院 修士課程修了

上記以外の内容は、編著者として小林が作成しました。

Part 1. 導入編: 初めてのパーラメンタリーディベート

Lesson 1. North American Style	1
1.1 North American Style の解説	2
1.2 Prime Minister Constructive Speech	4
1.3 Leader of the Opposition Constructive Speech	6
1.4 Member of the Government Constructive Speech	9
1.5 Member of the Opposition Constructive Speech	12
1.6 Leader of the Opposition Reply Speech	14
1.7 Prime Minister Reply Speech	16
Lesson 2. NA Style で試合をする	21
2.1 論題の定義の仕方	22
2.2 論題の分類	24
2.3 定義のフォーマット	25
2.4 ジャッジの仕方	26
2.5 Reply Speech について	28
Lesson 3. 紙上モデルディベート	31
3.1 本レッスンの課題について	32
3.2 Prime Minister Speech 例	32
3.3 Leader of the Opposition Speech 例	34
3.4 Member of the Government Speech 例	37
3.5 Member of the Opposition Speech 例	39
Lesson 4. Point of Information	43
4.1 POI の規則と機能	44
4.2 POI で用いる表現の例	45
4.3 POI の与え方	46
4.4 POI の返し方	51
4.5 POI で遊ぼう	54

Part 2. 基礎編: North American Style をより深める

Lesson 5. 定義の仕方	55
5.1 定義について	56
5.2 定義の仕方	58
5.3 定義の練習	63
Lesson 6. PM Constructive Speech	65
6.1 PM Speech の例	66
6.2 Team line と Allocation について.....	69
6.3 Team line と Allocation 作りの練習.....	73
6.4 PM Speech 練習	77
Lesson 7. LO Constructive Speech	81
7.1 LO スピーチの例	82
7.2 否定側の Team line と Allocation の作り方	85
7.3 政策案を評価する 3つの視点.....	88
7.4 LO Speech 練習.....	90
Lesson 8. Member Speeches	95
8.1 MG スピーチの例	96
8.2 チームとして試合をする (1) : 準備時間中	100
8.3 チームとして試合をする (2) : 試合中	102
8.4 Member Speech 練習.....	105
Lesson 9. Reply Speech	111
9.1 Reply Speech の例 (LOR)	112
9.2 Reply Speech の役割.....	114
9.3 MO の提示した新しい議論への反論	115
9.4 Point of Order (POO) に関して.....	116
9.5 Reply Speech の構成.....	117
9.6 Reply Speech の準備の仕方.....	119
9.7 練習課題	120
Lesson 10. ジャッジの仕方	121
10.1 ジャッジの役割	122
10.2 よく聞くジャッジへの不満	123

10.3	ディベーターの立場から論題への不満	124
10.4	知らないといけない最低限のルール	126
10.5	初心者としてのジャッジの仕方 (1) 勝敗の決め方	127
10.6	初心者としてのジャッジの仕方 (2) コメントの仕方	130
10.7	良いジャッジになるには	132
10.8	レッスンのまとめ課題	132

Part 3. 応用編: 国際大会に出場する

Lesson 11. 政府側と野党側の戦略	133
11.1 否定側にとって対応に困る政策案	134
11.2 政策案の評価基準①: 「効果と代償」	135
11.3 効果の弱い政策案への対応	138
11.4 政府案の評価基準②: 「役割」	142
11.5 政策案を作る	143
11.6 Definition Challenge	144
Lesson 12. Principle Argument (大庭大 執筆)	147
12.1 Principle Argument とは	148
12.2 Principle Argument の3用途	149
12.3 Principle Argument の説明の仕方	151
12.4 “Liberal Democratic Countries” というセットアップ	153
12.5 “Cookie Cutter”	154
Lesson 13. Asian Style & BP Style	159
13.1 パーラメンタリーディベートの諸形式	160
13.2 Asian Style	160
13.3 Asian Style のバリエーション	166
13.4 British Parliamentary Style	167
13.5 世界大会でのジャッジングの実際	170
Lesson 14. Philosophy (奥田恒 執筆)	177
14.1 フィロソフィとは何か	178
14.2 フィロソフィを説明する	182
14.3 本題: クッキーカッターのリスト	186
(1) リベラリズムとコミュニタリアニズム	186
(2) 社会正義	191

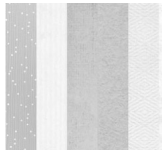
(3) 経済思想	194
(4) 環境問題	197
(5) 動物の権利	199
(6) フェミニズムと平等問題	201
(7) 多文化主義	203
(8) 犯罪への対処	206
(9) 政治過程	209
(10) 国際関係	218
14.4 まとめ	224

Lesson 15. さらなる向上のために..... 227

15.1 ディベートに関連する団体・行事について	228
15.2 練習の継続方法について	231
15.3 ディベートを続ける人へ	232
15.4 おわりに	235

資料編

A. 日本における英語ディベート小史.....	237
B. Manual for Chairperson (議長の仕事の説明)	239
C. 文献案内.....	241
D. List of the Motions for Practice	243
E. 大会で使われた論題集.....	250
F. Useful Expression」(ディベート用表現集)	256
G. Outline for Beginners	258



Lesson 1.

North American Style



Contents:

Section 1. North American Style の解説

Section 2. PM Constructive Speech

Section 3. LO Constructive Speech

Section 4. MG Constructive Speech

Section 5. MO Constructive Speech

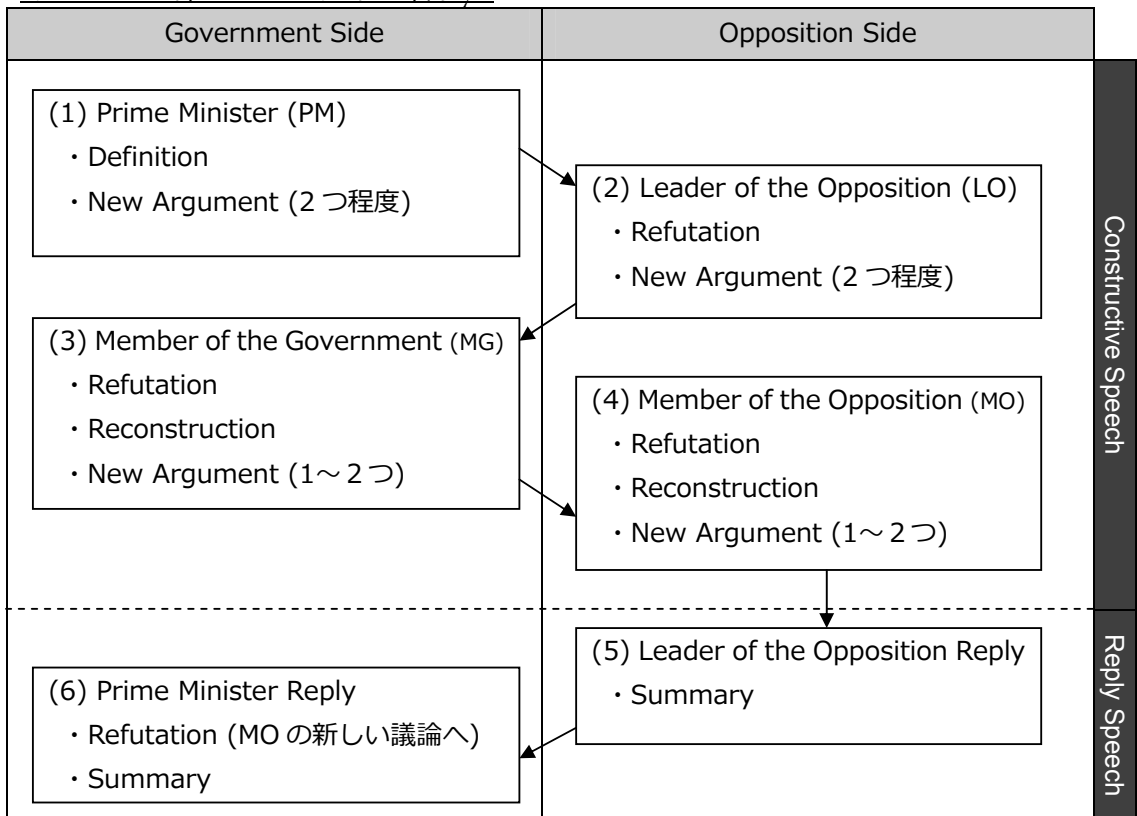
Section 6. LO Reply Speech

Section 7. PM Reply Speech

SECTION 1. NORTH AMERICAN STYLE の解説

これから練習することになる、North American スタイル（大学生の間では、「ノース」と呼ばれています）ですが、以下の様にスピーチの流れをまとめることができます：

☀ The Format of North American Style



この形式は、4 チームで争う British Parliamentary Style をより単純にした物と捉えて間違いはないでしょう。BP スタイルでは Opening Side と Closing Side という様に、肯定側そして否定側がそれぞれさらに前半後半の 2 チームに分かれますが、この形式では Opening Side だけで戦います。

最後のまとめスピーチである Reply Speech は、Leader of the Opposition と Prime Minister がそれぞれ分担します。POI を Constructive Speech の最初と最後の 1 分間を除いて行うことが出来るのは、他のスタイルと同様です。準備時間は論題発表から、20 分間になっています。1 つ注意が必要なのは、Reply Speech では新しい議論も、反論も行ってはならないという点です。すでに話した材料を踏まえて、どうして自分たちのチームが勝ったのかいくつかの争点に絞って説明をします。ただし、肯定側の Prime Minister Reply では、Member of the Government が出した新しい議論に対しては、反論を加えることが許されています。

🌟 各スピーチの役割

<p>1. Prime Minister Constructive (7 minutes)</p> <p>(1) 論題を確認し曖昧な語を定義して、何をこのラウンドで政府側が立証するか説明します。</p> <p>(2) 論題を肯定する大まかな理由を示します(英文エッセイでの thesis statement の提示)。</p> <p>(3) ラウンドで自分とメンバーとそれぞれ何を説明するか、アウトラインを示します。</p> <p>(4) 政府側の根拠を、複数の議論(argument)に分けて説明していきます。</p>
<p>2. Leader of the Opposition Constructive (7 minutes)</p> <p>(1) PM の出した定義を確認、必要があれば再定義して野党側が何を否定するのか説明します。</p> <p>(2) いかなる理由から論題を否定するか、大まかな理由 (team line) を説明します。</p> <p>(3) ラウンドで、自分とメンバーが何を説明するか、アウトラインを示します。</p> <p>(4) 政府側が出した議論(argument)に対して反論(refute)します。</p> <p>(5) 野党側の根拠を、複数の議論に分けて説明していきます。</p>
<p>3. Member of the Government Constructive (7 minutes)</p> <p>(1) 野党側との立場の違いを、大まかに説明します。</p> <p>(2) 野党側の議論に対して、反論(refute)を行います。</p> <p>(3) 政府側の新しい議論を導入します。</p> <p>(4) 野党側による反論に対して、自分たちの論点を立て直します(reconstruct)。</p>
<p>4. Member of the Opposition Constructive (7 minutes)</p> <p>(1) 政府側との立場の違いを説明します。</p> <p>(2) 政府側の議論に対して、反論を行います。</p> <p>(3) 否定側の新しい議論を、導入します。</p> <p>(4) 肯定側による反論に対して、自分たちの論点を立て直します。</p>
<p>5. Leader of the Opposition Reply (4 minutes)</p> <p>(1) ラウンドを、幾つかの争点に絞って総括し、いかに否定側の議論が肯定側に対して優れていたか説明します。</p>
<p>6. Prime Minister Reply (4 minutes)</p> <p>(1) Member of the Opposition が導入した新しい議論に対して、反論を行います。</p> <p>(2) ラウンドを、幾つかの争点に絞って総括し、いかに政府側の議論が否定側に対して優れていたか説明します。</p>

North American Style は、90 年代の初めに来日したプリンストン大学の学生を通して導入されました。北米形式のパラメンタリー・ディベートが行われているのは北米と日本のみです。

以下では、試合の実演を見る機会が無い方のために、試合のスピーチ例を示します。実際のスピーチを書き起こしたものではなく、それぞれ読み上げた場合スピーチ時間に過不足が生じることと思われます。また、POI の応答については省略しています。

SECTION 2. PRIME MINISTER CONSTRUCTIVE SPEECH

論題は、「本院は、投票を義務化する(This house would introduce compulsory voting)」というものです。各スピーチ後に、簡単な解説を加えます。

1) Prime Minister Constructive Speech 実例

Thank you Madam chair, and good morning ladies and gentlemen in this house. Today, we are given the motion that this house would introduce compulsory voting. We, the government side strongly support this motion.

First, let me define the motion. “This house” means Japanese government. And, what is “compulsory voting”? It is to make voting something which people have to do. After plan adoption, if you do not cast a vote in an election, you are asked to pay 10,000 yen as fine. The kind of election we are going to focus on is a national election which decides who will be the members of the Diet. This is the proposal from the government side.

We believe that compulsory voting should be introduced in Japan because it would make quality of Japanese politics better. We have three arguments to support our proposal. First point is “more reflection of people’s voices”. Second point is “more interest in politics”. Finally, the third point, which is going to be explained by my partner, is “better politicians”. So, let me explain one by one.

First argument is “more reflection of people’s voices”. Our claim is that if we introduce compulsory voting, the results of an election reflect people’s voices more broadly. Let me give you the reasoning. Under the status quo, most of the people who regularly go to elections are the people who have special interests in politics, such as those who are the members of occupational or professional associations, agricultural cooperatives, or labor unions. You may include those who support new highway project or new bullet train project. If you read newspaper, you can find some articles on how such interest groups are affecting the results of an election in a way that is good for the specific group, but not necessary good for the people in general.

For instance, in the case of the United States, the National Rifle Association is opposing any further gun control. The consequence is that it is very easy to have a gun, even for the bad people who may commit crimes. Even though this example is taken from the United States,

what interest groups do is the same in Japan too. We believe that the result of an election should reflect the interest of general public, not small number of people. So, the current situation is problematic.

Then, what will happen if we introduce compulsory voting? After plan adoption, the kinds of people who go to elections would be more diverse, such as young people or workers who usually spend their election holidays having fun or taking a rest. The influence of the interest groups would be reduced and the result of the elections would truly reflect the voices of people.

Why this point is important? This is because the Diet members should represent the will of all the Japanese citizens. When the Diet members are elected mainly with the supports of the interest groups, the laws they are going to make would prioritize the benefits of the groups over the interests of all the Japanese citizens. In this way, our proposal is important to make the Japanese politics reflect people's voices.

Then, let me go on to the second argument, which is on "more interests in politics". Our claim is that if we introduce compulsory voting, we can promote people to have more interest in politics.

Let me explain how this will happen. Nowadays, a lot of people have little interest in politics. No matter how much you think about which candidate to choose, the impact you can make is very small because you have only one vote. So, people feel helpless and less likely to go voting. If you do not go voting, you are less likely to have interest in politics. You do not care even when newspapers report the scandal of politicians like getting bribery. You may say, "That's the politics" and pay no further attention. This is a worrisome situation for democracy.

Then, what will happen if we introduce compulsory voting? Although you have only one vote, you have to go to voting stations. Because you have to do, at least you think about it. You think about which candidate is more desirable than the others. You gather information. You think about the important issues of our society. Then, you cast a vote. By introducing compulsory voting, we can assure that all the people to pay attention to politics.

Why is this point important? Because in order for democracy to work, citizens need to check what the politicians are doing. Politicians will do better work if their efforts are being watched and rewarded with better chances of re-election. If people are not paying attention to what they do, politicians will lose motivation to do things for people, ordinary citizens.

In summary, we have told you that our proposal is beneficial to make the Japanese politics reflect peoples' voices. Also, we have told you that our plan would promote people to have more interest in politics. So for all these reasons, we beg to propose. Thank you. (848 Words)

2) スピーチについての補足

先ほど一覧表で示した通り、PM スピーチでは、次のページにリストした 4 点の役割を果たすことが期待されています。それぞれ、スピーチのどの点に相当するのか確認してみてください。

補足をする、定義に関してはこのスピーチ例では投票の義務化を日本の国政選挙で導入する、とされています。論題の中には細かい語の定義をして、明確な政策を出す必要のある物もありますが、初心者を対象とした試合では通例、定義の必要がほとんど無い論題が用いられます。

次に、2 点目のどうしてその政策を採用すべきなのか簡潔にまとめた 1 文に関してですが、これは team line 以外にも team stance などと呼ばれる事があります。そして、聞き手にとって分かりやすくするために、自分とパートナーのスピーチの役割分担を示した後で、個々の議論の説明に移ります。

○ PM Speech の役割

- (1) [Definition] 論題の曖昧な語を定義して、Government 側がその試合で証明するプラン(plan)あるいはケース (case statement) を示します。
- (2) [Team line] ケースを証明するチームとして説明する理由 (team line)を大まかに説明します。
- (3) [Allocation] パートナーとの議論の説明の役割分担(allocation) を示します。
- (4) [Argument] 肯定側の主張を、複数の議論に分けて、説明します。

◇ 時間配分の目安: 7 分スピーチで、definition からallocation まで長くて2 分~3 分。各議論に2分~3 分。最後の30 秒は全体のまとめ。POI は2 回前後、特に定義に関して1 回取る。

SECTION 3. LEADER OF THE OPPOSITION CONSTRUCTIVE SPEECH

次に、野党側の 1 人目のスピーチです。先程と同様に、スピーチ例を示した後で簡単な補足を加えます。

1) Leader of the Opposition Constructive Speech 案例

Madam chair, and members of this house. Today, the government side has defined the motion as that Japanese people have to pay 10,000 yen when they do not vote. We, the opposition side strongly believes that this proposal should not be taken because there is no necessity to force people to vote and the current situation where people can choose whether or not to vote is much better than their proposal. So, we beg to oppose.

Before we give you our side of the arguments, let me refute what the previous speaker has said. First, he said that after plan adoption, everyone has to vote and this is good for reflecting people's voices. However, this is not always true. Now, only those who really care about politics go to vote. Still, after plan adoption, those who are not willing to do so are forced to vote. Do you really think that such people will think carefully and make a good decision? I don't think so. The quality of elections would rather get worse because of this forced voting.

Second, he said that people will have more interests in politics because they are forced to vote. This is simply not true. If you are forced to do something, you will have negative feeling about it. Also, when people are not interested in politics and do not want to vote, something is wrong with the democracy itself. If candidates are not attractive enough for voters, candidates should put more efforts so that voters would appear on the election day. In any cases, voters are not the ones to be blamed.

Then, let me move on to our arguments. We have three arguments. First point is on the right not to vote. Second point is on less qualified politicians. The last point which is going to be explained by my partner is on random voting. So, let me explain one by one.

My first argument is on the right not to vote. My claim is that this proposal denies us the right not to vote, which is one of the important ways to express our opinions. I will explain this point in terms of two levels.

First level is on the question of how the right not to vote is important. Under the status quo, people can express their distrusts toward the candidates by refusing to vote. In some elections, there are only a few candidates, and it is possible that none of them represent your opinions. In such a situation, you can show your disapproval by not voting. When the voting rate is low, we can say that the winner of the election lacks genuine trust of the citizens. In this way, our refusal to vote can be a way to send a strong message to politicians that none of them are our choice. Then, let me explain the second level which is about what will happen when people are deprived

of this right. Even when no candidates appeal to you, you are forced to choose one. The voting rate will always be close to 100 percents, so we cannot show our dissatisfactions with the election itself by making the voting rate low. We are going to lose one of the effective ways to ask politicians to do better job. Therefore, we should not introduce compulsory voting.

Next, let me move on to the second argument which is about less qualified politicians. I am going to explain that the number of politicians who are just famous and do not have any real policy will increase if we introduce compulsory voting.

Under the status quo, most of the people who vote are those who really care about politics and have a say on our society. Most of the candidates try to appeal to those serious voters and tell us what they are going to do when they are elected. Even though there are some politicians who are just famous and have no knowledge or skills which are necessary to reflect our opinions into politics, the number of such people is relatively small.

However, what will happen when the compulsory voting is introduced? Those who have little interests in politics will vote. Then, for political parties, the easiest way to get votes from such uninterested population is to recruit famous people as their candidates. It is sad, but pop singers, athletes, and movie stars are more likely to appeal to general public than serious politicians. So, the number of such celebrity candidates will increase.

Why is this so problematic? This is because those celebrity candidates do not have any experiences in politics. One of the important tasks of politicians is to draft a law. Still, if you are not trained and have no skills, you cannot do such a job. At best, such celebrity politicians would ask bureaucrats or career politicians to do the job instead of them. In short, they are only the “Yes man” of the party. In this way, people’s opinions will less likely to be reflected in the government policy. So, we should not take this proposal.

So for all these reasons, we beg to oppose. (846 words)

2) スピーチについての補足

もし PM のスピーチで出された定義に何か曖昧な点があった場合、極端に相手チームを不利にしない限り、LO はその定義に何か付け加えることが出来ます。その次に、どうしてその提示された政策の導入に反対をするのか、1 文で示します（この 1 文を、team line または team stance と呼びます）。通例は、以下の様な理由が述べられます：

- ① そもそも問題は存在しない。
- ② 問題は存在するが、現状の仕組みで十分対応できる。
- ③ 問題は存在し現状では対応が不十分だが、政府側の示した策よりもより良い解決案がある。
- ④ 問題が存在し現状では対応が不十分だが、政府側の示した案は現状よりもかえって事態を悪化させてしまう。

次にパートナーとの役割分担を説明し、政府側の出した議論に反論を加えた後で、ようやく自分たちの議論に入ります。目安としては、7分スピーチの場合、反論を終えて議論の説明を始めるまで3分程度を費やすのが良いとされています。

○ L0 Speech の役割

- (1) [Confirmation of the definition] PM の出した定義を確認し、必要があれば再定義して、Opposition 側が何を否定するのか説明します。
 - (2) [Team line] いかなる理由から反対するかチームとしての理由 (team line)を説明します。
 - (3) [Allocation] ラウンドで自分とメンバーが何を説明するか、アウトラインを示します。
 - (4) [Refutation] 肯定側の出した論点に対して反論(refute)します。
 - (5) [Argument] 反対側の根拠を、複数の議論に分けて説明します。
- ◇時間配分の目安: 7分スピーチでallocation 終了まで長くて1分。Refutation 終了まで2分半。各議論に2分~3分。余裕があれば最後の30秒でまとめをする。POI は2回程度取る。

SECTION 4. MEMBER OF THE GOVERNMENT CONSTRUCTIVE SPEECH

2人目のスピーチです。定義に関するやり取りと、パートナーとの役割分担の説明が無い代わりに、政府側も野党側も相手が反論した自分たちの議論を立て直す、という役割があります。

1) Member of the Government Constructive Speech 実例

Madam chair, and in this house. Let me confirm our team stance. Today, the government side strongly believes that compulsory voting should be introduced in Japan because it would make quality of Japanese politics better. The opposition side has been saying that the status quo is enough and there is no necessity to introduce our plan. However, this is not true.

First, let me refute what the previous speaker has said. As their first argument, he said that by not voting, people can send the message to candidates that all of them are not qualified, and our proposal prevents people from expressing their opinions in this way. However, this is not true. Even after plan adoption, people can drop a voting paper into a ballot box without writing any name on it. So, this argument does not stand.

Second, he said that after plan adoption, the number of celebrity candidates will increase and this is bad for the Japanese politics. However, their argument is based on the false assumption that all celebrity candidates are bad. We know many good politicians who were involved in the entertainment industry. For instance, Ronald Regan was an actor. The current governor of the State of California was an actor too. Also in Japan, the governor of the Miyazaki prefecture, who used to be a comedian, has been doing a great job. Often, those celebrity politicians can do important reforms because they are supported by the general public and have little connections with interest groups.

Moreover, even if voters are influenced by the famousness of the politicians initially, they will learn through experiences. They may choose famous people at first. Still, if their performance of such celebrity politicians is not good in the Diet, they may think differently next time. In this way, in the long run, we can minimize the harm. So, this argument does not stand.

Then, let me move on to our third argument which is about “better politicians”. My claim is that if compulsory voting is introduced, politicians will improve their skills to get more votes. I will explain this argument in terms of two aspects which are “better communication skills” and “better policy-making ability”.

First, we believe that after plan adoption, politicians will be more willing to talk with voters and listen to what we want. The reasoning is as follow. Under the current situation, politicians do not have to communicate with the ordinary citizens because they may not vote. What matters in elections is to get reliable support from specific interest groups. So, politicians prioritize talking with the interest groups over talking with ordinary people. It does not require any skills. You only need to have connections with them.

However, after plan adoption, the votes from ordinary people will be more important and politicians need supports from them in order to win an election. So, they will have more meetings with us. They will give us more easy to understand explanations. As they talk with us, they will learn and study how to appeal to us. In this way, politicians would improve their

communication skills. This is important because we believe that good politicians need to be good communicators.

Then, let me move on to the second aspect which is “better policy”. My claim is that after plan adoption, politicians will improve their policy-making skills in order to represent the diverse concerns of all the citizens. Under the current situation, they have to think about only the small number of people who are sure to cast a vote. So, the kind of policy which is introduced now is simple and one-dimensional, such as we should build a new high way or we should cut tax for big companies.

Then, what will happen if we introduce compulsory voting? As we have already told you, to get support from a few group of people is not sufficient to win an election. They need support from diverse groups of people, which can be a very difficult task.

For instance, elderly people want better social welfare programs, and they want Japanese government to spend more. Since elderly people are most likely to vote, politicians just think about them and the government spending for them has been increasing now. Still, after plan adoption, young people who do not want further tax increase will vote. Those who do not want the amount of national debt to be increased will also vote. So, politicians have to think about how to appeal to those different groups of people. They have to study more. Instead of spending more, which is an easy solution, they must look for the way to maximize the resources available now. In this way, the policy-making abilities of politicians will be improved.

Finally, let me quickly reconstruct my partner’s points. Our first point on reflecting people’s voices was refuted by the opposition side, saying that most of the new voters will vote recklessly. However, even if people make reckless voting first, in the long term, they will learn and make better decisions with practices. So, their concern is not important.

Second, they say that compulsory voting does not have any educational effects because people hate what they are forced to do. However, in schools, we are forced to learn, but we learn. Also, in order to live and earn money, we are forced to work, but we can find some enjoyment in working. So, their refutation does not stand.

So for all reasons, we beg to propose. Thank you. (915 words)

2) スピーチについての補足

政府側 2 人目のスピーチで期待される役割は、以下の通りです。

○ MG Speech の役割

- (1) [Clarification of Gov. and Opp. stances] 野党側との立場の違いを大まかに説明します(単にteam line を繰り返すだけで構いません)。
- (2) [Refutation] 野党側の論点に対して、反論を行います。
- (3) [Argument] 与党側の新しい論点を、導入します。
- (4) [Reconstruction] 野党側による反論に対して自分たちの論点を立て直します。

◇時間配分の目安: 7 分スピーチで、Refutation 終了まで長くて3 分。新しい議論に2 ~3 余裕があればreconstruction に1~2 分。最後の30 秒でまとめ。POI は2 回前後取る。

まず 1 つ目の政府側と野党側との立場の違いを明らかにするという点ですが、これは両者の違いを鮮明にして、ジャッジの理解を助ける為の補足的な内容であり、省略しても構いません。次に、4 番目の Reconstruction ですが、スピーチ時間に余裕が無い場合は、特に弱められた議論だけを立て直し、相手の反論の幾らかはそのまま流す事があります。

SECTION 5. MEMBER OF THE OPPOSITION CONSTRUCTIVE SPEECH

それでは、最後の立論スピーチである否定側の 2 人目のスピーチです。

1) Member of the Opposition Constructive Speech 事例

Thank you madam speaker, and good afternoon ladies and gentlemen in this house. We, the opposition side strongly believes that this proposal should not be taken because there is no necessity to force people to vote and the current situation where people can choose whether or not to vote is much better than their proposal. So, we beg to oppose.

First, let me refute what the previous speaker has said. He argued two things. First, he said that if we introduce compulsory voting, politicians will somehow improve their communication skills. However, this is not necessary true. Even now, politicians do debate in the Diet. They make a speech in public. They do oral presentations to voters in an election. In this way, politicians are

already communicating with voters. They are already learning public speaking. So, it is unclear how much difference would be made by taking this proposal.

Second, he said that politicians would improve their policy-making ability because they have to make a policy which appeals not only to interest groups but also to different groups of people. However, this argument is based on a false assumption that politicians are just thinking about interest groups and ignoring ordinary citizens. This is just an imagination. Even now, politicians cannot win an election without getting support from ordinary citizens. The government side has been repeatedly saying that so-called interest groups are strong. Still their influence has been declining.

For instance, the Liberal Democratic Party has lost the control of the upper house of the Diet. It is said that people's disbelief in the government's management of the pension fund was the main factor of the LDP's defeat. Moreover, the labor union of the postal office, which was the strongest supporting group of LDP, strongly opposed the privatization of the postal office. Still, LDP carried out the privatization as the plan was supported by the general public. Even now, as these examples show, interest groups are no longer dominating the politics. So, we cannot see the clear mechanism of how their proposal will make a difference.

Then, I would like to move on to our third argument which is about the random voting. My claim is that after plan adoption, the number of people who cast a vote without thinking much will increase. Under the current situation, people who go to an election is only those who really have an opinion. Those who have no opinions about politics do not vote. This is the status quo.

Then, what will happen if all citizens are force to vote. You are very busy. You have no time to listen to speeches delivered by the candidates. You have no time to read newspaper. You have little time to compare which party is closest to your opinion. You do not even know who the candidates are. Still, you are forced to vote. Do you really think you can make a good decision? I do not think so. In this way, the consequence is that the number of votes which are cast without much consideration will increase. The result of an election is less likely to represent what people really care. Now, if you are not sure of who the best candidate is, you do not have to vote and you let others decide. So, the status quo is much better. Therefore, we should not introduce compulsory voting.

Lastly, let me reconstruct our arguments. First, the government side said that people can drop a ballot sheet without writing any name on it. Still, it is difficult to distinguish simply miswritten

ballots and intentionally cast blank ballots. So, it would get more difficult to check how many people actually do not want to vote at all.

Second, he said that celebrity politicians can do better job. However, we know many cases of bad celebrity politicians. For instance, the former governor of Osaka was accused of sexual harassment. One of the celebrity politicians of the Democratic Party of Japan, Mr. Ohashi, who won a seat in the Diet resigned only after serving six months. Also, there are many reports of celebrity politicians who have made inappropriate remarks. As these examples clearly show, celebrity politicians are just amateurs. We do not want to increase the number of such amateur politicians who are unqualified for the important and difficult tasks of the Diet members.

For these reasons, we beg to oppose. (732 words)

2) スピーチについての補足

このMOスピーチにて果たされるべき役割は、MGスピーチと同様の以下の4点です。対応するスピーチ箇所を確認してみてください。

○ MO Speech の役割

- (1) [Clarification of Gov. and Opp. stances] 肯定側との立場の違いを、大まかに説明します(team lineを繰り返すだけで構いません)。
- (2) [Refutation] 肯定側の議論に対して、反論を行います。
- (3) [Argument] 肯定側の新しい議論を、導入します。
- (4) [Reconstruction] 肯定側による反論に対して、自分たちの論点を立て直します。

◇時間配分の目安: 7分スピーチで、Refutation 終了まで長くて3分。新しい議論に2~3分。余裕があればreconstruction に1~2分。最後の30秒でまとめ。POI は2回前後取る。

SECTION 6. LEADER OF THE OPPOSITION REPLY SPEECH

立論スピーチが終わり、今度は試合全体を総括する Reply Speech になります。Reply Speech の一番大切な役割は、どうしてこの試合で自分たちのチームが勝ったのか、ジャッジに説明することです。また、Reply Speech では、野党側からスピーチをします。それでは実際にスピーチ例を見てみましょう。

1) Leader of the Opposition Reply Speech 案例

Good afternoon ladies and gentlemen again. This round basically comes down to three questions. The first question is if there is any necessity to introduce this proposal. The second question is whether or not it will get easier to reflect people's voices if we introduce compulsory voting. The last question is whether or not the quality of politicians will get better. So, let me compare what the government side and the opposition side said in terms of these questions.

First, on the necessity of introducing today's proposal. The government side basically assumes that the quality of an election is decided by the voting rate. As long as the voting rate is high, the election is good. So, we should force everyone to vote. So, they say their proposal is necessary. The failure of the government side today is that they did not explain us why it is so. They did not explain why artificially increased voting rate has any meaning.

On the other hand, we have told you that who will be chosen as the Diet member is the most important thing. In order to choose the best candidate, what we need is the people who really think carefully and have their own opinions on politics. Simply increasing the voting rate is not beneficial or rather harmful as it will force people who do not have opinions to vote. In this way, our analysis of what is a good election is much better than that of the government side.

Secondly, the question on the reflection of people's voices. The government side simply said that because people are forced to vote, they will have more interests in politics. However, we have pointed out that as long as people are forced to vote, they would rather feel hatred toward politics and do not want to learn about it. Also, we have told you that people will choose candidate randomly. In this way, although we admit that this policy would raise the voting rate, the result itself does not lead to the reflection of concerned citizens' voices.

Finally, on the quality of the politicians. As my partner has clearly explained, after plan adoption, the number of celebrity politicians is going to increase, since it is the easiest way to appeal to the people who have little knowledge or interest in politics. Celebrities would attract votes. However, because they have little experiences, they cannot contribute to the shaping of the national policy. The government side says that they will learn and improve their skills in the future. However, the Diet should not be the place for them to learn by trial and errors. Therefore, this plan should not be taken.

So for all these reasons, the opposition side has won this round. Thank you. (460 words)

2) スピーチについての補足

この Leader of the Opposition Reply Speech (LOR)では以下の4点について話すことが期待されます。

○ L0 Reply Speech の役割

- (1) ラウンドの議論のまとめ
- (2) 勝敗の基準の提示
- (3) 勝敗の基準に照らして、どうして自分のチームが勝ったのか説明
- (4) 自分たちの議論を補強する具体例のさらなる導入。

◇ 時間配分の目安: 4 分の内、各争点、問いごとに1 分前後費やす。

このスピーチ例では、ラウンドをまとめるため、そして勝敗の基準を提示するために、試合全体を通して重要な3つの問いを抽出し、政府側と野党側それぞれがどうその問いに対して答えていたか振り返り、議論の優劣を説明していました。この様に、Reply Speech では試合全体をまとめる、幾つかの問い(question)、または争点(issue)にしばって話をするのが一般的です。

この争点に絞ってまとめる方法以外にも、単純に双方の出した議論についての反論の応酬を確認する方法もあります。その場合は、相手の言った議論を列挙し、それぞれに対して自分たちがどのような反論をしたか手短かに言います。そして自分たちの議論はどのような物で、相手の出した反論がいかにか成り立たないか説明して終えます。初めて Reply Speech をする方は、この構成でも良いでしょう。ラウンドの流れを忠実に理解する練習としても有効です。ただ、Constructive Speech で伝えた以上の情報をジャッジに与えることは出来ず、きちんとノートを取っていたジャッジは退屈してしまうでしょう。

SECTION 7. PRIME MINISTER REPLY SPEECH

それでは最後に、再度首相役の人が壇上に登っての Reply Speech です。Leader of the Opposition Reply Speech と役割は同じです。但し、Member of the Opposition が新しく出していた議論に対して反論をすることが期待されています。

1) Prime Minister Reply Speech 実例

Thank you chair, and good afternoon ladies and gentlemen again. Today, the opposition side had only a short-term perspective. On the other hand, we the government side had a long-term perspective. Even though our policy may have short term costs, our policy is sure to

give more concrete benefits to our society in the long run. So, we should take this policy and we have to win this round.

First, let me quickly refute the new argument given by the member of the opposition. He said that after plan adoption, the number of people who vote randomly will increase. However, this is not always true because their argument is based on a false assumption that to choose a candidate is an extremely difficult task. You do not have to be an expert of politics to make a rational choice. If you read newspaper articles, you can get the general ideas of who are the candidates. Also, you can watch speeches by the candidates on the TV. It takes at most one hour. So, people can easily decide who to vote rationally, not randomly. Therefore, this argument does not stand.

Then, let me summarize this round. In order to show why we have won this round, we would like to give you two criteria. The first criterion is if our proposal promotes further involvement of citizens to politics. The second criterion is if the celebrity politicians will dominate the Diet. So, let me explain one by one.

Firstly, let me talk about the first criterion of if our proposal promotes citizens' further involvement of politics. According to the opposition side, people will hate politics because they have to spend one hour to get information on candidates and have to spend time to go to an election station. As we have told you, this is a superficial analysis and focusing only on short-term reactions of people. What they could not deny is that more people will experience the elections and see how candidates are chosen.

Let me talk about my personal story. I used to be not interested in politics at all. Still, one election changed my view. Several years ago, on an election day, I went to a voting station by chance. It was an elementary school. It was next to the supermarket I went for shopping. I was just curious and went there. I just put the ballot sheet into the box, without writing anything on it. Still, after that, I came to have strong interest in the result of the election. I went home and watched news reports. For the first time in my life, I could feel politics to be something which is very close to me. Since then, I regularly go to vote. I read newspaper articles on politics every day. Without the initial experience, I would still be a person who is not interested in politics at all.

What our proposal is going to achieve is to provide this kind of initial experience to everyone in Japan. Although they may not like it first, I am sure that more and more people will have genuine interest in politics and get involved in it in the end. The opposition side is thinking only about

short-term reactions. On the other hand, we the government side has argued with much longer perspective. Changes for the future may cost us something; still, the long-term benefits outweigh the small, short-term costs.

Then, let me quickly focus on the second criterion which is about if the celebrity politicians will dominate the Diet. According to the opposition side, most of the new voters cannot think. They will just vote for famous candidates. Again, they are thinking only about short-term consequences of our proposal. There may be some people who are influenced by the famousness of the candidates. However, people can learn through experience. They can learn the way to choose the best candidate in the future. So, if they think that the celebrity candidates are unfit for the job, they can choose someone else.

Also, we have told you that the politicians will learn to communicate more directly with ordinary citizens. If current politicians are worried about the dominance of celebrity candidates, they will improve their communications skills with voters and improve their policy so that they can be more attractive to voters. In this way, as we have already explained, even if the number of the celebrity politicians increases in the short term, the overall quality of the politicians will be improved. So, there is no problem.

In summary, today's opposition side only focused on short-term costs and did not see the long-term benefits of our proposal which are much more important. So for all these reasons, the government side has to win this round. Thank you. (795 words)

2) スピーチについての補足

Member of the Opposition の出した新しい議論への反論を行う以外、先ほどの Leader of the Opposition のそれと同じですが、この Prime Minister Reply Speech(PMR)では以下の役割を果たすことが期待されています：

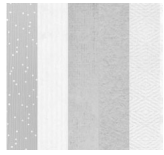
○ PM Reply Speech の役割

- (1) Member of the Opposition の出した新しい議論への反論
- (2) ラウンドの議論のまとめ
- (3) 勝敗の基準の提示
- (4) 勝敗の基準に照らして、どうして自分のチームが勝ったのか説明
- (5) 自分たちの議論を補強する具体例のさらなる導入。

◇ 時間配分の目安: 4 分の内、反論に1分、そして各争点に1 分前後費やす。

このスピーチ例で用いた語数からも分かる通り、PMR は特に話すべき内容が多く、与えられた 4 分間の中で何を優先的に話すのか注意する必要があります(4 分では全てを言う事は出来ず、何を言うべきか取捨選択する必要があります。上のスピーチ例は、実際は長すぎます)。

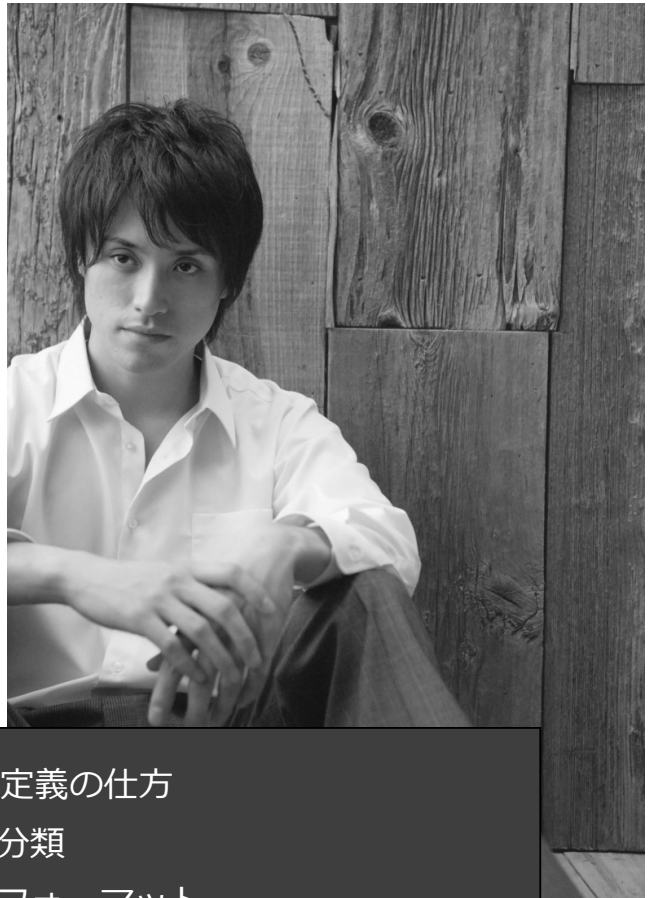
以上で、北米形式での試合のスピーチ例の紹介は終わりです。次の章からは実際にこの不オーマットで試合をして行きましょう。



Lesson 2.

North American Style

で試合をする



Contents:

- Section 1. 論題の定義の仕方
- Section 2. 論題の分類
- Section 3. 定義のフォーマット
- Section 4. ジャッジの仕方
- Section 5. Reply Speech について

SECTION 1. 論題の定義の仕方

パラメンタリー・ディベートでは、曖昧な論題が出された場合、政府側はそれを定義することが役割として期待されます。しかし、論題の中には初めから定義する必要が無いほど具体的な物もあります。そして、高校生世界大会など、定義することをディベーターに求めない大会もあります。その一方で、ディベートの中級・上級者を目指す方にとっては必要になってくる知識です。それ故に、以下では定義の方法を最低限の知識に止めて導入します。

1) 論題とケースの関係

試合で与えられる論題には、様々な解釈が可能な物があります。例えば、以下の論題を見て下さい：

This house believes that candidates should be allowed to launch all their campaigns on the web.
「本院は、候補者はインターネット上であらゆる選挙活動を行う事を許されるべきだと信じる」
(2007 年度 東京工業大学杯 予選 1 試合目)

この論題は、どこの国について話すことを期待されているのでしょうか。日本、アメリカ、あるいはそれ以外の国でしょうか。そして、選挙候補者とは誰を指すのでしょうか。高校で生徒会長選挙に立候補した生徒でしょうか、地方選挙・国政選挙の候補者でしょうか。次の疑問として、全ての選挙活動をネットを用いて行うとは何を指すのでしょうか。投票権を持つ相手に無差別にメールを送ることでしょうか。You Tube の様なサイトに所信表明のスピーチを載せることでしょうか。この様に、与えられた論題は曖昧さを含んでいることがあります。曖昧さを無くし、これらの論題の解釈のうちどれに基づいて試合を行うか、政府側と野党側に共通認識が無い限り、かみ合った議論を行うことができません。

ディベートの試合において、一番初めに話すスピーカーである Prime Minister が、これら曖昧さを取り除く役割を担います。曖昧さを取り除き、その試合にて肯定側が証明を試みる内容を、改めて 1 文でまとめる役目が与えられています。曖昧さを取り除き、何についてその試合で賛成と反対の議論を戦わせるか明確にする行為を、定義(definition)と言います。定義された結果作られる、肯定側がジャッジに証明を試みる 1 文を、ケース(case statement)と言います。

2) 定義を行う上での原則

それでは、いかに論題を定義すれば良いでしょうか。まず、実際に定義をする上で参考になる 3 つの原則を紹介します。

○ 定義を行う上での原則

- (1) 新聞を読んでいる社会人が、常識的に期待するであろう定義をする。
- (2) 定義には、議論において重要になる内容だけ含めれば良い。
- (3) 否定側に対して極端に不利な内容でない限り、肯定側は自由に定義できる。

これらの内、最も大切な1番目の原則について説明します。パラメンタリー・ディベートは、新聞に書かれている事程度の知識を持つ常識のある聴衆・市民に対して説得を試みる競技です。対戦相手を言い負かすのではなく、ディベート特有の専門知識を詰め込んだプロの審判の期待に沿ったスピーチをするのではなく、一般の聴衆をより説得させるスピーチをすることが勝敗の基準です。

これを踏まえると、聴衆が期待している、そして素直に受け入れられる定義を行うことが望ましいと言えます。この原則に照らせば、先程の例は次のように定義できます。まず、背景となる知識を確認します。日本では、公職選挙法の規定により現在ではインターネットを用いた選挙活動は禁止されており、候補者はブログの更新すら行えません。その一方で、他の民主主義国家では、選挙活動においてインターネットは積極的に用いられています。これらの背景を踏まえると、以下の様な定義が望ましいでしょう：

Thank you Mr. speaker and good morning, ladies and gentlemen in this house. Today, we are given the motion that this house believes that candidates should be allowed to launch all their campaigns on the web. First, let me define the motion. I will give you the background of this motion. Under the status quo, most of the liberal democratic countries like the United States allow candidates to use the Internet in their election campaign. However, Japan has not yet allowed candidates to utilize the Internet and there is a discussion on whether or not we should allow it. So, I would like to define the motion as follows. Japanese government should allow candidates to use the Internet in their election campaigns. (112 words)



SECTION 2. 論題の分類

以下では、より具体的に定義をする方法を学んでいきます。まずは、論題を4つの種類に分け、それぞれに応じた定義の仕方を確認します。

1. 定義の必要がない場合

- a. This house believes that debaters should choose debaters for their boyfriends or girlfriends. (2004 年度梅子杯より)
- b. This house believes that train should operate 24hours. (2006 年度 木地杯より)
- c. This house believes that Tokyo should host the 2016 Olympic Games.

上の論題はそれぞれ、そのまま肯定否定の議論が可能です。この様な場合は定義をする必要がありません。ディベート初心者向けの大会では、基本的に定義の必要のない論題が選ばれます。論題(b)の様に、どこの鉄道なのか特定されていない場合は、自分たちにとって最も身近な話だと前提して良いでしょう。ただ、「例えば、大阪環状線」あるいは「例えば、東京メトロ」など具体例を挙げれば、無用の混乱が避けられます。定義が不要な場合でも、ケースの提示で関連する例を挙げれば、ジャッジにもより伝わり易くなります。

2. 対象を絞った方が議論が噛み合う場合

- a. This house would introduce surveillance cameras.
- b. This house would abolish beauty contests.
- c. This house believes that traveling abroad is better than traveling in Japan.

論題の中には、そのままディベートが出来るものの、何か特定の状況に絞って考えた方がより争点をはっきりするものがあります。(a)の監視カメラを設置しよう、という論題ではどこに設置するのか指定する必要があります。(b)の美人コンテスト廃止に関しては、美人コンテスト一般よりも、例えば大学の学園祭でのコンテストを廃止すると定義した方が、より議論をはっきりします。最後の海外旅行と国内旅行どちらが良いかに関しては、どんな種類の旅行なのか、絞った方が良いと考えられます。例えば、修学旅行と新婚旅行ではそれぞれ旅行の評価基準が異なるでしょう。

3. 代わりにどうするのか疑問の出る場合(何かを廃止する場合)

- a. This house believes that zoo should be abolished.
- b. This house would abolish death penalty.
- c. This house believes that textbook inspection should be abolished.

この3種類目以降は、どうしても定義が必要になる論題です。まず、論題を肯定すると自動的に大きな疑問が生じる場合を見てみましょう。(a)の論題の通りに、動物園を廃止するとします。その場合、天王寺動物園のライオンは、井之頭公園にいるゾウは、どこに行けば良いのでしょうか。そこで働いている人はどうなるのでしょうか。(b)の場合では、死刑制度を廃止した場合、最も重い罰は何になるのでしょうか。他国の様に、懲役 250 年という様な判決が出せるようになるのでしょうか、仮釈放なしの終身刑が導入されるのでしょうか。(c)の通り教科書検定が無くなれば、どの様に出版社は「教科書」を編集し、学校は採用するのでしょうか。試合を成り立たせるためには、以上の問いに対して、予め PM が答えを出さなければなりません。

4. 論題の意図をくみ取って、細部の設定をする必要のある場合

- a. This house would charge for plastic bags.
- b. This house would introduce emission trade.
- c. This house would expand the UN security council.

大学生大会で扱うことになる論題の多くは、この種類に分類されます。論題では、その試合で議論されるべきケースが示唆されています。肯定側は、何が期待されているのか理解し、それを踏まえてケースを作ることが望まれます。ケースを作ると言うよりは、実際に社会で是非が問われている政策案を引用することになります。例えば、(a)のレジ袋の有料化に関する論題では、袋一枚の値段を設定する必要があります。(b)と(c)でも同様に、それぞれどんな仕組みの排出権取引を導入するのか、どう国連安全保障理事会の定員を増やすのか説明の必要があります。

SECTION 3. 定義のフォーマット

それでは次に、定義の示し方です。次ページのフォーマットを使って、PM スピーチの定義を終えるまでの1分前後のスピーチを簡潔に行う練習をしてみてください。先ほどの例の通り、与えられた論題、その論題の背景知識、そしてケースの順番で示します。

論題の分類では、廃止する代わりに別の物を導入する必要があるものを確認しました。例えば、死刑制度の代わりに最高刑として、仮釈放なしの終身刑を導入するとします。その場合では、フォーマットの Option 1、「condition」を付け加えてください。”Our case is that Japanese government should abolish death penalty. And we have one condition. After plan adoption, we will introduce life in prison without parole as the highest punishment” という様に、ケースに付け加えがある場合はこの様に “condition”として説明してください。

また、排出権取引(emission trade)の様に込み入ったプランを説明する場合は、”Let me explain the mechanism of our proposal” という具合にして詳細な説明を続けてください（現時点では、参考程度に留めて頂いて構いません）。

SECTION4. ジャッジの仕方

1) 勝敗の決め方

パラメンタリー・ディベートのジャッジは、特別な訓練を受けた判事ではなく、投票権を持った市民、つまりは標準的な理性と新聞に書いてある程度の知識を備えた人(average reasonable person)であると想定されています。それ故に、そのまま常識的に考えて、どちらのスピーチの方が優れていたか考えればジャッジが務まります。もう少し補足を加えると、以下の観点を踏まえれば、判断を出しやすくなると思います：

- ① 一番納得できる議論はどれで、肯定側と否定側のどちらから出たか。
- ② どちらのチームの方が、論題に関連性のある知識（具体例など）をより示したか。
- ③ どちらのチームの方が、スピーチが上手かったか。一番スピーチの上手い人は、どちらのチームにいたか。

とりあえずは、①の「一番納得できる議論を出したチームを価値にする」という基準で勝敗を決めるのが良いと思います。また、以下の事項を理由として勝敗を決める事は望ましくないとされます：

- ① 英語の発音の上手さ
- ② 自分の持っている意見（例 「自分は根っからの制服反対派なので、ディベートは制服賛成側の方が良かったけど、どうしても賛成側を勝ちに出来ません」
- ③ 自分の持っている知識（例 「死刑制度廃止の論題では、必ずこの例を使わないといけないのに、言わなかったので負けにしました」）

Basic Format for Definition

Thank you [Mr. / Madam] chair and good [morning / afternoon / evening] ladies and gentlemen in this house. Today, we have the motion that:

[Motion].....
.....

This motion has some vague points. So, let me define. First, I will give you the context of the motion.

[Background Info.].....
.....
.....

So, let me define the motion as follows.

[Case statement].....
.....
.....

Option (1): Condition

I have () condition(s).

(First,).....

(Second,).....

(Third,).....

(Fourth,).....

Option (2): Mechanism

Let me explain how our proposal would work.....

.....

.....

.....

This is the case from the government side today.

他のスタイルのディベートと比べて、特に大きな違いであるのは、反論を受けていない議論であっても、ジャッジの人が常識に照らして、あまりにも変な物であれば勝敗の考慮に入れないことが許されている点です。別のスタイルのディベートでは、どんなに変な議論であっても、反論がされていなければ「最後まで残った議論」として勝敗の理由にして良いとされている場合もあります。

2) 勝敗の説明の仕方

最後に、勝敗を説明する方法について簡単に触れます。基本はまず勝敗を提示し、そしてその判断に至った理由を説明します。初心者ジャッジである間は、上述の3つ観点に沿って説明して見て下さい。単純に、どの議論に最も説得されたか言うだけでも十分でしょう。その上で、どうすればもっと上手くなるか、アドバイスをして下さい。また、上手いと思った点があれば積極的に誉めて下さい。否定的なアドバイスだけでなく、肯定的なアドバイスをたくさん貰った方が、ディベーターはより練習する気になります。

SECTION 5. REPLY SPEECH について

1) Reply Speech の構成

本レッスンの最後に、Reply Speech について解説します。本レッスンで練習した簡易北米形式では Reply Speech は省略されており、現時点で出来るようになる必要はありません。Reply Speech は、立論スピーチと比べてスピーチ構成に自由度が高く、ある程度ディベートに慣れていなければ難しい物であり、初心者である間は省略して良いと思います。以下の説明は、モデルディベートでの Reply Speech を理解するための簡潔な解説であり、Reply Speech を出来るようになるための説明ではありません。

Reply Speech の構成のパターン

- (1) Summary & Refute 型
- (2) 争点(issue)でのまとめ方

Reply Speech の構成には、上のボックスで示したように、大まかに言えば2種類のパターンあります。まず1つ目の”Summary & Refute”は、初めての方にとっては無難な構成です。単純に、相手の言った議論を列挙し、それぞれに対して自分たちがどのような反論をしたか手短かに言います。そして自分たちの議論はどのようなもので、相手の出した反論がいかに成り立たないか説明して終わります。初めて Reply Speech をする方は、この構成でも良いでしょう。ラウンド

の流れを忠実に理解する練習としても有効です。ただ、Constructive Speech で伝えた以上の情報をジャッジに与えることは出来ず、きちんとノートを取っていたジャッジは退屈してしまうでしょう。

パターンの2種類目は、政府側と野党側で意見が対立している、試合を通じての争点(issue)を抽出して、双方の議論を比較する方法です。Reply Speech と言えば、普通はこのパターンで話されることが期待されます。大抵は3つ前後の争点において、どうして自分たちの議論・分析がより優れていたのか、相手の議論の過ちを指摘しながら説明する方法です。この「争点」に絞って試合をまとめる場合では、その争点の提示の方法として、大まかに以下の2種類があります：

Issues の提示の仕方

- (1) Question & Answer 形式
- (2) Issue / Crash points / Criteria

まず1つ目の Questions and Answers 形式では、その名前のとおり、争点を問いの形に変え、肯定側と否定側の答えはそれぞれ何であり、どうして一方のそれがより優れているのか説明する形式です。例えば、「誘拐犯に身代金を支払うことを犯罪とする」という論題で試合を行った場合、Reply Speech で以下のような問い提示して、Constructive Speech から推察される双方の答えを比較します：

- ① どのような行為が犯罪と見なされ得るのか
- ② 身代金の支払いとはどのような行為であり、それは犯罪と見なされる要件を満たすか。
- ③ 身代金を支払った場合と支払わなかった場合では、どちらの方がより誘拐事件を解決に導くのか。
- ④ 身代金を支払った場合と支払わなかった場合では、どちらの方がより将来の犯罪を防ぐ上で好ましいのか。

次に、2つ目の Issues、あるいは勝敗を決める Criteria を提示する方法です。このパターンでは、争点を争点としてそのまま提示します。争点に対して、肯定側と否定側の回答をまとめ比較するのは Question & Answer パターンと変わりません。実際の所 Question & Answer でまとめる方法も、Issues / Criteria で比較する方法も、対して話し方に違いはありません。どちらでも、好みにあった方を用いて下さい。

2) Reply Speech の準備の仕方

良い Reply Speech を用意するために必要な事は2つあります。まず、争点を思いつくこと。次に、自分たちに都合良くまとめ上げる度胸です。試合の争点が何になるか、試合が始まる前から予想を始めて下さい。Reply を担当しない場合も、パートナーに対して何か良い争点を思いつけば渡して下さい。実際、Reply を担当しない人間の方がより冷静に試合を眺めることが出来て、争点も見つけ易い様に思います。

次に必要なことは、自分たちにとって有利に話をまとめる度胸です。自分たちの議論に不備があるのを承知で、相手の失敗を指摘したり、あるいは Constructive Speech ではっきりとは言っていない内容を、言ったと言い切ってしまうなど、多少の思い切りが必要になります。慣れてくれば、不利な形勢を Reply Speech で逆転しようと、むしろ思い切りが良すぎるスピーチをする様にもなります。



Lesson 3.

紙上モデルディベート



Contents:

Section 1. 本レッスンの課題について

Section 2. PM Speech 例

Section 3. LO Speech 例

Section 4. MG Speech 例

Section 5. MO Speech 例

SECTION 1. 本レッスンの課題について

このレッスンでは、「自分がスピーカーだったら何を話すか」を考え、メモ程度で十分なので原稿も作ってもらいます。立論スピーチのみを扱い、論題は、以下の物を用います：

THBT we should play soccer games with two balls.

2003 年の Asian Prep Tournament という、アジア大会に向けて日本国内で開催された練習大会で用いられた論題です。

まず、この論題に対して、自分が Prime Minister であればどんなスピーチをするか、20 分間で準備して下さい。その後、ペアあるいはグループで実際にスピーチを行い、互いに良かったところ、改善すべきところを評価して下さい。時間的な制約がある場合は、スピーチをするのではなく、用意したスピーチ原稿・メモを読み合うのもいいでしょう。その後、次の PM スピーチ例を読み、そのスピーチ例の良いところ、そして直すべき箇所を検討して下さい。以上で PM スピーチに関する課題は終わりです。

次に、その PM スピーチ例を受けて、自分が次に話す LO であれば、何を話すか考えて下さい。同じく 20 分間で用意し、ペアあるいはグループで発表して下さい。互いに評価した後で、LO スピーチ例を読み、そこから学べる点、学ぶべきでない点について話し合ってください。MG スピーチ、そして MO スピーチに関して、同様の事をして下さい。

この課題の目的は、ある特定のスピーチについて深く分析して、他の人とともにこれまで練習したことを振り返り、もしあれば疑問点を話し合うことにあります。

SECTION 2. PM SPEECH

Thank you Madam Chairperson, and good evening members of this august house. I am honored to open this debate which is given a very interesting motion. We government side strongly believes that we should play soccer games with two balls.

Let me give you the context of this motion. Soccer games are quite popular in Japan, especially among children in elementary schools. Still, there is a problem. In most of the cases, the games are dominated by small number of kids who are physically mature or who are the members of local soccer teams. Because of this, most of the other children have little opportunities to kick the ball. What they do is just watching some super kids do great works. This is the problem we want to deal with in this debate.

So, let me define the motion as follows. In elementary school P.E. classes in Japan, soccer should be played with two balls. This is our case.

Our team line is clear and simple. Soccer should be played with two balls in P.E. classes because this would provide more learning opportunities with children both physically and mentally, which is necessary to improve our P.E. classes. In order to support our case, we have three arguments. First argument is promoting fairness in P.E. classes. Second argument is more enjoyment. And third point, which is explained by my partner, is better learning opportunities. Let me explain one by one.

First argument is promoting fairness in P.E. classes. Our claim is that by having two balls in a soccer game, we can promote fairness because children have more opportunities to kick the balls. First, let me explain how fairness is lacking in current soccer games. In soccer game, there is only one ball, which means that there is only one kid who can kick the ball. The rest of the children are either following the kid or watching the other physically mature students play. Being good at soccer requires some techniques or physical strength. If you do not have either of them, there is little you can do. You can learn little from the experience.

Then, please imagine what would happen if we have two balls. Of course, children have more opportunities to be involved in the game. It is more likely that you can touch the ball and have more learning experiences. Elementary schools have an important responsibility. That is to provide equal learning opportunities to all children. By having two balls, we are more likely to achieve this goal.

Second argument is more enjoyment. Our claim is that by having two balls, playing soccer would be more enjoyable. Playing and watching soccer is fun. That is because winning a game involves more than just handling the ball. You must be good at predicting the moves of your opponents. You must communicate with your teammates. Having two balls in a game would definitely give more dynamism to a game. Players need to think which ball to prioritize.

For instance, there may be a situation in which most of the players are focusing on one ball and forgetting about the other ball. One player, who is not physically strong but good at thinking may take the opportunity and make a goal. Of course, having two balls would increase the likelihood of making a goal, which would make the game even more fun. Children learn most when they are actively involved in an activity. Making soccer games more enjoyable by having two balls is sure to increase the effectiveness of the instruction. Therefore, this enjoyment argument is

important.

So far, I have proven to you that having two balls would increase the fairness and enjoyment in soccer games. My partner would talk about how our proposal would promote children's learning in P.E. classes. So for all these reasons, the team, "lovely dogs" is proud to propose.

(646 words)

🔥 補足説明

首相の役割を果たす上で1番大切な要素は、ラウンド全体で議論をすることになる、論題の定義を示すことです。論題は、曖昧な表現で与えられることもあり、きちんとディベートが出来るように定義をする裁量が首相には与えられています。

このラウンドでは、「2つのボールでサッカーをする」という論題が与えられましたが、どこの試合なのかは不明です。ワールドカップでの試合なのか、日本のJリーグでの試合なのか、それとも近所のサッカークラブでの話なのか分かりません。どこかに設定しないと、賛成側と否定側で議論がかみ合わなくなる恐れがあります。例えば、ボールが2つあると、近所のサッカークラブでは試合が混乱してしまうと反対側が言ったとします。それに対して肯定側は、ロナウジーロやジダンが2つであろうと軽々とプレイするだろうから、全く問題ないと言い返すかもしれません。この様に、どの様なコンテキストを念頭に置いて議論をするのか明確化するために、首相のスピーチでは定義をすることが役割として求められています。

皆さんは、どう定義したでしょうか？ また、どんな議論を用意しましたか？ このスピーチ例よりも、もっと良い議論、そして具体例を思いつけましたか？

SECTION 2. LO SPEECH

Good evening, chairperson and members of this house. I am happy to open the debate for the opposition. We have just heard the prime minister defined the motion as soccer should be played with two balls in P.E. classes of elementary schools in Japan.

The prime minister went on to support his team line by presenting two arguments in its favor. Let me first refute those two arguments before going on to our side of the arguments. The first argument was the fairness of the opportunities to learn. He claimed that by having two balls, children would have fair chances of touching the ball. Still, this fairness argument is not

important since no matter how many balls you have, some children are more likely to touch the balls than the others. The problem which the Prime Minister innocently believes to exist would never be solved. Moreover, such differences would not seriously disadvantage any children. Some children are good at playing soccer than the others. Nothing is wrong with that.

The second argument was that their proposal would make playing soccer more fun because the game would be less predictable. However, I have some serious doubt on this claim. As I will explain later, having two balls would create confusion. It may be fun for some kids. But for most of us, and I believe, for most of the children, to have an order is a prerequisite to enjoy. For instance, if we have two kings in chess, the focus of the game would be less clear. We like to play games since it gives us the enjoyment of predicting and planning the next move. Having chaotic situation would rather take away the enjoyment of playing soccer.

Now that I have refuted the previous speaker's arguments, I will go on to prove our team's case. Our team line is that having two balls in soccer game would create nothing but confusion and this would rather harm the educational value of the P.E. classes.

Let me give you our team splits now. As the first speaker, I will give you two arguments. They are creation of confusion argument and difficulty to teach argument. Our second speaker will go on to talk about how the students will have difficulty in adapting to the normal type of soccer, which uses only one ball.

So, let me explain my first argument about creation of confusion. Our claim is that by having two balls, students would be confused in the soccer games. Let me analyze what is the nature of children whom we are talking about. Elementary school students are limited in terms of their cognitive abilities. In order to promote healthy development, to adjust the difficulty of task is necessary. Asking too much would not lead to good learning.

In my opinion, having one ball is sufficient to challenge children. Just having one good player in a team does not automatically mean that the team will win. In order to win, you need to have good teamwork. You must communicate with your teammates. Those tasks are highly demanding even with one ball. If we have two balls, those tasks would get immensely difficult. As supporting evidence, let me quote one well-known proverb, which says "he who runs after two hares will catch neither". Looking after two balls is quite demanding, especially for elementary school students.

This point is important as throwing kids into a chaos would not lead them to have successful learning. Remember that one of the important roles of school education is to provide children with regulated and controlled learning opportunities. This responsibility is compromised if we take the government plan.

Next, we have the difficulty of instruction argument. This argument goes like this. For teachers, with two balls, it would get almost impossible to judge the game and to teach children how to play soccer properly. The reasoning is as follows. Even in the case of soccer games played by elementary school students, we need a good judge and coach. Even under the current situation, which is having only one ball, this is sometimes difficult since some of the elementary school teachers are no longer young and following the ball all the time is physically quite demanding.

Then, please imagine what would happen after plan adoption. After plan adoption, teachers need to look after two balls simultaneously. This is impossible for a person. The lack of proper judging may result in increasing the number of unnoticed foul plays. Students need to learn the notion of fair play. Without the existence of judge, this kind of concept would not be easily taught.

As a second source of the difficulty, let me point out that teachers need to be the pioneer of this new type of soccer. Teachers need to teach students how to play with two balls. Since there is no authority of this new sport, teachers need to find out new techniques and strategies by themselves. Ladies and gentlemen, is it wise for us to ask teachers to experiment this new sport?

Playing soccer with two balls is quite a new task and let the others try it first. After it is recognized as a unique sport with unique winning strategies, teachers should introduce this new activity. School should not be the place of experimentation. We are dealing with real people, real children. School should not be the place of trial and error.

To end, it is clear that our confusion argument and difficulty of teaching argument have proven to you that the government plan should not be taken. My honorable partner will go on to argue that students would have difficulty in readjusting to normal soccer game after being forced to play this peculiar activity. So for all these reasons, I am proud to oppose. Thank you.

(1040 words)

補足説明

このスピーチでは、肯定側の議論への反論が、チームラインの説明より先に来ました。スピーチの要素をどう配列するかは、この様にスピーカーによって異なることもあり、相手に伝わり

易い限りで工夫が許されます。それぞれ上記のスピーチで対応する箇所を確認しましょう。

スピーチの長さに関してですが、語数から示されるように、Leader of the opposition のそのの方が Prime Minister のそれより長いことが分かります(もちろん、少し長すぎますが)。これは、初めに話す人間は、当然反論する必要が無いため生じた差です。論題によっては、定義の説明に時間がかかることもあり、首相のスピーチでも時間的な余裕がない場合もあります。ちなみに、この反論の有無を配慮して、首相のスピーチの時間が他の立論スピーチ(constructive speech)と比べて1分間短い場合もあります(その代わりに、reply speech が1分長くなり、Member of the Opposition への反論をする余裕が与えられています。本来の北米形式ではこの1分間ずつの調整があったのですが、日本では近年ルールに取り入れている大会はありません)。

SECTION 3. MG SPEECH の例

Madam chair and members of this house. The leader of the opposition has claimed that having two balls would make soccer game confusing. Still, to me, what is confusing is not our new type of soccer game but this debate. So, let me first clarify the differences between our side and the opposition side.

We, the government side, strongly believe that we need to constantly improve our school education. On the other hand, the opposition side is just claiming that introducing something new is troublesome so we should keep the status quo. This is the attitude of self-indulgence. Even though this soccer issue may look like a minor problem, when we notice a problem in our school, we should fix it immediately. This is the clear difference between the government side and the opposition side. Our side, commitment to our duty; their side, do nothing.

Next, let me restate our team line. Soccer should be played with two balls in P.E. classes because it would provide more learning opportunities with children both physically and mentally, which is necessary to make P.E. classes better.

My task here is to give you our third argument, which is better learning opportunities for children. Before going on to our new point, let me first refute what the previous speaker argued.

The first argument was that there would be confusion because there are two balls. This argument is based on an assumption that having two balls is too demanding for children. It is simply not true because there are many successful sports which use more than one ball. I will

give you two examples.

In elementary schools, there is an activity which is called “double dodge”, which uses two balls simultaneously in a dodge ball match. So, it is feasible for elementary school students to use more than one ball. I will give you another example. In the *Harry Potter* series, which is loved by many of the children, there is a sport called Quiditch, which uses several balls. By reading this book, some of the elementary school students are already familiar with the notion of handling multiple balls in physical activities.

The second argument was the burden for teachers. As for the difficulty of judging, this is not important at all. If there is a shortage of judges, teachers should simply appoint several students as judge. As for the difficulty of figuring out how to teach, it is also not important at all. Teachers are for teaching. They are the professionals who can come up with the best way to teach. Most of the teachers would think that trying something new is quite challenging and also rewarding.

Now that I have refuted their arguments, I will go on to our third argument which is better learning opportunities. Our claim is that by having two balls, children would learn more physically and intellectually. Also, they can learn something about teamwork more. Let me explain those three aspects one by one.

As for the physical aspect, the increased opportunities to touch the balls mean more students can get involved in the game. The more they have the access to balls, the more they can exercise their bodies. As my partner has already explained, the soccer games in elementary school are dominated by a few students. Still, after plan adoption, there would be more opportunities for them to use their bodies.

Second aspect is better intellectual training. Our claim is that having two balls would make soccer more strategic and this would contribute to mental training of students. Basically, soccer is an intellectual as well as physical game. If you watch the professional match, you can easily see that what matters is not just each individual’s physical strength but team strategy. Still, strategy only matters when the physical strengths of the players are almost equal.

In elementary schools, as the level of maturation among children is diverse, several physically strong students can dominate the game. With little considerations to team strategy or tactics, he or she just runs, kicks the ball, and makes a goal. That’s it.

This kind of situation can be amended by having another ball. It's like playing the chess, as the opposition side pointed out. You may use one ball as a decoy to attract the attention of the opponents. While the opponents are preoccupied with the ball, you can run through the field with another ball. This is just an example of how soccer can be an intellectual game. Not only training students physically, teachers can promote active thinking among children.

Thirdly, our proposal would promote students to learn more on the importance of teamwork. In order to implement team strategy, of course students need to communicate with each other more. They have to talk about how to play the game in advance. They will learn how working together is essential to succeed. In this sense, our proposal would make soccer truly a team sport.

Finally, let me quickly reconstruct our arguments which were refuted by the previous speaker. He firstly pointed out that fairness is not important in education because all students are different. We do not deny that there are student differences; still, this does not lead to the conclusion that we should just ignore the unfair situation. As long as we know the way to promote fairness in education, we should do that.

Secondly, he claimed that soccer games would become messy after plan adoption. Yes, it can be messy if there is no planning. With adequate planning and good communication within a team, this confusion can be turned into an unified team offence and defense. Without effort, this cannot be possible. But with effort, this is possible.

Ladies and gentlemen in this house, we believe that school should be as fair as possible to all children. Also, it must attempt to maximize the learning outcomes of our children. We have explained to you that having two balls in soccer game would actually achieve these goals. Therefore, our arguments clearly prove our case. So for all these reasons, I beg to propose. Thank you. (1026words)

SECTION 4. MO SPEECH 例

Good evening, ladies and gentlemen in this house. I am very happy to have debate with the two distinguished debaters. Nevertheless, I cannot help pointing out some serious flaws in their arguments.

First of all, I am obliged to make sure what the true nature of the government proposal is. What they are presenting today is no more than well-intended nuisance for elementary school teachers and students. Both of the sides share the noble cause of making education better. However, what the government side does not see is the reality. They are idealistic. They are emphasizing trivial matters as if they require immediate actions. They are disregarding practical harms of their proposal in the name of better education. Our side is practical. We are empirically assessing the benefits and the harms. We are the ones who know the reality.

Before going on to our arguments, let me refute the new arguments presented by the previous speaker. His argument was about better learning opportunities. First, he said that having two balls would give students more opportunities to run after the ball. Still, this argument is based on a wrong assumption. They assume that if you are not touching the ball, you are not using your body. This is simply not true. Even if you are not controlling the ball, you may be actively following the ball. The number of the ball does not determine how much you use your body in a soccer match.

Second, he said that having two balls would make the game strategic and this would promote intellectual learning. I do not deny that learning both physically and intellectually is good. Still, if you want to enhance cognitive development of children, we do not have to try it in P.E. classes. We have mathematics and science classes. If you want to train children intellectually, you should do so in another occasion. In science classes, teachers can organize students' intellectual development. In contrast, such learning is at best by chance in the soccer game.

Finally, about teamwork. Again, they are totally misunderstanding the reality. The number of the ball is not important at all to promote better teamwork. Learning good teamwork is possible when we have a good coach. The ball itself does not teach you anything. Therefore, their arguments do not stand.

Now that I have refuted their arguments, I will go on to prove our team's case. Let me repeat our team line. Having two balls in a soccer game would create nothing but confusion and which would rather harm the educational value of the P.E. classes.

Then, let me give you our third argument. I will explain to you how students will have difficulty in adapting to normal type of soccer in the future. Our reasoning goes like this. If the plan is introduced, children have to get to know the idiosyncratic rules and strategies of the new soccer.

Elementary school students innocently trust their teachers. They believe that what they learn in school has some value in the future. Then, please imagine what would happen when they graduate elementary school. In a junior-high school, there may be soccer classes. There would also be a soccer club and some of the students would join in it. In such occasions, students would be shocked to find out the idiosyncratic rules and strategies they were blindly introduced in elementary schools have no value at all. They need to learn the basics from the beginning.

If playing with two balls teaches students something unique, precisely because of this uniqueness, what students learn cannot be used in the normal soccer matches. Why don't we just play soccer with one ball? This will teach students soccer skills which they can use for the rest of their life.

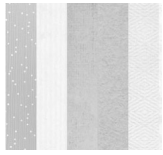
Finally, let me reconstruct our arguments. Our first argument, confusion argument was refuted as children are already familiar with the sports using two balls. According to their explanation, this is because they have practiced “double dodge balls” and read *Harry Potter* series. This analysis clearly shows that government side is ignorant of the reality. Not all children have experienced such a kind of dodge ball. Neither have all of them read the book. Hence, their refutation was pointless.

Secondly, they have said that teachers' burden is not important because to teach is their job. Again, they are not aware of how teachers are busy now. They are incredibly busy for preparing for each class. Also, they have to look over the children's daily life. There is no necessity to put further burden on them, especially when the new burden seems to bring about little benefits. So for all these reasons, we are proud to oppose. Thank you. (792 words)

補足説明

実際の北米形式の試合では、立論スピーチが終わった後に、リプライ・スピーチ (reply speech) が控えています。リプライ・スピーチは4分ずつ、Leader of the Opposition と Prime Minister が行います。そこでは、どうして自分たちのチームが試合に勝ったのか、それぞれジャッジに説明をします。このスピーチでは新しい議論を導入することも、反論を行うことも出来ません。ただし、Prime Minister は Member of the Opposition が新しく導入した新しい議論に対してのみ、反論を行うことが出来ます。

上のスピーチの続きである、リプライ・スピーチの例は「Lesson 9. Reply Speech」にあります。また、そのレッスンではリプライ・スピーチの作り方も導入します。



Lesson 4.

Point of Information



Contents:

Section 1. POI の規則と機能

Section 2. POI で用いる表現の例

Section 3. POI の与え方

Section 4. POI の返し方

Section 5. POI で遊ぼう

SECTION 1. POI の規則と機能

1) POI のルールのおさらい

このレッスンでは、パラメンタリー・ディベートで大切な役割を担っている、POI (Point of Information) についてより深く練習します。POI とは、より身近な表現を用いればスピーカーに対して「ツッコミを入れること」です。各立論スピーチ(constructive speech)の、最初と最後の 1 分(protected time と呼ばれます)を除いて、対戦チームはスピーカーに対して質問する、あるいはスピーチ内容の間違いを指摘することが出来ます。POI のルールは以下の通りです：

- ・ POI を試みる場合、まず席から立ちます。
- ・ "Point of Information"等の表現で POI を宣言し、スピーカーから許可を求めます。
- ・ POI の申し出を断られた場合は、すぐ着席します。
- ・ 許可が出た場合、最大 15 秒間話すことが出来ます (15 秒経っても話し続けている場合は、ジャッジから座るように指示されてしまいます)。
- ・ 断られた場合は、次の POI に立つまで 15 秒程度の間隔を開けることが望ましいとされます。

POI の宣言は、"On that point, sir / Madam!" や "Point!" などそれと分かるものであれば何でも構いません。断り方は、"No thank you" などと一言述べるか、座るように手でジェスチャーします。POI はスピーカーに対して話しかける物であると同時に、ジャッジに対してスピーチ内容について問題点を指摘するものであります。それ故に、POI では壇上のスピーカーだけでなくジャッジの視線を意識し、ジャッジにも語りかける必要があります。

2) POI の機能

経験則上、POI には以下の3つの機能があると言えます。それぞれ簡単に説明します。まず1目の機能として、相手への質問があります。特に Prime Minister の定義に関して、不明瞭な点やおかしい点がある場合に確かめます。ただし定義以外で、相手の議論がよく理解できない場合には、"Could you say that again?" などと言って明確化を求める必要はありません。そのような議論は大抵ジャッジにも伝わっていないのであり、わざわざ対戦相手が言い直しを促す必要はありません。

○ POI の機能

- (1) 相手の言っていることを確認する。
- (2) 相手の議論に反論・反証する。
- (3) ジャッジに対して、いかにラウンドに自分が貢献しているかアピールする



次に、相手の議論の誤りを指摘する機能があります。相手の議論において、事実や前提などの誤りを指摘します。この種の POI を受けた側は、自分のスピーチの中で相手の指摘が的外れであると振り返ることが期待されています。

3 番目の機能として、POI はジャッジに自分がいかに積極的に試合に関っているか示す機会となります。必ずしも POI は許可を受けるとは限りませんが、スピーカーに対して果敢に質問を試みる姿は、ジャッジに対して良い印象を与えます。ただし、あまりに多く POI をすれば、スピーカーの邪魔をしていると受け止められ逆効果となります。前述の通り、1 回 POI が断られた場合、次の POI を試みるまで 15 秒ほどの間隔を空けると良いとされています。また、スピーカーは最低 2 回相手チームからの POI を受けることが望まれています。

SECTION 2. POI で用いる表現の例

POI は基本的に、質問の形を取るとスピーカーとの間で意思の疎通がうまく行きます。一番良くない POI は、スピーカーにその意図を理解されず、”I could not understand your POI. So, let me go back to my speech” と言われてしまうことです。POI で良く用いられる表現を分類すると、先程の 3 機能に対応した以下の種類に分けられます。

① 相手の言っていることを確認する

- ・ Could you explain what do you mean by saying ~ ?.
- ・ Are you saying that ~?

特に、定義の段階で不明なことがあった場合、この様な表現で確認をします。定義の時点での POI は、余程タイミングが悪かった場合を除き、大抵取ってもらえます。また、定義で明らかに不備がある場合には、否定側は POI でそれを指摘することがジャッジに期待されています。また、相手のスピーチ中での主張が間違っている場合、”Are you saying ~”と聞き質すことによって、ジャッジにこのスピーカーの話している内容はおかしい、と示唆することができます。

② 反論・反証となる例を出す

- ・ You said ~. But this is not true because ~.(Don't you think so?)
- ・ I have an example which contradicts your argument. (事例の中身) . What do you think?

まず POI で反論を行う場合には、質問の形を取らずとも、そのままを述べるだけでスピーカーにもジャッジにも伝わると考えられます。ただしここ数年では、“Don't you think so?” と一言加えて質問の形で終えることが日本国内の大会では「流行」しています。

③ 内容を特に用意していない POI が取られてしまった場合

- ・ What do you think about ~ ?
- ・ How about ~ ? / What about ~ ?

最後に、本当は特に何も言うことが無いのに、勢いで立った POI が相手に取られてしまった場合に役立つ表現を紹介します。この表現では、現在スピーカーが話している内容に対して、「この観点ではどうだろうか」と問いかけます。問いかける内容は、自分たちの議論に関連する内容などで構いません。突然スピーカーは、自分が話している内容と異なる観点を投げかけられ、動揺します。それは自分の話している内容とは関係が無い、と言われてしまうかもしれませんが、何も言うことが無くて「ごめんなさい、何でもないです」と言い訳して座ってしまうよりは、ずっと良いでしょう。

SECTION 3. POI の与え方

この節では、POI の具体例を、1つの PM スピーチを通じて導入します。スピーチでは、POI が可能だと考えられる個所がマークされています。それぞれの個所に関して、「そこで POI をするとしたら、何を指摘できるだろうか」考えてみてください。

また、POI が挿入されている場所は、もしスピーカーの立場であればそこで POI を受けても良いスピーチの区切れの個所です。POI をする時には、区切れを予測して立てばより取ってもらい易くなります。それでは、次の論題に対しての PM スピーチが以下に続きます：

This house would use international sporting events for political change
(Motion for WUDC Singapore 2004, Round 8)

1) PM Speech with POI

Madam chair, adjudicators, and member of this house. It's my pleasure to stand here and open the case for the government side.

The motion for this round is about international sports events. First I would like to give you the case from the affirmative bench. We would like to focus on the upcoming biggest international sports event, namely the Beijing Olympic Games in 2008. We believe that the honor of hosting Olympic Games should only be awarded to the countries which respect the goal of Olympiad, which is the promotion of peace and individual achievement. However, it is apparent that People's Republic of China has been taking the opposite course of the action, as can be exemplified by the denial of basic human rights to its citizens and brutal treatment of ethnic minorities. This is what we want to change in this round.

Here, Team *The Return of the Book of Kells* will argue that liberal-democratic countries should boycott the Beijing Olympic Games on the ground that this country severely violates the human

rights of its citizens. We have one condition. If China improves its policy on human rights, those boycotting countries would attend the event.

(1) On your definition sir.

Our team line is that it is legitimate to use the Olympic Games to achieve political goals and our proposal would bring about improvements in China's policy on human rights protections.

(2) Point sir.

As the first speaker, I will be first arguing that hosting and attending Olympic Games have been political matters and, therefore, it is legitimate to use the occasion to tackle with the issues of human right violation by the mainland China. Next, I will talk about how hosting Olympic Games awards the host country international recognition, which is why the boycotting can be a strong political tool to influence China. Third, I will explain how the pressure would force China to change its policy on human right protection internationally.

My honorable partner will further argue that attending the Beijing Olympics without doing anything is morally unjustifiable for liberal democratic countries. Also, he will talk about how our proposal would eventually lead to better relationships between China and liberal democratic countries. My partner will also extend how this proposal would bring more protection of human rights in that country, especially focusing on ethnic minorities. Together, we will convince you that why we need to boycott the Beijing Olympics. And now, let me start our arguments.

(3) Before that.

Our first argument is the justification of using Olympic Games as political tool. We believe that hosting and attending Olympic Games are by nature political and our proposal is legitimate. First of all, the purpose of the Olympic Games is to promote peace in this world. Even though our proposal prevents athletes from attending the Olympic Games, as long as the purpose is to promote peace and the result is likely to be successful, it is compatible with the goal of that sport event.

(4) On that point sir.

Secondly, it is a fact that the national government is the central actor of bidding, hosting, and

attending the event. As a government, they have the obligation to prioritize saving the life of people before just having fun. Olympic Games are no exception in this sense. Boycotting Olympic Games is an accepted method to convey political message. For instance, the Moscow Olympic in 1980 was boycotted by more than 50 countries including most of the liberal democratic countries and others such as China. This is because international community was protesting against that country's invasion into Afghanistan, which resulted in violations of human rights of innocent citizens. In another case, Montreal 1976 Olympic Games was boycotted by African countries in protest to the Apartheid in South Africa and the lack of diplomatic effort from European countries to pressure South Africa.

(5) On your examples sir.

Thirdly, even under the status quo, the Republic of Czechoslovakia is saying that she may boycott the Olympic Games for the Chinese government's brutal treatment of its citizens. One of the three candidates for the presidency election of French is also saying that France, which has concerns over the human rights in Tibet, should boycott the Olympics. As these examples show, boycotting is a legitimate tool both philosophically and practically.

(6) On that point sir.

Then, I will explain to you our second argument, which is why the boycotting can be a strong political tool to influence the Chinese government. My reasoning can be divided into two levels. First, let me confirm that hosting Olympic Games is a national event which promotes international recognition of that country. A lot of people would go to the country to attend the events and billions of people will watch the TV coverage. It is fair to say that this is a great opportunity for the host country to give good impression to people all over the world. And what they want to avoid at all cost is being humiliated in that event. This is why the country wants to avoid being boycotted by other countries.

(7) Point sir.

Then, let me move on to the second level. By pressuring China through our proposal, the Chinese government will do their best to listen to and implement our demands. Just imagine how the absence of liberal democratic countries in that event makes things difficult for them. First, the event would not be recognized as legitimate Olympic Games if countries like U.S.A. or France do not attend. Second, the absence of those countries would make the Olympic Games

financially infeasible. This is because sponsor companies will not pay much for the advertisement. TV networks will not pay much for the broadcasting license if those countries are not sending athletes. For these reasons, they have no choice but to listen to our demands.

(8) On that point sir.

I will give you one example. South Africa was prohibited to attend the Olympic Games from 1964 to 1992 because of her apartheid policy. This is said to have humiliated the country and contributed to the eventual abolition of that discrimination policy.

(9) On that point sir.

Lastly, I will briefly touch on our third argument. Our claim is that the political pressure by our proposal would force China to change its stance on international protection of human rights. Because Chinese government pays little attention to the human right issues in other countries, sometimes international community cannot take a necessary action. Darfur has been the place of contention. Millions of people are killed by the government-sponsored militia. Still, the UN Security Council has been reluctant to take any actions on Sudan. One of the reasons is China. China has oil interests in Sudan and prioritized economic interest before protection of human rights. After plan adoption, we can expect more direct involvement of UN into Darfur conflict and save people's life there.

(10) On that point sir.

In summary, we believe that liberal-democratic countries should boycott the Beijing Olympic Games because boycotting is a legitimate political tool and our proposal is sure to pressure China to respect human rights. For all these reasons, Team *The Return of the Books of Kells* is proud to propose. Thank you. (1161 words)

2) POI の例

上記の箇所での POI で言う内容の例を以下に記します。こう言わなければならない、という種類の答えではありません。参考として一読して、先ほど自分で考えた POI の内容と比べてみてください。

(1) On your definition sir.

What do you mean by saying “if China improves its policy on human rights”. Could you clearly

explain in what kind of situation we will stop the boycotting?

(2) Point sir.

Even under the status quo, Chinese government is already trying to improve its human rights records. For instance, China has recently passed a law which protects private property right of citizens. Please explain why further pressure is necessary at this moment.

(3) Before that.

Do you know the famous phrase, “the most important thing in the Olympic Games is to take part in”. What do you think about it?

(4) On that point sir.

Your explanation of the purpose of Olympic Games is wrong. Olympic Games is not U.N. It is primary for enjoying sports and consolidating friendships. Why don't you talk about such issues in more appropriate place and let people just enjoy the sports?

(5) On your examples sir.

Your example clearly shows how boycotting is meaningless. The USSR stayed in Afghanistan even after the boycott. Moreover, in retaliation, 14 Eastern Bloc countries boycotted the Los Angeles Olympics in 1984. Boycotting does not solve anything. Rather, it creates new problems.

(6) On that point sir.

Only pointing out two countries does not prove anything. Most of the countries will not actually boycott the Olympic Games just because there are some “concerns”. Please explain what the motivation is, for countries to worsen the relationship with China, which is economically very attractive.

(7) Point sir.

You have been talking only about politics, nations, and government. What do you think about the point of athletes who are suddenly denied the chances to compete because of the political game?

(8) On that point sir.

You have been saying that giving pressure is important and effective to force Chinese government to listen to what we want. But there are other ways to put pressure on China such as bringing the issue to U.N. general assembly or making improvements of human rights record

as a condition of further trade negotiation. Why do we have to boycott the Olympic Games even though there are much better alternatives?

(9) On that point sir.

The reason why South Africa ended its discrimination policy is not because they desperately wanted to join Olympic Games but they were pressured by the economic sanction imposed by the UN Security Council. Your explanation is misleading.

(10) On that point sir.

Your entire arguments are based on the assumption that China would change its policy on human rights suddenly. However, there is no assurance of it. You are talking as if boycotting could solve everything. Why can you say China would suddenly become a defender of human rights just because of the boycotting? Please explain the clear process of how it will happen.

SECTION 4. POI の返し方

1) 返し方の大まかな方針

ここまで、POI をする際の決まりとその例を確認しました。次に、スピーカーとして POI を求められた際の対処法について記します。まず、1 回のスピーチで取るべき POI は 2 回程度です。一度 POI を取ると、相手の話している時間とその応対を含めて 30 秒ほどかかり、つまり 7 分のスピーチ時間のうち、合わせて 1 分は POI に費やされることになります。POI で話す内容は、質問された場合はそのまま返答し、指摘された問題点に関して反論を加えれば良いでしょう。

経験上、POI の返し方に関して知っておくと良い内容が、以下の通り 2 つあります：

① 相手の POI の意図が分からなかった場合

意味の通じる POI をすることは、POI をする側の責任です。もし POI の内容が分からない場合、聞き返す必要はありません。そのまま、”I could not understand his POI. So, let me go back to my speech” といい自分のスピーチに戻って構いません。

② 何と言いついたら良いか分からない場合

この様な場合の逃げ方は 2 つあります。1 つ目は、”What he said is not relevant at all. What I am talking now is ～. So, let me go back to my speech” といい、相手の POI は全く的

外れであると言い切ってしまうことです。「～」の部分には、自分たちのチームラインか、直前に話している内容の繰り返しを入れてください。

2つ目に、何も言い返す言葉が無く、また内容的にとつても確な POI が来た場合の対処法です。最後の逃げ道として、”That’s a very interesting point. Let me talk about it later” と言ってひとまず自分のスピーチに戻って下さい。そして、途中で上手い返し方が思いつけばそれを言い、もし何も思いつけなければ、そのまま返答を忘れたことにしてスピーチを終えてください。あまり格好の良いものではありませんが、沈黙してしまうよりは、よりダメージを少なく抑えられる対応です（大会では致命的になる返答ですが、練習の時には使っても構わないでしょう）。それでは次に、練習問題です。

2) 練習問題：POI の返答を考える

先程の PM スピーチでの POI 例に対して、それぞれ何と答えたら良いか考えてみてください。また、全部で 10 回求められた POI をどこで取るべきかも考えてみてください。以下に返答の例を記します。自分で一度考えた後で、目を通してください。

Response to POI (1)

The situation at which we cancel the boycotting is when we can see major improvements in human rights in China such as the end of the oppression to people in Tibet, more respect for the due process of law, or more freedom among individuals such as the religious freedom.

Response to POI (2)

Good point, madam. Let’s me explain. Despite the pressures from various diplomatic channels, we have not yet seen any major improvements since the Tiannemen Square Massacre in 1989. The recent minor improvements are the clear signs that China is actually willing to change as long as it is pressured. We believe that the Olympic Games are the unique and great opportunity to break through the stalemate.

Response to POI (3)

The Olympic Games is worthwhile participating only when the host country is committed to peace and justice. It is morally unjustifiable to attend the event when the same government which organizes the Olympic Games is torturing its citizens.

Response to POI (4)

The uniqueness of Olympic Games is that its’ success is regarded as the success of the economy, politics, and society of that nation. It is inevitably connected with political agenda. If

you just want to enjoy sports, there are other international sport events with less political color such as World Cup. So, this POI is not important.

Response to POI (5)

We do not think so. The reason why the situation in Afghanistan was given such a great attention was precisely because a lot of countries boycotted for the reason of it. After the boycott, people wanted to know more about Afghanistan. In this way, boycotting is quite meaningful as it attracts peoples' attention.

Response to POI (6)

I will give you one clear motivation for governments in liberal democratic countries to boycott. The governments in those countries are now being pressured to do so by their citizens who are seriously worried about the atrocities in China. For instance, in Northern European countries such as Sweden and Denmark, Popular Social Party has strong power and those countries would boycott once the citizens realized how the government is treating its citizens brutally.

Response to POI (7)

It is indeed unfortunate for those athletes. But please compare the importance of saving the life of people and attending a sport event. It is a hard decision but we have to prioritize peoples' life.

Response to POI (8)

The reason why we proposed this case is because those other diplomatic efforts have been already tried such as when China joined WTO. But they were not so successful. We think that our proposal can make a difference since Chinese government is so desperate to make the event successful.

Response to POI (9)

As I have already pointed out, boycotting can convey strong political message which attracts attentions from all over the world. Why the sanction could be imposed so smoothly was partly because people were well aware of the situation in South Africa thanks to the information they looked for after the boycotting.

Response to POI (10)

As I have already talked again and again, in order to make the event as successful as possible, Chinese government will listen to our demands, so we can expect improvements in human right conditions. Even if China does not take actions, our proposal will attract attentions from all over

the world. Some people may boycott buying Chinese products, which will compel China to rethink its policy seriously.

SECTION 5. POI で遊ぼう

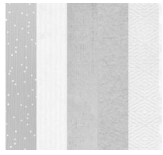
最後に、本レッスンのまとめとして、以下の2種類の練習をしてみてください。

■TASK A

この課題のやり方は簡単です。通常のPMスピーチ練習に加えて、聴衆の人は途中でPOIをしてください。POIを取る回数に関して、例えば「全てのPOIを取る」、「5回取る」など指定してみてください。

■TASK B

最後に、POIだけに特化した練習方法を紹介します。1人の人がPMスピーチをするという点では、上の練習方法と変わらないのですが、今度は1分半経過した時点で、スピーチを途中で止めてください。それから、聴衆は出来るだけPOIをして下さい。POIが出せなくなったらスピーカーの勝ち、スピーカーがPOIへの返しが思いつけずに沈黙してしまったら聴衆の勝ちです。



Lesson 5.

定義の仕方



Contents:

Section 1. 定義について

Section 2. 定義の仕方

Section 3. 定義の練習

SECTION 1. 定義について

これまで、定義をする必要がほとんど無い論題を用いて練習をして来ました（と思います）。パーラメンタリー・ディベートでは、曖昧な論題が出された場合、肯定側はそれを定義することが役割として期待されます。本レッスンでは、その為のディベートの中級・上級者を目指す方にとって必要になる知識を扱います。以下では、どうして定義をする必要があるのか、定義とはどんな行為を指すのか、定義をするにあたって従うべき原則は何で、してはいけない事は何かという順番で説明し、最後に実際に定義の練習をします。

1) 論題の曖昧さ

試合において与えられる論題には、様々な解釈が可能な物があります。例えば、2007年3月に開催された第7回東京工業大学杯の予選では、以下の論題が用いられました：

- 予選1 試合目： This house believes that candidates should be allowed to launch all their campaigns on the web.
- 予選2 試合目： This house believes that the pan-America EPA should be concluded.
- 予選3 試合目： This house would prohibit harmful expressions to the children in cartoons.
- 予選4 試合目： This house would privatize non-combatant sectors of Japanese SDF.
- 予選5 試合目： This house would raise the minimum wage.

これらの論題の内、Lesson 1 では1つ目の論題（「本院は、選挙候補者は全ての選挙活動をネットを用いて行うことを許されるべきと信じる」）を例に取り、論題がいかに関与の余地を残した物であるか確認しました。今度は3番目の論題（「本院は、漫画での子どもに害のある表現を禁じる」）を例に取り考えて見ましょう。この論題では、以下の観点では曖昧さがあると言えます：

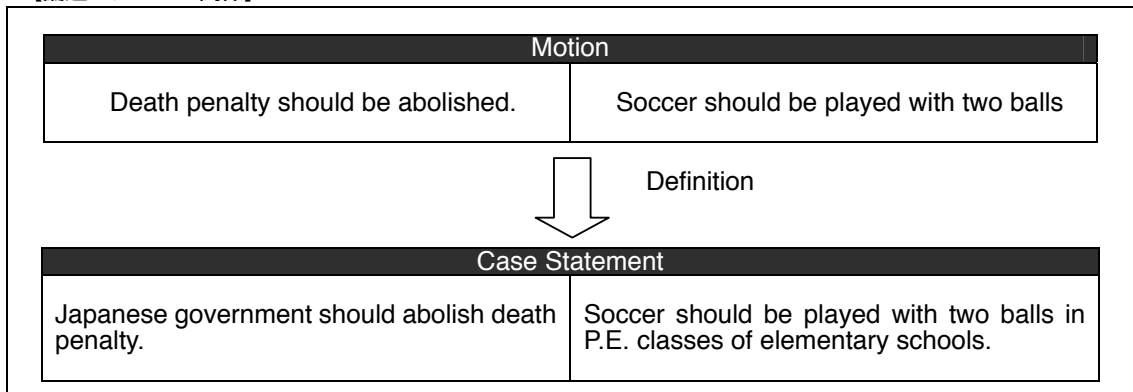
- ・どの国、地域を対象とするか（日本か、または“liberal democratic societies”一般の話か）。
- ・「子どもに害のある表現」とは何なのか（思想的、性的、暴力的な要素が考えられます）。
- ・「禁止する」とあるが、何をどう禁止するのか。作成または販売の全面禁止か、それとも一定年齢以下の者に対してのみの禁止か。
- ・禁止を破った者への罰則はどうなるのか。
- ・既に出回っている「子どもに害のある表現」を含んだ漫画はどう扱うのか。
- ・“cartoon”とは出版物なのか、それともテレビ放送されるアニメ番組を指すのか。

実際、論題の解釈の可能性は際限無くあります。これらの論題の解釈のうち、どれに基づき議論を行うのか、政府側であれば指定する必要があります。

2) 論題とケースの関係

復習になりますが、ディベートの試合において、一番初めに話すスピーカーである Prime Minister が、これら曖昧さを取り除く役割を担います。曖昧さを取り除き、その試合にて肯定側が証明を試みる内容を、改めて一文でまとめる役目が与えられています。曖昧さを取り除き、何についてその試合で賛成と反対の議論を戦わせるか明確にする行為を、定義(definition)と言います。定義された結果作られる、肯定側がジャッジに証明を試みる一文を、ケース(case statement)と言います（このケースが、何かの政策であれば Proposal とも呼べます）。

【論題とケースの関係】



3) 論題の種類

ディベートで扱われる論題には、大きく分けて 3 種類あり、「誰かが何かをするべきだ」という行動を促す政策論題(plan, policy)と、「～は...である」という事実認定に関する論題(fact)、そして「～は望ましい」または「～は...より良い」という価値論題(value)に分類されます。

それぞれの論題の種類ごとに、期待される定義の形と議論の内容が異なります。1 つ目の政策論題(以下、Plan)では、誰が何をするのか定義される必要があります。また、どうしてその方策を採るべきであるのか利点・欠点が論じられることが期待されます。その一方で、2 つ目の事実認定(以下、Fact)においては、事実を認定する基準が示されなければなりません。体罰が正当化出来るとして、教員あるいは親が子に対して行う指導とはどうあるべきであるのか基準を示し、その基準に従えばいかに正当化できるのか話す必要があります。

また、最後の価値論題（以下、Value）について、「日本はアメリカよりも北東アジアの諸国にとってより良い友人である」という論題では、「良い友人と呼べる国の関係とはいかなるものか」基準を示し、日本とアメリカを比較する必要があります。

これらの論題が、実際にどう大会において扱われているか補足説明をします。まず、3 番目の Value ですが、国内の初心者向け大会ではよく出題されますが、中級者以上の大会ではほぼ見る

ことはありません。また、国際大会で見ることもしんどありません（大学生世界大会では、少なくとも自分の知る限り出題された事は無いと思います）。

次に Fact に関してですが、国際大会においては、Fact の論題はそのまま基準を示し、事実認定に焦点を当てて議論することが期待されています。その一方で日本国内の大会、特に初心者向けの大会では、文字通りでは事実認定に関するはずの論題でも、「ある政策を採るべきだ」と定義することが許容されています（むしろ推奨されています）。例えば、「Cellular phones are not good for students.」という論題を文字通り定義し、携帯電話を使うことの良い影響と悪い影響を論じる試合にしても構いませんし、「携帯電話の使用は子供に悪い影響を与えるので、小学校での携帯電話の使用は禁止されるべきだ」と定義しても構わないとされています。

○ 論題の種類

- (1) 政策論題(plan, policy) : 「誰かは～するべきだ」とジャッジに説得する論題。
e.g. Giving of Giri-choco should be banned.
This house would raise the rate of consumption tax.
- (2) 事実認定(fact) : 「～は…である」と説得する論題。
e.g. Corporal punishment is justifiable.
The use of the Internet gives bad influences on children.
- (3) 価値(Value) : 「～は望ましい」または「A よりも B の方が～である」と説得する論題。
e.g. Japan is a better friend than the U.S. for the Northeast Asian countries.
Watching a movie in a theater is better than going to Disneyland.

SECTION 2. 定義の仕方

1) 原則の確認

それでは、いかに論題を定義すれば良いでしょうか。レッスン 2 では、定義をする上で参考になる 3 つの原則を紹介しました。そこではまず、パラメンタリー・ディベートは新聞程度の知識を持つ、常識のある聴衆・市民に対して説得を試みる競技であり、聴衆が自然に受け入れてくれるであろうケースに定義する必要がある事を、1 つ目の原則として説明しました。残りの原則について以下で説明します。

○ 定義を行う上での原則(復習)

- (1) 新聞を読んでいる社会人が、常識的に期待するであろう定義をする。
- (2) 定義には、議論において重要になる内容だけ含めれば良い。
- (3) 否定側に対して極端に不利な内容でない限り、肯定側は自由に定義できる。

♡ 定義の例 (Lesson 1 の例の再提示)

Thank you Mr. speaker and good morning, ladies and gentlemen in this house. Today, we are given the motion that this house believes that candidates should be allowed to launch all their campaigns on the web. First, let me define the motion. I will give you the background of this motion. Under the status quo, most of the liberal democratic countries like the United States allow candidates to use the Internet in their election campaign. However, Japan has not yet allowed candidates to utilize the Internet and there is a discussion on whether or not we should allow it. So, I would like to define the motion as follows. Japanese government should allow candidates to use the Internet in their election campaigns. (112 words)

それでは、2つ目の原則に関して説明します。上の例では、「日本政府は候補者が選挙でインターネットを使うことを許すべきだ」と最低限の情報しかケースには含まれていません。インターネットを使うとメールを送ることか、広報用のウェブを作ることか、スピーチをネット配信することか特定されていません。何故かと言えば、常識的に考えればそれらを含むことが自明であり、何か特記事項を設ける必要がなければ（例えばスパムメールの送付は禁止するといった）、指定する必要が無いからです。何について議論をしたいのか、その意図を伝えられるだけの最低限の情報さえ述べれば、細部に関する説明の必要はありません。



この原則を踏まえれば、論題の中には定義を必要としないものも存在することが分かります。例えば「大学生はアルバイトをするべきだ (University students should have part-time jobs)」や「お見合い婚の方が恋愛婚より良い (Arranged marriage is better than love marriage)」といった物です。そのまま議論が出来るものは、そのまま議論すれば良いということです。

それでは、最後の原則に関してです。肯定側は、1番目の原則（簡単な表現に置き換えれば、「非常識に論題をねじ曲げない」）に違反しない限り自由に定義が出来ます。より試合を焦点の定ま

ったものにするため、そして多少肯定側に有利にするために、付加的な定義をすることも許されています。例えば、上記の「お見合い婚の方が恋愛婚より良い」ですが、「誰にとって」という視点があれば、より話が分かりやすくなります。再婚相手を探す場合、仕事で忙しい社会人の場合などあります。ディベーターも聴衆も大学生である場合、自分たちにとって関心事である近い将来のこと、つまり 30 前後の社会人の初婚に関することに定義すれば、より噛み合った、そして楽しめる試合になると思われます。

2) やってはいけない定義

具体的に定義作りの練習をする前に、してはいけない定義の例をいくつか確認します。「してはいけない定義」とは、言い換えると「聞いている人が呆れる定義」ということです。以下の通り、ジャッジを呆れされる定義には 4 種類あります。

○ やってはいけない定義の種類

- (1) Truism : 「当たり前じゃん。議論にならないよ」
- (2) Time set / Place set : 「ごっこ遊び？ 特殊な世界？」
- (3) Squirrel : 「論題とずれてない？」
- (4) The case that requires expert knowledge : 「専門的過ぎるよ」

まず、1つ目の Truism とは、当たり前の内容、あるいは偽であると証明できない内容をケースとして出した場合を指します。分かりやすい例では、「人を殺すのは良くない」「恋愛結婚が出来ない人にとって、お見合い結婚の方が良い」「国民と議会が死刑制度を廃止するべきと判断した場合、死刑制度は廃止されるべきだ」というものです。

Truism であるのか判断が微妙な場合もあります。例えば「各国の準備が整い次第、アセアン+3 で通貨統合をするべきだ」という様に、ケースの一部が指定されていない場合です。各国の準備が整うのは何時で、準備とは何を指すのか指定されなければ、反論出来ません。

実際に筆者が大会で経験した例を挙げると、2005 年の北東アジア大会で、次のような論題が出されました「新しい国連安全保障理事会の常任理事国が選ばれる際には、アジアからも選ばれるべきだ」。肯定側の韓国のチームは、この論題をそのままケースにして、どの国が選ばれるかに関しては「どこかで会議を開きそこで決める」としました。このケースに従えば、否定側は「新しく常任理事国が選ばれるとしても、アジアからは選ばれるべきではない」と、難しい主張をしなければなりません。

次に、Time set / Place set と呼ばれる種類の定義です。まず Time set ですが、特定の時間に試合を設定して、「まるで自分たちがその時代にいるかのように演じて」ディベートをすることです。例えば、「この試合では、2003年の春に戻ります。イラク戦争を行うべきであるか否かを、開戦直前に得られていた情報のみを用いて議論します」あるいは「この試合は1945年の8月に設定します。日本に対して核攻撃をするか否か論じます」と定義することが、これに該当します。どの情報が、設定された時間で入手可能であったのか確かめられず混乱するので、大会ではこの様な定義は禁じられています。

Place set とは、普通に考えて相手チームが知っているはずが無い、特定の地域の問題に定義をすることです。例えば国内大会であれば、日本の新聞やニュースで扱われているトピックに論題を定義しても構いません。日本の年金制度改革、NHKの視聴料金支払いの義務化、そして小学校の給食費の無償化など、日本のメディアに親しんでいる人であれば知っているはずですが、しかしながら、国際大会でそれら日本の話題に定義をすると、専門的な知識を必要としているケースと判断されかねません。首相の靖国神社参拝の是非など、ヘラルド・トリビューン、BBC、そして The Economist など海外のメディアで取り上げられている物であれば、日本の話題でも定義して構いません。ただ、補足をするとアメリカの国内問題は国際的な英語のメディアによく取り上げられるためか、国際大会で普通に論題として出されます。

3つ目の Squirrel ですが、論題で意図されているはずの内容と、ケースのそれがずれている場合です。例えば、”This house would legalize marihuana (マリファナを合法化すべきだ)”と論題が与えられたとして、「観葉植物としての麻の所持とその輸入を合法化する」と定義することがそれに当たります。実際にあった例では、”This house believes that university students should have pets”という論題に関する定義が近年では最も印象深いものでした。辞書を引くと、”pet”には単語として “boyfriend / girlfriend” を指し得ると記述がありました。それを根拠として、大学生は恋人を持つべきだ、というケースが作られたと言います。

最後の場合は、専門的な知識に基づいた定義です。言い換えると、対戦相手が持っていないと予想される知識に基づいて定義を行う場合です。例えば、”Death penalty should be abolished”で、漫画「Death Note」の主人公はあんなノートを使って犯罪者に罰を与えるべきではない、主人公の行った事は良くないと定義することです。漫画、小説、そしてドラマといったフィクションの世界に定義が置かれると、その作品を知らないと議論を理解することが出来ないのが好ましくありません（練習として、仲間内でやると面白いです）。

他には、例えば自分がジャイロセンサーを備えた個人向け動力付き移動機器の研究をしていて、セグウェイについてとても詳しいとします。セグウェイは今の日本の道路交通法の解釈では、

原動機付自転車に分類され、自賠責保険に加入する必要がある、ヘッドライトやミラーなども付けないといけません（自賠責保険に非加入で、それら必要な装備が無いという理由で、公道でセグウェイを使用した人が過去に逮捕されました）。それを踏まえて、セグウェイを電動車椅子の様な扱いにして、保険と整備に関する制限を取り除くべきだ、と定義したとします。相手チームも聴衆も、そんな話は知らないし興味無いよ、と思うでしょう。相手チームが知っていて当然とは思えないトピックに定義をすると、ジャッジが呆れてしまう、ということです。

以上の通り、望ましくない定義の例を4種類に分けて確認しました。基本的には、論題で意図されていることを踏まえ、聴衆も相手のチームも予想できる素直な定義をすれば問題はありません。試合で勝ちたいために無理な定義をすると、それだけでジャッジからの評価が下がってしまいます。だまし討ちをする様なディベーターからは、誰も説得されたく無いでしょう。

3) どうして曖昧な論題が大会で使われているのか

最後に、どうして曖昧さが残る論題が大会で出されているのか、参考までに説明をします。まず教育的な理由があります。与えられた論題をケースに落とし込むためには、その論題が選ばれた意図 (spirit of the motion) を推測する必要があります。冒頭で例示した「インターネットを用いた選挙活動を許すべきだ」という論題においては、今現在選挙においてインターネットはどの様に扱われているのか知らなければ、適切な定義を導くことが難しいでしょう。時事問題について関心を持たせるためにも、この様に定義をさせる論題を出すことには教育上の利点があります。

次に、試合を行う上での都合上の理由があります。例えば、ある特定の時事問題についての定義が許されるような論題では、もし肯定側がそれについて知識が無い場合、試合のセットアップすら出来ず試合が流れてしまいます。他のトピックへの解釈も許す曖昧さを論題に残しておけば、この様な問題を防ぐことができます。

最後に、ゲームの要素としての理由があります。肯定側は、定義によって相手の意表を突くことが可能な一方で、突飛な定義をした場合に評価が下げられる可能性もあります。否定側は、どの様な定義が出るのか分からず、あれこれ準備時間中で予想することになります。聴衆においては、どの様なケースをPMが出すか待つ楽しみがあります。この様に、ディベートのゲーム性が、定義の必要な論題を扱うことによって高められています。それでは次に、実際に定義を試みましょう。

SECTION 3. 定義の練習

1) ケースを作る

レッスン 2 では、どの程度細部を詰める必要があるかに応じて、4 種類に論題を分類しました（再読してみてください）。以下の、分類された論題を定義して、それぞれ 1 文のケースを作ってください。作った後で、その論題からどうしてその定義を導いたのか、ペアあるいは小グループで説明し合ってください。

■ 対象を絞った方が議論が噛み合う場合

- (1) This house believes that having pets is beneficial.

- (2) This house would prioritize debating over dating. (2005 年度 Gemini 杯)

- (3) This house believes that living with parents is better than living alone.

■ 代わりにどうするのか疑問の出る場合

- (4) This house would abolish the priority seats (優先席) in public transportation.

- (5) This house would abolish nuclear power plants.

- (6) This house would ban experiments on animals.

■ 論題の意図を汲み取って、細部の設定をする必要のある場合

- (7) This house would introduce compulsory voting.

- (8) This house would make English as an official language of Japan.

- (9) All elementary and secondary schools in Japan should have classes on Saturdays.
(第 2 回高校生全国大会)

■ 意図的に曖昧な表現が使われている場合

(10) This house believes that right is more important than peace. (94 年度 世界大会)

(11) This house believes that the melting pot has failed. (96 年度世界大会)

(12) This house supports the statement, “Yankee Go Home!” (95 年度 世界大会)

2) 論題からケースを導く

ケースを作ったとして、PM スピーチでは論題からいかにそのケースが導かれるのか説明する必要があります。論題とケースとの関係が分かりにくければ、肯定側は自分たちに都合の良いように論題をねじ曲げているとして、減点されることもあります。

それで、本レッスンのまとめとして Lesson 2 で導入した定義の説明用ワークシートを使って、定義を終えるまでの 1 分前後のスピーチを簡潔に行う練習をします。例の通り、与えられた論題、その論題の背景知識、そしてケースの順番で示します。

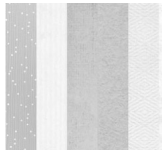
例題では、廃止する代わりに別の何かを導入する必要がある論題を確認しました。例えば、死刑制度の代わりに最高刑として、仮釈放なしの終身刑を導入するとします。その場合では、Option 1 の “condition” を付け加えてください。例えば、“Our case is that Japanese government should abolish death penalty. And we have one condition. After plan adoption, we will introduce life in prison without parole as the highest punishment” という様にします。ケースに付け加えがある場合はこの様に “condition” として説明してください。

■ TASK A

上で作った論題とケースのセットを 1 つ選び、Lesson2 の Worksheet を用いて定義を発表して下さい。

■ TASK B

「初めての英語ディベート Book 1」の Lesson 1 では、積極的安楽死(active euthanasia)について触れました。そこで、積極的安楽死が認められる要件について紹介されましたが、それぞれの要件を Condition として、積極的安楽死合法化のケースを定義して下さい。上述のワークシートを使わずに、この安楽死合法化の定義をスピーチ出来るようになれば、定義の練習は一区切りです。



Lesson 6.

PM Constructive Speech



Contents:

Section 1. PM Speech の例

Section 2. Team line と Allocation

Section 3. Team line と Allocation 作りの練習

Section 4. PM Speech 練習

SECTION 1. PM SPEECH の例

以下の「基礎編」のレッスンでは、北米形式の各スピーチについて、より細かく学んでいきます。各レッスンではまず、目標とするスピーチの具体例が示されます。そして、そのスピーチを準備するに当たって必要となる、いくつかの知識が導入されます。その知識を応用する課題を終えた後で、実際にスピーチを用意します。

それではまず、本章で学ぶ PM (Prime Minister) スピーチの果たすべき役割について、確認しましょう。前出のとおり、次の4つの役割が期待されています：

○ PM Speech の役割

- (1) [Definition] 論題の曖昧な語を定義して、Government 側がその試合で証明するプラン(plan)あるいはケース (case statement) を示します。
- (2) [Team line] チームとして、ケースを証明する理由 (team line)を大まかに説明します。
- (3) [Allocation] パートナーとの議論の説明の役割分担(allocation) を示します。
- (4) [Argument] 肯定側の主張を、複数の議論に分けて、説明します。

ここでは、次の論題で PM スピーチの例を示します：

THBT Japanese government should ban the selling of tobacco by vending machines.
(日本政府は自動販売機でのタバコ販売を禁止するべきだ)

このスピーチスクリプトは 2007 年度、つまりは成人識別 IC カード「タスポ」がまだ導入されていない時点で作成したため、現在の実情とは多少異なっていることを予め断っておきます。

スピーチ例を読んで、それぞれ 4 つの役割がどの個所で果たされているのか確認してみてください。また、本章では深く解説をしません、以下のスピーチでは「原則論(principle argument)」の具体例が含まれています。Principle argument とは、問題とされている政策のメリット・デメリットを論じるのではなく、その政策が何か「あるべき原則・原理」に照らしていかん適合しているかを演繹的に述べた議論です。

🌟 PM Speech 例

Mr. Chair and members of this house. Today, we are given the motion that Japanese government should ban the selling of tobacco by vending machines. First, I will give you the background of this motion.

Under the status quo, smoking among teenagers is a huge problem in Japan. Even though we recognize the harm of smoking and want to reduce the number of smokers, this is not so successful so far. This is because people in Japan have easy access to tobacco by ways of the vending machines which we can find everywhere. So, we want to focus on this problem today.

As the motion specifies, the case from the government side is that Japanese government should ban the selling of tobacco by vending machines. After plan adoption, there will be no vending machines of tobacco. In order to buy this product, you have to go to grocery stores and ask a clerk to bring tobacco from a storeroom. You also have to show your ID card. This is our proposal today.

Our team line is that Japanese government should ban the selling of tobacco by vending machines because government has the role of protecting citizens from injuring themselves and the easy access to tobacco through vending machines is promoting people to smoke more, especially among younger people.

We have four arguments to support our proposal. Let me give you our team splits. First argument is the danger of smoking. I will talk about how smoking is harmful and why it is the role of the government to do everything it can do to prevent people from smoking. Second argument is reducing the number of novice smokers, especially teenage smokers. Third argument is better regulation of smoking places. Fourth argument is reducing the amount of tobacco each smoker consumes. Third and fourth arguments are explained by my partner and I will talk about first and second arguments. So, let me explain one by one.

First argument is the danger of smoking. My claim is that smoking has been scientifically found critically harmful to our body and the government has the duty to reduce the number of smokers as much as possible.

My reasoning is as follows. First, let me talk about what is the nature of smoking in terms of two aspects. As for the first aspect, it is a well known fact that smoking is bad for your health. It causes varieties of illness to your body. Smoking will increase the risk of getting cancer. Smokers are more than four times likely to get cancer than non-smokers. Millions of people are dying every year because of the cancer-related diseases. Smoking during pregnancy may cause babies born with disabilities or premature deliveries. It is a well-established fact that smoking is bad for your health.

Another aspect of smoking is that it is addictive. After certain period of smoking, you can no longer quit smoking. It is addictive. Once you start smoking, you are entrapped into the habit of smoking for the rest of your life. Even though smokers are fully aware of the danger of smoking, because they cannot resist the urge to smoke, they have no other choices but to keep smoking and destroy their bodies.

Next, given this knowledge, our government has to prevent people from smoking as much as possible. Government has the obligation to prevent people from getting harmed by their reckless actions. For instance, our government obligates drivers to use seat belt. If you do not use it, you will be penalized. Also, you will get fined if you breach the speed limit even though there is no obvious danger in driving 10 kilometers faster than what is allowed. This is because government has the paternal responsibility to protect people from making bad decisions and seriously injuring themselves.

Since tobacco is addictive and harmful to your body, it is the role of the government to prevent people from smoking. As I and my partner will explain in our arguments, not allowing people to buy and sell tobacco by vending machines has a unique effect of reducing the number of smokers and the amount of tobacco consumed. Therefore our proposal is justifiable as government action.

Second argument is reducing the number of novice smokers. By the phrase “novice smokers”, I refer to those who smoke for the first time or those who has not yet developed the addiction to tobacco. My claim is that banning of vending machines can significantly reduce the number of such smokers.

My reasoning is as follows. Under the status quo, tobacco can easily be bought by everyone, everywhere, and anytime. The vending machines are located in very convenient places like bus stop. Imagine this situation. You find that the next bus is coming in 20 minutes. You have nothing to do. Then you find the vending machine standing nearby. You recognize one new tobacco product which is advertised recently in your favorite magazine. You just put the coin and you can buy it. Then, you start to smoke for the first time in your life. Even if you happen to be under twenty, nothing will stop you. With the machine, you can buy the product without being checked by anyone. In short, this kind of casual smoking is made possible because tobacco is sold by the vending machines.

Then, if we legalize the vending machine, what will happen? Obviously, it would get more

difficult to buy the product. You need to go to grocery stores and ask the clerk to bring tobacco. Smoking will not be an easy thing to do. It requires strong determination. Unless we are addicted, we do not have such strong commitment to smoke. Also, the clerk can check if the customer is over twenty or not. Hence, we can prevent under-age smoking too. In this way, we can significantly reduce the number of potential people who would keep smoking and develop addiction.

This point is important because we can protect innocent citizens from being trapped into the habit of smoking. People are influenced by the advertisement that conveys the message that people who smoke are strong, mature, and cool. Especially, younger people are the easy target of today's tobacco industry. By eliminating the source of initial access, our government can better achieve its goal of reducing tobacco consumption. Therefore, this argument proves our case.

In summary, I have told you why the government has to regulate smoking as much as possible and how our proposal can reduce the number of beginner smokers. My partner will further introduce third argument which is about regulating the place people smoke and fourth argument which is about reducing the amount of tobacco each smoker consumes. So for all these reasons, I beg to propose. Thank you.

(1126 words 実際はこれだけ長く話せません。読み上げた場合、7分以上かかります)

SECTION 2. TEAM LINE と ALLOCATION

これまでの章で練習したスピーチは、それ自体で完結した物でしたが、ディベートにおいては、パートナーと連携をして1つのスピーチを作ります。その連携には、20分間の準備時間内での考えの出し合いという聴衆には見えない部分もありますが、具体的にPMスピーチではチームライン(team line)とアロケーション(allocation)として表れます。それぞれ以下で説明します。

1) チームライン： チームとして主張する一文

Team line とは、チームとして主張する、どうしてケースが成り立つのかを説明した1文です。例えば、上記の例ではケースは、“Japanese government should abolish the vending machines of tobacco” という文です。それに対応した team line は以下の文です：

Our team line is that Japanese government should ban the selling of tobacco by vending machines because government has the role of protecting citizens from injuring themselves and the easy access to tobacco through vending machines is promoting people to smoke more, especially among younger generation.

ケースとチームラインの関係について補足をします。ケースとは、それが正しいか否か、肯定側と否定側で説得を試みる命題です。例えば「夕ごはんはカレーライスが良い」というものがケースに成ります。この場合肯定側は「夕ごはんはカレーライスが良い」という考えを、否定側は「夕ごはんはカレーライスが良い、という主張は正しくない」を説得することになります。

これらケースに、どうしてカレーが良いのかあるいは嫌なのか、それぞれ理由を加えたものがチームラインになります。例えば家族で晩御飯のメニューを決めるとして、お父さんと妹さんがカレー肯定派で、お母さんとお兄さんがカレー否定派だとします。お父さんが肯定する理由は、今日の食事当番は自分なんだけど、仕事で少し疲れていて、あんまり凝った料理を作る気がしないやという物だとします。妹さんが肯定する理由は、カレーライスはみんなそこそこ好きで（自分は大好きだけど）、食べればみんな最大公約数的に幸せになるだろうから（自分が一番幸せになるけど）、という物だとします。

ここで考えて頂きたいのは、カレー否定派に対してチーム一丸となって立ち向かうには、お父さんと妹さんが一緒になって主張し防衛する一文があれば、より強力になるということです。妹さんの立場では、夕ごはんを作るのに手間がかかるかどうかは、大して重要ではありません（失礼な話ですが作るのはお父さんなので）。しかし、お父さんの「今日はちょっと楽をしたい」という議論でお母さんとお兄さんを説得出来れば、妹さんにとっても利益があります。同様に、「本当は自分が食べたいから」という思惑が明白な妹さんの議論であっても、お父さんにとっては支援するメリットがあります。

以上を踏まえると、お父さんと妹さんは「カレーライスは作るのが簡単で、みんなそこそこ好きだから」という主張で共同戦線を貼ることで利害が一致します。この様に、チームとして主張し防衛する一文でまとめられた主張を、チームラインと呼びます。

この様なチームラインという概念が存在するのは、パラメンタリー・ディベートがモデルとしている議会の性質によると思われます。議会では、多数派となるために連立内閣が組まれることがあります（比例代表制が導入されている場合、特にこの傾向が顕著になります）。

例えば最近まで連立与党を組んでいた自民党と公明党は、本来は綱領を異にする相成れない政

治団体ですが、政権与党としての地位を保つという共通の利害がありました。それで仮に首相が自民党から、(そんな役職はありませんが) 副首相が公明党から選出され、ある法案の審議で野党と相対するとします。議会では、自民党の立場からは大切であっても、公明党の立場からはあまり重要ではない議論が首相から述べられるかもしれません(例えば、農業保護など)。しかし、野党に対して議会で優位を保つためには、副首相は党の壁を越えて、一貫して論陣を張る必要があります。それ故、本来は関心のない議論であっても、チームとして支え合う必要が生じます(この連立与党・野党間での駆け引きは、世界大会のディベート形式・British Parliamentary Style で特に顕著になります)。

チームラインは、チームとして話す議論の中身を上手く一文に抽象化して作ります。それがスピーカー間で共有されることにより、政府側あるいは野党側の立場が明確化され、よりジャッジにチームとしての議論が伝わりやすくなります。

次のレッスンで説明しますが、このチームラインは特に野党側でスピーチをする場合に重要になります。上の例を続ければ、「晩御飯がカレーライスなのはいやだ」という意見の理由には、多くの可能性が有ります。例えば「お昼もカレーだったから、カレーは絶対だめ(他のであれば何でも良い)」、「今日は土曜の丑の日なので、鰻がいい」など、単に「反対!」と言うだけでなく、その反対のスタンスを明確にすることで、主張がより理解され易くなります。

それでは次に、チームとしての役割分担の示し方について確認します。

2) アロケーション：話す内容の役割分担を提示

アロケーションとは、自分とパートナーがそれぞれどの議論を言うのか提示して、ジャッジにスピーチの構成に関する見取り図を与えることです。アロケーションは、Team Splits とも呼ばれます。また「Roadmap を示す」とも言われます。

先程の例では、以下の個所がアロケーションに相当します：

We have four arguments to support our proposal. Let me give you our team splits. First argument is the danger of smoking. I will talk about how smoking is harmful and why it is the role of the government to do everything it can do to stop people from smoking. Second argument is reducing the number of beginner smokers, especially among children. Third argument is better regulation of where to smoke. Fourth argument is reducing the amount of tobacco one smoker consumes. Third and fourth arguments are explained by my partner and I will talk about the three arguments. So, let me explain one by one.

スピーチ中にアロケーションをすること自体は全く難しくありません。問題となるのは、準備時間中に、パートナーと自分がどの議論を分担するか決めることです。以下に箇条書きにした通り、大まかに3つの原則があります：

○ Allocation の原則

- (1) 一番大切な議論は、最初のスピーカーが言う。
- (2) ジャッジに理解して貰い易いように、(可能であれば) 何らかの視点・トピックで議論を大まかに分けて分担する。
e.g. { 国内(domestic) 国外 (international)
 { 短期間 (short term) / 長期間 (long term)
 { 政策によっていかに主要な問題が解決するか / 政策による副次的なメリット
 { 経済的(economical)、政治的(political)、外交的 (diplomatic)
- (3) 新しく導入する議論の数は、1人目と2人目で、2・1 か 2・2 が基本

これらの中で、2つ目の原則に関して補足します。議論を4つほど出したとして、それぞれの関係がバラバラであれば、ジャッジが頭の中で整理するのに手間がかかるかもしれません。それで、何らかの大まかな議論の役割分担があれば、話に一貫性が生まれ易くなります。議論を大まかに分ける視点としては、リストに挙げたパターンが代表的です。他にも、BOOK 1 の「Lesson 6. 議論を思いつく方法」で取り上げた様に、登場人物で分けてみるのも良いやり方です (例えば、EU の視点、アジアの視点、そしてアメリカの視点といった具合に)。

また、チームラインを踏まえて、チームラインで説明した理由の前半部分 (上の例では “because government has the role of protecting citizens from injuring themselves”) を2人目が担当して、後半部分の理由 (“and the easy access to tobacco through vending machines is promoting people to smoke more, especially among younger generation”) を2人目が担当するという方法もあります。

SECTION 3. TEAM LINE と ALLOCATION 作りの練習

それでは次に、チームラインの作り方と、アロケーションのやり方を練習してみましょう。

■ TASK A: アロケーションを用意する

20 分の準備時間では、最初の 5 分間程度でそれぞれ個別にどのような議論があり得るか、その候補を列挙します。そして、次の 5 分～10 分程度で、両者で思いついた議論の候補をまとめ、分担を決めます。ここでは、その議論を取捨選択し、アロケーションを用意する練習をします。

【例題】以下の論題に対して、ブレインストーミングの結果、肯定側の議論（正確には claim）の候補がいくつか挙げられています。どの様にそれら議論の候補をまとめ、分担したら良いでしょうか。また、それぞれの議論にサインポストを付けて下さい。

(1) This house believes that single life is better than marriage life.

[議論の候補]

- a. Living single allows you to have as many girlfriends / boyfriends as possible.
- b. Assuming that getting marriage means having children, living single is more financially feasible since to raise kids is quite expensive.
- c. Living single allows you to do what you really want to do, such as pursuing your hobby like spending your weekends for debate.
- d. Living single allows you to make important decisions by yourself, without making any compromise (such as the choice of your new car).
- e. For female, single life is better than marriage life since you do not have to look after your husbands who want to be your “boss”
- f. For female, single life is better than marriage life since you can keep working in your company, which is sometimes denied when female employees get married.
- g. Living single allows you to spend more time with your friends, which is not possible if you get married as you need to take care of your spouse or children.
- h. For female, single life is better than marriage life because you are sometimes forced to do all the household chores.

[解答例]

- 1st Speaker: better life / how you can make your life better / being yourself
 - A. Keeping good relationships with others
 - (1) with lovers --- a
 - (2) with friends --- g
 - B. More chances to make decisions by yourself.
 - (1) career --- f
 - (2) hobby --- c
 - (3) big purchases --- d
- 2nd speaker: less burden,(how you can make your life less troublesome)
 - C. Less burden
 - (1) financial burden: to pay for the education of children --- b
 - (2) burden to look after your husband
 - ・ household chores --- h
 - ・ husband who wants to be your boss --- e

この解答例では、どうして結婚をせずに一人でいた方が良いか、1 人目のスピーカーがいかに人生が良くなるかという観点で、そして2 人目のスピーカーがいかに人生の重みが無くなるかという観点で説明することにしました。別の分け方としては、女性に関して特有な議論がいくつかあるので、女性に関する観点だけで一つにまとめて、2 人目に任せることも可能だと思います。

ただ、実際に20分間のスピーチ時間でアロケーションをする時には、もっと大雑把な分け方になります。上の解答例の様に綺麗にアウトラインを作る必要は全くありません。矢印や円など記号を使って、出来るだけ手早く、パートナーと分担を決めてください。

実際に準備をする場合では、PM スピーチを担当する人は、担当する議論が大まかに決まれば、すぐにスピーチの準備に取り掛かっても構いません。20分間の準備時間の使い方としては、始めの3分ほどを各自のブレインストーミングに、そして次の5分~8分をポイント決めとアロケーションに使います。残りの時間では、チームラインを作り、また各自のスピーチの準備に充てます。

【練習問題】以下の論題に対して、ブレインストーミングの結果、肯定側の議論(正確には claim)の候補がいくつか出ました。どの様にそれら議論の候補をまとめ、分担したら良いでしょうか。また、それぞれの議論にサインポストを付けて下さい。

- (1) This house would welcome more foreign sumo wrestlers. (ESUJ トーナメント 2005 年)
- a. Sumo would be watched by people in foreign countries.
 - b. The tournament will be more fun as there would be more skillful wrestlers.
 - c. Japanese sumo stables (相撲部屋) can have more opportunities to recruit new wrestlers, which is important as Japanese are less willing to be sumo wrestlers now.
 - d. The recognition of sumo would be promoted overseas and Sumo may become a medal sport in Olympic games in the future.
 - e. As the presence of non-Japanese sumo wrestlers gets less noticeable, there would be less discrimination toward non-Japanese wrestlers.
 - f. As the sumo gets more popular in foreign countries, there will be more chances to inform Japanese cultures abroad.
 - g. There would be more Japanese who want to be sumo wrestlers because there would be more job opportunities to work as trainer in other countries, and also sumo wrestlers can have international fame as athlete.
- (2) This house would introduce compulsory voting in Japan (投票の義務化) .
- a. The voter turnout would be increased.
 - b. The candidates would think about not just their supporters and interest groups but also more ordinary people who do not have any political affiliation.
 - c. The voices from younger people, who are said to be less willing to go for voting will be reflected more.
 - d. Election committees do not have to spend their money for just asking people to vote and they can use the resources for making election campaign itself better.
 - e. People will acquire more knowledge about current political issues and think more about their society.
 - f. Ordinary people in general would think more about politics as the election would be a truly national event which involves everyone.
- (3) This house believes that paying of ransom(身代金) should be criminalized.
- a. What can be regarded as crime is something which harms others.
 - b. Criminal organizations will be less likely to kidnap innocent citizens since they are less likely to be being paid.
 - c. Paying ransom is bad since it would provide financial resources to criminal organizations and they may conduct heinous crime with the money.

- d. Paying ransom is not effective way to rescue the abductees since most of the abductees have already being killed at the time of ransom paying.
- e. Government can prioritize the benefit to society before the benefit to individuals.
- f. In case of abduction, the best way to save the victim is not to pay the ransom but to ask for the help from the police.

■ TASK B: チームライン作りの練習

それでは次に、チームラインを作ってみましょう。前述のとおり、Team line とは、チームとして主張する、どうしてケースが成り立つのかを説明した 1 文です。たとえば、上の Task A の例題で出された、“This house believes that single life is better than marriage life” という論題に対する政府側のチームラインは、以下のように作れます：

Single life is better than marriage life because single life allows you to keep good relationships with others and make important decisions by yourself, and also it is less troublesome than marriage life.

先程示したアロケーションと比べてみてください。議論の格子と対応しているのが分かります。この様に、チームで分担している議論全体が大まかに伝わるように、チームラインは作ります。では練習問題として、先程の Exercise A のアロケーションを参考に、チームラインをそれぞれの論題で作ってみてください：

(1) This house would welcome more foreign sumo wrestlers.

(2) This house would introduce compulsory voting in Japan.

(3) This house believes that paying of ransom should be criminalized.

SECTION 4. PM SPEECH 練習

これまで、3つの論題に対して、与えられた議論の概要を元にアロケーションとチームラインを作ってもらいました。それらを用いて準備し、実際にPMスピーチをしてみましょう。次のページからのワークシートを利用してみてください。

このワークシートについて補足をしておけば、これはスピーチの構成を余裕を持って確認するために用意したものであり、実際の試合においては、この様なワークシートに丁寧に書き込んで用意する時間はありません。時間に余裕があり、まだフォーマットが身につけていない場合にのみ用いて下さい（この様なフォームを用いてスピーチ準備をすることは、自転車で言えば補助輪のついた三輪車に乗っている状態です）。また、このワークシートは何らかの政策を導入する論題でスピーチをするためのものです（「事実」や「価値」に関する論題でスピーチをするためには、多少の修正が必要です）。

準備が出来たら、7分間しっかり計って、一人ずつ発表してみてください。終わったら、1) 議論の中身について、2) スピーチの構成について、そして 3) 話し方についてお互いコメントして下さい（各人の良かったところと、直せるところを2対1程度の割合で、見つけてください）。

■ TASK C

以下の論題の中から1つ選び、15分間の準備時間でPMスピーチを用意し、お互いにコメントして下さい。

- (1) This house believes that single life is better than marriage life.
- (2) This house would welcome more foreign sumo wrestlers.
- (3) This house would introduce compulsory voting in Japan.
- (4) This house believes that paying of ransom should be criminalized.
- (5) THBT men and women should share restrooms in a company.
- (6) THW preserve historic buildings rather than replace them with modern buildings.
- (7) THBT classmates influence students' success in school more than their parents do.
- (8) THBT giving grades discourages students to learn.
- (9) THBT the ability to work in a group is more important than the ability to work independently.
- (10) THBT the Internet has made the world a better place to live.
- (11) THBT living in dormitory is better than living alone for university freshmen.
- (12) THBT having a few close friends is better than having a large number of friends.
- (13) THBT reading books is more enjoyable than watching movies.

PM Speech Preparation Form (for Policy Debate)

Thank you [Mister / Madam] speaker and good [morning / afternoon / evening] ladies and gentlemen in this house. Today, we are given the motion that:

【Motion】

.....

Let me give you the context of the motion.

【Background info】

.....

.....

So, let me define the motion as follows.

【Case statement】

.....

.....

Then, let me give you the team line from the government side:

【Team line】

.....

Then, let me give you our team splits. Today, we have () arguments.

{ 1st argument is:

2nd argument is:

3rd argument is:

4th argument is:

As the first speaker, I will talk about () arguments. And my honorable partner will talk about (). So, let me explain one by one.

Our first argument is

Our claim is that

Our reasoning is like this. (Under the current situation,)

(However, if we take our plan,)

I will give you some [evidences / examples].

This argument is important because

Therefore, we need to take this plan.

Then, let me move on to our second argument.

Our second argument is

Our claim is that

Our reasoning is like this. (Under the current situation,)

(However, if we take our plan,)

I will give you some [evidences / examples].

This argument is important because

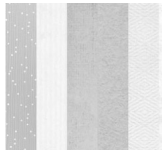
Therefore, we need to take this plan.

In summary, I have told you that:

.....
And also

My partner will talk about

So for all these reasons, I beg to propose. Thank you.



Lesson 7.

LO Constructive Speech



Contents:

Section 1. LO Speech の例

Section 2. 否定側の Team Line と Allocation 作り

Section 3. 政策案を評価する 3つの視点

Section 4. LO Speech 練習

SECTION 1. LO SPEECH の例

以下ではまず、Lesson 6 での PM スピーチ例に対応した LO (Leader of the Opposition) スピーチ例を通して、その役割を確認します。以下の 5 点の役割があることを既に導入しました：

○ LO Speech の役割

- (1) [Response to Definition] PM の出した定義を確認し、必要があれば再定義して、野党側が何を否定するのか説明します。
- (2) [Team line] いかなる理由から論題を否定するか、チームとしての理由 (team line) を説明します。
- (3) [Allocation] ラウンドで、自分とメンバーが何を説明するかアウトラインを示します。
- (4) [Refutation] 肯定側の出した議論に対して反論(refute)します。
- (5) [Argument] 反対側の根拠を、複数の議論に分けて、説明していきます。

それでは次の具体例を見て、それぞれ 5 つの役割がどの個所で果たされているのか、もう一度確認してみてください。参考として、1 つ目の野党側の議論も、いわゆる「原則論 (principle argument)」にしました。2 つ目の議論は、より一般的な政策のメリット・デメリットに関するものです。

🌟 LO Speech 例

God afternoon Mr. Chair and ladies and gentlemen in this house. I am glad to open the debate for the opposition side. We have heard the Prime Minister defined the motion as Japanese government should ban the selling of tobacco by vending machine.

After plan adoption, in order to buy the product, we have to go to grocery store, ask the clerk, and show our ID card. We accept their definition but we strongly oppose this model because this proposal does not solve the fundamental problem of smoking among young generations and this government intervention restricts individual freedom unnecessarily and discriminatory. This is the team line from the opposition bench.

Before we go on to our substantive matters, let me quickly refute what the previous speaker has said. First, I have some questions to their proposal. I would like to doubt the feasibility of their

proposal. There are 0.6 million tobacco vending machines in Japan and about 40% of tobacco revenue is coming from the machines. I would like to ask the government side why such drastic measure, which is banning all the tobacco vending machines right now is possible.

Also, they need to explain why we have to take their proposal even though there are many other ways to reduce tobacco consumption such as increasing the tax on tobacco or giving harsher penalty on underage smoking. For instance, the tax on tobacco is quite cheap in Japan. To buy Marlboro cigarettes, you just need to pay 320 yen in Japan. But in other countries, you need to pay more than 800 or 1,000 yen. They need to explain why their measure is better than such alternatives.

Moreover, I have some serious doubt on the necessity of taking today's proposal. In 1960s', the ratio of smokers among adult male Japanese was more than 80%. But nowadays, it is only about 40%. As we are informed of the health risk of smoking, less and less people are smoking. Under the status quo, the vending machines do not operate from 11 pm to 5 am so that children cannot buy tobacco secretly. Also, from the year 2008, all vending machines of tobacco in Japan need to have an ID checking system so that minors cannot buy. Then, what is the necessity of taking today's proposal? There is no answer from the government side.

Next, let me quickly refute the two arguments coming from the Prime Minister. First argument was very simple. He only said tobacco is bad and government should regulate. Yes, government should regulate it. But it does not automatically mean government should ban the selling of tobacco by vending machines. As I will explain, government also has the role of not to restrict individual freedom without good reasons. We believe today's proposal is restricting individual freedom unnecessarily.

Second argument is that by taking today's proposal, it will be more difficult to buy tobacco so that people are less likely to try the product for the first time. I do not think their proposal will drastically reduce such first-time smokers. This is because people usually start to smoke when they are offered tobacco by their elder friends or when their parents smoke. People do not smoke simply because they need to wait for bus. Children tend to smoke when their family members smoke. They obtain first tobacco in their house not from vending machines.

Now that I have refuted their arguments, I will go on to prove our team's case. Let me give you our team splits now. As the first speaker of the opposition bench, I will present two arguments. They are the protection of the individual rights argument and the inconvenience argument. My

partner will talk about the right of the vending machine companies and that of the owners of vending machines. So, let me explain one by one.

Our first argument is the protection of individual rights. Our claim is that today's proposal is restricting peoples' right excessively. I will explain this in terms of three levels. As for the first level, let me analyze what is the nature of buying or selling tobacco by vending machines. Yes, smoking may harm your body. With certain probability, you may have cancer because of tobacco. Indeed, easy access to the substance may increase the consumption of it. But by smoking tobacco, you are just harming your body.

Then, let me talk about the second level of our argument. There is a very important principle in our society. Our liberal democratic society allows people to take any actions which, from the perspective of the others, may not be the best interest of that person, which include drinking alcohol, doing bloody sports such as boxing, becoming a car racer with the risk of dying in an accident, working as a stunt man in movies, volunteering to work as mercenary, having cosmetic surgery, or gambling. Those activities are allowed because it may only harm that person. So does smoking. It is not the role of the government to decide what is right and what is wrong. It is each of us who has the final say on value judgments. Our action should not be restricted if it does not cause any clear and present danger to others.

Finally, the third level. What exactly is the so-called "harm" the vending machine is causing? According to the government side, minors are buying tobacco from it. That's it. We see something is wrong here. You are penalizing the adult smokers, owners of the vending machines, and the makers of the machines instead of the minors who are buying and smoking tobacco illegally. You should not punish knife makers or gun makers because their products are used in crimes. What we need to do is to think about the better way so that minors cannot buy tobacco illegally from vending machines. It is wrong to ban the use of knives or guns because they are used for crimes.

As I have already talked before, there is no need to throw away vending machines. You just need to prevent minors from buying tobacco from it. For instance, all you need to do is to add the ID checking system to vending machines. This proposal violates the rights of people to sell and buy legal products freely.

Then, let me go on to our second argument, which is the inconvenience to smokers. Our claim is that after plan adoption, buying of tobacco will get more difficult and it causes unnecessary

inconveniences to smokers. Under the status quo, a lot of smokers do not buy large amount of tobacco as there is no discount in bulk purchase and you can easily buy the product by the vending machines. What will happen after the removal of the vending machines is you need to go to grocery stores, ask the clerk, and show your ID.

Why is this so problematic? This is because it is not only unnecessary but also discriminatory. On the one hand, you are asking smokers to waste their time to buy legal products. On the other hand, you are allowing people to buy more harmful products, namely alcohol by vending machines. If you get drunk in public spaces, you may cause troubles to others. In contrast to tobacco, easy access to alcohol may cause killing of people because of drunk driving. Why are you discriminating smokers and ignoring the cause of much larger problem in our society? There is no answer from the government side so far.

Now, let me summarize my speech. I have told you that when a crime occurs, you should not punish what was used in the crime, but you should focus on the criminals themselves. Also, I have explained to you that this proposal is discriminatory to smokers. Furthermore, I have pointed out that their plan is unfeasible and unnecessary. And also there exist much better alternatives to solve the problem. So for all these reasons, I beg to oppose. Thank you.

(1349 words 実際はこれだけ長く話せません。読み上げた場合、7分以上かかります)

SECTION 2. 野党側の TEAM LINE と ALLOCATION の作り方

LOスピーチでは、まずチームラインを示します。その後は、パートナーとの役割分担を説明します。そして、政府側の出した議論に反論を加えた後で、自分たちの議論に入ります。目安としては、7分スピーチの場合、反論を終えて議論の説明を始めるまで3分程度を費やすのが良いとされています（上のスピーチ例では、この時間配分については考慮されていないので注意して下さい）。

1) 野党側のチームラインの要件

チームラインとアロケーションの作り方については、前レッスンにて既に導入されました。論題がそのまま肯定側のケースとなるものであれば、それらの準備方法は特に肯定側のそれと変わりません。例えば、上記のスピーチ例の中では、以下の箇所がチームライン（チームスタンスとも呼ばれます）に相当します：

We accept their definition but we strongly oppose this case because this proposal is does not solve the fundamental problem of smoking among young generations and this government intervention restricts individual freedom unnecessary and discriminatory. This is the team line from the opposition bench.

「自分たちは、ケースに反対する。というのも～という理由からだ」というのが否定側のチームラインの型になります。Lesson 1 で触れましたが、政策論題の場合、通例は以下の内のどれかの理由で反対します（後述の Asian Style では、このようなスタンスを示すことが特に求められます）：

- ① そもそも解決すべき問題は存在しない（そして政府案は不必要なコストを伴う）。
- ② 問題は存在するが現状の枠組みで十分対応できる（そして政府案は不要なコストを伴う）。
- ③ 問題は存在し現状では対応が不十分だが、政府側の示した案では問題解決につながらず、副次的な問題を発生させてしまう。
- ④ 問題は存在し現状では対応が不十分だが、政府側の示した案よりもより良い解決案がある。
- ⑤ 問題が存在し現状では対応が不十分だが、政府側の示した案は現状よりもかえって事態を悪化させてしまう。

このスピーチ例のチームラインでは、「問題は存在するが、政府側の示した案では問題解決につながらず、副次的な問題を発生させる」という 3 番目のスタンスを取っています。

④の、政府案に代わる代案を示唆しているスタンスについて補足します。野党側の責任としては、政府案を採用するべきでないを証明するだけで十分であり、必ずしも代案を示す必要はありません。このスタンス④の様に代案を明示的に示す事は「Counter Plan を示す」と言われ、出した場合は政府案と野党案のどちらがより望ましいか、いわば価値論題の試合をすることになります。

2) 定義の必要な論題が与えられた場合①：準備時間内にすること

LO 特有の練習すべきスキルとして、曖昧な論題に対する準備の仕方があります。例えば、次の論題を見て下さい：

- a. THBT the end justifies the means.
- b. THBT the pen is mightier than the sword.
- c. THBT marriage is a graveyard.

定義に関するレッスンで触れましたが、大会で使用される論題にはこれらの様に、意図的に曖昧にされているものがあります。否定側は、スピーチが始まるまで肯定側がどう定義してくる

のか分かりません。この様な場合、準備時間 20 分内でどの様にチームライン、アロケーション、そして何より議論を用意すれば良いでしょうか。(a)の論題を例に取り、以下で考えてみます。

まず最初の 2、3 分で、個別に論題を考えてみましょう。「目的が手段を正当化する」という物であり、否定側としては、「目的が正しくとも、不適切な手段を用いてはならない」という立場で議論をすることになります。次に、いかなる定義が有るか、その可能性を考えます。

定義を予測するために、肯定側の立場で考えてみましょう。肯定側としては、ジャッジに理解してもらえらる定義を用意する必要があります。それ故に、あまり突飛な定義は出せません。たいてい関連する時事問題か、古典的な論題と関連付けて定義を出します。この論題では、例えば以下の候補を思いつくことができます：

① 時事問題

- ・ 中国が国内政治安定のために行っている、インターネット規制は許されるか。
- ・ イランの核関連施設に対する、武力行使の是非。
- ・ 経済の活性化等を目指したカジノの建設（東京都とシンガポール）を許すか。
- ・ 死刑囚からの臓器移植は許されるべきか。
- ・ 赤ちゃんポスト(baby hatch)の設置に関して。

② 古典的な論題への置き換え

- ・ 政治的アピールを目標とした、抑圧を受けている者のテロ行為は正当化できるか。
- ・ 犯罪の抑制のために、死刑制度は存続されるべきか。
- ・ 発展途上国での児童労働は許されるべきか。
- ・ 発展途上国での売春・買春は合法化されるべきか。

これら、思いついた定義の候補をパートナーとシェアした時点で、準備時間開始から 5 分ほど経過しているでしょう。次に、この中から 2 つに候補を絞ります。絞り方としては、より時事的な、そしてより中心的な議論を含んだ論題を選びます。「より中心的な議論を含んだ論題」とは、その論題で使われる議論が多少の手直しで他の論題の議論にも用いられ得る物を指します。

例えば、「発展途上国での児童労働」に関してでは、否定側の議論として、「ひとたび児童労働が黙認されれば、生存のために必要な児童労働だけでなく、本来は禁止されるべき危険な児童労働の取締りが困難になる」というものが考えられます。この「本来は禁止されるべき危険な ~ の取締りが困難になる」という議論は、児童労働以外にも、「売春・買春」のケースでも用いることが可能です。この様に、議論が他とより多くクロスする定義を選んでください。

そして選んだ2つの候補に関して一方をメインに、もう一方を予備として準備をしてください。サインポスト、アロケーション、各議論の claim と大まかな reasoning が出来ていれば上出来です。

3) 定義の必要な論題が与えられた場合②：PM スピーチ中にすること

LO のスピーチで一番大切な準備は、PM スピーチ中に行われます。相手の定義を聞いて、それが自分たちの予想したものと同じであれば、そのまま準備したものを使えば良いでしょう。実際は、その度合いに差があれども、予想したものと異なっているのが常です。その場合、メンバーと役割分担をしてスピーチを用意します。例えば Leader of the Opposition を担当する人が、相手の議論への反論を用意し、チームラインを修正します。そして Member of the Opposition 役の人が、否定側の議論を用意してノートを LO に与えます（準備時間内で用意した議論がそのまま使える場合は、その必要はありませんが）。誰が何を分担するか、人によって様々なやり方がありますが、たいていのチームは PM のスピーチに対する反論と、LO が話すべき議論を分担して用意します。

この様に、特に否定側においてパートナーとのスピーチ中の連携が重要になります。大会前の練習では、特に否定側に立った際の役割分担を決めて下さい。パートナーとの間に、それぞれの役割の共通理解が無いと、予想しなかった定義を出された場合に、チームとしてスピーチを用意することが出来ません。

SECTION 3. 政策案を評価する 3 つの視点

ここで、野党側として相手の出した政策案自体に文句をつける際に便利な、3 つの観点を説明します。その観点とは：

- a. Necessity
- b. Uniqueness
- c. Feasibility

という物です。それぞれ説明すると、まず necessity とは肯定側がプランを出すとして、そもそも本当に新しく対処すべき問題があるのか、という観点です。例えば東京を世界の観光地としてより発展させるために、お台場にカジノを作ろうとプランが出されたとします。その場合、今でも十分東京は観光地として人気があり、カジノをわざわざ作る理由は無いと批判して見ることが可能です。

次に uniqueness という観点に関して説明します。これは、何か提示されたプランより良い物

が無いのか考えてみることです。例えば、出生率を上げるために、子どもが1人生まれるたびに国が100万円の一時金を給付するというプランが出たとします。その場合、出生率を上げるために他にもっと良い案が無いのか考えてみます。たとえば、出生率が下がっている理由は金銭的な物よりも、働く女性が増えた一方で託児施設数が不十分なため仕事と子育てを両立することが困難だからかもしれません。その場合、単に両親にお金をあげるのではなく、その財源で国が託児施設をより多く作った方が効果があるかもしれません。この様に、目的を達成するためには、本当に提示されたプランしか選択肢がないのか、他にもっと良い案があるのでは、そう問いてみるのがこの uniqueness の観点です。

最後に、feasibility という観点について説明します。これは、果たしてその案が実行可能なのか、という問いです。例えば、国連安全保障理事会で拒否権(veto)を廃止するべきだ、というケースが出たとします。その場合、問題となるのは果たして現在拒否権を持っている国が同意するか、という点です。理念としては廃止するべきとしても、実際に廃止出来る可能性が無ければしょうがありません

2000年前後の北米形式の試合では、肯定側が何らかの政策を出した場合、たいてい否定側がこの3点からまず反論を加えていましたが、最近では直接これらの半ば専門用語を使ってスピーチをする人は殆ど見なくなりました(恐らく、国際大会や海外のコーチのレクチャーではではこれらの用語が使われないため、廃れたのだと思います)。ただ、相手のプランを分析する上で便利な観点なので、ここでは紹介しました。

これらの観点からPMの出した政策案を批判する場合は、相手の出した議論への反論を行う前に、“Before I attack their arguments, let me attack their proposal itself.”または“Let me point out some serious weaknesses of their proposal”などと前置きしてから話します。

SECTION 4. LO スピーチ練習

■ TASK A

POI について学んだ Lesson 4 で、以下の論題での PM スピーチがありました：

This house would use international sporting events for political change.

もう一度そのスピーチを読み、次のページからのワークシートを利用して LO スピーチを 1 つ用意してください(前のレッスンでも言いました、このワークシートは「自転車の補助輪」であり大会に出る時などでは使わないで下さい)。

■ TASK B

下記の論題から一つ選び、スピーチ練習をします。①で挙げた論題には定義の必要が無く、②の物では必要です。

- ① a. THBT libraries of national universities should be opened to all citizens.
b. THBT having a boyfriend / girlfriend in the same school is better than having a boyfriend / girlfriend in a different school. (2000 年 高館杯 Round 3 modified)
c. THBT love marriage is better than arranged marriage.

- ② a. THBT all you need is love. (2006 年度「ディベートのすすめ」杯 Final)
b. THW support positive discrimination. (1992 年度 大学生世界大会 Round 1)
c. THW invade somewhere. (2006 年度 Gemini 杯 Round 3)

15 分の準備時間で、1 人の人は PM スピーチを、残りの人は LO スピーチを準備してください。PM スピーチが終わったら、残りの人が用意した LO スピーチをします。

LO Speech Preparation Form (for Policy Debate)

Thank you [Mister / Madam] speaker and good [morning / afternoon / evening] ladies and gentlemen in this house.

I am honored to open the debate for the opposition side.

First, let me confirm the definition given by the Prime Minister.

Their definition was that:

【Definition】
.....

We accept their definition but we strongly oppose their case. Our stance is that:

【Team line】
.....

Before we go on to our arguments, let me refute what the previous speaker has said.

[He / she] gave us () arguments.

First, [he / she] said:

【Summary of the first argument】
.....
.....
.....

【Refutation to the first argument】

.....
.....
.....

Second, [he / she] said:

【Summary of the second argument】

.....
.....
.....

【Refutation to the second argument】

.....
.....
.....

Third, [he / she] said:

【Summary of the third argument】

.....
.....
.....

【Refutation to the third argument】

.....
.....
.....

Now that I have refuted their arguments, let me give you our arguments. We have () arguments.

{ 1st argument is:
2nd argument is:
3rd argument is:
4th argument is:

As the first speaker of the opposition bench, I will talk about () arguments. And my honorable partner will talk about (). So, let me explain one by one.

Our first argument is

Our claim is that

Our reasoning is like this. (Under the current situation,)

(However, if we take the government plan,)

I will give you some [evidences / examples].

This argument is important because

Therefore, we should not take their plan.

Then, let me move on to our second argument.

Our second argument is

Our claim is that

Our reasoning is like this. (Under the current situation,)

(However, if we take the government plan,)

I will give you some [evidences / examples].

This argument is important because

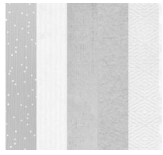
Therefore, the government plan should not be taken.

In summary, I have told you that:

And also

My partner will talk about

So for all these reasons, I beg to oppose. Thank you.



Lesson 8.

Member Speeches



Contents:

Section 1. MG Speech の例

Section 2. チームとして試合をする: (1) 準備時間中

Section 3. チームとして試合をする: (2) 試合中

Section 4. Member Speech 練習

SECTION 1. MG SPEECH の例

以下ではまず、これまで見た PM と LO のスピーチ例に対応した MG (Member of the Government)のスピーチ例を通して、政府側と野党側双方のメンバーの役割を確認します（両スピーチは役割が同一のため、まとめて導入します）。

○ Member Speech の役割

- (1) [Clarification of Team Stance] 肯定側と否定側の立場の違いを大まかに説明します。
- (2) [Refutation] 相手チームの論点に対して、反論を行います。
- (3) [New Argument] 自分たちのチームの新しい論点を、導入します。
- (4) [Reconstruction] 相手チームによる反論に対して、自分たちの論点を立て直します。

メンバーのスピーチは、反論と新しい議論の説明だけを行えば、最低限その役割を果たしたと言え、ディベート初心者にとっても容易に行うことができます。その一方でこれは、肯定側と否定側の議論が出そろい、相互の応酬を経て、ついに試合全体を通しての大きな対立軸が明らかになるスピーチでもあります。言い換えると、メンバースピーチは PM と LO スピーチの単純な続きとして話すことが可能な一方で、ラウンド全体を俯瞰する視点が盛り込まれた、総括的なスピーチにすることも出来ます。アジア大会形式の用語を用いて説明すれば、Deputy Speaker による立論の役割と、ラウンド全体の争点を意識して反論を試みる Whip Speaker の役割が混ざっているのが North American Style のメンバースピーチです。

それではまず、メンバースピーチの実例を通して、上記の4つの役割を確認しましょう。これまでの続きで、以下の論題で Member of the Government のスピーチを例示します：

THBT Japanese government should ban the selling of tobacco by vending machines.
(日本政府は自動販売機によるタバコの販売を禁止するべきだ)

また、前述の通り MG スピーチと MO スピーチの役割は同じであるため、MO スピーチ例は省略します。

🗨️ MG Speech 例

Thank you Mr. Chair and good afternoon members of this house. We, the government side strongly believe that we should ban the selling of tobacco by vending machines.

Let me confirm our team line. Our team line is that our proposal should be taken because the

government has the role of protecting citizens from injuring themselves and the easy access to tobacco through vending machines is promoting people to smoke, especially among minors.

The failure of the opposition side today is their inconsistency. They sometimes say we should regulate tobacco more. At the same time, they also say that smoking is OK and we should protect the right of the smokers. We are not sure what is the stance of the opposition side. On the other hand, we, the government side has been consistent, saying smoking is bad and should be regulated as much as possible. This is the clear difference between the government side and the opposition side. Consistency and inconsistency.

Before we move on to our third and fourth arguments, let me refute previous speaker's arguments. Their first argument was quite confusing but we can see two claims. First, he said that the government should not restrict the smokers' right because they are just committing suicide and not harming the others.

This argument is wrong. A lot of workers in forty or fifty are dying because of cigarette induced cancers. This means the loss of husband or wife who has to support his or her family. We do not want to see children losing their parents. Children have the right to have responsible parents. Their rights should also be recognized. When we find someone committing suicide, it is our moral obligation to stop it. Especially, government has to do so because it has the role of maximizing the people's happiness. Therefore, smokers' rights to kill themselves should be compromised before the benefits of society, or their responsibilities to their family.

Second claim in their first argument was that the vending machine is not guilty since it was just the means used in a crime. According to their argument, we should not blame the vending machine but punish the minors who buy cigarettes from the machines illegally. This analysis is superficial and missing the point. The situation is like placing dangerous knives where children play. According to their analysis, if the children touch it and cut themselves by accident, only children are the ones to be blamed. We do not think so. We should find who placed the knife there and accuse him or her for their reckless conduct. Also, if we know how to prevent such accidents to happen, we must take the action.

Their second argument was about the inconvenience. After plan adoption, buying tobacco would get more difficult and this is inconvenient for smokers. That's fine. That's exactly what we want to achieve by our proposal. Because of this, we can prevent people from smoking.

They also pointed out that we are discriminatory because we are ignoring the selling of alcohol

by vending machines. This accusation is totally pointless. We believe selling of alcohol by vending machines should also be banned. But that is another debate. We should talk about it in another occasion.

Now that I have refuted their arguments, I would like to introduce our third and fourth arguments. Our third argument is regulating the smoking place. My claim is that banning of tobacco selling by vending machines would reduce the number of people who smoke in public places. My reasoning is as follows. Under the status quo, people can casually smoke tobacco anywhere. This is because of the existence of the vending machines. When people feel like smoking, they just look for the machine and buy the substance. What they do next is to start smoking right in the middle of the public place. They smoke as they walk. People walking nearby would suffer from the secondary smoke. The fire of the tobacco may drop on the head of children walking nearby. They may throw away their cigarette butts. The place where the vending machine exits is the place where people start to smoke.

Then, please imagine what would happen after plan adoption. If we abolish the vending machine of tobacco, this kind of irresponsible smoking can be better regulated.

This argument is important as this is connected with our effort to ban smoking in public places. You may be thinking that if smoking in public places is so problematic, why we do not prohibit smoking in public places as some cities in Japan have already done. We believe such banning is necessary in the future. Still, as long as there exist the vending machines in public places, such banning is not effective at the practical level. As a first step to ban smoking in all public places as in Ireland, Italy, France, and Britain, our proposal is necessary.

Then, let me move on to our last argument which is about reducing the amount of tobacco one smoker consumes. My claim is simple. After plan adoption, each smoker would smoke less.

Let me analyze who are the smokers. There are three types of them. First kind of smokers are minors smoking illegally. They cannot buy the tobacco and need to ask somebody else to buy instead, which means they smoke much less. Your elderly friend or family members may give tobacco to minor but it would not be so frequent.

Second type of smokers are those who smoke for fashion. These days, more and more women, especially those in 20s' are smoking tobacco. They are the victims of advertisement by the tobacco companies. They have been shifting the target from male to female, giving the message

that smoking makes you more attractive and look mature. Most of them buy tobacco from vending machines and they buy only one pack. They know smoking is bad for their health. So, they make excuses such as “I am OK because I do not smoke much. Just one pack. I bought it from the vending machine. I am not a chain smoker.”

Then, what would happen after plan adoption. They need to go to a grocery store to get one and this would deter those fashion smokers from smoking. They may be asked to buy one carton of cigarettes instead of one pack. They may be looked at by the shopkeepers scornfully. In this way, those who smoke just for fashion are less likely to smoke thanks to our proposal.

The third kind of smokers are those with addiction. Indeed, a lot of them want to quit smoking. Still, there is one kind of obstacle for them to quit. Imagine that you want to quit something. One way to quit something is try not to think about it. But the problem is you are forced to think about tobacco often as there are so many vending machines of tobacco on the street. You would find vending machines again and again as you walk every fifty meters. This temptation to smoke is one of the reasons why people cannot quit smoking. The banning of vending machine would take away such temptation.

Finally, let me reconstruct our arguments. The leader of the opposition gave us some questions on our proposal. I have the answers. We did not give the specific details of how we are going to abolish the vending machines which are so numerous. This is because it is a technical question. We believe the eventual removal of all vending machines is possible. For instance, NTT has successfully removed 0.5 million public phones in twenty years as the demand for it declined. It may take time but it would be possible in the long term. Increasing the tax on tobacco is a good idea but it is not mutually exclusive with our proposal and it cannot prevent minors from buying tobacco. The installation of IC check system in 2008 is not mandatory and about 0.1 million vending machines are expected not to be equipped with it. So, their alternative plans are not as effective as ours.

As for our first argument, the leader of the opposition said that our proposal would restrict the freedom of smokers. Still, our restriction is justifiable because we can save the people who do not want to suffer from second-hand smoking in public places and can save the lives of smokers themselves.

They claimed that our second argument is not effective to prevent minors from smoking since they will get tobacco from friends and family. Their analysis is wrong. We do not think any friends

or family members will give children tobacco so frequently. Minors who smoke regularly are getting tobacco from vending machines.

So for all these reasons, I beg to propose. Thank you. (1461 words, もちろん長すぎます)

SECTION 2. チームとしてディベートをする方法(1): 準備時間中

メンバーを担当する者に求められる技能は、これまで学んだ内容と大きく性質が異なります。議論の作り方、反論の仕方、定義の仕方、PM スピーチの作り方など、それらに共通することは、実は個人作業であることです。前提としてパートナーとの連携が必要とされるチームライン作りも、アロケーションの用意も、実は十分に個人で行えます。ジャッジを唸らせる PM スピーチと LO スピーチは、誰と相談せずとも、一人で用意することができます。その一方で、パートナーとの連携が無ければ上手く役割を果たせないのがメンバースピーチです。

確かに、前述の通り、反論と議論の作り方を学んだ人であれば、パートナーと殆んど相談すること無しにメンバースピーチを用意することが出来ます。PM あるいは LO からアロケーションとチームラインさえ受け取れば、後は個人作業に徹してスピーチの準備をすることが出来るからです。しかし、その様にして用意されたスピーチから成り立つ試合では、聴衆だけでなく何よりディベーター自身がディベート本来の楽しみの半分も味わえません。

特に North American Style のパラメンタリー・ディベートでは、どの様なメンバースピーチを用意できるかが、試合の質を決めます。参加者 4 人のスピーチ大会に終わるか、2 つのチームによるディベートの試合となるかは、全てメンバーの技量にかかっています。以下では、準備時間中と試合が始まってからに分けて、良いメンバースピーチをする為の方策を説明します。

まず、20 分間の準備時間内では、以下の 4 点がメンバーの役割になります：

○ Member Speaker として準備時間ですること

- (1) パートナーに対して必要な情報・具体例を与え、準備を助ける。
- (2) 自分のスピーチ用の議論を作る。
- (3) 相手側の議論を予想し、反論を考える。
- (4) ラウンド全体で問われそうな争点を予想し、自分たちのチームのスタンスを考える。

それぞれ簡単に説明をすれば、まず PM あるいは LO を担当している自分のパートナーのスピーチ

ーチ準備の手伝いがあります。一般的に、ケースの準備、チームラインの作成、アロケーションの用意においては1人目のスピーカーがリーダーシップを取ります。しかし、論題に対する知識が不十分であったり、何も思いつけなくて困っている場合は、情報を与え手助けします。また、もしメンバーが良い具体例を持っていたり、議論を考えついた場合は、自分のためにとっておらずに、1人目に与えます。良い議論・例があれば、試合の最初の方に出し、ジャッジにより強い印象を与えておいた方が、試合の後半に突然持ちだすよりも良いでしょう。

2つ目に、もちろん自分用の議論を用意することがあります。2人目のスピーカーの出す議論は、1人目のそれと比べて重要性が低かったり、あるいは短めの物になっているはずです。それ故に、出来るだけ手早く用意します。準備時間内の時間の使い方の目安として、理想では、論題が与えられた後の個別のブレインストーミングに3分間、考えたことの共有に2分、定義の作成・予想に2分、チームラインの作成とアロケーションに3分、そして議論の中身と具体例の確認に2分、そして残りの7、8分程度の時間で個別のスピーチを用意します。

余った時間では、まず相手の議論を予想し、それに対する反論を考えます。そして、試合の中で問われそうな争点を予想します。復習になりますが、この「試合の中で問われそうな争点を考える」とは、例えば“THW criminalize the paying of ransom”という論題では、以下の争点をまず予想し、自分のチームと相手のチームからのそれら争点に対する立場を考える事を指します：

- ① 「犯罪」と良べ得る行為は、どの様なものか。
- ② 身代金を払う、という行為はいかなる性質の物か。「犯罪」と呼ぶに足る要件を備えているか。
- ③ 身代金を払う場合と払わない場合、どちらの方が起こってしまった誘拐事件を解決するのに有効か。
- ④ 身代金を払う場合と払わない場合、どちらの方がこれから起こり得る誘拐事件を抑止するのに有効か。

この争点を考えるという作業は、Book 1の「Lesson 6 議論を思いつく方法」で導入した内容と同じです。メンバー役の人はこれら争点に関する議論を自分のスピーチに追加するか、あるいはパートナーに言わせることで、予めラウンドの流れを支配することができます。

この、ラウンドの流れを支配するという事を「死刑制度を廃止すべきだ」という論題で例示します。この論題での争点の一つとして死刑制度は犯罪抑止の効果があるのか、という問いがあります。この争点が重要だとメンバーが思ったならば、メモを用意してリーダーにスピーチ

でその争点に触れてもらいましょう。死刑制度廃止の肯定側であれば、PM の議論の中で、例えばこう言ってもらいます：

「死刑制度は犯罪抑止の効果が大きいとは言えない。例えば、フィリピンでは 87 年の死刑制度の廃止以降に、犯罪発生率が増えた。その一方で、カナダとイギリスでは廃止後に犯罪発生率が低下した。両国の違いは経済にある。フィリピンは丁度不況に見舞われたが、カナダとイギリスは景気が上向きであった。この様に、犯罪発生率は経済により大きな影響を受けるのであり、死刑制度のあるなしは大して影響が無い」

こう言うておけば、否定側のチームが恐らく用意しているであろう犯罪抑止に関する議論が目新しい物では無くなり、ジャッジに対して肯定側のペースで試合が進んでいるという印象も与えられます。また、与えられた反証に対して、否定側は応じる必要が生まれます。

参考までに書くと、国際大会では、このような論題の争点に関する議論（ある意味 principle argument でもありますが）は、1 人目のスピーカーによっても行われますが、日本の North American Style の試合では皆無であるか、最後のリプライ・スピーチで行われる程度です。

これは導入期の日本のパラメンタリー・ディベートが、スピーチのモデルとして、肯定側と否定側の説明したメリット・デメリットを比べて勝敗を決めるディベート形式を参考にした結果です。議論をより深めるためにも、また今後国際大会に参加することを考えても、論題に関する争点が見えた場合は、1 人目のスピーカーに言わせて良いと思います。

SECTION 3. チームとして試合をする方法 (2): 試合中

メンバーを担当する人間には、試合が始まった後には 1) パートナーのスピーチの補助、2) ラウンド全体を俯瞰しながらのスピーチ準備、という 2 つの仕事があります。まず、「Lesson 7. LO Speech」で触れられた様に、否定側に立った場合は、肯定側の定義に応じて自分たちのスピーチを組み直す必要があります。この、LO スピーチの準備を助ける事が、まず大切な役目です。

次に、ラウンド全体を見通して、試合に勝つために自分は何を話すべきか考えます。もちろん、自分たちの新しい議論を導入する必要と、直前のスピーカーに対する反論をする必要はあります。しかし、最低限の役割しか果たさないメンバースピーチからの脱却を目指すには、次の 4 点について検討する必要があります：

○ より良い Member Speech を目指す上で「試合中に考えること」

- (1) ジャッジは何を聞いたがっているのか。
- (2) 自分のパートナーのスピーチで何が欠けているか。
- (3) 自分たちのチームと、相手のチームの違いを上手く特徴づける対立軸は無いのか。
- (4) 反論された自分たちの議論の内、どれを特に立て直すべきか。

(1)に関して言えば、ラウンドで本来出べき議論・分析が全く述べられていない場合、あるいは肯定側と否定側の議論・反論の応酬で、ある重要な問いが浮かび上がった場合、ジャッジは当然それへの言及をメンバーに期待します。

例えば、「アジアで通貨統合をする」という論題が与えられ、肯定側が ASEAN 諸国での通貨統合に定義をした場合を考えてみましょう。否定側が、ASEAN で通貨統合をしたからと言って、その新通貨が本当に域外との決済通貨として用いられるか疑問である、と述べたとします。例えば、ユーロが国際的な決済通貨の地位を持つ様になったのは、もともとドイツ・マルクがそう使われて来ていて、ユーロがその役割を受け継いだから可能であったと言われていています。現在 ASEAN 諸国には、国際的な決済通貨として使われている、取引量の多い通貨はありません。それ故、ASEAN 諸国が域外と貿易をする際には、現状通りドル、円、あるいはユーロで決済され、誰も新しい通貨を用いようとはしない。この様な否定側からの指摘があった場合、聴衆は肯定側が次のスピーチで返答をすることを期待します。

(2)に関しては、簡単に言えば具体例を 1 人目のスピーカーが出していなければ出す、という程度の事です。その他に足りない要素が無いのか、抜けている反論が無いのか考え、補います。このパートナーの補助という役割を果たすには、まずパートナーの話の話を聞かなければなりません。ディベートを始めたばかりの頃は、自分のスピーチの準備に精一杯で、パートナーのスピーチを聞く余裕が無いかもしれません。その場合でも、何か言い忘れたことが無いのかパートナーに直接聞き、付け足したい内容を紙に書いてもらって下さい。

次に、(3)に関して説明します。メンバーは、スピーチの最初に自分たちと相手側のチームとを上手く対比させ、双方の議論の特徴づけを行うことが望まれています（ただし、思いつけなければ、無くても構いません）。本章の MG スピーチ例では、冒頭の以下の個所が該当します：

■ From MG speech on Vending Machines of Tobacco

The failure of the opposition side today is their inconsistency. They sometimes say we should regulate tobacco more. At the same time, they also say that smoking is OK and we should protect the right of the smokers. We are not sure what is the stance of the opposition side. On the other hand, we, the government side has been consistent, saying smoking is bad and should be regulated as much as possible. This is the clear difference between the government side and the opposition side. Consistency and inconsistency.

ここでは、スピーチに一貫性があるか、無いかという観点で両チームの比較が行われています。次に、参考までに Lesson 2 の「ボール 2 つでサッカーをしよう」という論題での、MG と MO の相互のチームスタンスの違いについての説明も以下に抜粋します：

■ From MG speech on Playing Soccer with Two Balls

So, let me first clarify the differences between our side and the opposition side. We, government side, are deeply concerned with providing the best education for our children, which is one of the most important tasks of our government. On the other hand, the opposition side is just claiming that introducing something new is troublesome so we should keep the status quo. What the government side believes in is the responsibility to keep on improving our current practice for the best results. In contrast, what is shown by the opposition side is the attitude of self-indulgence. This is the clear difference between the government side and the opposition side: progress and indulgence.

この場合では、常に改善を試みる肯定側と、怠けて現状に甘んじている否定側、という風に両者の特徴づけが行われています。次に、同じ論題での MO の立場からの両チームの特徴づけを見てみましょう：

■ From MO speech on Playing Soccer with Two Balls

Before we go into our substantive matters, I am obliged to make sure what the true nature of the government proposal is. What they are presenting today is no more than well-intended nuisance for elementary school teachers and students. Both of the sides share the noble cause of making education better. However, what the government side does not see is the reality. They are idealistic. They are emphasizing trivial matters as if they require immediate actions. They are disregarding practical harms of their proposal in the name of making education batter. We opposition side are practical. We are empirically assessing the benefits and the harms of this proposal. The government side is idealistic and our side is practical. We are the ones who know the reality.

理想主義に走っている肯定側と、現実的な否定側という対立でこのスピーチでは両チームが捉えられています。ちなみに、“being realistic” 対 “being idealistic” という構図は一番使いやすく、ディベートを続けていれば何度も耳にするとおもいます。

次の項目の説明に移る前に、何のためにこの様に論題の争点を見出したり、チーム間の違いを際立たせる必要があるのか説明します。メンバースピーチの後には、これまで触れられていませんでしたが、リプライ・スピーチ(reply speech)という、試合全体を総括して、どうして自分たちのチームが相手より勝っているのか説明する、4 分間のスピーチがあります。その Reply スピーチでは、ラウンドをいくつかの観点に絞り、肯定側と否定側を比較し、まとめることが期

待されています。その Reply スピーチで用いられる観点がメンバーで導入されていれば、よりジャッジに伝わりやすくなります。また、チームとしてより一貫性があると印象づけることが出来ます。そして、Reply スピーチを用意するパートナーに対して、この観点ではどうか、と準備の手助けをすることにもなります。

最後に、(4) の議論の立て直しに関して説明します。メンバーとしてラウンド全体を見通せるようになると問題になるのが、話したいことが多すぎて時間内に収めることが出来ないことです。そのため、一体何を話すべきなのか優先順位をつけ、それに従って可能な限り議論を立て直して下さい。

SECTION 4. MEMBER スピーチ練習

■ TASK A

本レッスンでは、たばこの自販機廃止に関する MG が例示されました。これを引き継いで、次のページからのワークシートを用いて MO スピーチを作り、そのフォーマットを試してみてください。

■ TASK B

上級生とチームを組み、5 ラウンド程度メンバーとしてラウンドを経験して下さい。また、自分と同程度のディベート経験者を見つけ、固定したチームを組み、5 ラウンドほどリーダーとメンバーの役割を交互に変え、練習してみてください。

Member Speeches Preparation Form (for Policy Debate)

Thank you [Mister / Madam] speaker and good [morning / afternoon / evening] ladies and gentlemen in this house.

So far, we have been discussing whether :

[Case] or not.

[Option] First, let me clarify what the difference between of our side and the [government / opposition] side is.

Our Side:

On the other hand, the [government / opposition] side:

This is the clear difference of the government side and the opposition side:
.....
or
.....

Then, let me restate our team line:

[Team line]

Before we go on to our arguments, let me refute what the previous speaker has said.
[He / she] gave us () new argument(s).

First, [he / she] said:

【Summary of the first new argument】

.....
.....
.....

【Refutation to the first new argument】

.....
.....
.....

Second, [he / she] said:

【Summary of the second new argument】

.....
.....
.....

【Refutation to the second new argument】

.....
.....
.....

【Option: Refutation to reconstruction】

Also, the previous speaker reconstructed their [first / second] argument by saying that

.....
However this is not ~ because

.....
Therefore, their [first / second] argument does not stand.

Now that I have refuted their arguments, let me give you our new arguments.

Our third argument is:

Our fourth argument is:

So, let me explain one by one.

Our third argument is

Our claim is that

Our reasoning is like this. (Under the current situation,)

(However, if we take the plan,)

I will give you some [evidences / examples].

This argument is important because

Therefore, we should (not) take their plan.

Then, let me move on to our fourth argument.

【4 番目の議論のフォーマットは省略】

[Option: Reconstruction]

Then, let me reconstruct my partner’s arguments.

The previous speaker attacked our first argument by saying that:

.....
.....

However this is not ~ because

.....

Therefore, our [first / second] argument still stands.

Also, the previous speaker attacked our second argument by saying that:

.....
.....

However this is not ~ because

.....

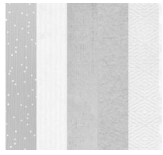
Therefore, our second argument still stands.

In summary, I have told you that:

[Summary of the new argument]
.....

So for all these reasons, I beg to [propose / oppose].

Thank you.



Lesson 9.

Reply Speech



Contents:

- Section 1. Reply Speech の例 (LOR)
- Section 2. Reply Speech の役割
- Section 3. MO の提示した新しい議論への反論
- Section 4. Point of Order (POO)について
- Section 5. Reply Speech の構成
- Section 6. Reply Speech の準備の仕方
- Section 7. 練習課題

SECTION 1. REPLY SPEECH の例

本レッスンで扱われる Reply Speech は、これまでに導入した4つの Constructive Speech とはその役割が全く異なります。Constructive Speech ではディベーターが議論を出し、反論を行うのに対して Reply Speech では、新し議論も反論も出しません (ただし、Prime Minister は Member of the Opposition の出した新しい議論に対して反論を行うことができます)。

Reply Speech の役割は、試合のジャッジです。ジャッジに代わって、どうして自分たちのチームが試合に勝ったのかを説明します。その方法としては、特に決まりはありませんが、ラウンドを幾つかの争点に絞って総括し、いかに自分たちの議論が相手のそれに対して優れていたか説明するのが基本です。

それではまず、Lesson 3 の続きで「ボール2つでサッカーをしよう」という論題で例示します。以下に、Leader of the Opposition による Reply Speech の例を記しました。確認をしておく、まず Leader of the Opposition そして Prime Minister という、立論スピーチ(Constructive Speech)とは逆の順番で4分ずつ Reply Speech は行われます。

MG Speech 例

Thank you Madam speaker, and good afternoon ladies and gentlemen in this house. The crucial failure from the government side today is that after listening to their constructive speeches, we are still not sure what is the clear necessity of taking today's proposal.

They say playing soccer with one ball is unfair. They also say playing with one ball is not fun enough. But they could not give us any compelling reason why we need to drastically change the rule of soccer.

As we have told you already, the status quo is sufficient. Children can have fun and can train their physical skills with just one ball. We have never heard of any person who became a professional soccer player because he or she had played soccer with two balls. We have never heard of children who were severely disadvantaged because we are playing soccer with one ball.

When you were children, you must have had enjoyment, you must have learned something, by playing ordinary soccer. The government side could not show us clear necessity of taking

today's proposal. This is the crucial failure of the government side today.

As the reply speaker from the opposition bench, in order to summarize today's rounds, I would like to ask you three questions. First question is if playing soccer is fun with two balls in soccer game. Second question is if the number of the ball determines the educational value of playing soccer. Third question is which should be prioritized, practical consideration for children or the idealized notion of so-called fairness. So, let me explain one by one.

First question is if playing soccer would be more fun with two balls. According to today's unrealistic government side, children will enjoy playing soccer more. Why? There is no convincing argument from the affirmative bench. They innocently believe that because messy situation provides children with more chances to kick the balls, they will have more fun.

On the other hand, we, the opposition side has clearly explained to you that this kind of messy situation is not fun at all. What would happen after plan adoption is, for example, one goal keeper being forced to catch two balls at the same time. We can easily imagine children being confused and have no idea whether to attack or defend. Less organized soccer game is what we can expect.

Soccer is fun because we can plan attack and defend as a team. Team strategy is what matters in soccer, as in debate. Making soccer less predictable would undermine this important quality of soccer. So, the answer is that their plan would lead to less enjoyment.

Then, let me go on to the next question, which is, if the number of soccer ball determines the educational value of playing soccer. The government side has been saying as if having two balls would double the learning opportunities for children. However, as we have already refuted, even with one ball, children who are not controlling the ball can run after it and can have physical training. Also, learning teamwork is not relevant with the number of the ball. Instead, good coaching is what determines what children can get out of playing soccer.

Finally, the last question: which is more important, practical consideration for children or the idealized notion of so-called fairness in education? We do not deny fairness is important. But the stance from the opposition side is that you should achieve fairness in education in other ways, such as providing more assistance to children in need. Promoting fairness in soccer game is missing the point. Practically speaking, because of the so-called fairness, children are forced to play an idiosyncratic style of soccer. As my partner has clearly explained, children are forced

to learn new rules and strategies which cannot be utilized in the future. We should prioritize avoiding practical harms before looking for fantasy.

In summary, I have pointed out the crucial failure of the government side and explained to you that, in respect to three vital issues in this round, our arguments were superior to that of the government side. Therefore, we have to win this round. The government side may be thinking differently. So, let's hear what the Prime Minister would say next. Thank you.

(711 words, もちろん長すぎます)

SECTION 2. REPLY SPEECH の役割

Reply Speech には、以下の4つの役割があります。

○ Reply Speech の役割

- (1) ラウンドの議論のまとめ
 - (2) 勝敗の基準の提示
 - (3) 勝敗の基準に照らして、どうして自分のチームが勝ったのか説明
 - (4) 自分たちの議論を補強する具体例のさらなる導入。
- (時間配分の目安: 4 分の内、各争点、問いごとに1 分前後費やす)

まず、上述の通り Reply Speech は試合全体をまとめるための物です。そして、何のためにまとめるかと言えば、ジャッジに対して自分達のチームが相手よりいかに勝っていたか、最後の説得をするためです。その為に、2つ目の役割として勝敗の基準を示し、3番目の役割として基準に照らし、どうして自分たちが勝ったのか説明します。

最後の役割として、Reply Speech では新しい議論の導入と反論を行うことは出来ませんが、新しい具体例を出して自分たちが既に導入した議論および相手への反論を、さらに特徴づけることが出来ます。

それでは、上記のスピーチ例で、それぞれの役割がどう果たされているか確認しましょう。勝敗の基準として、まず相手側が大きな過ちを犯していたことが指摘されています。一段落目のこの個所です：

The crucial failure from the government side today is that after listening to their constructive speeches, we are still not sure what is the clear necessity of taking today's proposal.

その上で、以下の通り 5 段落目で勝敗の基準が出されています。ラウンド全体で重要とされる 3 つの問いに関して、どちらの解答の方が妥当であるか、という物です：

As the reply speaker from the opposition bench in order to summarize today's rounds, I would like to ask you three questions. First question is, if playing soccer is fun with two balls in soccer game. Second question is if the number of the ball determines the educational value of playing soccer. Third question is, which should be prioritized, practical consideration for children or idealized so-called fairness. So, let me explain one by one.

具体例に関しては、適時導入されていました。例えば、相手の失敗を説明する 3 段落目で、こう述べられていました：

We have never heard of any person who became a professional soccer player because he or she had played soccer with two balls.

以上をまとめると、Reply Speech では、いわば「自分たちの Constructive Speech の方が相手のそれより良い」という事実認定に関する論題で、別のディベートを戦うことになります。それでは以下では、実際に Reply Speech を作る準備をして行きますが、その前にまず補足的な説明が 2 点あります。

SECTION 3. MO の提示した新しい議論への反論

最後の Reply Speaker である Prime Minister は、前述の通り、Member of the Opposition の導入した新しい議論に対して反論を行うことが出来ます。例えばこの様な具合です：

☺ Refutation to MO's New Argument in PMR Speech

Thank you Mr. chair, and good afternoon again, members of this august house. Before I summarize this round, let me quickly refute the new argument coming from the Member of the Opposition.

His argument was about the difficulty of adjusting to ordinary form of soccer. He claimed that after getting used to two-balls soccer games, children will have difficulty in adjusting themselves to playing one-ball soccer games.

I do not think this argument stands. If playing soccer with two balls is complex and demanding as the opposition side themselves has been claiming, to get used to one-ball soccer should be easy for them. It must be challenging to cook two different dishes at the same time. But there should be no problem in making one dish even after getting used to cook two dishes simultaneously. The same thing can be said to soccer. Doing something less demanding is no problem at all after practicing with more difficult task.

Then, let me summarize this round. In order to compare the arguments from our side and that from the opposition side, let me focus on three issues in this round. They are (191 words)

この様に、全体のまとめに入る前に、手短に MO が出した議論に対して反論を行います 1。反論は、長くて 1 分以内で終えて下さい。その後は、LOR と同様にラウンド全体の総括に移ります。

SECTION 4. POINT OF ORDER に関して

補足的な説明の 2 点目です。これまで説明していませんでしたが、北米形式では相手チームが試合中に何らかのルール違反を行った場合、ジャッジに対してそれを指摘する事が出来ます。これは Point of Order と呼ばれ、行う場合にはジャッジに向かって “Point of Order” と宣言し、そのルール違反の内容を説明します（英語ディベートなので、このルール違反の指摘も英語で行います）。

Point of Order が行われた場合は、タイムキーパーはストップウォッチを止めます。POI と異なり、試合は一時中断します。POO の中身が説明された後に、ジャッジは “I will consider” 等の表現を使い POO が行われたことを認め、試合を続行させます。タイムキーパーは、再びストップウォッチを動かします。POO の内容が妥当であるか否かはジャッジの判断に委ねられ、この場でジャッジが何かそれ以上の発言をすることはありません。ただし、相手チームがラウンドの進行に支障を来す行為を行っている場合は、それに対し何らかの指示が加えられることもあります（例えば、相手チームが試合中にノートパソコンを操作してインターネットで検索をしているなどの場合。もっとも、この様にあらゆるルール違反をするディベーターは殆どいませんが）。

どうしてこのレッスンで初めて、ルール違反を指摘する POO を扱うかと言えば、試合中に行われる POO の殆ど全ては、相手チームが Reply Speech 中に新しい議論を導入したか、PM が MO の導入した議論に対して以外の反論を行った事を指摘するために行われるからです。実際のところ、議論をまとめる過程で、スピーカーが新しい反論とも見なされ兼ねない発言をする

ことはよくあります。本レッスンで例示した LOR においても、何点か新しい反論に近い指摘が行われています(スピーチの初めの、相手の失敗を指摘する過程において)。

POO を行うには、多少の勇気が必要ですが、明らかに相手チームがルールに違反している場合は、躊躇せずに指摘してください。ただし、POI の様に相手のスピーチを妨害する目的では、絶対に行わないで下さい。

POO によって新しい議論が導入されている、あるいは反論が行われていると指摘された場合には、スピーチが再開された後に “This explanation was already made in our constructive speeches. Please listen to our speech more carefully ” といった内容を、相手チームに言い返し、何事も無かったように続行してください。

SECTION 5. REPLY SPEECH の構成に関して

Reply Speech の構成には、以下のボックスで示したように、大まかに 2 種類のパターンあります。

○ Reply Speech の構成パターン

- (1) Summary & Refute 型
- (2) 争点(issue)でのまとめ方
 - ① Questions and answers
 - ② Issues.
 - ③ Assumptions
 - ④ 相手のfailure の指摘

まず 1 つ目の “Summary & Refute” は、初めての方にとっては無難な構成です。単純に、相手の言った議論を列挙し、それぞれに対して自分たちがどのような反論をしたか手短かに言います。そして自分たちの議論はどの様な物で、相手の出した反論がいかにか成り立たないか説明して終えます。初めて Reply Speech をする方は、この構成でも良いでしょう。ラウンドの流れを忠実に理解する練習としても有効です。ただ、以前のレッスンでも言いましたが、Constructive Speech で伝えた以上の情報をジャッジに与えることは出来ず、きちんとノートを取っていたジャッジは退屈してしまうでしょう。

パターンの 2 種類目は、争点(issue)でまとめて肯定側と否定側の意見を比較する方法です。Reply Speech と言えば、普通はこのパターンで話されることが期待されます。争点は何を指す

かに関しては、何度か用いた例ですが、「身代金を支払うことを犯罪とすべきだ」という論題に関して、以下の争点が考えられます：

- (1) 「犯罪」と良べ得る行為は、どの様なものか。
- (2) 身代金を払う、という行為はいかなる性質の物か。「犯罪」と呼ぶに足る要件を備えているか。
- (3) 身代金を払う場合と払わない場合、どちらの方が起こってしまった誘拐事件を解決するのに有効か。
- (4) 身代金を払う場合と払わない場合、どちらの方がこれから起こり得る誘拐事件を抑止するのに有効か。

ラウンドの争点が特定できたとして、それぞれに対して肯定側と否定側がそれぞれどのような意見を出していたか、あるいは前提していたか考えてください。そして、その争点に関して、どうして自分たちに有利な結論が出るのか考えてください。以上の内容をまとめれば、立派な Reply speech が完成します。

また、上記のボックス内に示された様に、この争点の提示の仕方には主に 4 種類のバリエーションがあります。

1) Question & Answer 形式

その名前のお通り、争点を問いの形に変え、対する肯定側と否定側の答えはそれぞれ何であり、どうして一方の解答がより優れているのか説明する形式です。例えば、以下のような問いを提示し、双方の答えを比較します：

- (1) What constitutes crime?
- (2) What is the nature of paying ransom? Does it meet the criteria of “crime”?
- (3) To pay ransom or not to pay, which is better to solve the kidnapping cases?
- (4) To pay ransom or not to pay, which is better to prevent future crimes?

本レッスンのスピーチ例でも、この問いと答えのパターンを用いました。もう一度、確認してみてください。

2) Issues

このパターンでは、争点を争点としてそのまま提示します。争点に対して、肯定側と否定側の回答をまとめ比較するのは上述の Question and Answer パターンと変わりません。提示の仕方としては、以下の表現があります：

This round basically comes down to three issues. They are ~.

3) Assumptions

この Assumption のパターンは、2007 年のバンクーバーでの世界大会で何度か聞いたパターン

です。この様な表現で、争点を導入します：

If you believe that today's government side has won this round, you are buying three assumptions. First, ～.

もし皆さんが、相手のチーム(ここでは“today's government side”)が勝ったと思うのであれば、あなたは3つの(間違っただけ)思い込みを信じていることになります。そう話を始め、相手チームの議論の前提を挙げ、それぞれいかに間違っていたか指摘します。例えば：

First assumption is that paying ransom will lead to successful return of hostages. The government side innocently believes that paying money is the most effective way to rescue the hostages. However, this assumption is wrong as my partner has already pointed out. In most of the cases, hostages are killed before the payment of money. In other cases, if the criminal organization succeeded in getting the money, they will not return the hostage and ask for additional payment.

この様にして、ある争点に対する相手の主張を“assumption”と表現して、その間違いを指摘することにより(正確には、既に間違いを指摘したと再確認することによって)双方の意見を比較します。

4) 相手の failure の指摘

最後のパターンは、補足的な物です。何らかの相手の誤りを特に強調したい場合は、争点として説明せず、“the crucial failure of the government side was ～”という表現で指摘します。本章の具体例でも、「何らかの改善策をサッカーに対して取る必要があるか否か」という争点に関して、“they could not clearly explain what is the necessity of taking today's proposal”と言い肯定側の不備を指摘しました。

SECTION 6. REPLY SPEECH の準備の仕方

良い Reply Speech を用意するための要件は3つあります。まず、争点を思いつくこと。次に、ラウンド全体の流れを理解すること。そして、自分たちに都合良くまとめ上げる度胸です。争点の思いつき方に関しては、試合が始まる前から考え始めてください。Reply を担当しない場合も、パートナーに対して何か良い争点を思いつければ渡して下さい。実際、Reply を担当しない人間の方がより冷静に試合を眺めることが出来るため、争点も見つけやすいと思います。

また、ラウンド全体を理解した上で、争点に対しての双方の意見をまとめる事になりますが、情報の取捨選択に苦心すると思います。試合の始めから争点ごとに紙を用意し、双方のスピーチをその紙に書きとめ、Reply スピーチ用のノートとすれば多少は手間が省けます(これまでノートの取り方については何も触れませんでした。単純にフローチャート式でノートしたの

では、良い Reply Speech は用意出来ません)。

最後に、Summary & Refute 型の Reply Speech から脱却するために重要なことは、自分たちにとって有利に話をまとめる度胸です。自分たちの議論にこそ不備があるのを承知で、相手の失敗を指摘したり、あるいは Constructive Speech ではっきりとは言っていない内容を、説明したと言い切ってしまうなど、多少の思い切りが必要になります。慣れてくれば、逆に不利な形勢を Reply Speech で逆転しようと、思い切りが良すぎるスピーチをする様になります。

SECTION 7. 練習課題

本レッスンのまとめとして、以下の課題に取り組んで下さい。

■ TASK A

サマリー・アンド・リヒュートをして下さい。終わったら、肯定側・否定側のどちらかの立場を選んで、どうしてその立場の方が優れていたか、2 分間の Reply Speech を作ってみてください。

■ TASK B

本レッスンのスピーチ例に続けて、「2 つのボールでサッカーをするべきだ」という論題で Prime Minister Reply Speech を用意してみてください。

■ TASK C

以下のパターンを用いて、練習試合で Reply Speech を担当してください。

- (1) Summary & Refute パターン
- (2) Questions & Answers パターン
- (3) Issues パターン
- (4) Assumptions パターン
- (5) 最初に相手チームの失敗を挙げた後に、Issue でまとめる。

■ TASK D

Reply Speech を上手くなるためには、実はジャッジをすることがとても良い練習になります。勝敗の説明をすることを通して、ラウンド全体を見通したり幾つかの争点を見つける訓練が出来ます。また、勝敗の説明を英語で行えばさらに良い練習になります。ジャッジをして下さい。



Lesson 10.

ジャッジの仕方



Contents:

Section 1. ジャッジの役割

Section 2. よく聞くジャッジへの不満

Section 3. ディベーターの立場から論題への不満

Section 4. 知らないといけない最低限のルール

Section 5. 初心者ジャッジの仕方 (1) 勝敗決め

Section 6. 初心者ジャッジの仕方 (2) コメントの仕方

Section 7. 良いジャッジになるには

Section 8. レッスンのまとめ課題

SECTION 1. JUDGE の役割

このレッスンでは、具体的にどうジャッジするか、その仕方について説明します。本レッスンの内容は、これまでとはスタイルが異なり、著者自身のディベート経験に即した記述を多く含みます。機械的、公式的に応用できるジャッジの方法は存在せず、そのため「自分はこう理解している」という程度の内容です。

ディベートのジャッジ(Judge / Adjudicator)には、以下の4点の役割が与えられています。

○ Reply Speech の役割

- (1) 試合の勝敗の判断
- (2) 各スピーカーの評価(スピーカースポイント決め)
- (3) ディベーターに対して勝敗の判断理由の説明
- (4) ディベーターに対してアドバイス

それぞれ簡単に説明すると、まず英語ディベートではいつも勝敗を決めることが求められます(当たり前といえばそれまでですが)。練習試合でも、必ず勝敗を出すのが慣例です。練習試合には聴衆はいません。ディベーター以外の人全員ジャッジをします。また、どんなに判断が難しくても「引き分け」はありません。

次の項目は、大会でジャッジをする場合の仕事になります。大会では、予選において勝った試合数が同じチーム間の順位を決める必要から、スピーカースポイントという得点をジャッジが各スピーカーに与えます。大会によって多少異なりますが、基本はスピーカーに対して10段階の評定をつける形式です。

3番目に、ディベーターに対して口頭あるいは文書で勝敗理由を説明します。練習試合でのジャッジでは常にそうですが、口頭での説明(Oral Adjudication)の場合は、試合直後に勝敗とその判断理由を説明します。予選最終試合など、本選に残れるかどうかが決まる試合では、ジャッジは勝敗もコメントもその場では与えません。ジャッジは別室で勝敗理由を「コメントシート」と呼ばれる用紙に記入し、本選出場者決定後に大会運営者経由でその用紙がディベーターに渡されます。説明においては、国内の大学生大会では英語と日本語のどちらを用いても構いません。

最後に、特に練習試合において、ジャッジはディベーターに上達へのアドバイスをします。以

上がジャッジの役割になります。こう書いてみれば簡単なのですが、次の節でまとめた、ディベーターからジャッジへのよく耳にする不満を読んでもみると、その仕事がどれだけ大変なものであるか分かります。

SECTION 2. JUDGE へのよく聞く不満

何年もディベートを続けていると、ディベートに因んだ笑い話(?)を耳にする機会があります。その内の1つに、「ディベーターは、試合に負けた時には必ずジャッジのせいにする」というものがあります。ここではまず、ジャッジに対して多くのディベーターが持つことになる不満を列挙してみます。あまり愉快ではない事柄をわざわざリストするのは、以下の項目がすなわち、良いジャッジとして認められる為にはディベーターの頭から払拭しなければならない疑問だからです。

1) 「あのジャッジ、論題に関する知識がないの？」

勝敗の理由説明で、政府側の定義が良くなかった、とジャッジの方に指摘されることがあります。また、肯定側あるいは否定側の議論が浅い、具体例が足りなかったと告げられることがあります。そのような時に、多くのディベーターの喉元まで出かかる質問、そして実際に出る質問は「ではあなたならどう定義したか。どんな議論と例を出したのか」というものです。それに対して、「知らない、分からない」と返答されることが、ままあります。

2) 「ディベート未経験者がジャッジしているの？」

以前、自分が出場したとある大会で、大学院で授業を取っていた先生がジャッジとして来ているのを見たことがあります。自分は、その先生がディベート経験者だとは全く知りませんでした（実際、そうではありませんでした）。他にもその大会では、同様にディベート自体は未経験である多くの方々がジャッジをされていました。そのせいなのか、予選試合で Point of Order で相手のルール違反を指摘しても、ジャッジに理解して頂けませんでした。その大会では、ジャッジの方々から特に英語の発音について細かな御指導を賜りました。

3) 「個人成績の付け方がいい加減では？」

ベストスピーカー賞といった個人成績は、各試合のジャッジがつける個人成績のスコアの総得点で出されます。しかし、受け取った各ラウンドの得点を見ると、その値の散らばりに驚かされます。人によって、とても厳しい点数をつける人がいる一方で、とても甘くつける人もいます（ちなみに自分は甘めだと思います）。あと何点かのスピーカーズポイントの差で予選通過が出来なかったディベーターは、厳しいジャッジに当たった不運を嘆く他にありません。

4) 「この人がジャッジだから、負けたのでは？」

複数のジャッジにより判定された試合において、試合後に勝敗の理由を聞くと、各人が異なった理由を述べるのが良くあります。人によって勝敗を決める基準が違うのであれば、自分たちに有利なジャッジが偶然その試合にいるか否かで、試合の結果が変わってしまいます。ディベートの技能を競っているのか、運の強さを競っているのか、分からなくなってしまいます。

5) 「結局どうして勝ったの、負けたの？」

勝敗の理由をはっきり説明出来ないジャッジもいらっしゃいます。近年の国内大会では、予選の始め何試合かは、Oral Adjudication が導入されていますが、その場において勝敗の決め手をはっきり言えず、曖昧な表現で「何となく肯定側」としか言えない方もいらっしゃいます。また、勝敗をその場では告げない Closed Round の場合でも、後日コメントシートに書いて渡される勝敗の説明には、「何となく否定側の議論が優れていたの」程度の情報しか含まれていないこともあります。

以上、ディベートを続けていけば、程度の差こそあれ、いつかは殆どの人が感じるだろう、ジャッジに対する不満を列挙しました。以上の疑問をディベーターに持たせることが無ければ、十分に国内大会では名ジャッジとして認められると思います。

そのための大まかな方策を示す前に、次の節では勝敗に関するディベーターの不満の出所の1つとして、論題に関する問題について簡単に触れます。

SECTION 3. ディベーターの立場から論題への不満

論題を見ればすぐ、何年もディベートを続けていけば、いかなる議論が可能か見当がつきます。また同時に、肯定側あるいは否定側として立った場合、不可能では無いにしろ立証が著しく不利な論題を見分けることも出来ます。例えば、次の2つが特に肯定側で勝利するのが難しいと自分は思います：

- a. THBT cultivating national pride in Japan will lead the nation to a better future.
「愛国心を育てることは日本をより良い未来へと導く」(日本英語交流連盟杯 2006 年決勝)
- b. THW support the Prime Minister's visits to the Yasukuni Shrine.
「首相の靖国参拝を支持するべきである」(日本英語交流連盟杯 2005 年準々決勝)

世間で話題になっているからといって、それがディベートの論題として適当な物であるかどうかは別問題です。自分は、上の首相の靖国参拝に関する論題で、肯定側が勝った試合を見たことがありません。

特に、ディベート未経験者が論題を選んでいる大会では、話題性があっても、試合にならない論題がよく出されます。ディベーターにとって悲しいことに、論題に対する抗議は誰も聞いてくれません。

また、特に大学1・2年生の大会で顕著になるのは、否定側のチームが肯定側よりも多く勝っている現象です。これは、もし論題を上手く定義できない場合（中にはまともに定義出来ない論題もありますが）、議論自体も焦点が定まらないぼやけた物になるため、ほぼ肯定側が負けになるからです。上の「愛国心～」が、定義が困難な論題の良い例です。

論題に関して付け加えると、3つの論題から1つを選ぶアジア大会の形式とは違い、北米形式ではディベーターは渡された論題で試合をする他に選択肢がありません。それで、本来は避けたい、過度な負担を与える論題であっても、1時間と少し向き合わなければなりません。

例えば、性的な事柄に関する論題がしばしば問題になります。性教育、ポルノグラフィーの規制、売・買春の規制あるいは合法化など、性に関する重要な論題は確かにあります。その一方で、性的な内容に関して語らせること自体に目的があると受け止められかねない論題が、練習大会で出される事もあります。他にも、最近の大学生世界大会で、「ロシアのプーチン大統領を暗殺すべきだ」という論題が出され、(ほんの少しだけですが) 問題になりました。

ディベーターは論題を選ぶことができず、それ故、大会運営者は参加者を不快にさせる論題は無いか、特別に気を遣う必要があります。ジャッジとして大会に参加された場合、問題がある論題が出されたと思えば、大会運営者に意見を述べて頂ければ幸いです。一般の聴衆の感想よりも、試合に負けたディベーターの抗議よりも、論題の質に関して大会運営者に注意を喚起できるのは、招待したジャッジからの率直な意見です。

SECTION 4. 知らないといけない最低限のルール

ジャッジをする上で、最低限知っておく必要のあるルールをまず記します。

1) 反則について

大会のルールに明記されているのもあれば、当たり前としてわざわざ書かれていない物があります。以下に列挙します：

- ① デイベーターは準備時間中に、パートナー以外の人と相談してはいけない
- ② 自分のスピーチ中に、口頭であれメモであれ、パートナーと相談は出来ない。
- ③ 電子辞書以外の電子機器を準備時間中に使用してはいけない。
- ④ Reply スピーチで新しい議論を導入したり、PM の MO の議論に対する以外の反論を始めてはいけない。

上記の4つは、パラメンタリー・ディベートにおける、明らかなルール違反です。当たり前のこととされ、わざわざ大会のルールで明記されていないかもしれません。

次に、明白なルール違反とは言えませんが、検討の必要のある事例の一つ挙げます。ある年の ICU Debating Society が主催した大会で、とある海外から招聘されたチームが、予選でほぼ初心者から成る日本人チームに負けたことがあります。そのラウンドのジャッジが負けにした理由は、招聘チームのスピーカーが Debatabase という、デイベーター向けの議論のアンチヨコ本にあった議論をそのまま読み上げたからだそうです。この様な行為に対して、ジャッジとしては減点対象として良いと思います。

2) してはいけない勝敗の決め方

以下を理由として、勝敗を決めてはいけません：

- ① 英語の上手さ
- ② 話し方の上手さ
- ③ スピーカーズポイントの合計

パラメンタリー・ディベートでは、確かに話し方が評価対象になっています。書いてきた文書を早口で読み上げるスピーチは、パラメンタリー・ディベートではまともなスピーチとは見なされません。その様なスピーチをするチームは、負けにされても文句は言えないというのが常識です。

とはいえ、話し方の上手下手を理由として勝敗をつけることは、原則として許されません（デイベーターが納得してくれません）。ジャッジは提出された議論をもとに勝敗を説明するべきであって、アイコンタクトの素晴らしさを理由として、あるチームに勝ちを与えることは許容さ

れません。一般的には、マナーが素晴らしければ当然議論もより伝わりやすかったはずであり、議論に対する評価は、結果としてマナーに関する評価も含んでいるはず、そう理解されています。この、マナーを評価対象としていかに捉えるかに関しては、近年議論が起こりつつあり、評価項目としては取り除くべきだという意見の人もいます。

最後に、大会では個人のスコアが各ラウンドでジャッジより与えられます。この、スピーカーズポイントと呼ばれる数値は、勝敗を決めてから各スピーカーに割り振られる補足的な評価であり、スピーカーズポイントをとりあえずつけて、その合計が多かったチームを勝ちにする、というのは本末が転倒しています（結果的には、勝ったチームに対してより多くポイントを与えることにはなりますが）。

SECTION 5. 初心者としてのジャッジの仕方(1) 勝敗の決め方

それでは、本題である勝敗の決め方について説明します。大学生世界大会を除いて、複数のジャッジがいても、勝敗は個別に出します。以下に記す内容は、パラメンタリー・ディベートではこう決めることが決まっている、という性質のものではありません。自分がこれまでの実践の中で、どう勝敗を決めてきたかをまとめた内容です。3つの場合に分けて説明します。

1) 試合が崩壊した場合

定義がきちんと行われず、定義をめぐって肯定側・否定側が対立した場合が、このラウンドが崩壊した場合の典型例です。この様にラウンドが混乱してしまった場合は、4人のスピーカーの内誰に一番責任があるかを考え、そのスピーカーのいるチームを負けにしました。PM が酷い定義を出した場合、酷くない定義に LO が definition challenge をした場合、definition challenge が LO によって行われたにも関わらず何も MG が対応しなかった場合、それぞれそのスピーカーに問題があったと見なしました。

また、上級生と初心者が組んだチームでよくあることですが、1人のスピーカーがとても上手で、もう1人がほとんど何も話さずにスピーチ時間を消費した場合も、自分はこの崩壊した場合に含んでいます。どんなに1人目のスピーカーが上手くとも、もう1人のスピーカーが全く話さなかったり、相手の議論に対し応答しなければ、それはディベートの試合では無くなってしまいます。それ故に、全くディベートをしていないスピーカーがいたチームを負けにしてみました。

また、スピーカーがディベートのフォーマットを全く無視したスピーチ（立論と反論を分けせず、ただ英語で論題に関して思いを述べた程度のスピーチ）を行った場合も、このラウンドが崩壊した場合に自分は含めます。時々、ディベートのフォーマットを無視しているものの、説得力のある議論をする人がいます。この様な場合も、たいていは相手への反論が全く抜け落ちていたり大きな欠点があったので、自分は負けにしてみました。

2) 良い議論が出たが、双方の反論は不十分で、Replyで勝敗基準が出されなかった場合

1年ほど練習を続ければ、ディベートの最低限のフォーマットに従ったスピーチが出来る様になります。この時期のスピーチの特徴としては、まだ議論も使う英語表現も公式的で、ラウンド全体を見通しての視点が欠けていることが挙げられます。それぞれ単に議論を出し反論を行う程度のスピーチで、練習方法の1つとして紹介した、サマリー・アンド・リヒュートが立派になった内容です。いわば、4人が1つの試合を作ったのではなく、参加者4人で個別のスピーチ大会をしたような試合です。

この場合の勝敗の決め方は、単純に出された議論のうち、反論を受けた上で、どれが一番ラウンドの最後まで説得力があったかを考えます。そして、その一番強かった議論を含んでいたチームに勝ちを与えます。個々の議論の質を評価するには、まず自分が議論の作り方と反論の仕方に関して知識を持っていなければなりません。このため、このレベルのディベーターを評価するには、自身もディベーターとして、最低限フォーマットを理解し、古典的な論題に関する知識を持っていることが望まれます。

ただ、双方ともに十分納得のいく議論を出し、優劣が付けがたい場合があります。例えば、1つのチームがとても強い議論を1つ出し、もう一方のチームがほどほどの議論を2つ出した様な試合では、どう判定しましょう。Replyにて、一方のチームが納得のいく勝敗の基準（どうして一方の議論の方が、より価値が高いのかについての説明）を出した場合は、そのままその基準を採用して勝敗を決めます。

しかしながら、ディベーターが、Replyにて勝敗の基準を示さなかった、あるいは出したが納得のいくものでなかった場合には、ジャッジは頭を抱えることになります。この場合、たいいていは以下のどれかの方法で勝敗を決めます（正確には、自分は決めてきました）：

- ① 試合中に与えられなかったが、一般的に受け入れられている双方の議論の価値を比較する視点を、自分で思いついて勝敗の決定で使う（例えば「人の命は何ものよりも重い」「政府は短期的なメリットよりも、長期的なメリットを優先すべきだ」など）。
- ② より良い具体例を出していた方を勝ちにする。

このような、良い議論は出るがまだディベートにはなっていない試合は、秋以降に行われる大学1年生大会から、大学3年生までの大会で見られます。ジャッジは、勝敗の判断に非常に苦心することになります。

3) チームとして双方が戦っている場合

聴衆にとって面白く、そしてジャッジのやり甲斐があるのが、上手いスピーカーから成るチーム同士の対戦です。今の日本の大会では、学部3年生以上が参加する大会の、決勝トーナメントで見ることが出来ます。

チームとして双方が戦っている場合の特徴は、スピーカーの話聞くごとに勝敗の判断が揺れ

ることです。また、スピーチが進むにつれ大きな争点が自然に明らかになって行きます。ディベーターがそのラウンドで問われるべき大きな問いを提示し、双方のチームが何らかの答えを出します。ディベーターにとっては、その様な試合の後には、勝敗に関らず大きな達成感があり、試合後に慣例としてではなく、自然に対戦相手と握手をしたくなります。

この様なレベルの試合を判定するには、決まった方法はありません。抽象的に自分の理解を述べると、それぞれのジャッジが自分が「良い」と考えるディベートのモデルに、どちらのチームの方がより近づいていたか、それを元に判断します。ある程度ディベーターとして実績がある人であれば判断が出来るという前提の下、勝敗の決め方は各自に委ねられています。

大会では、勝敗の決め方についてルールに記載されていますが、それは法律の文書と同様、解釈の対象であり、実際の運用では各自が判断する他にありません。ここでは、自分がどう判断をしているか、それを記します。曖昧な表現ですが、以下の項目を総合して判断しているというのが実情です：

① [政策導入の是非に関する論題の場合]

- a. 肯定側が解決したい問題は、何かの行動をとる必要があるほど重要か。
- b. その問題に対する政策は、実行可能なのか。
- c. その政策がどのような仕組みで問題を解決するのか、明確な説明があるか。
- d. 肯定側が提示した政策によって、意味のある程度まで問題が解決できるのか。
- e. 肯定側が提示した政策よりも優れている代案が、否定側から示されていないか。

② [事実認定に関する論題の場合]

- a. どちらが、より納得のいく事実認定のための基準を出していたか。
- b. その基準に照らして、どちらの意見の方がもっともらしいか。

③ [試合の争点に関して]

- a. この試合で最も重要な争点は何であり、それはどちらのチームが提示したか。
- b. 試合で重要な争点に対して、どちらのチームの解釈の方がより納得できるか。

④ [ディベート全体を通して]

- a. どちらの方が、この論題に関してより多くの本当の知識を持っているか。言い換えれば、どこか別の論題からの使い古しの議論や具体例をそのまま使っていないか。
- b. 何か新しい創造的な意見を出しているか。
- c. 相手側の主張に対して、どちらの方がより多く、また的確な応答をしていたか。

以上の項目に関して、自分にとって決定的なのは④-a と④-b の知識に関する内容です。ディベートの上級者になると、議論において reasoning はすぐ出せます。経験を積めば公式的な議論の型が分かるようになり、それを何度も使い回していけば、本当はその論題について、手元にある百科事典に書かれた知識しかなくとも、さも知っているかの如く取り繕うことができます。

議論における reasoning は、自分の理解では数学や物理の公式の様な物です。例えば、排出権取引を例に取ってみます。排出権取引を導入した場合、温暖化ガスの排出量が削減されるという議論の reasoning を、仮に「 $y=ax^2+b$ 」だとします。排出権取引を導入しても、排出量の削減は起こらないという議論の reasoning を、「 $y=cz^3+dz^2+ez+f$ 」だとします。両方ともその説明が成り立つとして問題になるのは、その関数における変数に、どの様な値を入れるかという点です。その変数がすなわち、具体例になります。

温暖化ガスの排出量が y だとして、どちらの説明の方がより大きな効果を出すのか考えます。また、原則論(principle argument)に関して双方で対立した場合でも、その原則を支える有効な例をどれだけ示していたかを、評価の上で特に自分は重要視しています。政府は公共財を提供する役目がある、と単に言うだけでなく、例えばどの様な物が公共財で、政府がその役割を果たさないとどの様な問題が具体的に起こるのか、そこまで説明した方がより優れた議論であったと考えています。

以上を簡単にまとめると、実力の伯仲しているチーム同士の対戦では、どれだけ付け焼刃ではない知識を示し、試合全体を整理することが出来たかが、自分が勝敗を決める上で最も大切にしていることです。

機会があれば、どの様にジャッジをしているか、ディベート歴の長い人を大会で捉まえて、聞いてみてください。自分の予想では、使う表現は違っていても、ある程度似た回答になると思います。

SECTION 6. 初心者としてのジャッジの仕方 (2) コメントの仕方

ディベーターに対して勝敗の説明をする行為は、それ自体ディベートです(Reply speech をするのとあまり変わりません)。説明をする上で注意すべき観点としては、自信を持って話すなど、ディベーターのそれとあまり変わりません。

手順としては、勝敗に関してはディベートの試合中に常に考えていてください。試合が終わった瞬間に勝敗が決まっているのが理想です。そして各スピーカーへの評価・アドバイスも、試合が終わってから考えるのではなく、それぞれのスピーチ中にメモをしておいて下さい。後から考えても、忘れてしまっていることが多いです。

1) 勝敗の説明

勝敗を説明する手順としては、まず最初にラウンド全体に関して良かった点を誉めます。そしてすぐ、勝敗を告げその判定の理由を説明します。勝敗の説明については、前節を参考にして、出来るだけ簡潔にしてください。また参考までに、どうすれば今回負けにしたチームが勝てたかも、出来るならば説明して下さい。

勝敗を説明する上で大切なことは、一度出した判定に迷わないことです。自信のないジャッジから説明を受けることは、負けたディベーターにとっては不満の炎に油を注がれる行為です。ICU Debating Society の OB で、現在は読売新聞社にお勤めの並木さんは、「ジャッジの仕事は、負けたディベーターを成仏させること」と表現しています。負けたディベーターとしては、いかにも見習いの僧侶よりも、若くても自信があり、言葉から誠意が滲み出た僧侶の手にかかった方が未練が残らないでしょう。

2) 各スピーカーへのコメント

練習試合のジャッジングで一番大切な仕事は、各スピーカーへのコメントです。あまり長くなるとディベーターが疲れるので、各スピーカーに対して数分程度でコメントをしてください。コメントをする上での原則は、良かったところを数個挙げてから、1つ改善点を指摘することです。必ず、ディベーターの良かったところを見つけて下さい。

各スピーカーへのコメントは、以下の項目に関して、気づいたことを言って下さい：

- ・マナーに関して
- ・スピーチの構成に関して (分かりやすくする工夫があったか)
- ・チームワーク (パートナーの議論のサポートを出来ていたか)
- ・それぞれの議論の説得力(何が十分で、何が足りなかったか)
- ・反論的的確さ (反論し忘れていた議論は無かったか。その内容は)
- ・POI をした数と、スピーチ中に取った数 (多すぎないか、少なすぎないか)

繰り返しになりますが、それぞれ「いかに失敗していたか」という視点ではなく「何が良かったか」「どうすればもっと上手くなれるか」という視点でコメントをして下さい。

3) 論題自体について説明

任意ですが、論題自体に関して自身の知っている知識があれば、それをシェアして良いと思います。ただ気をつけるのは、この自分が知っていた知識について触れられていなかったから、あるチームを負けにしたとディベーターに感じさせない事です。

トータルで、ジャッジのコメントは長くて 20 分程度を目安にしてください。練習試合では、それぞれのジャッジのコメントの合間に、ディベーター同士でも様々な意見の交換をするのでその程度の時間がかかります(大会での Oral Adjudication は長くて 10 分程度です)。ディベーターがあくびを噛み殺し始めたら、コメントが長すぎるか、要領をえていないという危険信号です。

SECTION 7. 良いジャッジになるには

最後に、良いジャッジになるためにはどうすれば良いか、簡単に説明します。本章のはじめでは、ジャッジに対してずいぶんと厳しい批判を述べましたが、自分にとっても随分耳に痛い話が含まれています。

特に、学部3年で初めて大会でジャッジをした時などは、まさにディベーターからジャッジとしての適性を疑われてしまいました。ジャッジとして成長するための近道は、自身がディベーターとして成長することにあります。練習試合で自分が受けたジャッジからのコメントを参考に、どうすればより自分の出した判定について納得してもらえるか、どんなコメントをすればディベーターがよりやる気を出すようになるか考えてみてください。

参考までに、ジャッジをする事の利点について述べておきます。まず、ラウンド全体を見通して考える事が出来る様になります。また、ディベートを通じて多くの議論と具体例を知ることが出来ます。そして、ラウンド後の振り返りにおいて、自分より経験が上のディベーターと、対等に話をする事が出来ます。自分は、学部2年生の冬学期という中途半端な時期からディベートを始めたため、学部生時代にはほとんど大会には出して貰えず、ジャッジをするのが常でした。その結果、論題に関する知識と、ラウンド全体を見通して議論をする技術に長じるようになりました。ディベーターとしても、ジャッジとしても、少しずつ続けていけば残るものは必ずあるはずです。

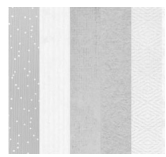
SECTION 8. レッソンのまとめ課題

■ TASK A

本テキストに含まれている、モデルディベートのスクリプトを読み返して、どちらに勝利を与えるか、どんな理由で与えるか考えてみてください。同じ人間が書いた物なので、内容はどちらもどっちですが、肯定側に勝ちを与えるならどんな理由か、否定側に勝ちとするならどんな理由か、考えてみて下さい。

■ TASK B

本部で大会のジャッジを募集していたら、進んで手を挙げてみてください。大会の当日は、ジャッジルームで他のベテランジャッジから、勝敗の決め方などを直接質問してみてください。



Lesson 11.

政府側と野党側の戦略



Contents:

- Section 1. 否定側にとって対応に困る政策案
- Section 2. 政府案の評価基準①「効果と代償」
- Section 3. 効果の弱い政府案への対応
- Section 4. 政府案の評価基準②「役割」
- Section 5. 政策案を作る
- Section 6. Definition Challenge

SECTION 1. 否定側にとって対応に困る政策案

まず以下の論題と、それに対応したケースを見てください。

- (1) [Motion] THW take immediate actions on Myanmar (Burma).
[Case] Japanese government should send one thousand crane origami to Myanmar.
(日本政府はミャンマーに千羽鶴を送るべきだ)
- (2) [Motion] THW impose economic sanction on North Korea.
[Case] THW put trade embargo of melon against North Korea.
(北朝鮮に対しメロンの禁輸措置を実行する)
- (3) [Motion] THW reserve permanent seats for Asia.
[Case] New permanent members of UNSC should be chosen from Asia.
(アジアから国連安全保障理事会の常任理事国を出そう)
- (4) [Motion] THW impose sanction on Iran.
[Case] UN general assembly should pass non-binding resolution which condemns Iran's nuclear program
(国連総会はイランの核開発への非難決議を採択するべきだ)

1つ目の例では、「ミャンマーに対して即時に何らかの対応策を取る」という論題に対して、提示されたケースは「ミャンマーに千羽鶴を送ろう」という物です。次の例では、「北朝鮮に経済制裁を行う」という論題がメロンの禁輸に定義されています(北朝鮮の現在の国家元首は、メロンが大好きだと言われています)。「恒久的な席をアジアに取っておく」という論題が、「アジアから国連常任理事国の新しい構成員を選ぶべきだ」と定義されています。また、イランへの制裁をするという論題が、総会で非難決議をするという拘束力のないプランに置き換えられています。

さて、否定側に立ったと想像して下さい。それぞれ変わったケースですが(3番目・4番目はそうでもありませんが)、反対をするのが案外難しいことに気づかされるのではないのでしょうか。

まず、ミャンマーに千羽鶴を送って平和への願いを伝えよう、という行為自体には殆ど害がありません。せいぜい手が疲れるか、折り紙や郵便にお金がかかる程度です。また、一層の政治的圧力をかけるために、北朝鮮に対してその国家元首の好物とされる食物を禁輸対象とするという行為は、どれだけメリットがあるのか分からない一方で、そのデメリットも大して無いでしょう。最後の常任理事国の例では、アジアから出すべきではないという主張は常識的に難しいと考えられます。この様なケースが出された場合に、否定側としてどう対応すれば良いでしょうか。

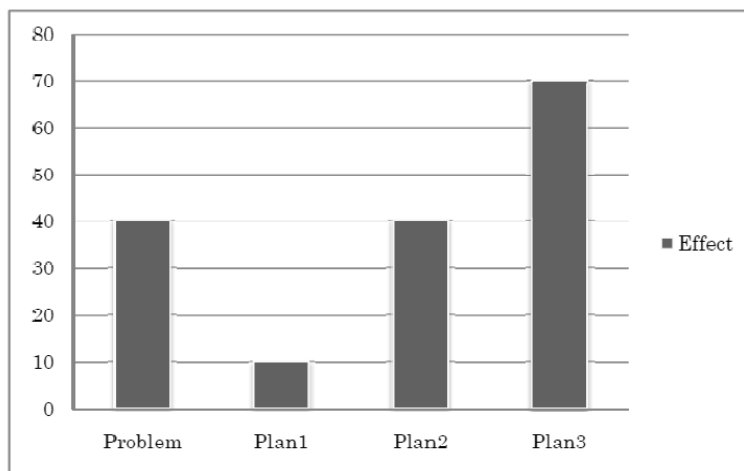
SECTION 2. 政府案の評価基準①「効果と代償」

上に例示したケースは、それぞれ酷い物です。それぞれがどう酷いのか説明するために、まず好ましいケースとはどのような物か考えてみましょう。端的に言えば、あるプランは、1) その及ぼす効果が解決したい問題と丁度釣り合い、2) 必要な代償が最低限の物であり、3) 行動主体がその与えられた役割を果たしている場合、好ましいと言えます。ここではまず、最初の2つの評価基準について考えてみます。

1) 政策案の評価の仕方：効果(effect)と代償(cost)

問題と政策との釣り合いとはどういう物か示すために、以下のようなグラフがよく描かれます：

図1. 問題解決への効果



例えば、朝からずっとレポートを書き、お昼ごはんの時間になったとします。ほどほどに空腹で、数値にして「40」の満足感を与えてくれるごはんを食べたくなりました。その場合、「10」の満足しか与えてくれないカロリーメイト(Plan 1)で済ますことは、すぐにまたお腹が減ってレポートが書けなくなってしまうので好ましくありません。

では、残りの2案について考えてみましょう。Plan 2は、「40」の満足感を与えてくれる、学食の焼き魚定食です。Plan 3は、「70」の満足感を与えてくれる帝国ホテルのランチバイキングです。空腹という問題を解決する上では、どちらの案でも、「40」を超えるので構わないと思われます。しかしながら、おなかの減った大学生が、大挙してホテルバイキングに行くことは殆どありません。どうしてでしょうか。それは勿論、帝国ホテルまでの移動時間とかかる代金が、学食よりずっとかかるからです。

身近な例を用いたので、皆さんは当たり前だと思ったでしょうが、同様の比較の枠組みはより複雑な政策案を比較する場合でも有効です。

例として、二酸化炭素排出量削減のために、炭素税を導入すべきと政府側が主張した場合、どう戦いましょうか。「炭素税を導入することでは排出量は削減できない。そして、経済成長に負担を課す」というスタンスで戦うことも出来ますが、「削減できない」と証明するのは難しいと思います。また、「そもそも排出量を削減する必要もない」と主張するのも難しいと思われます。その場合、代案を出して、「こちらの方が政府案よりも、より良い」というスタンスで戦う事が出来ます。

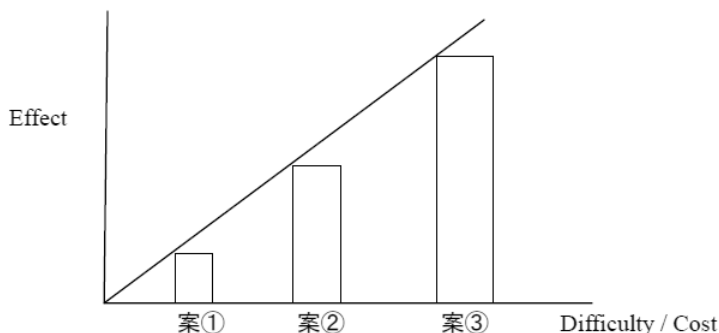
例えばこの「より良い代案がある」というスタンスを伸ばし、野党側は「むしろ排出権取引を導入すべき」あるいは「現状のまま、企業・家庭の自発的な努力に期待する」という立場で戦うとします。その場合、「40」という、ある程度排出量を削減する目標を達成するためには、「70」の効果のある炭素税を導入することでも、「40」の効果のある代案でも、達成可能であるとして。さらに、どちらの方が政策導入に関わる対価が高くなるのか、具体的にはどれだけ経済成長を阻害するか比較します。政府案と野党案、それぞれ目標を達成できるが（もちろん、自分たちの代案の方がより効果が高いと主張することも出来ます）、かかる対価は自分たちの案の方が少ない。こう証明できれば、試合に勝つことができるでしょう。

以上の様に、お昼ごはんの選び方も、ある国の環境政策案の比較も、同じ「効果」と「代償」という観点から扱うことができます。

2) 効果(effect)と代償 (cost) の関係

一般的に、効果の低いプランほどより容易に実行可能で、さらに代償も少なく、効果の高いプランほど実行が難しく、また代償がかかるという関係があります。この点を、以下の図を用いて確認します。

図 2. 効果と代償の関係



身近な例を出してみましょう。台所に、大嫌いな虫がいるのを発見してしまったとします。その虫を排除しなければならないのですが、どんな方策があるでしょうか。

虫がいなくなることを祈ることは、最も簡単な方法です。心が休まるかもしれませんが、ただし効果がありません。上の図2 で言えば①に当たります。次に案③として、大嫌いな虫を確実に消滅させる方法として、台所で戦術核兵器を用いることが挙げられます。効果は絶大だと思われれますが、後片付けが大変です。

実現可能性がほどほどに高く、効果も期待できる方法として、お父さんかお母さん、あるいはお兄さん（姉でも良いでしょう）を呼んで、何とかしてもらおう方法があります。事が済んだ後にはからかわれる心配や、情けないと思われるというコストがありますが、我慢できないほどでもありません。これが案②に当たります。ミクロ経済学原論で学ぶ様な内容ですが、ディベートのプランとしては、効果とコストが最適なバランスを保っている物を選ぶのが原則です（そして議論において、いかに効果とコストが釣り合っているか説明してください）。

以上を踏まえて、ミャンマーの例を考えてみましょう。現在、軍事政権の独裁下にあるミャンマーを民主化させたいとします。これが解決すべき問題で、図1 で言う「40」の深刻さを抱えているとします。それに対して、例えば日本が平和の象徴として千羽鶴を送って民主化を試みるとします。この案は、実行することがそれほど難しくはありません。日本がミャンマー情勢について関心を持っているというメッセージを示す事にはなりますが、問題解決にはつながらないでしょう（図1 で言えば、「10」の効果しかありません）。

しかし、例えば最近流行りの人道的介入という名目でタイやベトナムといった近隣諸国が軍事介入し、政権を転覆させ普通選挙を実施するとします。これでは確かに当初の目的を達成することは出来るでしょうが、新たな紛争の火種を生み、また安易な介入は国際社会からの非難も招くでしょう。それに、そもそもそんな面倒なことをしたがる国は殆どありません。効果は高いでしょうが、それに応じてコストも大きいプランの例です。

それで、ASEAN 諸国がその内政不干渉原則 (non-intervention policy) を留保し、例えばミャンマーが民主化を行わない限り、その ASEAN メンバーシップを一時停止するというプランが考えられます。これはより実行可能性が高く、効果もある程度望めるでしょう。それ故、肯定側であればこのプランを採用し、議論を用意することになります。

最後に補足すると、どうしてそのプランがちょうど問題に釣り合う「40」の効果を持ったものなのか、つまり効果とコストが釣り合ったものなのか、それ自体も討議の対象であり、議論の

中できちんと説明する必要があります。

ここまでを野党側の視点から整理すれば、政府側の出すケースの中には、効果がとても小さく、メリットがほとんどないのと同時に、デメリットもほとんど出ないものがあります。この場合、単純にメリットとデメリットを比べる戦い方では、野党側の出せる議論も弱いものになってしまいます。次の節では、この様な効果の弱い政策を出された場合の対処法を説明します。

SECTION 3. 効果の弱い政策案への対応

まず、先程の例のうち、北朝鮮とイランに関するケース（下にコピーしました）がいかにか好ましくないか、考えてみてください。

- (2) [Motion] THW impose economic sanction on North Korea.
[Case] THW put trade embargo of melon against North Korea.
(北朝鮮に対しメロンの禁輸措置を実行する)

- (4) [Motion] THW impose sanction on Iran.
[Case] UN general assembly should pass non-binding resolution which condemns Iran's nuclear program
(国連総会はイランの核開発への非難決議を採択するべきだ)

これらのケースの特徴として、実行が容易いと同時に、その効果がとても弱いことが挙げられます。効果が弱ければ、同時にそれに伴って起こる害もたいしたことはありません。(2)の様に、あからさまに冗談の様なケースならともかく、(4)の様に表面上はまともなケースの場合、否定側としては強力な議論が出せず、相手の弱いケースに試合を持っていかれてしまいかねません。

制裁を行うとあれば、通常は国連安全保障理事会での経済制裁か武力制裁を指します。しかし、このケースでは単に非難決議を出すだけで、つまりは総会としてメッセージを出すだけで実際には何も行われません。それ故に、大した効果が無い代わりに（経済制裁・軍事制裁と比べてという意味で）、実害がありません。

この様に、効果が殆どないケースを出された場合、否定側としては2つの戦い方があります。それぞれ、PMのスピーチ中に相談し、スピーチ準備を分担する必要があるため、対応の仕方に関して大会に出場する前に必ず一度練習をしてください。

1) 相手のプランでは問題を解決できないことを前面に出す

これは、相手の用意した土俵にそのまま従って勝利を目指す場合です。PM の定義を聞いた時点で、準備した議論が役に立たなくなった事が分かったと思います。LO は PM のスピーチに対して、反論を考えてください。相手が弱いケースを出した場合、否定側の議論として一般的に使い回しが出来るものとして、以下の3点があります：

- a. 相手のプランでは本当の問題が解決されない。
- b. 問題解決が遅れることによって、問題が悪化する。
- c. 問題解決に失敗することによって、責任団体が信頼を失う。

また、チームラインの例としてはこの様な物があります：

We strongly oppose the proposal from the government side because their plan would not fundamentally solve the problem and rather makes the situation worse because of the failure of their proposal.

メンバーは上述の3つの議論に肉づけをして LO に渡すと同時に、自分が話すそれ以外の新しい議論について考え、サインポストを用意してください。もし良い議論が出る場合は、それら3つの型にはまった議論より、そちらを優先させてください。もし思いつかなかった場合は、3つの議論のうち最後の物を分担することにしてください。

肯定側は、否定側は自分たちのプランでは問題が解決されないと主張するだけで、それではどの様に解決するのかその代案を言わず無責任である、と言うかもしれません。しかし、それで構いません。テクニカルな知識になりますが、否定側のいわゆる立証責任は、最低限肯定側が出したケースでは現状(status quo)よりも物事が悪化するため、採択するべきではないと示すことだと受け入れられています。

実際に試合をする際には、以上を基本に相手のケースに合わせて対応してください。具体例を1つ出します。北東アジア大会の予選で、国連安全保障理事会の新しいメンバーをアジアから選ぶという論題が出されました。対戦相手である肯定側はその論題をそのままケースとして、アジアのどの国が選ばれるのかは「どこかで話し合っただけに決める」と言いました。どこの国が選ばれるのか不明なため、その影響を具体的に話すことができず、否定側は苦境に立ちました。肯定側の第1論者は、国連安全保障理事会にアジアから新しくメンバーが加わることにより、アジアの紛争がより上手く解決されること、そしていかにアジアから選ぶことが公平の原則に適っているかを話して7分間を終えました。

その時の自分のチーム、否定側の対応としてはまず、どの国が新しく加わるのか指定せず「別の場所で決める」とするのは定義をする側として無責任であること、そして可能性としては現状では日本かインドが妥当であり、両国のどちらかが加わる物として議論を進めました。否定側の主な議論としては、日本・インドのどちらが加わったとしても、まず加盟においてアジアの他の国から反対意見が多く出ること、そして肯定側が主張するアジアの紛争は、アジアから常任理事国を新しく迎え入れても解決出来ないことを2本の柱にしました。リプライ・スピーチでは、肯定側の目指す「アジアの紛争をより容易に解決する」という目標が、彼らの案では達成できないことを強調しました。結果、際どい判定でしたが、勝利することが出来ました。

2) 代案を出す

成功すれば明らかに勝利できる一方で、失敗した場合「どっちもどっち」になりかねないのが代案(alternative plan)を出すことです。再びこのケースの例を見てください：

(4) [Motion] THW impose sanction on Iran.

[Case] UN general assembly should pass non-binding resolution which condemns Iran's nuclear program

(国連総会はイランの核開発への非難決議を採択するべきだ)

このケースの問題としては、論題で意図されている物と若干ズレていることです。効果と実行にかかるコストが釣り合った、聴衆つまりジャッジが期待しているケースとはずれていることも明白です。この場合、その聴衆が期待していた適切なケースを否定側が代案として出すことが可能です。例えば、この様なケースを出しましょう：

UNSC should impose economic sanction on Iran. The content of the sanction is to prohibit buying oil from Iran and when Iran suspends its uranium enrichment program, this oil embargo will be lifted.

代案を提示する手順としては、まずどうして相手のケースに反対するのかチームラインを出し、次に代案を示します。そしてどうして自分達の代案の方が肯定側のプランより優れているか、簡単に説明します。例えばこの様な具合です：

They defined this motion as UN general assembly should pass a non-binding resolution which condemns the nuclear program of Iran so that Iran would end the program. However, we, the opposition side strongly opposes this proposal because this plan has little practical benefits and cannot stop the nuclear ambition of that country. Therefore, we would like to introduce an alternative plan in this round. Our proposal is

We believe this proposal is better than what was presented by the government side because our proposal gives more motivation for Iran to comply with the non-proliferation treaty, which would stabilize Middle East.

この様に代案を出した場合は、双方の出したプランの内、どちらがより良いか比較をするラウンドになります。どうして一方の案がより確実に問題を解決し、どうして自分たちのケースが求めるコストがより妥当であるか、という点が議論の中心になります。

この代案が成功するか否かは、ジャッジがどれだけ肯定側の出した弱いケースに失望したか、そしてどれだけ否定側が的確な代案を出したかにかかっています。もしジャッジが肯定側の案に別段疑問を感じなかった場合は、危険な賭けになります。例えば、以前自分がジャッジした練習試合でこの様な代案が出されました。論題は、“THW legalize drugs”というもので、肯定側はマリファナといったオランダ等で既に合法化されているいわゆる「ソフトドラッグ」を、“liberal democratic countries” (個人の自由な意思決定を尊重する、民主主義国家一般)にて合法化しようと定義しました。自分はこの定義で十分だと思いましたが、否定側はこれでは不十分とコカインなど「ハードドラッグ」をも合法化の対象にするべきだと代案を出しました。代案を出す必要性が自分にはあまり感じられず、この引っかかりが結局は否定側を負けとする理由の一つになりました。

肯定側が弱いケースを出した場合、その弱さを単に突いて議論を進めるか、それとも代案を出すかはディベーターの好みによります。自分は、賭けに出るより議論自体でも勝負が出来る前者をいつも選びます。その一方で、代案を出すのが好きなディベーターも何人かいます。相手のケースの質と、妥当な代案を出す自信があるか否かに応じて対処してください。正直な感想では、この代案を提示することは、後の節で説明する definition challenge に似た側面もあり、自分としては出来るだけ避けたいと思っています。

3) 練習課題

先輩の胸を借りて、弱いケースへの対応を練習してみましょう。上で示した論題・ケース例から1つ選び、先輩方に肯定側をやってもらい、自分たちは否定側で練習試合をして下さい。

SECTION 4. 政策案の評価基準②：「役割」

ある政策を評価する別の観点として、はたしてその政策は、その行為者にとって優先順位の高いものであるのか、望まれている役割を果たしているのかという観点があります。例えば、次の例を考えてみて下さい。

ドラえもんがある日突然、日本の交通事故の現状に心を痛め、24 時間がんばってひみつ道具を使い、事故を防ごうと努力するとします。そしてさらに、ダルフル情勢のニュースに衝撃を受け、ひみつ道具を使い、スーダンの国内避難民を保護するため日夜ががんばるとします。のび太くんをジャイアンから守るよりも、自分のやっていることにはより大切な意味があるという信念の下、ドラえもんはがんばります。確かに、これらはとてもメリットがある行為だと思います。ですが、これは果たして望ましいことでしょうか。

ドラえもんを 20 世紀に送ったセワシくんからすれば「ドラえもん何やってんの？」というのが率直な感想ではないでしょうか。ドラえもんがのび太くんの健やかな成長を見守るという役割を放棄しては、困ります。のび太くんとドラえもんの、心温まりちょっぴり想像力を駆り立てる日常を期待しているテレビの前の視聴者も、「こんなドラえもんにはがっかりだ」と残念がるでしょう。

この通り、各人には望ましい役割があります。子どもが、家計を助けるためにアルバイトをすることにはメリットがあると思います。しかし、そのために学業を疎かにすることは、果たして本当に子どもの役割を果たした行為であると呼べるでしょうか。学校の先生が、副業で大もうけしたとします。それは果たして褒められるべき行為でしょうか。同様に、学校教育、私立学校、大学生、政府と民間など、それぞれには期待されている役割・優先順位があり、役割から逸脱する行為、優先順位の低い行為は、メリットがあっても、容易に認められません。

この「役割」という基準が、どうディベートの試合で応用されるか考えてみましょう。例えば、タバコを禁止するか否か、という論題で戦うとします。政府側は、タバコを規制することは国民の健康を守る、という議論を出したとします。否定側は、タバコを販売することは、税収の安定につながり、高齢化社会での社会保障費を賄うためにも不可欠である、と主張したとします。どちらも納得のできる論証と証拠が出た場合、どう評価すればよいでしょうか。この時に、「政府の役割とは何か、またより優先順位の高い役割は何か」という観点が役立ちます。

政府にはもちろん「国民の健康を守る」という役割と、「税金を集める」という役割があります。しかしながら、税金を集めることは、究極的には国民のより良い生活を守るという目的を達成するために使われるべきであり、よって前者の役割を優先するべきだ。この様な評価が可能で（もちろん、言い方次第で逆の結論も導けます）。この通り、ある政策を評価するには、その政策がその行動主体の役割、優先順位に照らし合わせて適切な物か、という観点があります。

SECTION 5. 政策案を作る

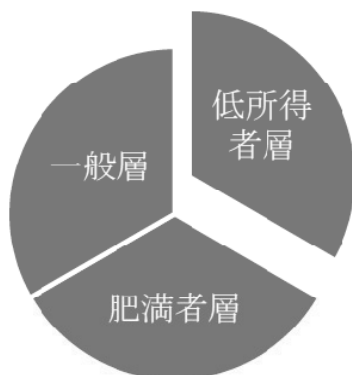
1) 条件(condition)の付け方

ここまで、何らかの政策を評価する際には、それが解決したい問題に釣り合う効果と代償を伴ったものか、そしてそれは行為者にとって望ましい役割を果たすことに繋がるのか、という観点から検討することが有効であると説明しました。この評価観点は、野党側だけでなく、もちろん政策案を用意する政府側にとっても重要な物です。この節では、政策案を用意する上で便利な、「条件(condition)」の付け方について説明します。

問題解決に丁度釣り合うプランを用意するのは、大変です。少しだけ効果が足りない場合の他にも、効果が大きすぎて副作用を起こすこともあります。そのような意図しない副作用を防ぐためには、条件をプランには付けることが出来ます。古典的な Fat tax の論題 (THW introduce fat tax)を用いて以下に例示します。

Fat tax とは、イギリスなどで導入が以前から議論されている、ハンバーガーなどの脂肪分の多い食べ物(fatty food)に対して課す、一種の消費税です。肥満対策として、その原因となる食物の消費を抑えることが目的です。しかしながら、もしハンバーガーなどのファースト・フードに対して課税された場合、肥満の人以外に、意図しない社会層に対しても影響が及びます。ファースト・フードはその値段に対してカロリーが高く、低所得者層にとっては大切なカロリー源とされます(確かに、自分もマクドナルドの 59 円ハンバーガーに助けられた記憶があります)。もしその様な食べ物に対してさらなる課税が行われた場合、肥満の人以外に低所得者層に対しても消費を抑制する結果となります。

図 3. Fat Tax の対象者



左の図で示されるように、全人口中で肥満者層にのみ、この新しい税が課せられることが理想です。ただし、いくらかの人を肥満と認定し、食料品を買う場合にその認定を受けた人だけに新税を課した場合、差別として問題になります。また、肥満ではないものの、その予備軍が一般者層の中にもいるはずで、それ故、全ての人に課税するものの、低所得者層に対しては払い戻しをするなど、何らかの免税措置を設けることが現実的な選択肢となります。

Fat Tax という概念は、1994 年に Yale 大学の心理学の教授がニューヨーク・タイムズに寄稿した記事によって広まりました。5.7%から 10%で導入が議論されているので、8%の税率で高カロリーで栄養価の低い食品に対して課税するというプランに

します。それで税率を8%にして、この様に condition を加えます：

In our proposal, we have one condition. We exempt people in poverty from our target. This is because those people are relying on fatty food for their daily nutrition. We should not punish people who have no other choices but to eat fatty food. Then, we provide them with a certification card. With this certification, they do not have to pay the fat tax when they buy the products. This is our condition.

定義に関するレッスンでも述べましたが、ケースにおいて condition は少ない方が好ましく、最低限の物だけ提示します。

2) 練習：プランの作り方

以上の内容を踏まえて、次の5つの論題からそれぞれプランを作って下さい。その際には、(a) 解決すべき問題は何か、(b) プランは何か、(c) 何か condition を出す必要があるか、考えてください。

- (1) THW require university students to pass graduation test (「卒業試験」).
- (2) THW impose additional tax on those who stay single.
- (3) THW ask teachers to renew their credentials.
- (4) THW introduce baby hatch (「赤ちゃんポスト」)
- (5) THW legalize selling of organs in third world countries.

SECTION 6. DEFINITION CHALLENGE

多くのディベーターは、Definition challenge が何であるのか知る以前に、それはやってはいけないと聞かされます。Definition challenge とは、肯定側の定義がルールに違反している場合それを指摘し、より妥当な定義を代わりに導入することです。

「定義」に関するレッスンで説明した通り、定義が以下の4つのうちどれかに該当している場合がルール違反になります：

- ① Truism : 「人権を守ろう」
- ② Time set / Place set : 「この試合は幕末です。黒船の求めに応じて開国しましょう」
- ③ Squirrel : 「論題のマリファナとは観葉植物としての麻と定義します」
- ④ The case that requires expert knowledge : 「私が研究している専門分野について試合します」

1 試合に4つのチーム、8人のディベーターで争われるBP (British Parliamentary) スタイルと異なり、その半分のスピーチしかない北米形式で definition challenge を行った場合、試合は定義についての話で終わってしまいます。ジャッジとしてはあまり歓迎できません。肯定側の定義に不備がある場合、大抵はその議論も良い物ではありません。その為、definition challenge をして話をややこしくせず、LO の冒頭で定義がいかに良くないものか指摘した上で、

“Nevertheless, for the sake of not to waste our time by talking just about definitions, we accept their definition. Still, we strongly oppose.”

などと言って相手の議論に反論をして下さい。

1) Definition challenge をした方が良い場合

試合に勝つためにも、無理な definition challenge はしない方が良いでしょう。どうしてもする必要のある場合もあります。例えば相手が論題の意味を誤って理解した場合です。英和辞典の定義の読み間違いから、論題の意味に関して、不幸な間違いがしばしば起こります。

近年起きたとても残念な例では、「制裁を取り除く(lift sanction)」という表現が問題になりました。辞書で“lift”を引くと「引き上げる、上げる」と訳があります。これを踏まえ「制裁のレベルを引き上げる」と誤解してしまい、あるチームが、論題で意図された物とは正反対のケースを出してしまいました。この様に、議論の余地が無い、明らかな過ちに対しては、むしろそれを指摘して正す責任がLOにはあると見なされます。

2) Definition challenge の手順

不必要な definition challenge を避けるためにも、ディベート初心者には definition challenge のやり方を教えない方が良いでしょう。自分もそれにはある程度同意しますが、いつかは必要となる知識であるため、最低限の手順を以下にまとめます。

まず、LO だけが definition challenge をすることができます。相手の定義が、上述の4つのルール違反のうち、どれかに該当すると指摘します。その次に、明確に definition challenge を行うと宣言します。そして、新しい定義を導入します。

これから先試合で何が起るか、あまり予想が付きません。基本は、相手の定義が成り立つと仮定した場合、相手の定義は成り立たないと仮定した場合、それぞれにおいて議論・反論をします。例えば、

“Even if their definition is accepted, their arguments do not stand. Let me refute.”

などと言い、相手の議論に反論を加えます。可能であれば、相手の定義に従った場合の否定側の議論を出しても良いかもしれません。その上で、自分たちの定義に従った場合の否定側の議

論を導入して LO スピーチを終えます。

MG に立つ人は、まず自分たちの定義がどうしてルール違反でないのか弁護します。その次に、LO と同様に相手側の定義が成り立ったとして、相手の出した議論に反論します。可能であれば、その定義に従ったとした場合の肯定側の議論を出してみてください。そして、自分たちの定義に従った場合のスピーチを、(もしあれば)相手の議論への反論、自分たちの新しい議論の導入という順番で続けてください。MO も同様に、定義に関しての MG に対する応答の後に、双方の定義が成り立ったとして 2 種類のディベートを続けて下さい。

Reply speech では、まず定義に関して話すと同時に、それぞれの定義に対応した 2 種類のディベートに関して、通常どおりの reply speech を試みてください。

最後に、念のため記すと、幸か不幸か自分はこれまで一度も definition challenge をした事はありません。ディベートを教わった大学の先輩から、やらないようにと、特に念を押されていた事と、した場合に試合がどの様に推移するか予測できず、相手の定義の未熟さを単に指摘しただけの方が、勝つ確率がより高いと考えられたからです。実際、変わった定義をするチームは議論もあまり上手では無く、普通にスピーチをすれば十分勝てるでしょう。



Lesson 12.

Principle Argument



Contents:

- Section 1. Principle Argument とは
- Section 2. Principle Argument の 3 用途
- Section 3. Principle Argument の説明の仕方
- Section 4. “LDC” というセットアップ
- Section 5. “Cookie Cutter”

SECTION 1. PRINCIPLE ARGUMENT とは

1) 説得の3要素

ディベートは聞き手を説得する競技ですが、人を説得するには大きく3つの要素、あるいはアピールすべきポイントがあります。それは、論理、直観、具体例です。ここで直観とは、感情や常識を含めた感覚的理解のことです。物事を論理的に説明されれば人は納得しますし、楽しそう・かわいそうなどの感情によっても説得されます。また、実際の事例やデータを出されると、それは真実味があると感じます。従ってディベートでは、これらの要素に基づいてジャッジを説得することになります。

Principle Argument とは、政府の役割とは何か、なぜ表現の自由は大事なのか、といった「そもそも論」あるいは「べき論」のことです。ある程度普遍的な原則の説明なので、議論は抽象的になりがちであり、上の3要素のうち論理に比重が置かれた議論であると言えます。Principle Argument は使い方次第でとても有効な説得の道具に成り得るのですが、直観的要素や具体例を盛り込まず、抽象的な話だけでしたのでは、なかなかジャッジに主張が伝わらないことをまず断っておきます。

2) Principle のない議論

Principle Argument とは何かイメージを掴んでもらうために、まず Principle のない議論とはどういうものか見てみましょう。Principle のない議論は、直感・日常的感觉にのみ訴えるものとなりがちです。具体的には、命は大事、お金は欲しい、欲求が満たされれば嬉しい、といった即物的感覚や、“dictator” や “women’s empowerment” といった言葉に伴う「なんとなく悪そう（良さそう）」という雰囲気や聴衆にアピールすることになります。

もちろん日常的感觉に訴えることが不当な訳ではないですが、説得の手段としては曖昧で不確実という弱さがあります。感覚に訴えている以上、判断の大部分はジャッジの主観に委ねざるを得ず、個人の価値観や偏見が介入する余地も大きくなります。

Principle のない議論は、例えば次のような形をとります：

- ① ジャッジの同情を得るべく、ある政策を導入した場合、あるいは導入しなかった場合、人々がどんなに可哀想な目に遭うかを切々と語る。
- ② お金はたくさんあったほうが良いという前提に基づき、結局は人々は現状より金銭的に豊かになるので、自分たちの提案する政策は人々をより幸福にすると結論づける。

個人的な好き嫌いかもしれませんが、①はそもそも議論になっていないという点において、②は価値の対立を扱っていないという点において、「ディベートとして面白くない」と言えます。

また、以上のような日常感覚的レベルの議論では、有効な比較ができないという問題もあります。土台が感覚にのみ訴える議論では、彼我の議論を比べる段になっても、ジャッジに「あなたの中ではどちらの感情が大きいですか」とたずねることしかできないのです。論理的基礎付けがないと、①と②の議論を比較しようとしても、感情以外の判断基準がないため、議論の優越の判断は「なんとなく」の域を出ません。

それでは、先の議論はどう改めればいいでしょうか。それらの主張に、「一段深い基礎付け」をすればいいのであり、これが「議論に principle あるいは philosophy を取り込むこと」であると思います。つまり、議論例①について言えば、例えば命を救うことが政府にとってあるいは人間としての義務であることを論ずるなり、人命救助が他の価値（自由選択、平等など）よりも優先されるべきであることを論ずれば、即物的感覚にとどまらない説得力を議論に持たせることが出来ます。

また議論例②については、経済効率・経済発展が個人及び社会の目標達成のための最重要な手段であると下支えするか、あるいはそもそも「競争市場(competitive market)」や「経済的活力(economic vigor)」は「機会の平等(fair chance)」や個人の能力の開発、自己実現などをもたらすので、それ自体として価値があると論ずることが出来ます。

SECTION 2. PRINCIPLE ARGUMENT の 3 要素

Principle を議論の中でどのように活用すれば良いか、以下に3つの類型で見えていきます。

1) 議論の1つとして

まず、Principle 自体を一つの議論として、例えば、「政府は個人のプライバシーに介入すべきでないという原則」や、「自由」といった抽象的概念を論じる使い方があります。これは、“what is right” あるいは“what is just” を問うもので、大きな話・根源的な話なのでインパクトが大きい反面、抽象的で分かりづらいという弱点もあります。説明をする際に重要なのが、聞き手が想像できるように、議論を具体的なレベルでの benefit や harm にまでつなげることです。

例えば投票権について、ただ単に「それは市民の権利だから大事です」と言うだけでは十分説明したことにはなりません。代わりに、以下の説明を見て下さい：

「投票権が無い状況は、自分のリーダーを自分で選べないという状態であり、法律や税金、警察など、社会の重要なシステムの運営に自分の意見を反映できないということだ。言い換えればこれは、何らかの政策によって自分の権利が侵害されても、その政策を変える手段がないということだ」

ここまで説明されれば、投票権がいかに重要であるのか、実感として理解できるのではないのでしょうか。さらに、投票権がない社会層がどのような不利益を受けてきたか、また投票によって政治的アピールが行えない結果、それ以外の手段（例えばテロリズムなど）に訴えざるを得ず、投票権を認めないことがいかに深刻な問題を引き起こし得るのかなど、より深めた説明も出来ます。

2) 価値の基礎づけ

自分たちが証明した“Benefit”や“Harm”について、それがどれだけ重要なかを説明できると、その議論はより強力なものとなります。これはよく“Importance”や“Impact”という言葉で表現されます。それは、具体的なデータを出すなどして、数量的な規模の大きさを示すことでも達成できますが、Principle argumentによる理詰めでも重要性を示すこともできます。前節で説明した「一段深い基礎付け」がこれに相応します。既に確認した様に、そのような説明は、相手の主張する価値と自分の主張する価値の比較を行う上で特に重要になってきます。

例を挙げると、テロリストを捕まえるためには盗聴は正当化されるという論題の場合、恐らく自由と安全がそれぞれのチームが擁護する価値になります。この際、肯定側としては安全が保障されなければ自由は十分に行使できない、否定側としては安全があっても自由に行動できないなら幸せにはならず、自由は様々な権利を守るために不可欠だ、といった議論が可能で

3) スタンスとして

原則論や価値の対立は必ずしもスピーチの中で説明する必要はありません。しかし説明しない場合でも、それらを認識しておくことは、自分たちがどのような立場に立って議論しているかを明確にする上で有益です。自分がどのような原則や価値を擁護しているかが理解できれば、何を言わなければならないか、逆に何を言ってはならないか、ということが見えやすくなります。

実際にスピーチの中でprincipleを説明するかどうかの判断は、コストパフォーマンスの問題となります。principleを説明すれば議論は深まりますが、スピーチ時間が限られていることを考えると、具体的な話だけにした方が有効な場合もあります。特に2対2のNorth American Style

ではあまり議論を深める余裕が無いかもしれません。その一方で、Asian Style と、特に British Parliamentary Style では、この Principle の説明がなければ、高い評価を得ることが出来ません。

SECTION 3. PRINCIPLE ARGUMENT の説明の仕方

まず、ここでは原則論や抽象的概念の説明の仕方を、3 つ解説します。

1) Coherence / Consistency (一貫性)

現行の他の制度との比較をすることは、新しい政策や制度の正しさのひとつの目安になります。例えば、政府が人々の生活に介入して何かを強制してもよいということを示すのに、車のシートベルト着用が義務であるということを指摘することがよく行われます。人々がシートベルトを装着せずに、事故にあったらフロントガラスに飛び込む自由の尊重よりも、着用を義務付け、人々の生命を守る責任の方がより重要な政府の役割である。この前提の下、人々を保護するための法制度が存在し、人々の生命を守るといったより大きな利益のためには、人々の自由を制限することは現状の制度では正当化される。この分析を踏まえて、インターネットの規制や、ポルノグラフィーの規制の正当性に、一段深い基礎付けを行うことができます。

現行の制度が存続しているということは、それがうまく機能していて、みんなそれでいいと思っている、という想定がこの議論の背後にはあります。他のシステムのあり方と矛盾することの弊害としては、システム内で齟齬が起きる、人々が政府の不公平さや矛盾に不満を抱く、非一貫性が外からの信頼を損ねる、などが考えられますが、この手の議論では結局制度それ自体としての正しさを証明することにはなりません。従って上の例では、シートベルトの着用義務も不正だと証明すれば、政府が人々の生活に介入していいという議論の説得力を奪えます。

2) Possible harm/ Worst case scenario (予想される弊害)

すぐに目に見える形では何の問題が無くても、あるルールや原理を認めると（若しくは認めないと）いつか大変なことになる、という議論によってそのルールや原理の正または不正を示すことができます。

例えば、先制攻撃は国際法で禁止されていますが、それを無視することの短期的な利益は明白です。自分がやられる前に相手を不意打ちできるので、自国の安全は守りやすいでしょう。しかし、どんな理由であれ、一度先例が出来てしまえば、恐らく同じことが繰り返されます。強国が正しい理由で行動するという保証はないので、先制攻撃の禁止が形骸化してしまうと弱小

国はとても困ります。正当な理由なしに強国に攻撃される可能性に常にさらされるからです。冷戦期のように仮想敵国への不信感が極度に高まり、軍拡が進行することも考えられます。

予想される弊害について、最初はルールからの逸脱が最小限だったものが次第に歯止めが利かなくなる (slippery slope)、最初は善意で行われていたことが悪意を持って行われるようになる (abuse) といった議論によって、説明に現実味を持たせることが必要です。また、「仮に可能性が低くても、もし起こったらものすごく大変なことになる」と言うことで、可能性の低さを弊害の深刻さで補うことも有効です。

3)直観に基づく説明

誰もが合意できるような、人間としての根本的感覚とも呼べるものから、「自由」や「公平性」といった理念を説明することができます。例えば、タバコの禁止などによって政府が特定のライフスタイルを押し付けようとするのに対して、個人の選択の自由を以下のように擁護することができます：

幸せのかたちというのは個々人によって異なるもので、ある人は健康な生活を送れば幸せかもしれないが、ボクシングやスカイ・ダイビングなどの危険な行為に幸せを見出す人もいます。喫煙も同様にひとつの幸せであり、政府は個人の幸せが何なのかを把握してはいないのだから、個人の自由な選択に介入すべきでない。

これに対する反論としては、自由は他人の自由を損なわない限りでのみ許されるべきだという「危害原理 (Harm principle)」を擁護するものがあります。自由はどの人にとっても大事なことから、ある人の過大な自由が他の人の自由を奪ってしまうのは許されない、という考えです。タバコの文脈では、受動喫煙によって病気になってしまう人は喫煙者の自由と引き換えに自由を奪われている、と言えます。健康を害すれば、自由に何かを行うのは難しくなるからです。

別の例を挙げます。自由貿易協定 (Free Trade Agreement) や環境規制の文脈で出てくる「発展途上国の発展する権利」という考えがありますが、それをあるディベーターは以下のように説明していました：

People in poor countries deserve to be happy and prosperous because they are not less valuable than you and me (貧しい国の人々が豊かな国の人と比べて人間的に劣っているということはない。だったら彼らにも先進国同様の発展を享受する権利があるはずだ)。

あっさりしていますが、頷かざるを得ない上手い説明だと思います。

これらの例では、「好みは人によって異なる」、「自分の邪魔をされるのは嫌だ」、「人間はみな人

として平等」というような常識的な認識に基づいて、自由や権利の説明がされています。上の1番と2番目の説明の仕方も、特に難しいものではありません。PhilosophyとかPrincipleと聞けば、何か難しいものという印象があるかもしれませんが、それらは原理として定式化された直観・日常感覚であると理解すればよいと思います。とはいえ、原理化されていること、理論的基盤を持っているということには意味があります。人間は論理性に敏感に反応するからです。

つまり、抽象的概念をそれだけ出されてもよく分からないし、感情や日常的感觉に訴えるだけでは説明として不十分なので、両者を論理的につなぐ必要がある、ということです。

SECTION 4. LIBERAL DEMOCRATIC COUNTRIES というセットアップ

論題で特定の場所が指示されていない場合、普通 definition によって場所を指定しますが、その際に「Liberal democratic countries で (が) やります」とセットアップされることがあります。「Liberal democratic countries」という言葉は、日本やインドなども含む、自由が尊重されていて民主主義が機能している国を指して使われています。もちろん細かく見ればこれらの国の制度や事情は大きく異なるのですが、「自由民主主義国」として括られます。

なぜこの様な定義をするかといえば、ディベートをする上でなるべく公平な舞台を設けたいからです。特定の国や地域を指定しないことで、ローカルな知識の有無が極端に勝敗を左右しないようにするという配慮から、とりわけ国際大会でよく聞く定義です。

このセットアップは原則的な話、抽象的な話に重きを置くものでもあります。アメリカについてのディベートであればアメリカの事情の知識は決定的に重要になりますが、特定の場所を指定しないディベートでは特定の国や地域の事情はそれほど重要ではなくなります。むしろ普遍的に妥当と考えられる原則や抽象的価値が重要になってきます。具体例は当然必要なのですが、例を出す際には「なぜその例が今話している問題に妥当するのか」という分析がないとあまり有効ではなくなってしまいます。もっとも、それは特定の地域についてのディベートにおいても大切なことで、説明なしで例ばかり出されてもわからないというのは、抽象的な話ばかりされてもついていけないのと同じことです。

「Liberal democratic countries」がしばしばディベートの舞台とされることから分かるように、ディベートにおいて自由や民主主義は基本的に良いものと考えられています。自由や民主主義の価値は、いわば「常識」として前提とされており、それが疑われること滅多にありません。だから、自由や民主主義がいかに大事か説明しても、相手もそれには反対しないので時間の無駄になる場合もあります。

ただし、それらの概念は解釈の幅を持ったものなので、特にどの部分を自分たちは支持するのか、なにがそのコアであると考えているのか明確にすることが、時として必要となります。例

えば 2007 年の Austral Asians で、“The west should overtly support pro-democracy movements in the Middle East states” という論題が出されました。肯定側は、支援が民主化の動きを助け、中東の安定化にもつながると主張し、否定側は介入は民主主義に反する上に、試みは失敗するに決まっているから、今まで通り自然な発展にまかせるべきだと主張しました。

この場合、どちらも同じ価値にコミットしているので、philosophy のレベルで相手に勝るには民主主義の分析が必要となります。「民主主義はこの様なもので、民主主義の価値はここにあるから、我々の方法が民主主義の実現に最適なのだ」というように。介入支持の理由としては「市民がいつでも意見表明や参加ができるようなシステムの実現があってこそ民主主義は発展する」という立場が考えられます。不介入の立場としては「市民の自発的な意思と行動に基づかなければ民主主義は形骸化してしまうので意味がない」という分析が有効です。

SECTION 5. COOKIE CUTTER

1) Cookie Cutter とは

クッキーカッター（文字通りでは、生地からハート型などのクッキーを取るための金型を指します）とは、ディベートにおいて対立する様々な立場や価値観を整理したものです。Philosophy や Principle を考える上でひとつのガイドラインになります。また、価値の対立の構図は多くの問題に共通して見られるものなので、それぞれの立場からどのような議論が出るかを大枠で把握しておく、即応力がつきます。

ただし、クッキーカッターは、丸暗記してそのまま適用するようなものではなく、あくまで1つのモデルであることに注意してください。クッキーカッターは議論の枠組みを提供してくれますが、型をどのように使うか、細かい中身をどのようなものにするかは使う人の判断に任されています。

2) Cookie Cutter の例

本レッスンの最後に、クッキーカッターの例をいくつか示します。各項目について、重要なキーフレーズをリスト化しました。それぞれがより深く、どのような意味を持つかについては膨大な説明が必要になるため（それだけで本が何冊も書けます）、皆さんで調べるなり、あるいは部の先輩に尋ねてみて下さい(大学で政治思想に関する授業を履修しても良いと思います)。

[1] Liberalism vs. Communitarianism

Liberalism	Communitarianism
<ul style="list-style-type: none"> *emphasis on individual human rights *each individual has own political identity independently of states *individual is capable of reasonable decision and moral judgment <ul style="list-style-type: none"> ⇔ top-down morality (religion, superstition or fear) *each individual is self-interested (i.e. put themselves before the community) *government is there to allow individuals to maximize their own interest *minimum intervention of the government <ul style="list-style-type: none"> → political rights of individuals: let them decide what they want → capitalist economy: self-maximizing profit & accumulation of wealth → paternalism is a recipe for tyranny 	<ul style="list-style-type: none"> *emphasis on moral & duty as a member of the society *community is a place where we grow into a human <ul style="list-style-type: none"> → we owe our existence to the services of the community (e.g. health care, education, security & legal protection) *individual doesn't exist except as a part of a community *use of reason & idea of what is right/wrong is conditioned by the community *not always self-interested <ul style="list-style-type: none"> → people care about their family, friends & community *great achievement requires collective effort; individual takes pleasure in taking part in it *community development with shared wealth

[2] Rights

Rights
<ul style="list-style-type: none"> * liberty rights <ul style="list-style-type: none"> → freedom from something (negative liberty = non-intervention) → freedom to something (positive liberty = enabling people to do something) * benefit rights/ welfare rights <ul style="list-style-type: none"> → standard of living & safety net → food, shelter, clothing, health and education *community rights <ul style="list-style-type: none"> → self determination of a community (e.g. preservation of culture, political decision & control over resources)

[3] Natural rights vs. Earned entitlement

Natural rights	Earned entitlement
<ul style="list-style-type: none"> *human is naturally endowed with rights *Universal Human Rights 	<ul style="list-style-type: none"> *society is a collective enterprise whose membership need to be earned <ul style="list-style-type: none"> → contribution & fulfillment of duty to society is what gives us rights *reciprocity & mutual respect <ul style="list-style-type: none"> ⇔ free rider & egoism

[4] Protectionalism vs. Free trade

Protectionalism	Free trade
<ul style="list-style-type: none"> *protection of domestic products by a national government <ul style="list-style-type: none"> → subsidies on domestic products → tariffs on foreign goods *develop your industry to a sustainable level before opening up to the global market *produce enough goods for a national level before you produce for others *every country has developed its own products under certain protection (and still now, e.g. US's strong tariff on beef & EU's protection on agriculture) 	<ul style="list-style-type: none"> *no taxes or special tariffs on products <ul style="list-style-type: none"> → equal treatment → free movement of goods, capital and people *competition = more efficiency <ul style="list-style-type: none"> → quality up & price down *WTO: rules & regulations of trade <ul style="list-style-type: none"> → commitment to reducing trade barrier in a fair & just environment → "product not process": free trade cannot care where and how products are made

[5] Harm minimization vs. Zero-tolerance

Harm minimization	Zero-tolerance
<ul style="list-style-type: none"> *harmful things/ effects/ people/ practices always exist; the aim is to minimize their impact *safe use rather than no use 	<ul style="list-style-type: none"> *something should never be accepted *total elimination of a particular thing/ practice

[6] Regulation vs. Abolition

Regulation	Abolition
<ul style="list-style-type: none"> *checks & controls *transparency or visibility *accountability 	<ul style="list-style-type: none"> *human is too weak to resist temptations and curiosities → like parents, government needs to keep dangerous things away from the people *black market & underground activity is more or less unavoidable

[7] Formal equality vs. Substantive equality / real equality

Formal equality	Substantive equality / Real equality
<ul style="list-style-type: none"> *rule of law *refrain excessive intervention of government *preferential treatment of disadvantaged group is bound to produce counter-discrimination 	<ul style="list-style-type: none"> *equal treatment cannot remove or mitigate existing inequality *history of disadvantage *social disadvantage/ discrimination → need to counterbalance people's biased perceptions/ attitudes/ behaviors

[8] Utility vs. Diversity

Utility	Diversity
<ul style="list-style-type: none"> *sameness and solidarity are the ground for cooperation *cultural integration *one nation per state 	<ul style="list-style-type: none"> *difference is the source of competition & innovation *multiculturalism: equal recognition to various groups *many nations within one state

[9] People's choice vs. Expert issues

People's choices	Expert issues
<ul style="list-style-type: none"> *the only source of legitimacy for democratic government *preservation of democratic principle *we are unfree if the government does not listen to us 	<ul style="list-style-type: none"> *citizens don't know many things, but they want benefit from them *legitimacy can be saved by consequences

[10] Delegate vs. Guardian

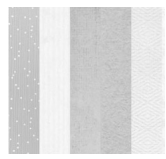
Delegate	Guardian
<ul style="list-style-type: none"> *representatives should look like their constituency *representatives are to mirror the people 	<ul style="list-style-type: none"> *knowledge, expertise, experience & long-term vision *stability <ul style="list-style-type: none"> ⇔ volatility of the public opinion *common good

[11] Domestic concern vs. Global interest / regional interest

Domestic concern	Global interest / regional interest
<ul style="list-style-type: none"> *role of government is to maximize the people's happiness/ benefit *government is a channel to voice our concern in international society 	<ul style="list-style-type: none"> *governmental role includes pursuit of global justice & world peace *national benefit can't be achieved without international cooperation *violation of rights somewhere is danger of rights everywhere

[12] Moral context vs. Social benefit

Domestic concern	Global interest / regional interest
<ul style="list-style-type: none"> *exception & slippery slope <ul style="list-style-type: none"> → misjudgment/abuse (might be rare, but huge impact!) *lessons of history (e.g. World Wars, ethnic cleansing) *moral is against human nature <ul style="list-style-type: none"> → need to be enforced 	<ul style="list-style-type: none"> *benefit > harm: maximum good *moral should be changed according to situation <ul style="list-style-type: none"> → danger to enforce one value



Lesson 13.

Asian Style & BP Style



Contents:

- Section 1. パーラメンタリーディベートの諸形式
- Section 2. Asian Style
- Section 3. Asian Style のバリエーション
- Section 4. British Parliamentary Style
- Section 5. 世界大会でのジャッジングの実際

SECTION 1. パーラメンタリーディベートの諸形式

本レッスンでは、北米形式(North American Style) 以外のパラメンタリーディベートの形式を導入します。北米形式以外では主に、アジア大会形式 (Asian Style あるいは Asian Format と呼ばれます)と、BP スタイル(British Parliamentary Style)の2種類があります。それら以外にも、高校生世界大会での形式とオーストラリア・アジア大会形式がありますが、それらはアジア大会形式にほんの少し手を加えた程度のものであります。

既に記しましたが、日本において特に一般的である北米形式は、北米を除く他の地域において、言い換えれば世界の大部分の地域では行われていません。例えば、オーストラリアのディベーターは北米形式について全く知りませんし、イギリスのディベーターにとっては、パラメンタリーディベートとはすなわち、BP スタイルを指します。国際大会 (あるいは他国での国内大会) に出場する場合には、このレッスンで導入するいずれかの形式でディベートをする必要があります。

北米形式とそれぞれのスタイルの違いは、各スピーカーの役割です。ディベートである以上、論題に対して賛成・反対の意見を述べ、互いに反論し合うことに変わりはありません。しかし、アジア大会形式は3人対3人で、そしてBPスタイルは2人から成る4チームで争うディベート形式であり、この参加者数の増加の帰結として、各スピーカーの役割分担とチームワークが重要になります。以下ではまず、アジア大会形式から、その戦い方と大まかなジャッジの仕方を説明します。

SECTION 2. ASIAN STYLE

90年代の初頭から、毎年6月にアジア地域のディベーター向けの大会が開催されています。大会では、主にフィリピン、マレーシア、そしてシンガポールからの出場者が成績上位を占めています。第7回大会、2000年前後から、日本人ディベーターも積極的に出場するようになりました。

1) フォーマットの概要

次ページで示す通り、Government 側、Opposition 側それぞれ各3人で、4回のスピーチを行います。各スピーカーの名称、スピーチ順序は以下の通りです：

チームによっては、1つの紙に Team line を書いて共有し、それぞれがスピーチ冒頭で繰り返すこともあります。

② Reply Speech は1人目、あるいは2人目のどちらかのスピーカーがする。

Government 側であれば、Prime Minister か Deputy Prime Minister のどちらかが Reply Speech をしても構いません。ただし、どちらの人間が担当するのか、試合の開始前にヘルパーあるいはジャッジに申告する必要があります。

③ 1人目、2人目のスピーカーは自分たちの議論を主に述べ、反論は最低限に留める。

北米形式との一番大きな違いは、チームに3人目のスピーカーがいることです。3人目のスピーカー、Whip Speaker の役割は、反論することにあります。反論を専門に行う人間がいる故に、1人目と2人目は自分たちの議論 (substantive matter) の説明により時間を費やすことが期待されています。経験上、7分のスピーチ時間の内、スピーチの導入と最低限の反論を終えるまでには、2分30秒前後が目安です。

④ Whip Speech の役割

Whip Speaker に求められる役割は、反論することにあると述べましたが、より正確には反論を通して、ラウンド全体を整理することにあります。後述の通り、この点においては North American Style の Reply Speech と同じです。

実際のスピーチにおいては、話し方には2通りあります。1つ目では、単純に相手の議論に対して反論を加え、そして反論された自分たちの議論を立て直す方法です。2つ目の方法では、北米形式の Reply Speech と同様に、ラウンド全体を見通して3つ程度の争点(issue)を抽出し、その争点に関して肯定側、否定側が何を言ったか比較します。こう書いてしまえば、Reply Speech と同様なのですが、大きな違いとして、Whip Speech では争点で比較しながら、反論を行えることがあります。Reply Speech では新しい反論を行うことが出来ず、その時点までに出された議論・反論を材料に肯定側、否定側を比較します。

また、Government Whip では新しい議論を出すことが出来ます (ただし、あまり望ましくないと言われています)。その一方で Opposition Whip では、Government 側に十分な反論の機会を与えられないため、新しい議論を出すことは許されません。

もう1つの違いとして、Reply Speech では勝敗の基準をはっきりと示す必要がありますが、Whip Speech では示唆する程度で構いません。実際の試合では、Whip Speech の中で議論の争点をいくつか出し両側の意見を比較し、次の Reply Speech にて最も重要な争点に絞り、よ

り内容を深めた比較を行います

⑤ Model という用語

アジア大会形式では、Model という用語が使われています。簡単に説明してしまえば、それは政策（plan, case, または proposal）の事です。例えば、Lesson 1 で説明した Fat Tax の論題で例示した Model は、「高カロリーで栄養価の低いファーストフード店の食事に対して、8%の税金を課す。ただし、低所得者に対しては税金を還付し、また集まった税金は学校給食への補助金と食育の推進に使う」というものでした。

アジア大会形式は、北米形式と比べて、各スピーカーに多少時間の余裕があるため（各スピーカーが与えられた役割に専念出来るため）、時にはとても複雑なモデルが出されることがあります。自分の経験から言えば、タイのディベーターにこの傾向があります。以前参加した大会でタイのチームと対戦した際、相手の Prime Minister が定義に 5 分も費やし、6つほどの condition を付け加えていました（常識的には、モデルの説明は出来るだけ簡単にして、Prime Minister であっても議論を中心にスピーチは行った方が良いと思います）。

⑥ Method という評価項目

このフォーマットでは、ジャッジとして各スピーカーにスコアを与えるにあたって、Manner と Matter 以外に、Method という評価項目があります。簡単に言えば、Manner の内容を話し方に特化して、それ以外の要素を取り出したカテゴリーです。

一般に、以下の 3 点が Method の内容にされます：

- ・ Individual and Team Organization and Structure
- ・ Individual and Team Fulfillment of Roles and Responsibilities
- ・ Individual and Team Responsiveness to Debate Dynamics

それぞれ説明すれば、まず 1 点目はスピーチの構成の分かりやすさです。自分のスピーチの構成を冒頭で示していたか、分かりやすいサインポストだったか、順序だって話されていたか、という事を指します。また、Team Organization とは、アロケーションをしていたか、またそれに沿って話していたか、という内容です。2 点目は、各スピーカーがそれぞれ与えられた役割を果たしていたか、という観点です（例えば、各チーム最初の 2 名のスピーカーが、反論に時間をかけすぎているか等）。3 点目は、どれだけ試合中の議論の発展に貢献していたか、という内容です。具体的には、効果的に POI をしていたか、また相手チームから出された議論・問いに対して適切に対応していたか評価されます。

まとめれば、北米形式での Manner の評価項目の内、純粋な話し方に関する内容以外の物に、「各スピーカーがその役割をいかに果たしたか」という観点が加わったもの、と理解すれば良いでしょう。

3) Three Motions 制

原ここまで触れませんでした。このフォーマットの特徴として、論題を選べる事があります。正確には、各試合ごとにあるテーマに沿った 3 つの論題が候補として与えられ、その中から双方のチームの希望を基に、1 つを選びます。

具体例を出せば、2006 年度北東アジア大会の決勝では、「Northeast Asia」というテーマの下に、以下の 3 つの論題の候補が出されました：

- ① THBT Taiwan has earned its seat in the Unites Nations.
- ② THBT Japan should build nuclear weapons. ・
- ③ THBT Korea should be thankful for the American Empire.

対戦するチームは、まずそれぞれ個別に希望する論題の順番づけをした後に、双方の順番を開示してルールに則り 1 つを選びます。論題決定のルールを説明すると、まず双方のチームが同じ論題を第一希望にした場合、その論題で試合をします。

次に、それぞれ 3 番目に選んだ物は必ず拒否することができます(「veto する」と呼ばれます)。例えば、肯定側と否定側が、それぞれ①と③を veto する、つまり 3 番目の希望とした場合、②の論題で試合をすることになります。

最後に、同じ論題を veto したが、第 1 希望・第 2 希望とした論題が異なっていたパターンがあります。この場合は、コイントスかジャンケンをして勝った方の希望を優先します。例えば、②の論題をお互い拒否したが、肯定側が①・③の順番で希望し、否定側が③・①で希望した場合です。否定側がジャンケンに勝てば、③の論題で試合をします。この論題決めにかかる時間も preparation time に含まれており、それ故に北米形式よりも 5 分間長く準備時間が与えられています。

4) ジャッジをする上でのポイント

アジア大会形式のディベートをジャッジする際には、それぞれの議論に加えて、以下の 3 点も考慮して判定をする事になります。

(1) 各スピーカーがその役割を果たしているか

前述の通り、この形式のディベートでは、各チームの最初の2人は自分たちの議論の説明に重点を置き、3人目が反論を通して試合を整理する、という役割分担があります。最初の2人が不必要なまでに反論に時間を割いていないか、3人目が反論を通じて試合を整理出来ているか、という観点から各スピーカーを評価します。この点に関しては、試合の勝敗というよりも、スピーカーズポイントを与える際の観点と捉えた方が良いでしょう。

(2) チームとして主張に一貫性があるか

各自バラバラではなく、チームとしてまとまりのあるスピーチをしていたかという点を、主に分かりやすいチームラインが示されていたか、それぞれのスピーチで矛盾点が無かったか、という2側面から判断します。否定側のチームにおいて特に、各自はとても良いスピーチをしていたが、結局3人合わせて何を主張しているのか明確でない場合があります(明確な Team line を出さなければ、そうなります)。その様な際には、「チームとしての一貫性が欠けていた」と判断し、勝敗の理由とすることもあります。

(3) 勝敗の基準・双方のチームの対立軸を明確に示しているか

北米形式と比べスピーチ数が多いため、ディベーターにはより詳しく議論を説明し、また反論する機会があります。その結果内容がより複雑になり、どの様に試合を整理すれば良いのか、また勝敗の判断をしたら良いか、聴き手はより困難を感じるでしょう。それ故に、アジア大会形式では、試合の流れを整理して伝える、という役割が重視されます。前述の通り、Whip Speech と Reply Speech にてこの役割は果たされるべきであり、それらのスピーチにおいて、きちんと勝敗の基準、あるいは双方のチームの対立軸が整理されていたかどうか、評価における重要な要素になります。

以上をまとめれば、アジア大会形式で試合をする場合はチームラインを必ず用意する、各スピーカーの役割分担をきちんと果たす、Whip Speech では双方の議論の比較を通して反論をする、という点に特に気をつけてください。

SECTION 3. アジア大会の形式のバリエーション

Asian Style のバリエーションには、高校生世界大会(World Debating Championship)、そして Austral Asian の形式があります。

1) 高校生世界大会の形式 (World Schools Style)の特徴

まず、高校生世界大会で用いられる形式は、アジア大会形式と以下の点で異なります：

(1) 細かい Definition をする事が求められない

他のディベート形式との違いで最も大きいものは、与えられた論題そのままです。試合をする事が期待されている点です。論題が意図するものは常識的に何であるのか、背景の説明をする程度で、大学生のアジア大会形式と異なり細かいモデルを提示する必要はありません。

(2) 大会で使われる論題の半分程度が事前に公表される

予選試合(preliminary round)の幾つかと、決勝戦の論題は事前に公表されます。大会の最低 8 週間前までに、専門の委員会が論題を選び、大会運営者経由で発表されます。

(3) 提示される論題は各試合 1 つだけ

3 モーション制ではなく、各試合で与えられる論題は 1 つです。

(4) Constructive Speech は各 7 分

アジア大会形式では、Constructive Speech は各 7 分でしたが、この World School Style では各 8 分です。前述の通り、アジア大会形式では準備時間は 25 分でしたが、こちらの形式では 30 分から 1 時間です (大会憲章には、各大会の運営者が決定できるとあります。ここ数年は、1 時間だそうです)。

2) オーストラリア・アジア大会形式 (“Austral”) の特徴

次に、オーストラリア・アジア大会のディベート形式の特徴は、次の 2 点にまとめられます：

(1) POI が無い

パラメンタリーディベートのフォーマットで唯一、POI がありません。試合をしてみると、定義に関する確認が出来ない、そして自分のスピーチ以外でディベートに貢献する機会が無い、という点で不便を感じるかもしれません。その一方で、自分のスピーチに集中できる、あるい

は相手のスピーチをより注意深く聞くことが出来る、という利点もあります。たびたび、オーストラリア・アジア大会でも POI を有りにしようという提案が参加者の会議で出されますが、現在までのところ否決され続けています。

(2) Constructive Speech は 8 分

アジア大会形式では Constructive Speech は 7 分でしたが、こちらは 8 分になっています。Reply Speech は変わらず 4 分です。

オーストラリア・アジア大会形式でディベートをする大会は、2008 年現在日本国内にはありません。例年 7 月上旬で開催される、オーストラリア・アジア大会に参加する場合でのみ、このフォーマットでスピーチをすることになります。

SECTION 4. BRITISH PARLIAMENTARY STYLE (BP スタイル)

パラメンタリーディベートは、文字通り訳せば「議会式ディベート」となりますが、その特徴が最も良く表れるのが、この大学生世界大会で使われている、BP スタイル (British Parliamentary Style) です。

1) フォーマットの概要

BP スタイルでは、2 人から成る 4 チームによって争われます。肯定側と否定側を、さらに 2 チームに分けた形になります。各チームの名称、スピーカーの名称、スピーチの順番、それぞれの役割は次ページの図にまとめた通りです。

① スピーチの順番

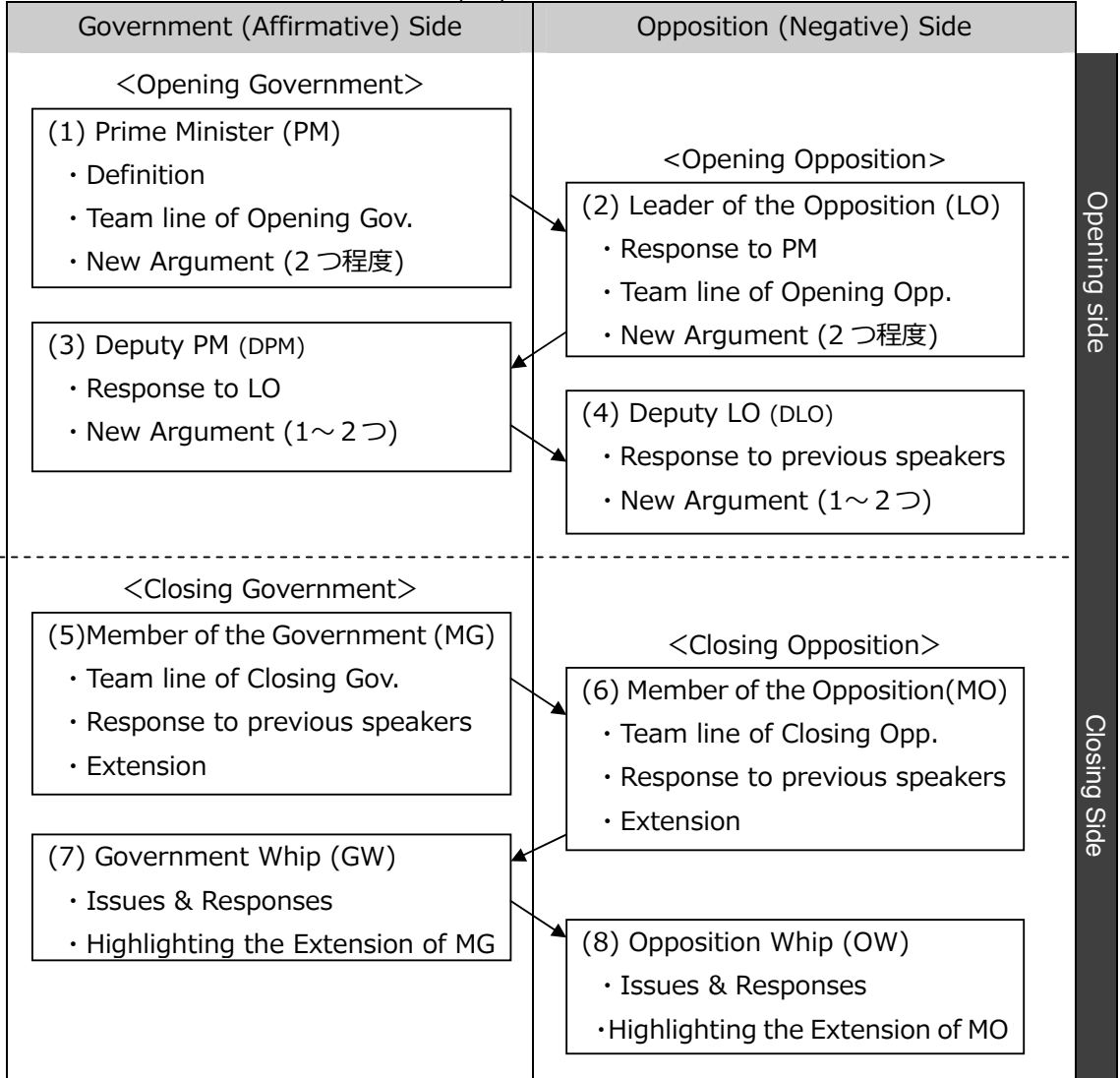
スピーチの順番では、肯定側と否定側（正確には、政府側と野党側）が交互に話します。他のフォーマットと違い、一番最後のスピーチでも「否定側から肯定側」という順番にせず、「肯定側から否定側」のスピーチ順序で試合を終えます。

② 準備時間・スピーチ時間

論題の発表から、試合開始まで 15 分間です。これには、論題が発表される場から試合の行われる建物までの移動時間を含みます（道に迷うと大変です）。それ故に、Opening Government は 15 分をどう使うか、特に練習が必要になります。

各スピーチ時間は 7 分です。各スピーチの最初と最後の 1 分以外で POI が出来ることは、他のフォーマットと変わりません。最後の、Whip Speech においても POI が可能です。もちろん、Opening Side のスピーカーであっても、Closing Side のスピーカーに POI できます。ただし、Government または Opposition のサイドが同じチームに対しては、POI できません。

☀ The Format of British Parliamentary Style



*Preparation time: 15 minutes

*Duration of each speech: 7 minutes

③ 勝敗の付け方

ジャッジは、試合を評価するにあたり、正確には勝敗ではなく、スピーチの良かったチームに1位から4位の順位を付けます。世界大会の予選では、1位に3ポイント、2位に2ポイント、3位に1ポイントが与えられます(4位のチームはポイントを貰えません)。予選9試合を通じて、ポイントの高いチームから、決勝トーナメントに進出します。

各試合、スピーカーごとにスコアを付けるのは他のパラメンタリー・ディベートの大会と同じです。スピーカーズポイントは、75が平均で、通常はそれに対してプラス・マイナス5点

を与えます。Matter と Manner に分けてそれぞれにポイントを与えるのではなく、それらをまとめた1つのスコアを各スピーカーに与えます。

④Opening 側と Closing 側の違い

このフォーマットを理解するには、実際の議会を想像すると分かり易くなります。連立内閣を組んでいる政府に対して、野党が共闘していると思って下さい。Opening チームの方が、Closing チームよりも勢力が大きい党であり、それ故に始めに話し、立論の機会が多く与えられていると捉えてください。Closing チームは Opening チームと比べて勢力の小さい、それでも少数の意見を代弁する大切な政党であると考えてください。

具体例を出せば、ドイツにおける社会民主党と緑の党の関係を考えてみて下さい。1998 年から2005 年まで、両党は連立政権を組んでいました。60 年代の学生運動にその起源を持つ緑の党の方が、議会では少数勢力でしたが、代替エネルギーへの補助や原子力発電所の全廃など、産業界に支持基盤を持つ社会民主党には出来ない政策実現に尽力して来ました。

この様に、大多数には見逃されがちな、それでも重要な意見を出すことが、Closing チームには期待されています。

⑤「Extension を出す」という Closing チームの役割

Closing 側は前述の通り、少数の意見の代弁者として、Opening 側が触れなかった新しい内容を加える必要があります。この役割は Closing チームの1 人目のスピーカーが担い、それまでのスピーカーが述べなかった、新しい内容を付け加えることを、「Extension を加える・出す」と言います。

“Our extension is ~” という様に、何が Extension なのかはっきりと述べる事が望まれています。Extension は、新しい議論でも、論題の背後にある大切な原理・原則の分析でも構いません。賛成側、否定側どちらの方が優れていたか判断する上で重要な内容である限り、何を Extension として聴衆に示しても構いません。

Closing のチームを評価するにあたっては、そのチームが出した Extension がいかにその試合の中で重要であったかが最も大切な観点になります。Whip Speaker は、試合を整理する中で、いかに自分のパートナーの出した Extension が試合内容の発展に貢献したか説明します。

以上を踏まえて次の節では、この BP スタイルの試合を世界大会でジャッジする上でのアドバイスを記します。

SECTION 5. 世界大会でのジャッジングの実際

以下では、著者がジャッジとして大学生世界大会に参加した経験を元に、どの様に大会でジャッジをするか簡単に説明します。

1) Adjudicator(Judge)の仕事の概要

本大会の予選ラウンドでは、それぞれ3人のジャッジによる合議によって、ラウンドの判定が行われます。合議によって決められるのは、そのラウンドを行った4チームのランキング、その理由付け、そして各スピーカース・ポイントです。

合議では、全員一致が望ましいとされますが、決まらない場合は多数決か、チェアー（詳しくは後述）の判断が優先されます。前述の通り、大会では1位のチームに3点、2位のチームに2点、3位のチームに1点、そして4位のチームには0点が割り振られます。予選9試合で得たポイントの総点によって、本戦に出場するチームが選ばれます。参考までに記せば、19点前後がブレイクに必要なポイント数であり、またESL部門でのブレイクには14点前後が必要になります。

また、予選の1ラウンド目から6ラウンド目までは、オーラル・アジュジケーション（口頭での勝敗の説明）が採用されており、チームのランキングと、それがいかに決められたか、合議後にすぐ説明が行われます。

4チームのランキングを告げ、その理由を説明するのは、チェアー(Chair)と呼ばれるジャッジの役目です。各ラウンドにおいて、予め1人が大会運営者によって指定されます。チェアーと共に、ランキングを合議する残り2人のジャッジは、パネル(Panel)と呼ばれます。合議においてはチェアーが主導権を持ち、最終的な決定を行う権限も与えられています。

これらチェアーならびにパネルといった、実際にランキングの決定を行う者以外に、トレイニー(Trainee)というジャッジがいます。トレイニーは、その名前の通り見習いジャッジを指し、ラウンド判定の合議の場に立ち会うことが出来ます。パネルあるいはチェアーから求められれば、参考意見を言うことが出来ますが、あくまで参考意見であり、ランキング決めの評決に加わる事はありません。トレイニーが割り振られるのは、通例レベルの高いディベーターが対戦し、経験を積んだジャッジが評価するラウンドです。

本戦のジャッジは、予選ラウンドでのディベーターの評価によって決定されます（詳しくは後述します）。また本戦では、オーラル・アジュジケーションはありません。本戦のジャッジに選ばれるのは、それ自体が名誉なことであるとされ、より良い評価を得られるようにジャッジも予選で努力をします。

2) Adjudicator がいかに選ばれるか

大会でのジャッジの選抜は、以下の通り 2 段階あります。

(1) 予選のジャッジ

大会 1 日目に、ジャッジ・テストが行われます。MMU Worlds では、実際にラウンドを見て、ランキングを決め、その理由を B4 用紙 1 枚に記入するというものでした。この結果によって、予選ラウンドのチェアー、パネル、トレイニーが決められるという話でした。実際の分類では、9 ラウンドを通してチェアーであり続ける者、ほぼパネルであるが最終日に 2、3 ラウンドはチェアーとなる者、そして殆どトレイニーであるが何ラウンドかはパネルとなる者、という 3 種類に区分されます。

恐らくは、予選ラウンドを通してチェアーとなるものは、それ相応に実績があると大会運営者が事前に判断した者で、ジャッジのテスト自体では決定されないと思われます。ジャッジ・テストで決まるのは、それ以外の者がパネル中心となるか、トレイニー中心となるか、という点だと思われます。

また、各ラウンドでジャッジは互いに評価をします。その評価に応じて、パネルであった者がチェアーに昇格されたり、また逆にチェアーであった者がパネルに下げられることもあります。あまり合議に貢献できていない場合は、予選 9 試合ずっとトレイニーで終わる事もあります。

(2) 本戦のジャッジ

本戦のジャッジは、ほぼ予選 9 試合通じてチェアーを行った者の中から、特に評価が高かった者が選ばれます。オーラル・アジュジケーションにおいて、ディベーターにはチェアーの評価用紙が配られ、それへのスコア並びにコメントにより選ばれます。本戦に出場するディベーターの発表と同時に本戦のジャッジも発表され、予選を通過したディベーターと同様、大きな拍手が贈られます。

3) 各ラウンドの論題

参考までに、2005 年度の大学生世界大会ではどのような論題でラウンドが行われたのか、以下に抜粋します：

Round 1: THW compel HIV infected people to disclose their disease to their sexual partners

Round 2: THBT the EU should open its doors to North Africa

Round 3: THW not teach vocational studies at University

Round 4: THW positively discriminate women in the armed forces

Round 5: THBT outsourcing is good for the developed and developing nations.

Round 6: THW have harsher sentences for celebrity criminals

Round 7: THBT anti-terrorism is the new McCarthyism

Round 8: THW expand NAFTA into South America

Round 9: THW prioritize organ donations to those who have lived a healthy lifestyle

Octo-Final : THB it is time for an ASEAN parliament

Quarter-Final : THBT mentally handicapped people are better cared for in the community than in institutions

Semi-Final: THW use gambling to rejuvenate depressed economic zones

Grand Final: TH supports corporal punishment in schools

以上の論題に関して、何らかの背景知識を持っていることが、ジャッジには当然求められます。論題選定の非公式な基準として、イギリスの週刊誌、The Economist の紙面で取り上げられたトピックというものがあります。大会前には、どの様なトピックが今話題になっているのか確認しておくことを勧めます。

4) ジャッジングの実際

次に、どのように各試合でチーム間の順位をつけたか、個人での判断の出し方と他のジャッジとの合議の過程を説明します。

(1) 個人でのランク決め

MMU Worlds においては、自分はパネル中心の者としてジャッジを行いました。また、チェアマンを2回担当しました。ジャッジングの仕方に関しては、大会のウェブサイトにもそのルールがあります。ただ、そこに書かれている内容と、実際にやる事との間には、多少のずれがありました。以下では、実際にジャッジをした上でのポイントを記します。

ワールド・スタイルにおいては、主に2つの観点から評価が行われます。まず「それぞれのチームが与えられた役割を果たしたか」という点と、「個々の議論、反論がいかに優れていたか」という点です。まず、1点目に関して、以下のような観点から、それぞれの役割の評価を行いました：

[Opening Government]

- ・ 提示したケースは妥当な物か（論題の意図を理解して、適切な定義を行えたか）
- ・ OG のチームラインをはっきりと提示したか。
- ・ ケースを支える、納得できる議論が出されていたか
- ・ 何かしら大きな原理原則・対立軸に触れているか。
- ・ 2nd speaker はきちんと Opening Opposition の反論に答えていたか。

[Opening Opposition]

- ・ 提示されたケースの不備があれば、きちんと指摘したか。
- ・ OO のチームラインをはっきりと提示したか。
- ・ 主張を支える、納得できる議論を出していたか。
- ・ 何かしら大きな原理原則・対立軸に触れているか。
- ・ 1st, 2nd speaker 共に Government 側の議論に十分な反論を行っていたか。

[Closing Government]

- ・ 3rd speaker のスピーチにおいて、Extension があつたか、あつたとしていかに重要であつたか。
- ・ CO のチームラインははっきりと提示されたか。
- ・ Opening Government の議論と、食い違った事を言わなかつたか。
- ・ 3rd speaker, 4th speaker は、OG の議論をいかに小さく見せたか
- ・ 4th speaker は、いかに CO 3rd speaker のラウンドへの貢献を大きく見せたか。
- ・ Opposition 側の意見に、十分な反論を行えたか。
- ・ 何かしら大きな原理原則・対立軸に触れているか。
- ・ 試合全体を分かりやすく整理出来ていたか。

[Closing Opposition]

- ・ 3rd speaker のスピーチにおいて、Extension があつたか、あつたとしていかに効果的であつたか。
- ・ OO の議論と、食い違った事を言わなかつたか。
- ・ 3rd speaker, 4th speaker は、OO の議論をいかに小さく見せたか
- ・ 4th speaker は、いかに CO 3rd speaker のラウンドへの貢献を、大きく見せたか。
- ・ Government 側の意見に、十分な反論を行えたか。
- ・ 何かしら大きな原理原則・対立軸に触れているか。
- ・ 試合全体を分かりやすく整理出来ていたか。

次に、2点目の個々の議論の評価に関しては、他の北米形式、アジア大会形式のディベートを評価する場合とほぼ同様に行いました。具体的には、主張がケースと繋がっているか（あるいは、ラウンドを通しての争点といかに関わっているか）、順を追った説明があるか、具体例があるか、という3つの側面から評価を行いました。加えて、何らかの Principle に触れているかも議論を評価する上で大切です。反論に関しては、それら3つの側面での弱点が、いかに指摘されていたかに基づいて評価を行いました。

マナーに関しては、よほどのことがない場合勝敗では考慮されません。マナーが上手であれば、当然議論も伝わり易かつたはずであり、実際に合議によるランク決めでも、マナーをその根拠としたジャッジは、知る限りいませんでした。

実際のラウンド中には、「どうしてこのチームが、このチームよりランクが上、あるいは下なのか」を問いながら、スピーチを聞くことになります。全てのスピーチが終わった時点で、既にランキングが決まっていることが理想です。

(2) 合議の過程

合議においては、まずそれぞれの者がランキングを示します。また仮に、かなりの時間（ラウンド終了後5分ほど）が経過したが、まだランキングを悩んでいるジャッジがいた場合、とりあえず決まっている部分だけを提示しました。

もしジャッジ間のランキングが一致していれば、話し合いは殆どありません。オーラル・アジュジケーションに備え、チェアーがランキングの説明を考えます。また必要であれば、他のジャッジに、ランキングの根拠の補強を求めます。ランキングが一致したことは、予選9 試合中、3 回ほどありました。

次に、一致しなかった場合、まず何に関しては同意があるのか確認されます。その上で、対立点に関して議論が行われます。議論において問われるのは、「どうしてこのチームが、こちらのチームよりランクが上、あるいは下なのか」という点です。なかなか一致に至らない場合、とりあえず、互いに妥協をする事がありました。“Are you happy if this team takes 3rd place?” という様な表現で、チェアーが、とりあえず理由はさておき、こんなところで折れませんか、という妥協案を出すことが何度かありました（自分もチェアーを担当したとき、こう言って折れてもらいました）。以下では、いくつかの特徴的な場合に関して、いかに合議が行われたか簡単に記します。

① 1 位と 4 位のチームに関して、同意している場合

この、2 位と 3 位のランクで意見が異なった場合が、最も多かったと記憶しています。この場合、対立したランキングを出したものが、それぞれ根拠を出します。それを聞いた上で、あるいは一方が相手の意見に同意して、ランクの決定となります。

② 1 位と 2 位の候補グループ、そして 3 位と 4 位の候補グループが決まっている場合

この場合は、主に Opening と Closing、あるいは Government と Opposition でランクが分かれたというものです。この様な場合、まず 3 位と 4 位を決めるにあたって、どちらがより相手の足を引っ張ったかを確認しました。

例えば、Opening Government が不適当なケースを提示した結果、Government 側が不利になった場合や、Closing Opposition が Opening Opposition と矛盾する議論を行った場合です。他に、Closing Government が Extension を殆ど示さなかったため、Closing Opposition の存在が薄くなってしまった場合もこれに相応します。1 位と 2 位を決めるに当たっては、場合によりけり、というのが実情でした。

③ あるジャッジにとって 1 位のチームが、別のジャッジの 4 位になっている場合

一番紛糾するのが、この場合です。結果としては、たいていそのチームは、2 位か 3 位に落ちついて、決着します。双方が意見を言った上で、なお決まらない場合は、“Are you happy if...” という表現を使って、理由はともかく、双方の中間を取って妥協しませんか、という話し合いが行われます。

(3) スピーカーズスコア決めにに関して

スピーカーズスコア決めは、殆ど事務的に行われます。ランキングが決まった後に「そういえば、こんなのもあったな」という程度でジャッジ全員で簡単に話し合い、記入しました。スピーカーズスコアを決めてから、その合計得点でランキングを決めるジャッジは通常いません。

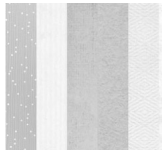
まず、ラウンド全体の質を考えて、それによって得点のレンジを決めます。良いラウンドであったら、平均とされる 75 点以上のマークを許し、それ平均以下であれば、72 のプラス・マイナス 3 のスコアを割り振りました。ランクが上のチームから、レンジに従い、それぞれのスピーカーに何点を与えるか決めます。点数の差は、余程の違いが無い限りは、それぞれ 1 点程度でした。実際に与えた得点は、78 から 68 程度だったと記憶しています。スピーカース・スアと全体での順位は、大会終了後にホームページ上で公開されます。

(4) オーラル・アジュジケーションに関して

前述の通り、予選ラウンド 1~6 において、ジャッジの結果をその理由と共に、チェアアがディベーターに伝えます。流れとしては、まずランキングを伝えた後に、どうしてあるチームが他のチームより上、あるいは下なのか説明します。どのチェアアも、5 分から 10 分程度でとても手短かに説明していました。

オーラル・アジュジケーションをする場合では、ジャッジの合議で話し合ったことをそのまま伝えるだけで、最低限の役目は果たしたことになります。チェアアによって、どの程度詳しく説明するか、かなりの差がありました。

以上が、世界大会でのジャッジの実際に関する説明です。パラメンタリーディベートは、ディベートの専門知識を持った審判を説得するのではなく、常識を持った一般人(英語では“average reasonable person”と呼びます)を説得することが勝敗の基準です。ジャッジに求められる素質としては、ディベート特有の専門知識を持っていることよりも、自分が思ったことを物怖じせずきちんと説明できる事の方が重要です。学部 1 年生でも、学生時代にディベート経験のない社会人の方でも、世界大会でのジャッジはきちんと務まります。ぜひ、挑戦してみてください。



Lesson 14.

Philosophy



Contents:

- Section 1 フィロソフィとは何か
- Section 2 フィロソフィを説明する
- Section 3 本題: クッキーカッターのリスト

リベラリズムとコミュニタリアリズム / 社会正義 / 経済思想 / 環境問題
/ 動物の権利 / フェミニズムと平等問題 / 多文化主義 / 犯罪への対処
/ 政治過程 / 国際関係

- Section 4 まとめ

SECTION 1. フィロソフィとは何か

以下では「フィロソフィ」とは一体何か、そのディベートにおける位置づけを確認しながら説明します。

(1) フィロソフィの一般的な理解

ディベートにおけるフィロソフィとは何か、誰かに説明を求めた場合、以下の様な答えが来るかもしれません：

「とりあえず哲学的で高尚な話」

「議論の根底にある Principle の考え方で、ディベートで議論を出す前の分析などで使われるもの」

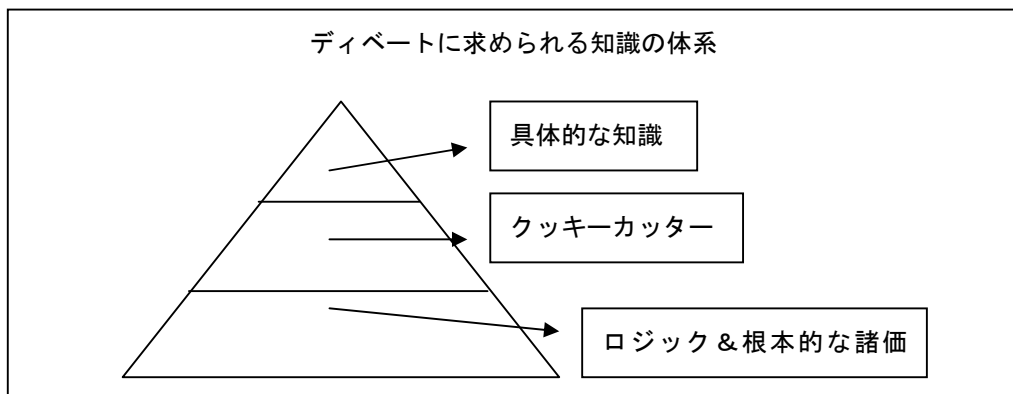
「Practical Argument より高級でカッコよく、使えれば上級ディベーターになれるもの」

上の引用例はそれぞれ間違いではないのですが、曖昧に過ぎます。まず、上の説明では「どのようなことを言えばフィロソフィの説明になるのか」、つまり「フィロソフィ」が指す知識の中身について分かりません。次に、その「フィロソフィ」を議論として試合で提示するにはどのような土台が必要か、という実際にスピーチで用いるための方法が見えません。以下ではフィロソフィを体系的に整理して捉えるために、まずフィロソフィとはどのような知識かを確認し、次に各試合でどう用いるかを「試合のゴール」という観点から明らかにします。

(2) ディベートにおける知識の体系

それではまず、ディベートに求められる知識の種類を確認します。ディベートでは下の図にある3種類の知識が必要になります。

図 1. 論題とケースの関係



最も重要で、すべてのモーションに必要とされるのが一番下の段にある「ロジック&根本的な諸価値」です。ロジックとは、例えば主張に理由付けをする、あるいは矛盾を避けるといった基本的な論理の成り立ちについての知識を指します(ここでは詳しく触れません)。もう一方の「根本的な価値」とは、ディベートにおいて両チームの共通のゴールとなるもので、例としては、「自由 (Freedom)」「安全 (Safety)」「平等 (Equality)」「公正 (Fairness)」「配分的正義 (Distributive Justice)」「報復的正義 (Retributive Justice)」「福祉 (Welfare)」「連帯 (Association)」「平和 (Peace)」「デモクラシー (Democracy)」などを挙げる事ができます。

2段目の「クッキーカッター」とは、ディベートにおける対立軸を、ある程度までパターン化して整理したものです。世の中には様々なモーションがありますが、ある程度それらを類型化して、似たような議論を流用できる様に体系化することが可能です。このレッスンの後半では、様々なクッキーカッターを紹介しますが、それらは全て「クッキーカッター内のどちらの(どの)立場がより、根本的な価値を充足させられるか」ということを念頭において作られており、ディベーターも絶えず、それを意識することが必要となります。

クッキーカッターでモーションへの足がかりを得た後では、それぞれのモーションに即した知識や想像力が必要になります。これが一番上の「具体的な知識」になります。類型化・抽象化された知識である、「根本的な価値」やクッキーカッターだけでは、個々のモーションに対応して試合をすることは難しいでしょう。ひとつのモーションには大抵の場合、複数のクッキーカッターが関わってきます。また、アメリカや日本の社会状況や政治制度、特定の国際機構の機能といった、個別具体的な知識は別に知っておく必要があります。

このレッスンでは、これら3種類の知識のうち、下の2つ「根本的な価値」と「クッキーカッター」を扱うこととなります(具体的知識の収集方法については、本テキストのリサーチに関するレッスンを参照して下さい)。

(3) 試合のゴールとフィロソフィ

次に、フィロソフィをよく理解するために、ディベートにおける両チームの関係を確認しておきます(次ページの図を参照してください)。ここでは、各チームは与えられたモーション(時にはケース)にそれぞれ賛成、反対するという別々のアプローチを通じて、ひとつのゴールに到達しようとします。ひとつのゴールとは言うまでもなく、冒頭で述べた「根本的な価値」になります。

こうした根本的な価値は、先ほど挙げたように様々なものがありますが、基本的には、やは

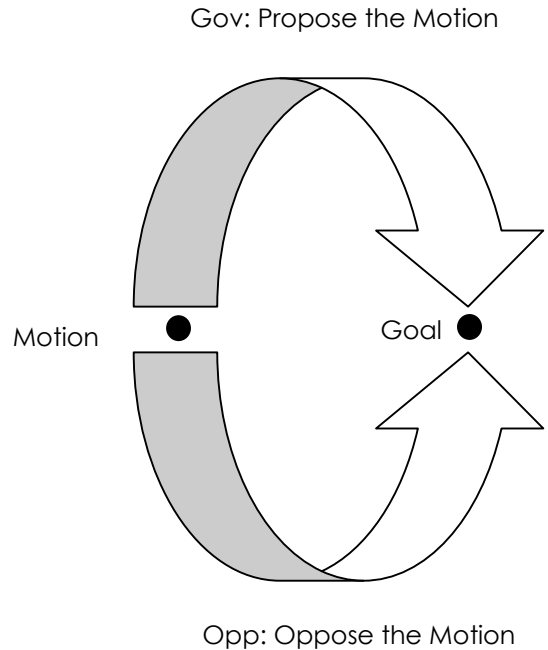
り根本的な価値に含まれる「安全」「自由」「平等」の3つから導き出すことができます。これら3つに関しては人間が生活を営むとき、こうした価値が満たされない生活がいかに悲惨なものとなるかを考えれば（当然ディベートで説明できれば）問題ないかと思えます。

これらの価値から他の根本的な価値を導く例として、社会福祉について考えてみます。仮に我々が最も狭義の安全（＝警察は犯罪者を取り締まってくれる）と自由（＝政府は理由なく人々を拘束しない）が保障されている社会に生きていたとしても、十分な生活必需品（とそれを買うお金）がなければ死んでしまい（「安全」の侵害）、また自分が望む生活を送ることも出来なくなってしまいます（「自由」の侵害）。加えて、たとえば政府が人種や性別に基づく差別を禁止（「平等」の保障ですね）していたとしても、十分なお金を持っていないために教育サービスを受けられず、結果として就職などで不利を被る人がいれば、それは真に平等であるとは言えないでしょう。これらの理由により、政府は人々の「福祉」を保障しなければいけない、という考えが生まれます。

もっとも、「安全」「平等」という価値も、突き詰めれば自由という価値の必要条件に過ぎないと考えることが出来ます。安全とは大雑把に言えば、生命の危機に晒されていない状態であると理解できますが、例えば死んだり大けがをしてみたりすれば、私たちは自分が最善だと思い描くような、自由な選択による生活を送ることが出来なくなってしまいます。また、私たちが人種や性別などに基づくいわれのない差別など、平等でない扱いを受け、例えば自分の望む会社に就職する際に障害になるとすれば、自由な生活の追求が難しくなってしまいます。

これらの価値は常に「自由」に集約することができますが、自分のチームと相手のチームの間で「ディベートにおけるもっとも重要な価値（“Criteria”と呼ばれもします）は安全（あるいは平等）である」というコンセンサスが出来ているようなら、わざわざ自由を引き合いに出す必要はないと言えます。それは、「安全・自由・平等」の3つの価値以外に、上で拳

図2. 論題と試合のゴールのモデル



げた他の諸価値についても同様です。ここまでが、フィロソフィはディベートにおいてどのように位置づけられるかの説明になります。

(4)フィロソフィの分類

次に、「フィロソフィとは何か」という本題に入ります。一般に「哲学的で高尚な話」「議論の根底にある principle の考え方」として把握されるフィロソフィですが、厳密には概念 (Concept) と構想 (Conception) という2つ別々のものに分類することが適切でしょう。

この2つの関係ですが、「自由」や「平等」という概念がまずあり、それをめぐる「様々な構想」が存在、対立している、という状態だと理解してください。「概念」がこれまで主に説明してきた根本的な価値、「様々な構想」が、そこに至るアプローチとして政府側や否定側がそれぞれ主張する「フィロソフィカル・アーギュメント」に対応します。後者はそのまま、クッキーカッターの中の諸立場と同じものと理解すれば良いでしょう。一般的に、ただ「フィロソフィ」と言った場合には、後者（チームごとに異なる構想）を指す場合が多いようで、ここでも基本的にはその用法に従います。

例えばまず、犯罪者に対する死刑の是非を考えてみましょう。基本的に、この手の議論は「人を何人も殺した犯人に対して、死刑とその代わりに終身刑のどちらを課すか」というモデルで争われます。このとき両チームは、「人を何人も殺した犯人はとりあえず重い罰で裁かれるべきである」という点で同意しています（ここに同意しないチームは、その時点で勝利がかなり危うくなります）。

この、罪を犯した者に、その罪の重さに応じて罰則を課すことは、道徳的に許容されるという考えは、報復的正義 (Retributive Justice) と呼ばれます。そして、罪の重さに応じて与える罰則を加減する、つまり目的と手段との間に均衡を求める原則は広く「比例原則 (Principle of Proportionality)」と呼ばれます。この原則が平等、あるいは公正 (Fairness) どちらの価値から導き出される原則かはさておき、死刑賛成側は「何人も人を殺した者は、自らの命をもって償うのが報復的正義にかなっている」と主張するでしょう。対して死刑反対側は「どんなに人を殺した者でも、報復的正義は命を奪うことまで求めていない」と述べ、どちらの立場が正義という概念の構想としてより優れているか（より適切か）競い合うことになります。

この様な議論は今現在の現実世界でも進んでいますが、基本的にこれら諸構想の間に決着がつくことはありません（決着が付く問題はモーションとして不適と言えます）。ディベート内でのフィロソフィの優劣は、両チームの出した論拠・理由の比較考量によって付けられま

す。具体的には、主にそれぞれの構想の論理的整合性と、一般の道徳的確信（直観）との適合性が評価基準になります。前者は、例えば理由付けがされているか、議論に矛盾がないかといったロジック的要素であり、後者はいわゆる「モラル・ハイグラウンド」あるいは「アベレージ・リーズナブルパーソン」といった基準からの審査になるでしょう。より分かり易い描写でフィロソフィを一層妥当なものに見せる、実際の生活とフィロソフィを結びつける（「安全」「自由」「平等」の基礎づけなど）といったことが、これに該当します。

(5) ディベートの評価におけるフィロソフィの比重

試合では当然ながら、これらに加えてプラクティカルな議論でどちらが優勢か、といった問題が絡んできます。正確には、プラクティカルな議論の方が明らかに重要です。自分のチームのプロセスが崩れていれば、フィロソフィどうしの戦いを待たずにチームの負けが決まるのが殆どです。抽象的な説明で終わりがちのフィロソフィより、目に見えやすいプラクティカルなインパクトを重視するジャッジは数多くいます。よくディベート初心者の人に対して、「フィロソフィなんか言わない方が身のためだよ」というアドバイスがされますが、このような「フィロソフィは説明が大変だけど、説明してもそれほど議論を強める訳ではない」という事情があるためです。

SECTION 2. フィロソフィを説明する

フィロソフィをどのようにアーギュメントの説明に組み込むか、ということもまた重要な問題です。ここでは、実際に自分たちの議論を説明する時にフィロソフィをどのように扱うべきか、何に気をつけるべきか、説明します。

(1) 立論での位置

アーギュメントの説明は大きく分けて、プロセスとインパクトの2種類に分かれる、という風に習ったと思いますが¹、フィロソフィはこの中のインパクトに組み込まれます。これは、プロセスが「このモーションを取ると、世界は今の状態（いわゆる Status Quo）から別の状態（いわゆる Post Plan）に変わる」という主張をする場で、インパクトは「変わった状態は**すごく**良い/悪い状態である」という説明をする場であること、変化に対する価値判断は基本的にインパクト的な要素によることに由来します。これまで説明してきた様に、フィ

¹ 「プロセス」とは、本教科書内の用語では大まかに Reasoning に、「インパクト」とは、Importance と Relevancy に対応します。

ロソフィの役割は、自分たちのチームが支持する状態（肯定側は Post Plan、否定側は Status Quo ないし Post Counter Plan）は両チームが共に同意する（＝望ましいと認める）ゴールに合致すると主張することだからです。

この点を先ほどの社会福祉の例で考えましょう。「富の再分配が平等という価値に合致している」という説明は問題ないと思われそうですが、特定のモーション（例えば社会福祉の拡充のために消費税を上げる）について議論する場合は、「そのプランによって貧しい人もちゃんと十分な教育サービスを受けられる」というプロセスも証明する必要があります。ここで否定側が、「消費税によって多少お金が増えたところで、彼らが相対的に貧しいのは変わらない。子供は家事手伝いなどに従事せざるを得ず勉強に費やす時間は増えない。従って、彼らの就職での不利などは変わらない」などという風に、プロセスに反論を加え、ジャッジがその反論を受け入れれば、インパクトの説明たるフィロソフィが活躍する場は無くなってしまいます。

(2) フィロソフィとプラクティス

次に、フィロソフィ自体を具体的にどのように説明するかを述べます。まずは一般的な議論の構成を確認しておきます。この構成はフィロソフィを説明する際も変わりません：

Claim/主張

↑ …Qualifier/主張と根拠の結びつきの強さ ← Assumption/前提

Reason/根拠

フィロソフィを説明する場ですから、上図の「主張」はフィロソフィ的な主張ということになるでしょう。この時に重要なのは、上図の「根拠」に当たる部分にはプラクティカルな理由付けが必要になるということです。いわゆるフィロソフィが重要なものとして長く伝えられているのは、そうした諸価値が実際に人々に利益をもたらすためである、という考えがこの構成の根底にあります。フィロソフィの評価に一般の道徳的確信（直観）が関わってくるのもこうした理由からです。

自由という概念の構想である「政府は市民の自由を尊重すべきである」という議論を考えてみましょう。よく言われる理由としては、「自由裁量の範囲では、各々の市民は自分にとって最善の選択肢を選び、幸福を追求することができる。だから、自由を保障して、彼らが一番幸福になるような選択を可能にしなければならない」といった感じでしょうか。理由を掘り下げれば掘り下げるほど、直観的に「プラクティカルなベネフィットである」と判断され

るような議論で根拠付けが行なわれるようになっていきます。理由を深めて議論の蓋然性を増すことがここでの目的ですが、同時にフィロソフィにインパクト（ないし重要性）を付加するという機能も持っています。

ここに見られるように、フィロソフィカルな議論とプラクティカルな議論は結局のところ分かち難く結びついており、「何がフィロソフィで何がプラクティス」という風に両者を分けて考えることは不適切であるとも言えます。従って最近では、ディベートにおける議論の要素を「差異 (Difference)」と「原則 (Principle)」という用語で分類、理解しようという声も出てきています。詳しく説明することはできませんが、差異というのが現状とプラン後などで何が異なるか（プロセス）とその違いがどれほど大きいものか（プラクティカルなインパクト）を、原則というのがなぜ政府は差異によって生じる変化を重視するべきなのか（いわゆるフィロソフィ）、を意味します。とはいえこのレッスンの中では説明の便宜上、今までと同じく「フィロソフィ」という語を使って説明していきます。

(3) フィロソフィの選択

フィロソフィの理由付けに加えてもう1つ、「適用性 (Applicability)」という要素もまた押さえておきましょう。これはつまり、自分たちのフィロソフィと、プランあるいはモーションはどのような関係にあるのか、という問題です。

この要素は、具体的には「トピックの分析」「フィロソフィの範囲」という2つの側面から成り立ちます。前者が、「自分たちはどのような対象に関する議論をおこなっているか」を意味し、後者が「自分たちのフィロソフィはどのような対象に対して適用可能か」を意味します。要するに、「私が話しているフィロソフィは今の議論と関係ありますよ」ということの提示です。

死刑に対する報復的正義の問題を考えると、「たくさん人を殺した殺人犯を死刑で裁くのは報復的正義にかなっている」という議論では、「死刑とは報復的正義の問題である」という議論がトピックの分析、「人をたくさん殺した殺人犯を」という限定がフィロソフィの範囲になります。先ほど少し触れた、「死刑の是非を論ずる際に、報復的正義（＝殺人犯は重い罰で裁かれるべきである）という考えを無視するとほぼ負ける」というのは、この文脈で全く関係ないフィロソフィを出してしまった場合に当たります。

この適用性の説明は、慎重にフィロソフィを選べば、スピーチの中で明示的に言わなくて済む場面が多いかと思います。とはいえ、自分たちのフィロソフィを機能させるためには常に意識しておくことが必要となります。適用性を巡って対立が起きた場合、もしくは対立が予想される時（例えば「人工妊娠中絶は個人の選択の問題なのか、他人の命の問題でもあるの

か」といった場合)は、Range (自分たちのフィロソフィはどんな問題に対して有効なのか) と Analysis of the Topic (自分たちはどんな問題について議論しているのか) についての主張と、その理由付けが求められます。

(4) アーギュメントとは別に説明されるフィロソフィ

さて、フィロソフィとは基本的にアーギュメントのインパクトの一部である、という話を最初にしましたが、これに必ずしも含まれない事例があるのではないかと考える人がいるかもしれません。例えば、「消費税を上げよう」というモーションで政府側(特に Prime Minister)が、負担の平等という観点から、「なぜ消費税が財源としてふさわしいか」論ずる場合があります。

負担者の平等を説明しようとしまいと、政府は消費税によって新たな予算を確保し、社会福祉などに回すことができるというベネフィットは成立します。逆に、どんなに消費税が平等だろうと、増税には変わりなく、いかに負担が平等であっても経済的負担を受けることには変わりはありません。一見すると、この負担の平等という話は、何故わざわざ説明されたのかわかりません。この様に、フィロソフィがチームの議論に関係しないように思われるにも関わらず、提出されるような場合がしばしばあります。

こうした議論の狙いに関しては、否定側が現状維持以外のスタンスを取ってくるのが予想される場合に備え、あらかじめ自分たちのプランの独自性を強調している、と解釈することができます。消費税の例を続ければ、これは否定側から「消費税でなくても、所得税を導入すればよい」といった、オルタナティブでの反論やカウンタープロポーザルが出される場合の予防と言えます。「なぜ他の形の増税ではなく、消費税でなければならないか」その独自性を示せなければ、自分たちのチームの優位性を示せなくなります。

この否定側から代案が示唆された状況では、「どのみち税収が得られる」「どのみち市民は税を負担する」ことになり、市民負担はどの様な形であるべきか、という点が有効なアーギュメントとして前面に出て来ます。この様に、予防線を張るためのフィロソフィの説明は、ともすれば無為に時間を消費してしまうことにもなりますが、相手の行動に備えて保険をかけておくという意味では、有効な選択肢だと言えるでしょう。

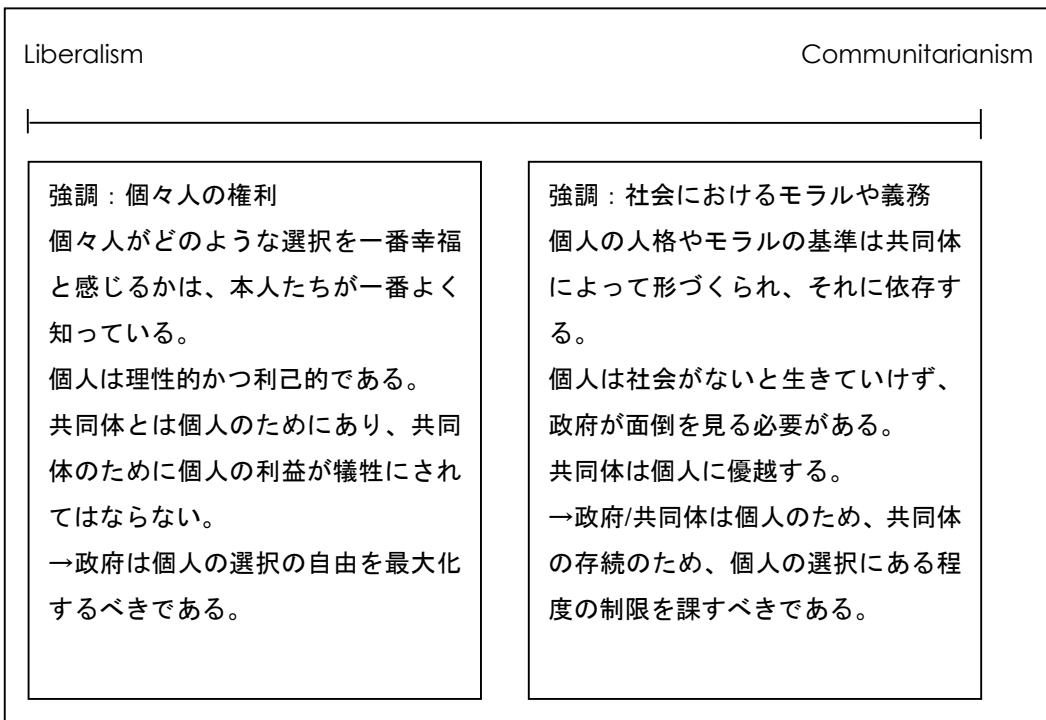
SECTION 3 本題：クッキーカッターのリスト

これから、トピックごとの主なクッキーカッターを、根本的な価値の概念や構想を参照しながら見ていきます。内容的には大学の授業で習うような話が多くなっていますが、あくまでディベート用にカスタマイズされたものであり、学問的な厳密さに耐えるような分類や概念の解釈ではないことを覚えておいて下さい。

(1) リベラリズムとコミュニタリアニズム—基本の型

まずは、最も基本的なクッキーカッターから導入します。多くのモーションは、「政府が人々に好きにやらせるべきか、ある程度まで行動を制限するべきか」という対立軸を取ります。クッキーカッターではこれを便宜的に、「リベラル（自由にさせるべき）vs.コミュニタリアン（共同体のために行動を制限するべき）」として理解します。厳密な意味でのコミュニタリアンとは大分意味の隔たりがあるので、気をつけてください。また、以下では基本的に、クッキーカッターの左側に「より放っておく立場」を、右側に「より積極的に介入する立場」を配置していきます。

図3. 市民の自由の制限に関する立場



■ 前提

この両立場は市民の自由の範囲をめぐる争っていると言えますが、リベラル、コミュニタリアンは自由の制限に関して2つの点で同意しています。「他者に危害をあたえるような行動は許されるべきではない」という「他者危害の原則 (Harm-to-the-other Principle)」、そして出発点における差別の禁止として「機会の平等 (Equality of Opportunity)」です。政府は基本的に、すべての市民に対して自由を保障するという立場にあるため、ある市民の自由のために他の市民の自由が侵害されることはあってはならないと考えます。例えば、人を殺す自由といったものが認められてしまうと、人を殺したい特定の人はその分自由な選択が出来ることとなりますが、その結果その人に殺されてしまって、自由を謳歌できなくなる人が必ず出てきます。これは他者危害の原則の説明ですが、「人を殺す自由」を「人を差別する自由」などに置き換えると、どうして機会の平等が必要かの説明になるでしょう。

■ 根本的な価値の構想

この2つの立場は別々のものを目指しているようですが、両者は基本的に、「自由」という概念が最も根本的な価値だと考えており、どちらの立場がそれを達成できるかを争っていると言えます。安全など他の価値の実現は、自由があってこそより可能であるとリベラリズムは考えます。つまり、「他の価値は重要かもしれないが、リベラリズムの枠組みの中では、個人には他の価値を達成する選択肢を採る自由がある。自己の責任において、個々人にとって最も良い選択肢を選ばせるべきである」と捉えられます。逆に、コミュニタリアニズムの立場では、「共同体が提供する価値 (後述) は、社会の基盤を整えたり、明らかに有害な選択肢を排除したりするものである。それらの価値に従うことで、結果として個人は、より多くの自由を享受できるようになる。またその結果、他の諸価値の実現に結びつく」という議論が展開されます。この様に、両者には明確なディベート上のクラッシュが窺えます。

■ 立場(1) リベラリズム (Liberalism)

さて、2つの立場のうちで比較的分かり易いのは、リベラリズムの方だと思います。個々の人間は、自分の嗜好について一番良く知っており、彼らに自己についての選択を任せておけば、自然に自分が一番好ましいと感じる選択をして、自然に社会の最大効用が達成される、という考え方です。個人の最大効用について語る時、この議論は大変強力であるといえます。なぜなら、これに代わるどのような代替案をもって、個々人の選好をより効率よく理解し、満たすことのできる行為者を用意するのは難しいからです。

リベラリズムの立場での別の議論として、個人の共同体に対する優越が挙げられます。これも内容自体は簡単で、「共同体というのはそもそも個人を保護するために生まれたのだから、より多くの人を救えるからといって、共同体のために個人を犠牲にしようとするのはおかし

い」という説明です。確かにこの議論はもっともなのですが、単独でコミュニタリアニズムと勝負するのは、これだけでは苦しい場合があります。相手チームから、「共同体は個人が生きていく上で不可欠であり、ある程度の個人が犠牲になっても、より多くの人を救うためにはしかたない」というカウンター・アナリシスが提示される事があります。結局は水掛け論になりがちであり、その場合「より多くの人を救えるから」という理由で押し負ける場合が多いのが実際です。対処法としては、「コミュニタリアン的な価値の導入によってより多くの人を救える」という相手の議論のプロセスに反論を加えるなど、フィロソフィと合わせて、プラクティカルな議論を攻撃すれば良いでしょう。

■ 立場(2) コミュニタリアニズム (Communitarianism) のバリエーション

リベラリズムの対抗馬となるのがコミュニタリアニズムですが、この立場には幾つかのバリエーションがあります。それらは基本的には、各々が支持している「共同体」がどのような価値を推進しているかによって区別することが出来ます。具体的には、「自己危害の制限」「治安」「モラル」「社会統合」「デモクラシー」「社会保障」という価値を挙げることが出来ます。いずれの立場を取るにしても、今の市民生活があるのは共同体のおかげであり、人々はその維持のために協力する義務を負う、というのが基本路線になります。具体的な協力や制限の内容は、やはりモーションに関わる共同体の質によりますが、人々が生きていく上での土台に関わるものであることは確かです。以下では、上に挙げた6つのコミュニタリアン的な立場を、それぞれ簡単に解説します。

コミュニタリアン(A) 自己危害の制限を強調する立場

まず、比較的ソフトな立場として、自己危害の制限を主張する立場があります。この立場は、共同体のためというよりも、個人が誤って自己を傷つけることを防ぎたいという、パターンリスティック(父権的)な理由によって個人の自由を制限しようとしていると言えます。従って、リベラリズムに対して主に攻撃をかけるのは、その「個々人がどのような選択が一番幸福と感じるかは、本人たちが一番よく知っている」「個人は理性的かつ利己的である」という前提です。

カウンター・アナリシスとしては、「本人たちが望んだものだと思っても、人々の嗜好は社会によって形づくられている有害なものである」「人々は自分の将来に関しては楽観的になりがちで、合理的な判断ができない」「人々は目先の快樂に囚われがちであり、有害だと分かっているにもかかわらず行動を改めることは難しい」などが挙げられます。議論に具体性を持たせるため、与えられたモーションを分析して、「なぜ、人はこの選択を行なう際に理性的に振る舞えないのか」という主張に現実味をもたせていくことになるでしょう。代表的な例としては、煙草、麻薬、整形手術の禁止などが挙げられます。また、アルコール

ル類の宣伝の禁止なども、嗜好の形成に主に焦点を当てたものとして、ここに分類されると考えられます。

立証を目指すゴールとしては、「現在許されている、あるいは肯定側によって許されようとしている特定の選択肢は、人々が選択の自由を持つ上で土台となる、安全や健康を脅かすものである。故に、それらに対する制限は、逆に人々をより自由な状態にする」ということでしょう。これを証明するにあたって、選択肢の危険性と共に、人がそれらの選択肢から受ける効用が、どんなに些細なものであるかを合わせて説明すると、フィロソフィカル、プラクティカル両面での説得力を増ことが出来ます。

この証明で使われる古典的な例として、他の誰にも害を与えないにもかかわらず、シートベルトを着用していない自動車のドライバーが罰せられることがあります。加えて、モーションの種類にもよりますが「人々は健康に生きて（=自己危害を回避して）共同体全体の利益のためにコミットしていく義務を持ち、好き勝手にタダ乗りして、社会がもたらす恩恵だけを食いつぶすことはまかり通らない」といった分析も加えることも可能です。

コミュニタリアン(B) 治安を強調する立場

これ以降の立場は主に、「共同体とは個人のためにあり、共同体のために個人の利益が犠牲にされてはならない」というリベラリズムの主張を主な標的としていくこととなります。2番目に挙げられる「治安(security)を強調する立場」ですが、これも比較的分かり易いかと思います。社会を犯罪などから守るために人々は奉仕すべき、というのが基本的な考え方であり、功利主義的な直観にも合致します。大会で扱われた論題のリストを見れば、社会の少数の人（あるいは些細な権利）を犠牲にして、より多くの人々（あるいはより重要な権利）を救うというモーションが数多くあるのに気づくかもしれません。例としては、パターンリスティックな側面もありますが、テロ容疑者に対する拷問や裁判無しでの拘禁の是非、そして銃規制はこの種の論題に含まれるでしょう。他にも、徴兵制に関する論題が代表的な例だと言えます。

コミュニタリアン(C) モラルを強調する立場

モラルという言葉は少し漠然としていますが、基本的には「他の人たちが不快に思う行動を許さない」という立場です。しかし、一部の人に少し不快に思われるだけではインパクトとして弱く、リベラリズムの提示する「選択の自由」（人々は不快なものにアクセスしない自由がある）に対して不利なため、人々に対して著しい不快感をあたえるような行為が主な標的となるでしょう。

一番イメージしやすいのは、特定の宗教が禁止あるいは許可している事柄への制限でしょう。多夫多妻制や、制度化された男女差別、冒瀆的な芸術などです。他にも、ポルノグラフィやヘイト・スピーチもそれぞれ、女性と少数派民族に著しい不快感を与えるものとして挙げられます。付記すれば、これらポルノグラフィとヘイト・スピーチは、特定の犯罪、あるいは特定の集団への犯罪を引き起こすとしばしば論じられます。つまりは性犯罪と人種差別犯罪であり、上手くプロセスの説明が出来れば、前項の治安を強調する立場からも、それらは禁止するべきであると主張できます（実際問題として、例えば「ポルノグラフィで性犯罪が生じる」というプロセスの立証は難しいとは思いますが）。

この例は、1つのモーションに対して単一のクッキーカッターのみが有効なのではなく、複数のクッキーカッターが重なり合うのが常態であることを示しています。試合では、最初に思いついた1つの枠組みだけに囚われるのではなく、様々な角度からアーギュメントを考えていくことが求められます。

最後に、何が社会で許容され、あるいは拒絶されるかは時代と共に変容することを確認しておきます。それ故に、かつてはモラルに関する論題として有効だったものが、現在では試合での肯定否定のサイド間に不公平を与えかねない場合があります。同性婚が良い例であり、今日ではかつてほど、同性婚によって不快感を受ける人はいないでしょう（それ故に、同性婚は社会のモラルに反する云々の議論を出すことは困難でしょう）。サイドによっては、この事例をもって「宗教的価値観も変容するし、変えていかなければならない」といった分析を出すことが出来るかもしれません。

コミュニタリアン (D) 社会統合を強調する立場

社会統合(Social Integration)を推進しようとする立場の問題意識は、現在の国家が人々を統合していく機能を失いつつある、という課題に集中しています。国家が求心力を失った原因としては、文化的側面では価値志向の多元化が、社会、経済的側面では社会的排除(Social Exclusion)が挙げられます。後者に関しては、社会保障の項で簡単に触れることとなりますが、特に前者はリベラリズムがもたらした多様な価値観への直接的な批判となっています。社会統合は人々の心に他との一体感を持たせ、安心した生活を送れるようにする、また能動的な社会貢献を引き出すことによって、社会の効用の総和をより大きなものにする、といった利益をもたらします。例えば公的年金は、集団への貢献を当然と考える人がより多ければ、より円滑に資金を集め、運営できる制度と考えられています。

具体的な政策としては、国民を動員し、1つの価値観のもとで結束することによって社会統合を復活させる、というアプローチが一般的です。このアプローチはさらに2つに分類することが可能で、一方は民族的、文化的な紐帯を強調するもの、他方は同じ社会にコミットしていく市民としての紐帯を強調するものです。前者の例としては歴史教育や愛国心教育が、後者の例としてはボランティア活動の強制などが考えられます。他の立場との関連性を見れば、まず治安の項で挙げた徴兵制なども、ここで説明した市民としてのアイデンティティ確立を促進する役割がある、と指摘されています。また、次に触れる民主的な政治決定への積極的な参加、という民主主義の原理とも整合的でしょう。

コミュニタリアン (E) デモクラシーを強調する立場

民主主義を含む統治機構についての詳しい解説は後に譲り、ここでは民主主義とリベラリズムの間にある、市民の扱いに関する捉え方の相違について述べます。現在の我々が生きている世界は、自由民主主義という、リベラリズムと民主主義の妥協的なものであり、この2つはしばしば矛盾をきたします。民主主義はもともと単に「市民による統治」のみを意味し、例えば古代ギリシアの世界において、「政治に参加しない自由」というものは認められていませんでした。現在の政治をリベラリズム寄りから、人々の選択の自由を制限することにより、いっそう民主主義的なものにしようとする試みがこの民主主義を強調する立場です。投票の義務化は、この立場からの政策案の最たる例と言えます。義務化により、政治に市民の声をこれまで以上に反映させる、政治家の行動をより厳しくチェックできる、市民が政治に参加するための知識や考え方などの訓練をつませるといった、民主主義の一層の確立を実現することが可能だと主張されます。他の例としては、民主主義体制を否定するような主張を持つ政党の禁止なども考えられるでしょう。

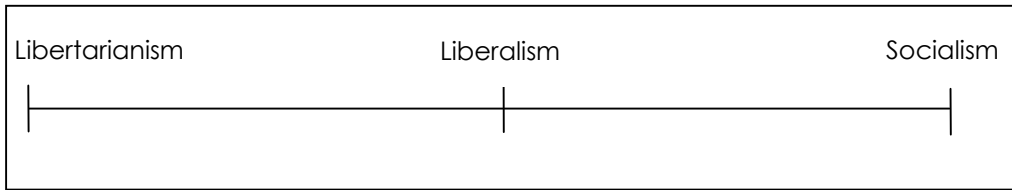
(2) 社会正義

次に社会正義について扱います。これは経済活動に対する政府の介入ということになり、リベラルとコミュニタリアンのそれと構図が似ています。違いとしては、ここでは経済主体の特定の行動に対して介入するというものではなく、人が稼いだお金に対して税金を課し、社会保障の制度に強制的に貢献させる手段を取ることです。結果として、経済主体の所有する財は減少し、政府によって選択の自由が制限されることとなります。

こうした政策は、経済活動の結果としての財の所有は全て社会的な基礎の上に成り立っており、社会の維持のために相応の拠出は正当化される、という認識に基づいています。この点で、より自由な共同体の土台を作っていく為には市民行動の制限は正当化され得るという、

コミュニタリアニズムの立場の類型に当てはまっているとも言えます。

図4 社会正義に関する立場



■ 根本的な価値の構想

上図で示される3つの立場は、「配分的正義 (Distributive Justice)、財がどのように分配されるのが正しいかということに関する規範」という概念の構想をめぐって対立していると言えます。リバタリアニズムとリベラリズムは基本的に「機会の平等」という概念で線引きを行なうことに同意していますが、その機会の平等の構想に関して考えの不一致が見られます。対して社会主義（ここでは分配政策についての立場を指し、旧共産圏における独裁体制などとは無関係なものとして扱います）の立場は、より広範な「結果の平等」を志向します。

■ リバタリアニズム (Libertarianism)

すべての立場からコンセンサスが得られるのは、「能力によらない、人種などにもとづく差別は機会の平等に反しており、受け入れられない」という考えでしょう。これが人々への制限を最低限にするリバタリアニズムの平等観であり、これ以上の、人々間の移譲や取引によらない財の再分配に反対します。この、「人々間の移譲や取引」によってのみ、人々の財産に対する所有権は説明付けられるという考えは、権原理論 (Entitlement) と呼ばれます。何れにせよ、この命題の背後には「本人の責任によらない不平等は不正である」という直観があると考えられます。

ここで問題となるのは、結果の平等が機会の平等と密接に結びついている点です。例えば、誰かが事業の失敗なり怠慢なりで一文無しになったとします。その責任は、その個人に帰せられるものかもしれませんが、親の経済事情のために、その家の子どもが教育サービスを受けられず、就職のための知識や技能が得られなくなる可能性があります。この事態は、子供たち本人の責任によるものではないため、不正であるということになります。この不正を防ぐために義務教育という制度があり、それは税金 (= 市民行動の制限の一形態) によって賄われることとなります。こういった根拠による財の移転をどこまで認めるかに関して、リバタリアンにも多様な立場が存在します。

■ リベラリズム (Liberalism)

これに対してリベラルは、「本人の責任によらない不平等な不正」を受けている人に対して、一定の補償を与えるべきと主張します。その不平等には、心身の障がいや、生まれた家庭の経済状況という先天的なものに加え、社会に適合した能力に欠けている、あるいは事業においてたまたま運が悪かったという後天的なものも含まれます。これら不平等を正す手段として、リベラルは貧しい人への生活保護や失業保険、再チャレンジのための職業訓練など、福祉国家的な政策を支持します。

この立場への反論としては、まず「お金を持っていない人は本当に怠けた結果収入がないのだ（つまり現在の貧困は本人の責任による）」という指摘があります。しかし、上記の本人の責任によらない不平等の原因が存在することへの反論は難しく、リベラルが唱える財の再分配への完全な反論は難しいと言えます。

リベラルの立場は、財の移転を行なった後に依然として残る、所得の不平等に関しては容認します。これは、自らの責任に基づいたライフスタイルの選択を支持すること、そしてより多くの財を稼いでいる人は、労働を通じた社会の総効用に対してより貢献していると考えられること、以上の2点によって正当化されます。

■ 社会主義 (Socialism)

社会主義は上述の2つとは異なり、結果の平等を強調する立場です。ここでは、労働の成果によらず、すべての人々が同じだけの配分を受けられる状態が目指されます。社会主義はもともと、資本主義経済における階級的不平等の克服を目的として考案された考えで、その手段として生産や配分の手段・方法を社会全体で共有することを提案します。また、この立場の労働観として、労働とは芸術などのように自己表現や自己実現のために行なわれるべきであり、生活の必要に追われて自らの望まない労働に従事することは、文化的な人間が営むべき生活とはいえない、と捉えられています。

社会主義に影響を受けた政策は、現在ではかつての旧共産圏のような官僚機構による所得の配分ではなく、概ね市場経済のメカニズムを利用したより現実的なものになっています。全ての市民に、就労状況に関係なく一定の収入を払うベーシック・インカムや、スウェーデンなどで採用されている、同一の職種すべてに同一の賃金水準を適用させる同一労働同一賃金の政策など、社会主義の影響を受けたと考えられる政策や提案は根強く存在します。

■ 社会保障と社会統合

最後に、福祉国家の行き詰まりと社会統合との関係についても少し触れておきます。現在、

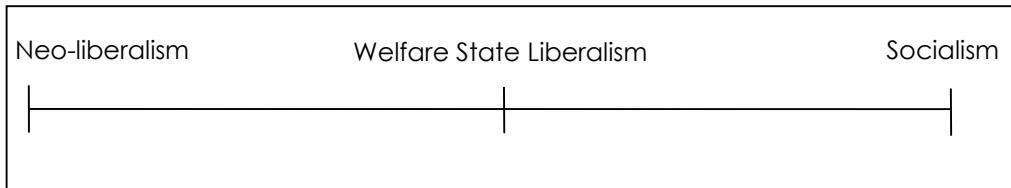
福祉国家が行き詰っているとされる理由として、1 つには福祉国家が人々の働くインセンティブを削ぎ、低成長をもたらしていることが挙げられます。累進課税による財の移転が、労働者に一定以上の労働を行ない、生産性を高めることを阻害していると指摘されています。もう 1 つの理由には、グローバル化の影響があります。多国籍資本が形成された今日では、福祉国家内の高い税率を避けたい企業は、経済活動の拠点を海外に移す傾向があるとされます。企業の海外移転は、国内の法人税収入の減少へと繋がり、結果社会保障や雇用保障が後退することになります。

この 2 つの要因の帰結として、都市部では政府からの保障に生活の基盤を頼る社会層を生み出し、地方ではインフラ整備の切り詰めによる荒廃といった社会的排除が進みます。最終的には、国家や共同体に対する連帯感や連帯する動機付けが弱くなり、社会統合が弱まると言うことができるでしょう。

(3) 経済思想—福祉をめぐる効率と公平のトレード・オフ

前節では、財の再分配に関する社会正義からのアプローチを見ました。今度はより実践的な視点から、そうした政策が経済主体にどのような影響を及ぼすことになるのか、というクッキー・カッターを扱います。

図 5 経済思想における諸立場



■ 根本的な価値の構想

これらの立場は全て、人々の福祉を充実させて、よい生活を送らせることを根本的な価値として共有しています。福祉が重要な理由は、それが自由、安全、平等に必要な不可欠なものと考えられるから、ということは冒頭の例で示した通りです。

福祉に関わる要素としては、効率性と公平性が挙げられます。効率性とは、資源や財の配分に無駄がないことを意味し、同じ投入量でより良いものをより多く生産できる時、市場はより効率的であると言えます（例えばモノやサービスの質がよい、値段が安いなど）。公平性とは、基本的に財が不平等なく分配されることで、人々を著しい貧困状態に置かないことなどが考えられます。つまりは、効率が良ければ経済活動から得られるベネフィットの総量が

増え、公平性が高ければその経済活動によるベネフィットが人々に公平に行き渡る、という仕組みです。

■ 前提

経済思想に関しては、経済主体のインセンティブに基づいた経済主体の間の競争と需要と供給の法則が分析方法として用いられます。基本的には、このメカニズムに基づいて人々が自由に行動すれば、経済活動からの効用は最大になるとされます。しかし、何らかの要因で市場メカニズムが非効率をもたらす場合があります、これは市場の失敗と呼ばれます。具体的には、特定の財の供給に対する独占や寡占、外部性の問題を含み公共財の供給、経済主体間での情報の非対称性が考えられます。

逆に政府が市場に介入した結果、かえって効率的な経済活動が阻害されることを、政府の失敗と呼びます。これは、政府による経済政策が思うような効果を出せないことに起因します。経済思想のそれぞれの立場は、市場の失敗と政府の失敗の可能性については共有していますが、どれをより深刻に受け止めるかに関しては意見の不一致が存在します。

政府が市場への介入（税金や補助金、価格の上限や下限の規定など）を行なうと、死重の損失（Deadweight Loss）と呼ばれる市場の効率性の阻害が発生し、社会全体としての最大効用が達成出来なくなるとされます。しかしこうした介入は、競争の結果生まれた敗者に、社会保障政策を通じて財を配分することを目的とすることが多く、この時に効率性と公平性のトレード・オフが発生します。

■ 新自由主義（Neo-liberalism）

新自由主義は基本的に、政府は市場に介入せず、市場メカニズムに全てを委ねるべきという立場を指します。この立場は政府の介入による死重の損失といった効率性の阻害を嫌い、経済主体の行動に任せた社会の効用の最大化を目指します。このため、富裕層は稼ぎを政府に取られる心配をせずに経済活動に従事できますし、貧しい人も政府による救済を見込めないため、より自助努力をすと言えます。

公平性に関しては、政府は積極的に救済を行うべきという立場は取りませんが、経済活動が効率的になれば、自然に貧しい人々にも財は供給されると主張されることがあります。税負担が軽くなり、企業の業績が上がれば、より多くの貧しい人への雇用機会が生じ、また新しくお金持ちになった人の消費により経済が活性化し、結果そうした財を供給するために働いている貧しい人々の収入にも繋がるという、トリクルダウン理論がこの典型だと言えます。

市場の失敗という問題に対しては、この立場では、政府であろうと市場であろうと失敗はどのみち発生するのであり、そうであれば市場に任せたほうがより効率的な結果を生むのではないか、と主張することが多い様です。

■ 福祉国家的リベラリズム (Welfare State Liberalism)

福祉国家的リベラリズムは、新自由主義と対照的に、税金と社会保障を通じた財の再分配を主張します。これまで述べた通り、政府による財の再配分には、幾らかの懸念が伴います。まず死重の損失によって経済活動の効率性は阻害されますし、富裕層・貧困層の両者が共に働くインセンティブを削がれるかもしれません。これらの問題に対して、福祉国家的リベラリズムの立場からは、公的機関による財の再配分があっても依然として労働の成果は賃金に反映されるため、人々は働くインセンティブ全て失ってはいないと反論があります。さらに、現在働けないほどに貧しい人などを救済することで、人的資本の面で逆に市場がよく機能するようになる、と主張されることもあります。

公平性に関しては、市場における敗者や貧しい人の救済を積極的に支持するため、一般に新自由主義と比較して公平性はより確保されると考えられます。この主張を試合で提示する場合は、自分たちのチームが支持する具体的な社会保障政策などが、どのようなプロセスを通じて社会的弱者へと配分されるかの説明が不可欠となります。最後に、この立場の特徴として、どちらかと言えば市場の失敗に対して積極的に介入していく政策を好むと考えられています。

■ 社会主義 (Socialism)

社会主義は上述の2つの立場とは企業に対する認識が異なり、企業と資本家が行う労働者の「搾取」を防ぐことを念頭に置き、政策を論じます。この立場によれば、企業は自らの利潤を最大化するために、可能な限り労働者の待遇（賃金水準、労働条件など）を悪くするもので、自らの労働力以外に売ることがない労働者はそれに従わざるを得ないとされます。そのため、効率的な市場とは、基本的に資本家を利するだけのものであり、政府の統制を通じて労働者を保護する必要があると主張します。

こうした理念に基づいて政策が施行されるため、公平性の点ではほかの2つよりも充実した政策を実施できる可能性があります。具体的な政策としては、社会正義の項で触れた賃金統制や、資本主義による弱者の排除を防ぐためのインフラ整備の拡充、そして天然資源管理、医療サービスなどの国営化が挙げられます。これらにより、公共サービスを無料ないしは低価格で提供したり、収益を度外視した雇用によって貧しい人を雇って救済したり、といった政策が可能になります。

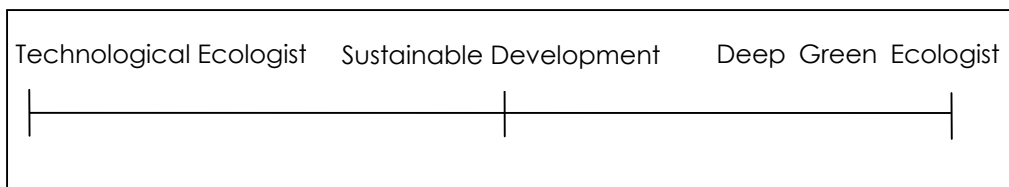
社会主義の立場では、市場の失敗を防ぐため、必要とされる以上の政府による介入を行うのが常です。その結果、市場の失敗という問題が表に出てくることはあまりありません。その一方で、政府の失敗に類する問題は多く存在すると言えます。

まずはそもそも、1つの政府が市場の需要を見通して経済政策を施行出来るのかという問題があります。他にも、国民の短期的な経済利得を重視するあまり、国営企業の事業を維持するための投資が疎かになりがちであるとの指摘もされます。また、政府が自らへの権力集中を志向するあまり、逆に労働者や少数派集団への圧迫を行なう可能性もあります。効率的な市場においては、このような腐敗は競争によって淘汰されますし、政府はここまで大きい権限を与えられないでしょう。

(4) 環境問題

経済活動は経済主体の需要と供給を反映して機能しますが、そのメカニズム内で解決されない問題があります。代表的なものが、市場の失敗における「外部不経済」と呼ばれる問題です。経済活動による公害などを、経済活動の枠組で解決できるのか、政府が介入していく必要があるのかという問題に関して、やはり3つの立場が争っています。

図6 環境問題における諸立場



■ 根本的な価値の構想

すべての立場が共有しているのは、「環境は守られなければならない」という認識です。環境の悪化が、我々の健康や生活の基盤を脅かし、自由や安全などの価値を侵害するという問題意識があります。そのため全ての立場は、どのような世界であれば環境がより良いものになるか論証する必要があります。もちろん、試合で扱われている環境問題があまり深刻ではないと考えられれば、例えば経済活動との比較において優先順位を付けることは可能です。

■ 立場(1) テクノロジカル・エコロジスト (Technological Ecologist)

テクノロジカル・エコロジストは、市場への規制などは行なわず、経済効率を最大化することで技術の進歩スピードを速めていき、長期的な観点から環境問題への解決にアプローチす

るというスタンスを取ります。企業においては、収益からの研究開発費が増えることで、環境を悪化させない製品や技術をより考案し易くさせる、消費者には可処分所得を多く確保することで、通常高価な環境に良い商品へのアクセスを確保していく、といった影響が考えられます。政策的には、市場の効率を阻害するような規制の廃止、あるいはそのような規制がない場合には現状維持ということになるでしょうか。

■ 立場(2) 持続可能な開発 (Sustainable Development)

持続可能な開発とは、将来の世代の利益や要求を充足させることを妨げない範囲で、現代世代が環境を利用していこうとする立場です。この背景には、経済と環境は共に我々が生きる上での土台であるという認識の下、両者を同時に追及するような節度ある開発の支持があります。従ってこの立場としては、国や企業の経済的な発展段階を考慮して環境問題対策への分担を割り振り、より不利な立場にある国などは負担を免れることもあります。

政策としては、温暖化問題に際して国ごとに二酸化炭素排出量を割り振る、加えてその排出権の取引によって各国の無理のない負担量を実現する、といったアプローチが挙げられます。京都議定書なども、持続可能な開発の理念に則って起草されたものだと捉えることが出来るでしょう。

■ 立場 (3) ディープグリーン・エコロジスト (Deep Green Ecologist)

ディープグリーン・エコロジストは、環境問題は深刻かつ急を要する課題であり、経済成長よりも優先されるべきだとする立場です。環境が確保されなければ経済も成り立たない、自然破壊は世代を越えて人類に甚大な被害をもたらすという様に、環境問題を非常に深刻なものとして捉えることになります。例えば炭素税の様な、経済成長にはマイナスの影響を持つが、環境保護への圧力も大きいことが予想される政策などは、ディープグリーン・エコロジスト寄りとして捉えることができるでしょう。

■ 懐疑主義の視点

これまでの立場は全て、環境問題があると仮定した上でそれを解決していくというものでした。懐疑主義はこれに対して、本当に環境問題が存在するのか、という疑問を投げます。例えば地球温暖化問題に関して、懐疑主義論者がどのような分析を加えているかは個々人のリサーチに委ねたいと思いますが、一般的には「環境問題が存在しない(あるいは深刻でない)ならば、経済成長を鈍化させる環境保護政策は単なるお金の無駄である」と主張します。

この視点を取り入れる場合は、プランを取ろうが取まいが環境問題は存在しない(もしくは、取ろうが取まいが同じ程度に悪化する)、あるいは少なくとも存在しない可能性があ

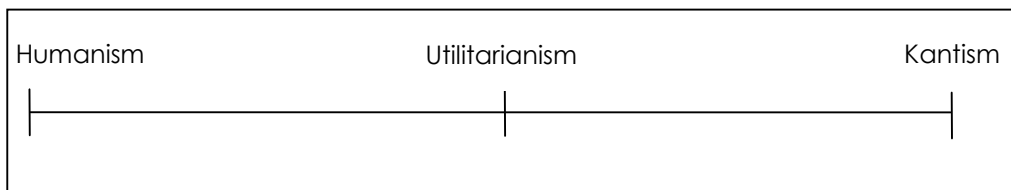
ると論じる必要があります。実際の試合では、この懐疑主義の視点を、1つの独立した立場に昇華させて用いることは殆どありません。多くは、経済政策を阻害しない立場であるテクノロジー・エコロジストとの折衷で用いられます。対戦相手がディープグリーン・エコロジストの場合は、持続可能な開発の立場でも一応、この視点を取り入れることは出来るでしょう。

(5) 動物の権利—権利の根拠

環境問題の一部としての分類も可能ですが、少し違った扱いを受けている分野として、動物の権利の問題があります。動物を傷つけても自然環境への影響がない場合（動物実験の問題など）は、環境問題としてではなく、以下で説明する動物の権利の枠組で理解する方が好ましいと言えます。

加えると、逆に、生物多様性の問題など、動物を扱ってはいますが、むしろ環境問題として理解をした方が良い場合もあります（ただし、生物多様性の問題を扱う時にも、種を残す権利など動物の権利の要素は入り込み、この意味において動物の権利というアイデアはより広範に用いることが出来ます）。また、動物の権利を擁護する際にも、動物を個体として重要だと見なすか、種として重要だと見なすかで、続く主張に違いが出ます。

図6 動物の権利における諸立場



■ 前提

動物の処遇に関するディベートでは、フィロソフィの議論がかならず必要になってくる、としばしば言われます。その理由は、フィロソフィを伴う価値判断の議論なしには勝敗を決める基準がなくなってしまうためだと考えられます。双方のチームが単に、「人間が楽しめる」「動物がかわいそう」と主張しあうだけでは議論は平行線をたどり、ジャッジの主観で勝敗が決められてしまうことが珍しくありません。

動物実験や狩猟に相当する行為を人間に対して行なうことは、当然ながらとても正当化されることはありませんが、両者を区別する根拠は何であり、また動物に対して許される行為、許されない行為の境界線はどう引くべきなのか、これらを含めて権利の有無を論じることが一般的になっています。

■ 立場(1) 人間至上主義 (Humanism)

人間至上主義とはその言葉通り、人間は人間自身を優先するべきであって、動物に権利などを認める余地はない、という主張です。この立場はよく人間社会の内部の話を引き合いに出します。まず「人間の社会でも、基本的には他人より自分の家族や友人を大事にするし、他の国がどんなに貧しくとも、自国の社会保障政策を優先して予算配分をするのが普通である」と確認します。その上で、人間という種が自らの同胞を他の動物と比べて圧倒的に優遇するのは当然であり、故に動物を食おうが享楽のために殺そうが、人間の利益になるならそうすべきだ、と主張します。

人間至上主義のアナロジーに対して、動物の権利を重視する立場からは、「現在は人種に基づく差別は禁止されており、自分と違う人種だからといって殺しが正当化されるなどとは考えられない」という反例を出し、別の基準から動物の権利を論ずることになります。

■ 立場(2) 功利主義 (Utilitarianism)

功利主義はすべての人間、生物の総効用を基準にして価値判断を行なおうとする考えであり、この立場からすれば、動物の扱いに対して「同程度の効用をもたらす代替案があり、なおかつ動物に残虐である行為は止めるべきだ」というスタンスを取らせます。例えば動物実験なら、アニマルフリーという動物実験に抛らない化粧品開発が現実的になっているため不要である、あるいは極度の痛みを伴う実験を行わないことにする、などの主張が考えられます。

功利主義に基づいたよりラディカルな提案として、野菜を食べれば動物の効用を犠牲にすることなく人間は生きていけるとの認識に基づき、菜食主義が提唱される場合もあります。これは、動物の権利に関する主張のなかで、最も日常生活と関わる問題提起だと言えるでしょう。

この提案の背後には、人間に食べられる過程で、動物が極度の痛みを感じており、生物の総効用を著しく損ねているという認識があります。動物は人間より劣ったレベルではあるが、確かに自我や痛みを感じる能力を持っており、故に食ってはならないと論じられます（この論理を敷衍すれば、自我や痛みを感じる器官がそれほど発達していない動物、あるいは胎児の権利がいかに限定されるかという話につながります）。

■ 立場(3) カント主義 (Kantism)

カント主義者もやはり、動物が苦しんでいること、自我を持つことを理由として、動物虐待が倫理的に正当化できないことを主張します。この立場が他と異なるのは、カントの「人格を手段としてのみ用いてはならない」という議論を下敷きにしていることで、これに従えば

極度の痛みを伴うことの無い場合であっても、正当化できないこととなります。カント主義的な考えは人間に対しても広く採用されており、臨床実験において医師ではなく、個々の人格に選択する機会を与えるインフォームド・コンセントなどはその例と言えます。²

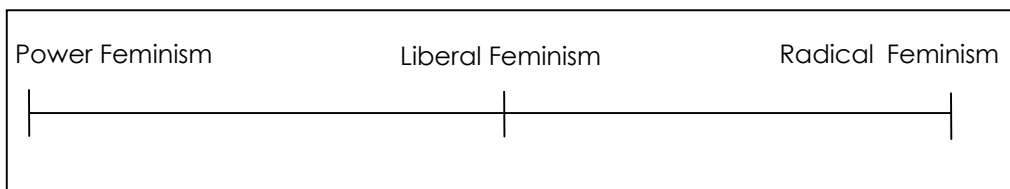
カント主義者はその議論を正当化するため、なぜ動物に自我が認められるか、なぜそれにもかかわらず人間が最終的には動物より優先されるのか、という問に答える必要があります。これに関してカント主義者は、動物は人間より「劣ったレベルではあるが」自我をもっている、返答します。これを立証するために、例えば動物の頭に印をつけた上で鏡に映った自分の姿を見せ、頭の上の印を取ろうとすれば、動物は鏡に映ったものを「自分」だと認識できている、すなわち動物にも自我がある、という動物心理学の研究結果が引用されることもあります。

ただ、この種の議論を展開した場合、功利主義と同様、通常の人より劣った自我を備えていると考えられる人間の赤ん坊などをどう扱うのか、といった反論に晒されることになり、何らかの対策を用意する必要があります。

(6) フェミニズムと平等問題—機会の平等への異議

さて、最初にリベラリズムとコミュニタリアニズムを解説した時、両者の間には機会の平等を最低限の平等とする共通認識があると述べました。これに対してフェミニズムの諸理論は、機会の平等の恩恵を受けていない立場として女性を挙げ、一層の平等の拡充を求めることとなります。

図7 フェミニズムと平等問題における諸立場



² この点に関しては、蔵田(1996)の次の一節が参考になります：「たとえば功利主義の立場では、治療の要素を全く含まない医学実験でも、そこから得られる利益が被験者に与えられる不利益よりもはるかに大きいのであれば、それが被験者にとってきわめて危険（あるいは不快）な実験であっても正当化されかねない。しかしこの『カント的制約』は、そのような非治療的医学実験の功利主義的正当化を制約する条件となる」

■ 根本的な価値の構想

前提として、全ての立場は機会の平等を支持しているため、性差による差別はあってはならないとの共通認識があります。ここでは男女の平等という概念の構想をめぐって、ではどのような状態が望ましいかという点で議論が戦われます。

■ 立場(1) パワー・フェミニズム (Power Feminism)

パワー・フェミニズムとは、現在は既に男女雇用機会均等法なども整備されており、男性も女性も自らの望む仕事に就けるのだから問題ない、という立場を指します。現状において、男性と比べて女性の方が賃金の低い仕事に就くことが多いのも、専業主婦が多いのも、女性の国会議員が少ないのも全ては個人の選択の結果であると主張します。現在不利を被っている人が実際にいるという指摘に対しても、その気になれば女性労働や女性議員を支持する NGO 団体の支援を利用することも可能であり、国が積極的に女性優遇政策を取ることは逆に平等に反する、とします。

またこの立場は、残りの 2 つの立場が支持するような女性への積極的な差別 (Positive Discrimination) に対して、こうした政策は逆に「女性は保護されるべき、弱いものだ」というようなメッセージを送ってしまい、女性の権利に対して逆効果である、として反対します。むしろ、政府の補助なしに、自分の力で社会の中で頭角を現し、能力を示すことによってこそ女性の権利は皆に認知され、保障されることになる、と考えます。こうした点で、厳密な意味でのフェミニズムとはやや趣が異なります。

■ 立場(2) リベラル・フェミニズム (Liberal Feminism)

リベラル・フェミニズムの主張は、現在不利を被っている女性の労働者や議員数を、法的手段を通じて増やしていく、というものです。パワー・フェミニズムとの違いには、現代社会に対する世界観の違いがあると言えます。すなわち、今の社会構造は女性に対する差別が正当と見なされていた時代に形づくられており、男性により有利に働くようになっているとされます。アプローチとしては、より女性の声を反映させる社会の枠組を作って、女性の地位を徐々に向上させていこう、というものを採ります。

例えば、男性の国会議員でも女性の有権者からの要求は聞いてくれるが、実際に法案などを作成する作業に国会議員として女性自身が関わらないと、現在の制度に対する細かい不満や改善点を直していくには不十分である (この辺りがパワー・フェミニズムに対する批判になります)、という指摘があります。男女同権の問題で女性として避けがたく、特に重要な論点とされるのが、出産に伴う不利や不便に関する問題とされており、ディベートでも具体例として使うと良いでしょう。

■立場(3) ラディカル・フェミニズム (Radical Feminism)

現在、女性が依然として不利な立場に置かれているという問題意識はリベラル・フェミニズムと同じですが、この立場はそうした社会の仕組みは世の男たちが女性を支配し続けるために、半ば意図的に作り出したものだ、と考える点が特徴的です。そのため、ラディカル・フェミニズムは社会にある性別による分業や女性への抑圧、それを促進する価値観、そしてその価値観を滋養する様な社会制度やイベントを積極的に攻撃します。具体的な標的は、美人コンテストやポルノグラフィ（「女性は美しくあるべき」というメッセージを与え、女性は性の対象であるという社会的な雰囲気を作り出すとされます）、異性愛の風潮、結婚から家族（女性は家族の中に納まり、仕事する男性を支えるべきという風潮を作り出すとされます）など、社会のシステムに幅広く及びます。

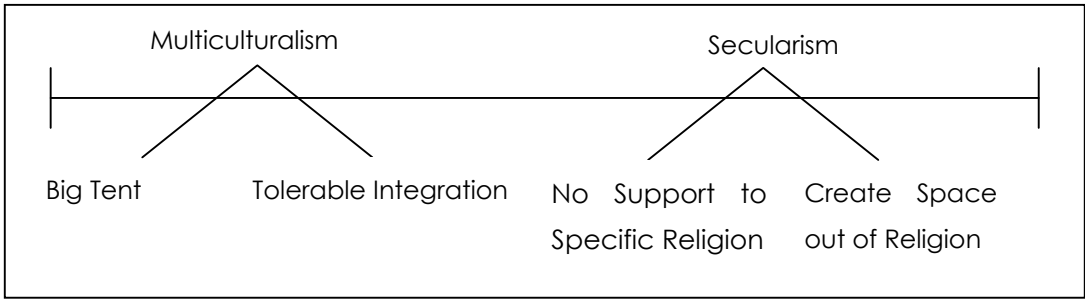
実際の試合における、ラディカル・フェミニズムの立場の使われ方は、他の立場とは異なります。チームがスタンスとして採択し、徹頭徹尾その見方に沿って試合を戦うのではなく、一般的には、様々なモーションを分析するための一視点として、有用なものと捉えられています。これは、モーションとフィロソフィのつながりを示すのが若干難しい他、人によってはいくら説明しても、ラディカル・フェミニズムの現状分析は非現実的だと捉えられてしまう場合もあり、自分たちのチームの主張をすべてこの立場に基づかせるのはリスクが高いためです。上に挙げた例の他に、多夫多妻制やホワイトカラー・エグゼンプションにも、このラディカル・フェミニズムの視点を導入することは、ある程度可能でしょう。

(7) 多文化主義—異文化の社会統合

続いて、やはり平等の問題に関して重要な論点といえるのが、多文化主義(Multiculturalism)です。ここでは、異なる文化的・宗教的背景を持つ少数派集団と、多数派がどのように共存していくのか、という問題を主に扱います。立場によっては、社会統合を強調するコミュニタリアンと重なる点があり、以下でも何度か関連について触れます。

多文化主義に関して重要なのは、個々人に対しての政策の影響だけでなく、異なる文化的、宗教的背景を持つ少数派集団自体への影響も考える必要がある点です。少数派集団は、その構成員に対して、文化的伝統の伝承を通じてアイデンティティ確立を助けている他、就業斡旋といった生活の基盤も提供する機能があります。その集団が政策によって変容を求められれば、結果として社会における大きな便益、あるいは不利益が生じる可能性があります。従って、個人に対する働きかけに加えて、彼らが持つ文化あるいは所属する集団に対しての望ましいアプローチのあり方も、フィロソフィに組み込まれることとなります。

図8 多文化主義における諸立場



■前提

まず背景として、「異なる文化的背景を持つ少数派集団」として、どのような類型があるのかを確認しておきます。類型としては5種類あり、それぞれ「ナショナルな少数派（国家ができる前からその地域に住んでいる少数派集団）」「移民集団」「孤立主義的な民族宗教的集団（伝統的な生活様式を求めて近代社会との接触を断とうとする集団）」「外国人居住者」「アフリカ系アメリカ人」となります。それぞれの集団は異なる歴史的経緯を持ち、現在も異なる状況に暮らしているため、ディベートに際して若干注意を要します。

■ 根本的な価値の構想

基本的な目標は、異なる文化的集団間の平和的共存、となるでしょう。それに加えて、それぞれのグループが自らの文化的価値観に基づいた生活をおくる権利を実現させる、ということも重要な目標です。この少数集団が独自の文化を維持する権利を、共同体の権利（Community Right）と呼びます。先ほど述べたように、こうした集団の構成員は、独自のアイデンティティによって自己を確立しています。彼らは、例えば脱文化的なリベラリズムや、各国での主な宗教的慣行の中で生きる際に、自分たちのアイデンティティについての承認や敬意を得られていないと感ずることがあります。共同体の権利とは、この社会からの排除感の問題を踏まえて、認められるようになった権利です。

これら2つの基本的な目標を鑑み、充足を試みるアプローチとしては、「差異の承認」「国家への文化的統合」「文化中立的な政策」「国家への市民的統合」という考え方があります。それぞれ、以下で説明する4つの立場に対応します。前の2つが「多文化主義」に、後の2つが「世俗主義」に単純化される場合もありますが、基本的にそれぞれ異なる考え方です（ディベートで「多文化主義」あるいは「世俗主義」という用語を使う場合には、より厳密にどの価値観を指しているのか、注意して下さい）。

■ 立場 (1) 多様性を志向する多文化主義 (Big Tent)

多様性を志向する立場の多文化主義は、異なる立場の文化的集団が持つ価値の尊重を目指します。そして、少数派の文化や宗教などを積極的に支持し、市民の間での認知を広める政策が採られます。つまり、ひとつの価値に対する社会統合ではなく、多様な文化を包摂する機関としての国家の貢献を促していると言えます。カナダでのケベック州における英語とフランス語の2言語教育や、アメリカ合衆国における英語とスペイン語の2言語教育が例として挙げられるでしょう。よりラディカルな政策として、選挙における投票の単位を、各個人ではなく各文化的共同体に再構成して、共同体間でより平等に政治的影響力を行使できるようにしよう、という試みもあります。

この立場を選んだ場合の問題として、自由主義的な諸価値と対立する少数派集団の扱いがあります。つまりは、上で挙げた少数派集団の中の「孤立主義的な民族集団」に関してですが、この集団は近代的な価値観の中で生きることを拒否し、農耕や狩猟などの伝統的な生活を営んでいます。彼らにとって電気や石油を用いた生活や、「選択の自由」などの価値は「墮落した生活」であり、文化的共同体の中の若者がそうした価値観に触れるのを防ぐため、義務教育の免除など（自由主義社会に生きるための基本的な土台作り）を主張します。彼らの要求に対して、どう応じるべきかが、現代の多文化主義理論の課題となっています。

■ 立場(2) 文化的統合を志向する多文化主義 (Tolerable Integration)

それぞれの文化が持つ多様性を認識した上で、単一の国民的な文化的価値への統合を図ろうとするのがこの立場です。国民全員が共有すべき対象として特定の文化的価値を広め、それに沿った国民意識の涵養を目指します。基本的な考え方は、社会統合を強調するコミュニタリアニズムの、文化的な統合を促進しようとする立場と同じですが、現代社会が国民統合の機能を失った理由の1つとして、移民の増加による価値観の多様化を強調します。

具体的な政策としては、移民に市民権をあたえる前にその国の言語や文化的価値に関する試験をパスすることを要求する制度や、公用語の統一などが考えられるでしょう。日本における象徴としての天皇制も、国民の文化的統合を狙ったものだと解釈出来ます。

■ 立場 (3) 文化的中立性を志向する世俗主義 (Secularism: No Support to Specific Religion)

世俗主義というのは基本的に、政治と宗教を切り離して扱うべきだとする立場です。加えて、文化中立的な世俗主義は、共同体内の市民の文化的、宗教的営みに関心を持たず、国家が定める基本的な事柄（他者危害の原則や機会の平等）が守られていればそれによしとする立場です。

これまでに出てきたフィロソフィで言えば、個人の選択を重視するリベラリズム（本節の初めに扱った、リベラル、コミュニタリアンと言ったときのリベラリズム）との親和性が高いといえます。この立場にとっては、個々人の文化もそれぞれの人に選択される対象であり、多くの人に好かれれば栄え、そうでなければ廃れ消えていくのが当然であり、むしろ望ましいという立場を取ります。

また、親が特定の文化的価値を子供に教え込もうとすれば、それも子供が通う学校や教育方針の選択と同様、親の正当な選択だとして認められることになります。政策としては、他の多文化主義や世俗主義の諸立場が提案するような政策の廃止、反対が挙げられるでしょう。

■ 立場 (4) 市民的統合を志向する世俗主義 (Secularism: Create Space out of Religion)

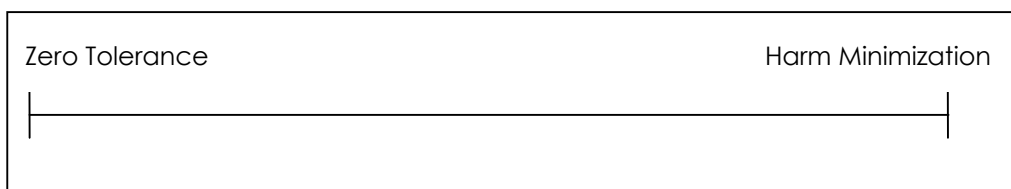
政治と宗教を切り離すというのが世俗主義の基本的な立場だと述べましたが、さらに市民の間に脱宗教的な政治文化を作り出そうというのが、市民的統合を志向する世俗主義の重要な主張です。これは社会統合を強調するコミュニタリアニズムの、市民的な紐帯あるいは絆を強調する立場と重なり合います。

この立場では、公的空間においては、市民は各自が信奉する宗教や文化的な価値ではなく、所属する国家の構成員であることに対してまず敬意を払うべきだと考えます。そして、宗教的習慣などの行為は、自宅や私的な共同体など、公共的空間の外のみで営むべきだと主張します。そのために世俗主義は、学校などの公的な場で宗教的なシンボルを身につけることを禁止する他、議会などの政治の場において、特定の文化的価値観に基づく政策を志向する宗教政党、民族政党の活動の禁止を求めます。

(8) 犯罪への対処—他者危害の原則が破られたとき

これまでのトピックは全て、自由な社会で他者危害の原則が守られている時、政府はどのような政策を取るべきか、という問題に関するものでした。では、社会の誰かが他者危害の原則を破ったとき、または破る可能性があるときは、政府はどのような政策を採るべきなのでしょうか。

図9 犯罪への対処における諸立場



■ 前提

社会にとって好ましくない影響を及ぼす行為は、どのようなスタンスを取るかに関わらず、政府による制限や、犯罪であれば処罰の対象になります。「人を何人も殺した犯人は、とりあえず重い罰で裁かれるべきである」という報復的正義（Retributive Justice）の達成のために、政府が何らかの働きをするべきだ、という点では立場によらず意見の一致が見られます。

争点となるのは、それらの好ましくない影響を及ぼす行為に対して、では政府はどのような指針の下対処すべきか、という点です。クッキーカッターという概念の導入部分で触れた通り、刑罰の重さを決める際には、「為された不正を正すのに必要以上の力を行使しない」という比例原則（Principle of Proportionality）が用いられます。この原則を受け入れるとして、それでは、ある不正を正すのに「必要な力」とは何を指すのか、立場による解釈の違いが大きくなります。

以下では、犯罪者をどのように処遇するかという問題の他に、市民に危険な影響を及ぼす物品の取引（麻薬、銃、煙草、酒など）も扱います。これらを対象としたモーションをめぐることは、同様に比例原則に鑑みて、それらは「禁止するほど危険なもの」であるのか、「政府のコントロールの下で合法化してもよい程度には安全なもの」であるのか、という判断を行うこととなります。

■ 根本的な価値の構想

根本的な価値としては、基本的に「市民の安全」というものがイメージされると思いますが、最終的には安全という要素も「自由」に帰結させられるべきでしょう。というもまず、生命の保証を主に意味する「安全」という価値は、自分が望む生活を送れる「自由」という価値の根拠の1つになるからです。さらに、犯罪のディベートにおいては、犯罪の被害者や、潜在的な脅威にさらされる第三者だけでなく、刑罰を終えた後で犯罪者が通常の市民として社会復帰することも重要な目的となるためです。この理由から、犯罪者への望ましい対処法を考える際に、市民の安全という尺度だけで判断を行なうのは不十分だと言えます。

以下では、それぞれの政策の影響を犯罪行為の1人称（加害者）、2人称（被害者）、3人称（第三者）という、異なる種類のアクターの視点から見ていくことにします。加害者に関しては自首（Confession）と更正（Rehabilitation）、家族を含む被害者に関しては犯人への報復（Retribution）、第三者に関しては抑止（Deterrence）と管理（Control）に主に焦点が当てられます。

■ 立場(1) ゼロ・トレランス

ゼロ・トレランス (Zero Tolerance)とは、犯罪や危険物に対して、「間違っているものは間違っている」という強硬な立場に立ち、厳罰化や禁止政策を支持する立場です。

■ 立場(2) ハーム・ミニマイゼーション

ハーム・ミニマイゼーション(Harm Minimization)とは、犯罪や危険物をむやみに重い刑で裁こうとするのではなく、犯罪者であれば自首や更正を、危険物であれば合法化して政府管理下での流通によるコントロールを目指す立場です。

■ 加害者の視点

一般的に、ゼロ・トレランスとハーム・ミニマイゼーションの双方の立場が、それぞれ自らの立場を反映した政策の方が、加害者をより効率的に更正させられると主張します。前者は、加害者の更正教育に向き合うインセンティブ的な側面を、後者はより重い、長期にわたる罰によって罪の深刻さを理解させることを強調します。

具体的な罰則を考えると、ゼロ・トレランスの立場から肯定されることの多い死刑や情報公開政策など、加害者に関してより重い罰を下そうとする試みは、罰則の種類によっては加害者の更正の機会を奪いかねない、という問題点が指摘されます。この場合、前述の比例原則に基づいて、どうして更生の機会を奪われかねない罰則であっても正当化され得るのか、対象とする犯罪行為の分析が必要になります。

自首による減刑は主に、ハーム・ミニマイゼーションの立場から肯定されます。犯罪に対する罰がより軽くなれば犯人が自主的に警察に出頭する可能性が増すのではないかと、いう考えが根底にあります。刑を軽くするのは、本来は好ましくありませんが、まず法の裁きを受けさせることで、懲役による更正や、加害者が市民としての地位を取り戻す機会を与えることが出来ると捉えられています。

■ 被害者の視点

被害者に関しては、罰の重さによって加害者に対する報復感情が満たされるか否かという点がしばしばディベートで争われます。しかし時には、被害者が望んでいるのは報復ではなく、更正を経た上での加害者の謝罪だという分析が出されることもあり、こうした議論は加害者に対する更正のいかに依存することになるでしょう。

■ 第3者の視点

第3者にとってのある罰則の評価基準としては、抑止と管理という2つの観点が考えられます。抑止とは、第3者が新たな犯罪者または被害者になることの防止を指します。犯罪に

対する罰を重くしたり、危険物を非合法化したりすることで、犯罪を起こしたり危険物にアクセスすることを防ぐ、ということです。麻薬などの危険物を非合法化することで取引コスト（金銭面、安全面ともに）が上昇して値段が上がり、結果として大多数の人々がアクセスしなくなる、というのも抑止の一面だと言えるでしょう。

管理とは、危険物にアクセスした際の被害を最小限に止めることを指します。抑止とは反対に、危険物を合法化することで、人々がアクセスした際も大きな被害を受けないようにすることを指します。具体的には、危険物を合法化することでそれらに対する情報を流通させる、人々の理性的な利用を促す、ブラック・マーケットなどの違法品を駆逐する、といった効果を見込んでいます。麻薬や酒の合法化によって、中毒者が逮捕を恐れることなく病院などの医療機関に行き易くなる、なども管理の一形態だと理解可能でしょう。

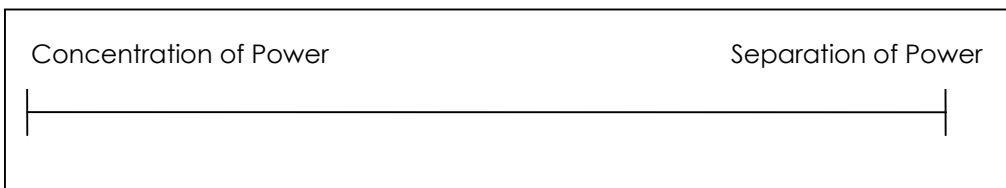
(9) 政治過程—政府をどうするか

以上で、政府は社会に存在する様々な問題に対してどのように対処していくべきか、というクッキーカッターは概ね紹介したことになります。残された問題としては、まずそれでは政府はどうすれば、より人々の生活に益する政策を行なってくれるようになるのか、という課題があります。

■前提

ここでは政治過程を、特定のシステムの上で、様々な種類の主体が自らの掲げる政策目標のために権力をめぐって争う仕組み、として理解します。それぞれのアクターは特定の政策を、自己の欲求充足のために掲げているのかもしれませんが、自らの政治的理念や、国民全体の利益のために掲げているのかもしれませんが。ある政策が実現された場合、市民や国の諸システムにどのような影響が出るかは以下では触れません。各政策の動機や、採択した場合の帰結に関する分析は、それぞれの試合の中で、個別のモーション毎に行われるべきでしょう。

図 10 政治過程における諸立場



■根本的な価値の構想

基本的な目的としては、「市民のための善き統治」の実現があります。そのためには政治家

などで構成される政府の意思決定機関を分権的にするか、権限を集中させるかという選択肢があります。

■民主主義

「市民のための善き統治」を実現するという目的を、現在のところ最も適切に達成できると考えられている政体が民主主義です。民主主義、より正確には現在の代表的な政体である代表制民主主義は、基本的には1人につき1票が割り当てられ、選挙を通じて自分が最善だと思ふ代表を選ぶ制度です。しかし、現実にはそれ以上に多様な理念が、民主主義の条件として考えられます。以下で代表的なものを、簡単に列挙します：

- ・投票の際には1人の政治家や政党だけでなく、それに対する代替政党などが必要。
- ・人々は、政治家が掲げる政治要綱に影響を与えることが出来る必要がある。
- ・投票者は政府の役人やほかの市民によるプレッシャーから守られなければいけない他に、極端な貧困や身体的な暴力から守られていなければならない。
- ・投票者は政治的な議題について議論すること、情報を得ることが許される必要があり、そのためには報道の自由が許されなければならない。
- ・政治的権力の行使は法律などの明示されたルールに則ったものでなければならない。
- ・市民は、選挙で自分の支持する政党が負けたとしても、多数派の決定を受け入れる用意が出来ていなければならない。

これらの条件は、民主主義が未熟とされる国において、具体的にどこに問題があるのかを考える上で役立ちます。また、いわゆる先進国の政治を評価する際にも用いることが出来ます。例えば、選挙における代替政党の存在という最初の条件で日本の民主主義を評価すれば、自由民主党の勢力が強すぎて、代替政党となる存在が、実質的には存在してこなかったという問題点を指摘することが出来るでしょう。

これらの条件が満たされていない場合、民主主義は上手く機能しなくなります。代表の選出などに著しい不備があれば、民主主義でなく権威主義国家と呼ばれる方が相応しい場合もあります。

■立場(1) 権力の集中 (Concentration of Power)

権力の集中とは、より少ない主体が意思決定のプロセスに関わる状態を指します。極端な形態では、何らかの人物や政党、団体などが一元的に政治に影響力を及ぼすこととなります。権力の集中の利点としては、意思決定までの時間が少なく済むこと、アクターの理念をより直接的に反映した、妥協のない政策決定が出来ることが挙げられます。逆に欠点としては、多様な意見を反映することが難しく、政策が特定の見方や立場のみに基づいてしまうこと、

他からの監視が及び難く、特定の団体に対して抑圧的な政策を取ってしまう可能性が考えられます。

権力の集中の主体としては、まず権威主義体制を敷く国家の指導者といった政策指導者がいます。また一般大衆も、選挙制度を備えた民主的な国家において、集中された権力の主体となり得ます。例えば、何らかの強硬な要求を持った一般大衆が、選挙において大多数となった場合、少数派集団や知識を備えた専門家など、他の主体からの異議を無視、排除する権力を持つこととなります。

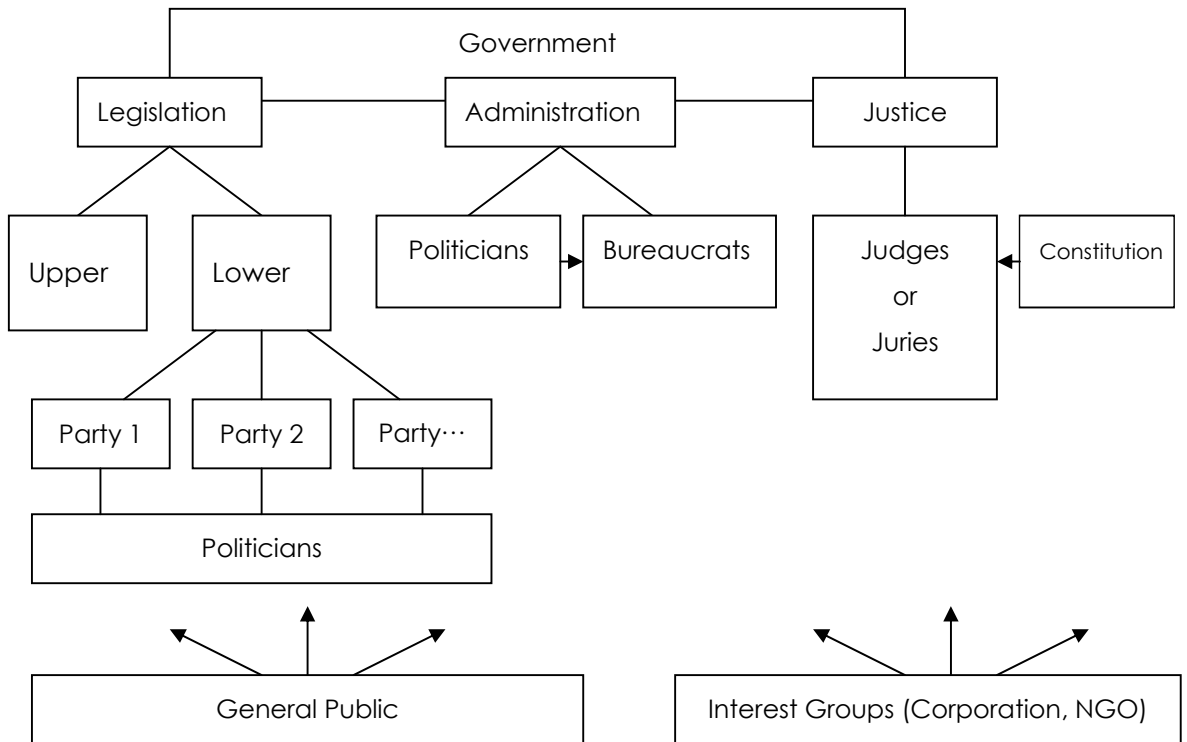
■立場(2) 権力の分散 (Separation of Power)

権力の分散とは、集中とは逆に、意思決定により多くの人や団体などが影響を行使することができる状態を指します。権力が分散している時の人や団体の関係は、2種類に分けられます。ひとつが競争で、もうひとつが協調です。競争とは、それぞれの団体が、他の主体が提唱する政策を押しつけて自らの望む政策を実現すべく行動している関係を、協調とはそれぞれのアクターが協力、交渉を経て政策に対するコンセンサスを形成すべく行動している関係を指します。

権力分散の利点としては、多様な立場からの意見を吸収して結論が出せるため、ひとつの考えに偏りづらいこと、絶えず監視が働いていると考えられるため、政府の腐敗と恣意的な政策を防ぎやすいことがあるでしょう。欠点としては、多数の意見を反映させるため、政策実現まで時間がかかりやすいこと、様々な立場の利害と妥協が反映されてしまい、思い切った政策が取られづらいことが想定されます。

以下に、民主主義国家の政府のシステムを単純化した図を載せます。この図に見られる幾つかのレベルに関して、どのような政策上の対立や問題が起こりうるのか簡単に確認して、この節を終えたいと思います。

図 11 民主主義国家の政治システムのモデル



■政府

一国の政府の権力が集中しているか、分散しているものかの判断は、立法、行政、司法の3つの力、特に立法府と行政府のバランスが取れているか否かによって決まります。立法府は法律を施行し、行政府は法律の制限のもとで立法、司法以外のあらゆる国家作用、例えば警察の指揮や経済活動への指導を司るとされます。この2者が過度に統合されている場合、政府はどのような恣意的な法案でも自ら作成し、実行に移すことが出来てしまいます。

権力が集中している最も顕著な例は権威主義体制ですが、民主主義体制の中にも三権分立が徹底している国とそうでない国が存在します。例えば日本などは、立法府の議会（特に衆議院で）の多数派政党が、行政の長である内閣総理大臣を選出するため、立法と行政がより親和的になる傾向があります。逆にアメリカ合衆国は、代議士と大統領が別々に選ばれるために、立法府の多数派政党と大統領の出身政党が異なることがしばしばあり、両者の間での交渉や妥協を促す、より分散的な意思決定システムを持つと言えます（ただこの問題に関して補足すると、議院内閣制は議会に首相の不信任案提出権を認めているのに対し、大統領制では議会にそうした直接の権限はないため、一方が他方より立法・行政の独立性を保つことが出来ると断定は出来ません）。

政府の下部組織 (1) 立法府

立法府の内部に関しては、上院と下院が議会と大統領のように対立することが、やはりしばしば起こります。とはいえ、上院は通常、下院より少ない権限を与えられているため、交渉が成り立たなければ下院の支持する政策が採用されることが一般的と言えます。しかし、中には日本のように、上院に与えられた権限が下院独自の決定を妨げるほどに強い国もあり、その国の実態を把握するためには個別の知識が必要になります。

政党システムと呼ばれる、各政党の関係の類型化としては、2大政党制、穏健な多党制、1党優位政党制、分極的多党制が代表的なものとして挙げられます。2大政党制はアメリカ合衆国やイギリスなどに見られる、2つの大きな政党が中心となって互いに政策を展開しながら政治が行なわれていく形態です。穏健な多党制は西ヨーロッパや北ヨーロッパに多く、3つ以上のイデオロギー的距離が短い政党が議会を占めることとなります。一党優位政党制は、日本など単一の政党が有権者の支持の下で政権を握り続ける形態です。分極的多党制は1993年以前のイタリアなどに見られた、有力な反体制政党の存在やイデオロギー的距離が大きい状態を特長とします。これら政党システムの特徴に応じて、競争か協調かという関係、争点の明確化、少数意見の反映、連立の要不要とその可否、政治的関心、癒着の招きやすさなどの要素が変動します。

政党と政治家間でも、時として対立が生じます。政党の党員に対する拘束力が強い場合は、党員たる政治家は党首や政党が掲げる政策に対して義務的に協力することになります。政党の影響力が弱い場合は、選挙区や支持母体への利益還元のために政党の方針を無視することもあり得ます。日本の事例では、2005年の郵政民営化法案に関して、主に郵政族の自民党議員が党議拘束を破り、反対票を投じたことが記憶に新しいと思います。政党としての一体性を維持するのか、それよりも有権者の声の反映を優先すべきなのか、政策をめぐる権力の問題の1つと言えるでしょう。

これまで紹介した政党システムや政治行動の要素は、ディベートにおいてそれほど頻繁に直接の論題とはなりません。しかし、それぞれの国での政党同士、政党と政治家の関係がどのようになっているのかを意識することで、ある国の政治情勢について、より詳細な分析を出すことが出来るでしょう。

政府の下部組織 (2) 行政府

行政府内部では、選挙や議会での決定を経て選ばれた行政の長（総理大臣や大統領）と専門家集団である官僚との間に、しばしば対立が生じます。具体的には、法案の作成に携わる際に法案の効果を弱めるよう文言を修正する、与党内の有力議員に対してその法案に反対するよう働きかける、などの手段が取られます。理由としては、官僚は自らの

仕事に関する専門知をもって働いており、そうした専門家としての見識が、一般の国民の要求に必ずしも合致する訳ではないことや、単に自分たちの既得権益を守りたいことなどが挙げられます。

この対立に関しては、行政の長となった政治家が、どの程度の具体的な影響を官僚に及ぼすことが出来るのかが問題になります。例えば、日本においては総理大臣や政権党が交代するときも、殆どの官僚は変わらず留任するのに対して、米国では政権交代に伴い、上級の官僚はほぼ全員役職を解かれ、替わって大統領が新たに選任した人々が官僚としての実務を担うことになります。

政府の下部組織(3) 司法府

司法は、基本的に中立の判断を行えるよう独立が保障されている部門です。政府の権力という文脈における司法は、憲法を参照することによって、一般大衆の支持によって作られた法案の廃棄を命じることが出来る機関と見なされます。とはいえ、権威主義体制下では政治指導者が憲法の運用を停止してしまうことも多いので、立法や行政と比べて目立たないとは言えるでしょう。

より一般的には、「誰が司法をつかさどるべきか」という問題があります。日本や米国では、行政の長が最高裁判所の裁判官を任命することになりますが、これをもって司法の独立が保たれないとして、一般市民の選挙を通じた裁判官の選任制が提唱されることがあります。裁判員制度など、市民がより直接的に法律の適用に関わっていくべきとする論題も、この類型と言えます。対して、裁判官による裁判を支持する立場からは、官僚の問題と同じく、裁判における法律に関する専門的な知識の必要性を強調すると考えられます。

■市民

市民は、政治が本来恩恵を与えるべき対象となりますが、同時に自らの権力を行使して政治に影響を与えようとする主体でもあります。政治に影響を与えようとする市民は、大衆と利益団体に分類できます。権力の集中と分散にあたっては、「大衆と大衆（主に職種、人種や宗教、社会階級によって分かれる）」、「大衆と利益団体（大衆とエリートの枠組で分析できる）」、「利益団体と利益団体（異なる業界間、企業と労働組合などが想定される）」という3通りの対立関係が想定されるため、自分たちがその内のどの対立について議論しているのかを見失わないことが必要です。もちろん市民同士の関係だけでなく、市民の要望がどれほど政治に反映されるかという、市民と政治エリート（政治家、官僚、裁判官など）の権力関係も忘れてはいけません。

市民の下部カテゴリー(1) 大衆

一般大衆とは、通常市民の大多数を占め、したがって政治が恩恵をもたらそうとする対象ではありません。しかし、政治に関する専門的な知識を持たず、時として過度に利己的な政策を要求しかねない存在であり、どのようにその力を制限していくか、という問題が長く政治学における課題とされてきました。大衆の特徴として挙げられるのは、主に数の優位、政治的な無知です。以下で確認します。

数の優位という特徴は、恐らく分かり易いものでしょう。大衆は政治家などの政治エリート、企業の重役といった経済エリートと比べて圧倒的に数が多く、彼らが多数決において団結すれば、どのような悪政を支持していたとしても、対抗することは不可能となります。加えて、大衆は無知であるというのも、よく指摘されてきた特徴です。基本的に自らの生活の充足という短いスパンで物事を考え、生活や労働といった身近な事柄にのみ関心を持ち時間を割く結果、政治に関する知識を持たないことがその根拠とされます（現在では様々なメディアを通じて、政治に関する情報も容易に入手できますが、例えば半世紀前の情報インフラを考えてみて下さい。大学や官僚機関といった特別な組織に属していない限り、幅広い社会問題について情報を入手することは困難でしょう）。

この様な無知な多数派である大衆が暴走すると、益よりもむしろ害をもたらす法の施行につながると恐れられて来ました（この問題は、「多数者の暴政 (Tyranny of Majority)」と呼ばれます）。代表的な例が、当時最も民主的な憲法とされたワイマール憲法下で、ドイツ市民がヒトラーという独裁者を選び、選挙による指導者の交代を放棄する法案を通過してしまったことが挙げられます。

この大衆の政治参加の有り様は、現代においても依然として重要な問題であり続けています。大衆の意見を、より公益性のある形に変え実現させるのは、選挙を通じて選ばれた議会の政治エリートの仕事です。しかし、なぜその政治的知識に欠けた「無知な大衆」が、社会にとって最善の政治家を選べるのか今日においても疑問が残ります（選挙権授与年齢の引き下げや、強制投票の論題で必ず出る「知名度が高いだけの候補者、Celebrity Candidate」の議論を思い起こして下さい）。

加えて、現代は価値観が多様になり、選挙を通じた政治家への影響力の行使のみでは各自の要求を十分に表明することはできないという問題が顕在化しています。これ故に、政治への不信感が増し、投票率の低下という形で政治的無関心が広がっているとも言われます。その対策としては、市民の生活の安定化や教育の普及もあって、住民投票などのより直接民主的な立法手段や、市民の間での政策論議の推進など、大衆の意見を反映

させるための様々な方策が提案されています。

市民の下部カテゴリー (2) 大衆との対比によるエリート

「エリート」というのはしばしば大衆と対にされる概念で、大まかには「政治や経済のことなどを知っており、国の将来に対して有用な見識と判断力、そして政治参加の意思を持っている人」という程度の理解で結構です。国会議員や官僚といった典型的な主体から、広くは自主的に投票に行く人も含まれるでしょう（投票義務化の論題で、否定側が描写する「社会問題について日頃関心を持ち、自発的に票を投じている人」を思い起こして下さい）。

この様な主体による政治を是とするサイドとしては、「政治に反映されるべき確固とした意見・能力を持っている人に任せの方が、そうでない人を無理に政治参加させた場合よりも、より良い政治を実現してくれる」という立ち方をすると考えられます。大衆との比較では、例えば次のような説明がなされるかもしれません：

「日々の生活に追われ、限られた情報源しか持たず、候補者を知名度といった漠然とした嗜好で選んでいる人の声よりも、企業で巨額の資金を動かす地位にあるなど、社会に影響力があり、各候補者や政党関係者と個人的な知己を持ち、価値の高い情報を握っている人の意見を聞いた方が、より良い政治の方向性を示せます」

これ故に、彼らが政治献金などを通して大衆より多くの要求を政治に反映することは、逆にベネフィットである、というスタンスを取ることでも可能でしょう。

この「政治エリートの」の例としては、民主主義が未熟な国家における権威主義的な支配者の他に、民主主義国家における憲法も含めることが出来ます。憲法の規定は、議会で作られる法律に優越します。それで、議会を通過した法案であっても、憲法に明記されている国民主権や基本的人権の保障など重要な原則に反していると裁判所に判断された場合、廃止や改訂が命じられることとなります。あるいは既に故人となっている建国者らが起草した憲法が、最高法規として厳格に守られている理由には、こうした悪政を裁判所の介入によって防ぐという目的があります。それでは最後に、利益集団について説明します。

市民の下位カテゴリー(3) 利益集団

大衆が自らの望む政策を実現しようと試みた際に直面する問題として、まず専門知識の不足が、そして大衆の間での連帯不足が挙げられます。大衆と呼ばれる人は社会に広く

存在します。ただ、その広さゆえに、大衆層全体に共有されている問題はそこまで深刻でないのが実際です（例えば、漠然とした経済の先行きへの不安など）。この共有する問題の浅さ故に、事態を改善するために団結する動機付けが弱いと言えます。

代表的な例として挙げられるのが、農業作物の輸入の問題です。日本では、例えば輸入米には原価の何倍もの関税がかかっています（2008年現在は、778%の関税率です）。この結果、日本産の米より遥かに安い外国産の米へのアクセスが阻害されています。米輸入の自由化によって利益を受ける消費者は、米の生産関係者より数の上でずっと多いはずですが。しかしながら、関税の引き下げが実施される見通しは立っていません。それは、個々の消費者にとって米の自由化は火急の問題とは言えず、わざわざ広く団結する動機として受け入れられていないからです。それに対して、数の上では少数派ながらも、専門知と団結をもって政府に対して要求をしている利益集団が存在します。つまりは米の生産者団体ですが、コミュニティが小さく、自由化などの政策によって被る影響も大きいので、団結する強い動機づけを持っています。

こうした行動に対して、利益団体の要求のせいで政策に歪みが出てしまう、という批判がしばしばなされます。それに対しては、例えば以下の返し方が出来るでしょう：

「世の中にはさまざまな会社、さまざまな業界、利益団体、さらに労働組合や各種 NGO が存在し、自らの声を政策に反映させようとしています。結果として政府は、それら全ての団体の要求を聞いた上で、妥協点を見つけようとしています。どれか 1 つの利益団体の主張を鵜呑みにして政策が作られることは、現実にはありません。よって、特定の団体による政策の歪みという問題は存在しないか、あったとしても深刻ではありません」

もっとも、このような利益集団多元主義は、利益集団に参加できないほど貧しい、社会的に排除されている人々の意見をどう取り入れるのか、という課題を抱えています。

最後に、どのような団体が利益団体と呼べるかと言えば、代表的なものとしては、企業またはそれをまとめる業界団体と、NGO が挙げられます。まず企業が政治に働きかける場合、これは企業で一日の大部分を過ごし、生活の糧を得ている労働者の意見を代弁しているとも言えます。それで、企業の利益団体としての活動は、むしろ正当な行為であると主張が出来ます。他方 NGO は、特定の目的のために民間人が作る組織で、環境問題や少数派の保護など、通常政治が無視ないし軽視している問題に主に焦点を当てる傾向があります。企業と比較した場合の NGO 特有の意義としては、まだ社会の中で注目されていない問題を積極的に擁護し、社会的に認知させる機能が考えられます。

(10) 国際関係—中央政府の不在

最後のクッキーカッターは、中央政府の不在をその最大の特徴とする、国際関係に関するものです。各国はこの枠組の中で、自らの国益の最大化、現行の国際秩序の維持、国家の枠組を超えた人権の保障などを目指していくことになります。

■前提（歴史的な展開）

現在の国際政治の背景について、大雑把に歴史的な解説をします。国際政治はヨーロッパでの三十年戦争の後、1648年のウェストファリア条約から始まったとされます。それ以前は中世と呼ばれる時代で、国家より上位に教会や神聖ローマ帝国が、下位には諸侯などが同じ領域に重なり合って存在し、それぞれ固有の軍事力を有していました。これら雑多な勢力が、宗教的な価値観の対立により利害を度外視して争い合った結果、戦争は収拾がつかず30年間も続き、数多くの犠牲者を出してしまいました。

ウェストファリア条約は、今後このような惨事を避けるべく、諸国は上位の教会や下位の諸侯から軍事力を取り上げ、国家によって独占すると共に、戦争の目的は各国の国益の確保のみとして、布教などのための宗教的な正義感に基づく戦争を行わないことを決めました。これにより、それぞれの国家は国益を第一に考えて行動するため、無益に被害を出す戦争の開始、またその継続を避けるだろうと予期されました。こうして、政府が領域内においては絶対的な権力を持ち、領域外においては国家の代表として認知される、主権（Sovereignty）の確立が果たされます。

以降しばらくは、ヨーロッパにおいて勢力均衡（Balance of Power）による平和が保たれます。勢力均衡とは、国々の力に一定の等質性を保つことで大規模な戦争の発生を抑止するという外交政策であり、国益に合わない戦争を国家は行わない、という認識に基づいています。どこかひとつの国が軍事的に膨張し、他国に脅威を与えるようになると、それ以外の国が合従して対抗することでその国が突出した脅威となることを避ける、といった具合です。

しかしこの枠組は、最終的に第一次世界大戦というやはり空前の被害をもたらす戦争の勃発を避けられませんでした。まずこの大戦は、国益を重視し、国力を膨張させていった結果生じたという見方ができます。自国を守るのは自国のみという認識の下、絶えず軍拡競争が起こりました。また、かつての宗教的な価値観対立に代わり、ナショナリズムの流行が、コストを度外視した戦争を許容する土壌を作りました。

さらには、国家間の勢力均衡の管理の困難さが、この枠組みの失敗要因に挙げられます。諸国家はどこかの国が圧倒的優位を達成するのを防ぐために、地域的な同盟関係を結び相互に

牽制し合います。これを可能にするには、外交上の微妙なさじ加減が要求され、ひとたび外交に柔軟性が失われれば、小規模な紛争をきっかけに、地域的な同盟関係はそのまま大国間の戦争へとつながります。そして、中立的な調停者の不在故に、この枠組みの下では絶えず火種となる小規模紛争が発生すると想定されます。以上の不安定要因から、勢力均衡のシステムの破綻は避けられないと現在では認識されています。

この分析を踏まえ、以降は集団安全保障(Collective Security)を担保とする国際連盟による平和の維持へと向かっていきます。集団安全保障とは、ある国家が他の国家を侵略するなどして主権を侵害した場合、それ以外の全ての国家が、その国家に対して制裁を発動する制度です。国際連盟発足から国際連合の初期においては、この集団安全保障はほぼ機能していないため当時の解説は省き、まずは国際連盟および国際連合の意義について説明します。

両機関は、国際機構という常設の国家間の協議の場を設け、戦争ではなく外交による交渉を通じて問題解決を図っていく制度の創出を目指した点で、まず大きな意義があったと言えます。例えば、冷戦の一時期には、アメリカ合衆国とソビエト連邦は、直接の外交の機会を国連以外に持ち得ませんでした。アメリカとソ連の外交官同士が、国連という場で非公式に接触し、個人的な面識を持ち、相手の本心を確認め合った結果が後の融和政策に繋がったと明石(1985)では報告されています。

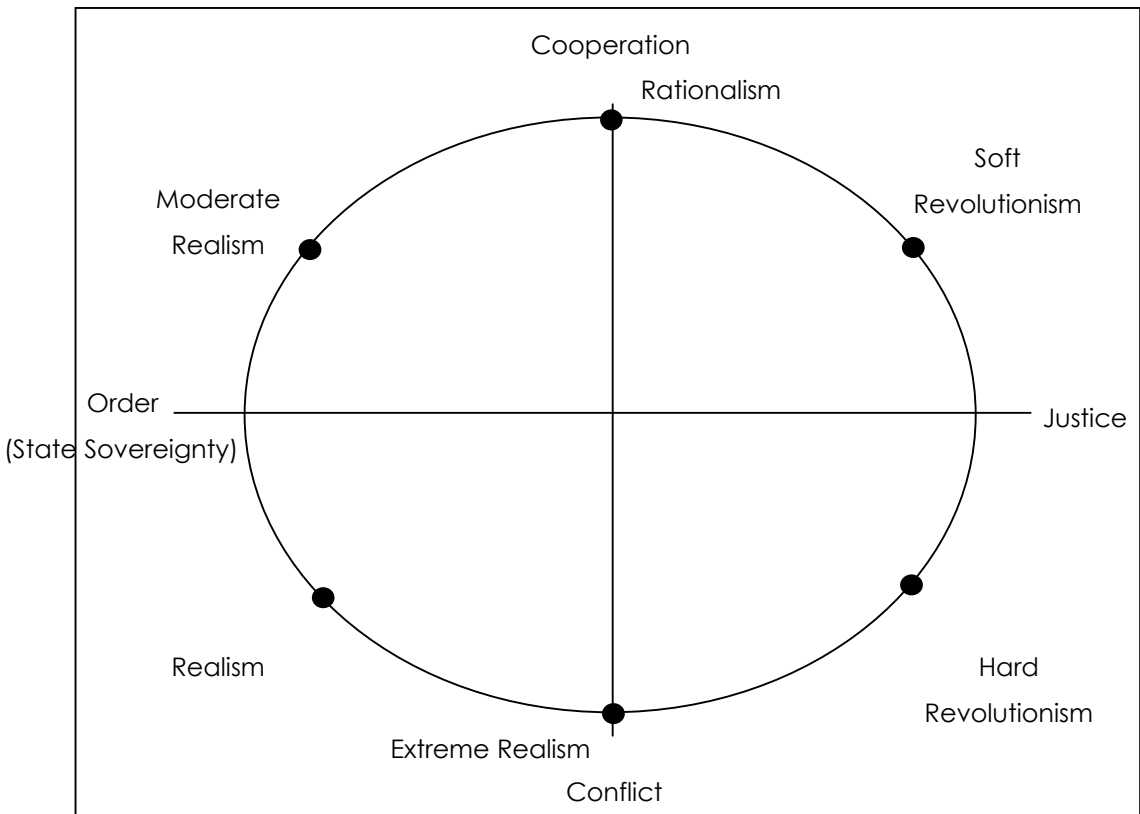
また、(もちろん異論もありますが) 国家の垣根を超えた便益を実現する機関としても、それらには意義が認められます。第二次大戦後は、国家間で徐々に経済的な相互依存が高まっていき、その結果、国家間の戦争の可能性を減らしていくことになりました。例えば、台湾海峡を挟んだ中台対立ですが、相互に貿易や直接投資が進んだ結果、90年代以降では経済的理由からも、政治的緊張の緩和が進められています。この様な経済的相互依存を高める触媒となったのが、国連システムの一翼を担う国際通貨基金であり、世界銀行です(現在では、これらにWTOを加えることが出来るでしょう)。対戦後まもなく発足した両機関は、通貨価値を安定させると共に、途上国支援を通じての多角的な貿易体制を目指しました。

冷戦の終了と共に、かつての米ソ対立による安全保障理事会の機能不全がひとまず治まった結果、国際連合による集団安全保障はより円滑に機能するようになりました。その一方で、再度の世界戦争勃発の可能性が極めて低くなった代わりに、新たな課題への対処が求められています。例えば、安全保障において「人道的介入(humanitarian intervention)」が許されるか否か、大きな問題になっています。ある国の政府が、例えば自国の少数民族に対して、虐殺などの著しい人権侵害を行っている場合、誰が救済に入るべきでしょうか。主権国家内の出来事であり、他国の介入は原則として内政干渉となります。政府による自国民の抑圧は、

もちろん他国の主権を侵害しているわけではなく、集団安全保障の枠組みの想定外です。ルワンダ紛争や、ユーゴスラビア紛争を経て、この種の問題にどう対応するべきか国際社会は問われました。

1つの対応策として、国際政治学者や国連職員などからは、国家の安全保障というこれまでの枠組みを改め、個々の人間単位で安全保障を捉え直そうという主張が出されています。国際NGOは、これら人権問題など、国家間で協議をしていたがために国際政治の場で無視されていた問題に関して、討議への参加を要求しています。こうして国際政治は再び、1人1人の市民と、主権国家の枠組を超えた普遍的な価値を射程に入れることになりました。NGOの国際機関や国際会議への参加の機運は年々高まってきましたし、虐殺などの著しい不正に対する軍事的な人道的介入も正当な地位を占めつつあるでしょう。しかし国際政治の場に普遍的な人権などの価値判断を組み込んでいくにつれ、ウェストファリア条約が終止符を打ったはずの「正しい戦争(Just War)」という概念が現代に復活することになりました。例えば、正しい戦争という主張の下に始められたイラク戦争は、米国の恣意的な意図を受けた戦争だった、という評価が一般的です。さて、一体どうすれば世界人類に平和は訪れるのでしょうか。

図 12 国際関係における諸立場



■ 根本的な価値の構想

どの立場にしても、自国もしくは他国の平和を目指していくことは変わりません。「平和」は「安全」と深く関わる根本的な価値の1つですが、この概念には様々な構想があり、ディベートに当たって自分のチームが支持する平和の認識を確認しておく必要があります。代表的なものとしては、単に戦争がない状態をあらゆる戦争の不在（Absence of War）が挙げられますが、その他にも政治的な暴力の不在や貧困や飢餓などの構造的暴力（Structural Violence）からの自由を指すこともあります。

■ 軸の説明（目的と手段と世界観）

左ページの図が国際関係のクッキーカッターを表したものです。横軸の「Order—Justice」がそれぞれの立場が重視する国際関係の価値（「平和」という概念の構想と言ってもよい）を意味します。Order とは現在ある主権国家体制の維持のことであり、Justice とは人権や宗教的価値といった、従来国際政治学で捨象されがちだった価値を指します。縦軸の「Cooperation—Conflict」は理想状態へのアプローチが、他の国家などと協調的なものであるか、武力介入などの衝突を伴うものであるかを指します。

軸の中には、歴史的な前提で出てきた6つの立場が位置づけられることとなります。それぞれの立場が独自の世界観と、国際政治に対する規範意識、アプローチ方法を持ち、国際関係に関わることとなります。ディベートにおいては自分たちと相手のチームはこれら6つの立場から適切なものを選択していくこととなります（議論が矛盾しない限りで、隣接する複数の立場を選んでもいいでしょう）。さらに、ディベートで出てくる国や団体などのアクターもそれぞれ、6つのどれかの立場に基づいて、プランに対して対応することとなります。つまり、この枠組は自分たちのフィロソフィだけでなく、アクターの分析にも有効です。

■ 立場(1) 現実主義（Realism）

現実主義は、国家のみが国際政治のアクターであり、各国家は絶えず自らの国益を最大化するために争っていると見ます。この立場によれば、国際政治は諸国家間の無政府状態によって特徴付けられるものであり、国際関係に影響を及ぼすことができるのは強力な国家による武力外交を通じてのみだと考えます。政治社会や道徳的共同体は、中央政府が力を持つ国内政治の場のみに限定され、国際関係の場では存在しないと理解されます。この前提から、防衛的な現実主義国家による牽制（Realism）、自国の勢力拡大による国家安全保障の担保（Extreme Realism）、力のバランスを担保とした国際的な規範の整備（Moderate Realism）、というそれぞれの方針が生まれます。

ここで扱うのは最も基本的な現実主義の立場ですが、この立場は上に描写したような状態を

国際政治の常態とする世界観を持ち、それを無理に変えようとすることは不可能であるし、また望ましくないことだと考えます。これは現実主義が人間本性に関して悲観的であり、立場の異なる2つの国家が突然和解や妥協に達する、といった希望的観測を持たないことに由来するでしょう。

この立場からすれば、国家が相互に自己利益を追求する限り、不要な対立は避けられるとされます。勢力均衡のアプローチで確認した通り、何らかの対立があったとしても、武力行使によるコストが甚大であると判断された場合は、紛争が回避されます。この様に、最終的には国家同士が自己利益を追求して牽制しあう結果、何らかの国際問題が発生したとしても、紛争勃発の可能性は最小化されます。これ故に、他の立場のアプローチに比べても、戦争の不在 (Absence of War) などの平和な状態に最も近づくことができる、と主張されます。

■立場(2) 極端な現実主義 (Extreme Realism)

極端な現実主義は、現実主義における「国家は自らの国力を最大化する」という命題をより徹底させた立場であり、自らの力を最大化させようとする大国の意見を代弁していると言えます。この立場の国際政治観によれば、国際政治における秩序は大国主導で形成され、維持されることとなります。大国とは、必ずしも現在のアメリカ合衆国のような、唯一の超大国を想定する必要はありません。アジア地域での中国や、中東のイスラエルのような国も、それぞれの地域の中で擬似的な超大国として、この枠組みで分析することが可能でしょう。

この「超大国」は、国力を最大化することによって、周辺諸国に自らの政治的な方針を押し付け、従わせることが可能になると言えます。この様な国際政治の世界観を肯定する立場は、特定の大国によって画一の経済秩序や安全保障体制が与えられるため、むしろ効率的に国家間に秩序をもたらすことが出来ると考えます。

国家行動の分析に用いる場合としては、特定の国家の指導者が、この立場に沿った方針で行動していると解釈することになるでしょう。例としては第二次世界大戦までの日本やドイツ、他にも国力がある時のロシアなどは歴史的に、このような膨張政策を取りがちであるとされます。

■立場(3) 穏健な現実主義 (Moderate Realism)

基本的な土台は現実主義と同じですが、この立場は現実主義者とは異なり、国際法や国際機構によって国家間の紛争や人権問題を解決していくことが可能だと考えます。ただし穏健な現実主義は、国際法が機能するのは、ひとえに強い国家の支持を得ている時のみである、という認識に立っています。

現実の政策としては、国連の安全保障理事会など、軍事的に秀でた国家に特権的な地位を与えることで国連に協力するインセンティブを持たせ、その機能を担保するというアプローチをイメージすれば良いでしょう。他の例として、国際通貨基金や世界銀行において取られているような、国家からの拠出金の額によってより多くの投票権を与え、経済的に強力な国家の協力を担保している国際機関もあります。

■立場(4) 合理主義 (Rationalism)

合理主義は、人間は元来理性的で、正しい判断が可能であり、共通の政府を持たずとも平和的な共存が可能だと主張します。そして、国際法と国際機構、さらには経済的相互依存などを担保とした法の支配 (Rule of Law) を国際政治の場で実現することを目指します。具体的には、国家間の交渉や相互交流によって、国家が守るべきルールや人権に関する規定などの制度化を図ります。こうした試みの結果、現在までに、国家は自らの国益に大きく反しない限り、国際法による行動の制限をある程度受け入れているかに見えます (実際に受け入れたかどうかは別問題ですが)。

現実の政策としては、国際連合の国連総会など、すべての国家が平等な発言権を持つ場での話し合いを通じて合意された、世界人権宣言の締約とその慣習国際法化などが考えられます。他に、核不拡散条約 (Nonproliferation Treaty) に代表されるような軍縮条約を通じて、戦争を避けようとする試みも、合理主義的なアプローチの一種と言えるでしょう。

■立場(5) ソフトな革命主義 (Soft Revolutionism)

革命主義とは、国家を超えた道徳的な一体性を志向し、主権国家よりも個々の市民を重視する立場を指します。国家よりも世界市民的な価値観を、多元性よりも一体性を重視し、国際政治の目的は世界をより良いものに作り変えていくことだとします。現在のところ、ソフトな革命主義においては、国家を超える普遍的な道徳として、内戦を含む戦争の防止や市民の人権の保障が目標となっていると言えます。市場統合という理念にもとづく戦争の抑止や、民主主義国家同士は戦争をしないとする民主的な平和論 (Democratic Peace) などが比較的近いアプローチだと言えるでしょう。

目指すべき平和の像としては、戦争の不在だけでなく、政府による抑圧や構造的暴力の防止といった、より広く人間の生活に関わる問題に関心を持っていると言えるでしょう。政府間の交渉ではなく、市民の間からの平和を志向するところが、合理主義と異なる点だと考えられます。政策としては、NGO などを組織して途上国の人々を救済するような活動を行ったり、国連などにおいて市民の立場から普遍的な権利を追求する NGO に投票権を与えたり、といった案がソフトな革命主義のアプローチとして考えられます。

■ 立場 (6) ハードな革命主義 (Hard Revolutionism)

ハードな革命主義とは、国家を超えた法や道徳を実践するために、暴力行為も辞さないとする立場です。革命主義というラベル自体は特定のイデオロギー的立場を指しているわけではなく、共産主義革命からナチス・ドイツによる征服行為、ブッシュ・ドクトリンによる先制攻撃やイスラム原理主義者によるテロ活動など、多様なものが含まれることとなります。こうした主体は基本的に、人類を善玉と悪玉の2種類に分けて、全ての悪玉を殺してしまおう、という「聖なる戦争」的な立場を表明するとされます。

ディベートにおいて自らのフィロソフィとする場合は、ソフトな革命主義と同じく普遍的な人権という目的を達成するために武力介入を行うこととなります。代表的な例として挙げられるのが、武力によって抑圧的な政府による虐殺などを防ぐ人道的介入でしょう。ほかにも、権威主義国家の民主化のために経済制裁を発動したり、軍事攻撃を行ったりというアプローチが考えられます。

ハードな革命主義は、上で紹介した極端な現実主義と親和性が高いと言えます。例えば、ブッシュによるイラク戦争は現在ではイラクにおける人権侵害を防ぐことが目的だったという建前になっており、ハードな革命主義に位置づけることが可能です。しかし、その本当の目的に関しては大量破壊兵器の開発を防ぎ自らの安全を確保するため、又はイラクに埋蔵された石油の権益を得るためとも言われており、自らの力を最大化して平和と国益を確保しようとする、極端な現実主義のアプローチと大差ありません。

この様に、上図の6つの立場は円の中で隣接するものと親和的であることが多く、ディベートにおいて複数の立場にまたがるスタンスを取ることも可能です。

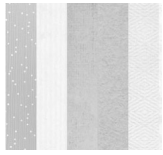
SECTION 4. まとめ

最後のクッキーカッターである国際関係の項では、6つの立場を導入しました。確認すると、国際関係の歴史の中で、それぞれの立場による世界平和達成の試みは、どれも一度は失敗しています（「前提：歴史的な背景」の部分を読み返してみてください）。他のクッキーカッターの諸立場にしても、事情は似たようなもので、結局のところ、完璧なフィロソフィは存在しないと言えます。それでは改めて、フィロソフィについて理解を深める意義は何でしょうか。

まず、自由や平和といった諸概念が目指すものをどのように達成しようか考えるとき、既存

のアプローチがどのような長所や短所を持ち、また実際に機能してきたかを知っておくことは必要か、少なくともディベートの試合においては考える時間の節約になります。

また、もう1つの意義として、フィロソフィとそれに伴ういくつかの立場がどのような意義をもって展開されて来たかを知っていれば、相手のチームが言っている議論の内容がより理解し易くなることが挙げられます。日本人ディベーターは、語彙や言い回しの稚拙さ故に、国際大会で議論が必ずしも思惑通りの評価を受けられないことが多々あります。そのような時に、反対側のチームが言っていることを良心的に解釈して、その上でそれを上回るレスポンスを返す（こういう心意気を Principle of Charity といいます）ことにより、より実りのある議論を戦わせることが可能であり、そしてこの結果、より高い評価も得られるでしょう。学生ディベートから何を期待するべきか、という話にもなりますが、こういう前向きで建設的なことを考えながら、ディベートに向き合うのも面白いと思います。



Lesson 15.

さらなる向上のために



Contents:

Section 1. ディベートに関連する団体・行事

Section 2. 練習の継続方法について

Section 3. ディベートを続ける人へ

Section 4. おわりに

SECTION 1. ディベートに関連する団体・行事

本テキストの最後に、これから先に練習をする上でのヒントをまとめます。ディベートに関する団体、行事、練習方法について述べた後に、テキスト全体のまとめを記します。

1) ディベートに関連する団体

英語パラメンタリーディベートの大会、あるいはセミナーを定期的に行っている団体は、日本国内に4つあります。

① 日本パラメンタリーディベート連盟 (Japan Parliamentary Debate Union, JPDU)

1998年に設立された学生団体です。大学の春期休暇、夏季休暇の時期に合わせて、東京の代々木オリンピックセンターを会場として、合宿を行っています。年に4つ程度の大会を開催しています。また、オーストラリア大使館の支援の下、様々な日豪のディベーターの交流プログラムを企画しています。

英語パラメンタリーディベートを新しく始めたい大学生の団体は、この団体に問い合わせれば良いでしょう。同団体のメーリングリストに登録をしてもらえれば、国内大会・国際大会の情報や、各種セミナー・ワークショップの主要なお知らせが、ほぼ全て入ってきます。ウェブサイトは以下になります：

<http://www.jpdu.org/index.html>

また関西の大学向けの、JPDU 関西という同団体の下部組織も設立されています。こちらの団体のウェブサイトはこちらです：

<http://peace.freespace.jp/ess/index.html>

これらの団体は、規約を読む限りは大学生に限定されない団体のはずですが、2008年現在のところは高校の団体が加盟申請をしても、申請を認めては頂けません。日本の高校生が、パラメンタリーディベートの世界大会に出場している現状を踏まえると、残念な限りです。

② IXIA (各大学 ESS・DS の代表者会)

実際の構成員は JPDU と重なっていますが、各大学の English Speaking Society と Debating Society の代表者（「チーフ」とも呼称されています）の集まりです。各種練習会の企画や、中規模の大会を運営しています。ウェブサイトはこちらです（この数年間更新されていませんが）：

<http://www.geocities.jp/ixiadebate/index.html>

既に記しましたが、日本において特に一般的である北米形式は、北米を除く他の地域において、言い換えれば世界の大部分の地域では行われていません。例えば、オーストラリアのディベーターは北米形式について全く知りませんし、イギリスのディベーターにとっては、パラメンタリーディベートとはすなわち、BP スタイルを指します。国際大会（あるいは他国での国内大会）に出場する場合には、このレッスンで導入するいずれかの形式でディベートをする必要があります。

北米形式とそれぞれのスタイルの違いは、各スピーカーの役割です。ディベートである以上、論題に対して賛成・反対の意見を述べ、互いに反論し合うことには変わりはありません。しかし、アジア大会形式は3人対3人で、そしてBPスタイルは2人から成る4チームで争うディベート形式であり、この参加者数の増加の帰結として、各スピーカーの役割分担とチームワークが重要になります。以下ではまず、アジア大会形式から、その戦い方と大まかなジャッジの仕方を説明します。

③ IDC (Intensive Debate Camp)

慶應大学の学生が中心となって、海外からディベートコーチを招聘して行っている英語ディベートの短期集中プログラムです。2008年度12月には、その10回目が予定されています。主にオーストラリアから、世界でトップレベルの学生・元学生ディベーターを招いています。国際大会に参加を考えているディベーターは、まずこのディベートキャンプに参加をすると良いでしょう。開催が決まると、上述のJPDUのメーリングリストにお知らせが流れます。

④ 日本英語交流連盟 (English Speaking Union of Japan)

1998年に設立された、英語を通じた国際理解を目的としたEnglish Speaking Unionの日本支部です。活動の一環として、後述の大学生向けの大会を10月に、社会人向けの大会を6月に開催しています。また、パラメンタリーディベートに関するセミナーも行っています。ウェブサイトは以下になります：

<http://www.esuj.gr.jp/index.htm>

2) ディベートに関連する行事

パラメンタリーディベートに関する行事を、表にまとめました。それぞれの行事の詳細は、時期が近付けはJPDUのメーリングリストに流れると思いますので、そちらをご覧ください。

◆ 年間スケジュール

	国内	国際
4月	春 JPDU トーナメント (アジア大会形式) Sakura Cup (大阪府立大学)	
5月	エリザベス杯	アジア大会 (通称“Asians”)
6月	Gemini Cup (IXIA) 社会人 ESUJ トーナメント 成蹊ジョイント (成蹊大学)	
7月	高館杯 (首都大学東京)	オーストラリア・アジア大会 (“Austral”)
8月		Asia Debate Institute
9月	JPDU 夏セミナー 秋 JPDU トーナメント (北米形式)	高校生世界大会 (例年時期が異なります)
10月	大学生 ESUJ トーナメント 梅子杯 (津田塾大学)	
11月	冬 JPDU トーナメント (BP 形式) 濱口杯 (北九州大学)	北東アジア大会 (“NEAO”)
12月	World Prep Tournament (JPDU) 稜霜杯 (神戸大学)	世界大会 (“World”)
1月		
2月	大沢杯 (ICU) 「ディベートのすすめ」(慶應大学) The Kansai (JPDU 関西)	
3月	JPDU 春セミナー ICU トーナメント 東京工業大学杯	

また、以上のうち、ディベート初心者向けの行事は以下の通りです：

① 学部1年生・ディベート初心者用大会

- ・ 成蹊ジョイント： ディベート経歴1年未満の人の練習大会
- ・ 高館杯： ディベート歴1年未満の人と上級生が組んで出場する練習大会
- ・ 梅子杯： ディベート歴1年未満の出場者による大会

② 学部1年生・ディベート初心者も参加出来る行事

- ・ 世界大会(ジャッジあるいはディベーターとして)
- ・ 北東アジア大会(♫)
- ・ アジア大会 (♫)
- ・ JPDU 夏セミナー & 春セミナー

- ・ Asia Debate Institute (8月に数週間の日程で韓国で開催されるディベート合宿)
- ③ 社会人向け大会
 - ・ 社会人 ESUJ トーナメント (6月)
 - ・ 東京工業大学杯 (3月)
- ④ 高校生が出場可能な大会 (2010年現在)
 - ・ 大沢杯：アジア大会形式の練習大会
 - ・ エリザベス杯：北米形式での練習大会
 - ・ 高館杯：初心者と上級者がチームを組む、練習大会。
 - ・ 高校生世界大会：World Schools Styles での各国の代表チームによる国際大会

SECTION 2. 練習の継続方法について

英語パラメンタリー・ディベートを続ける上で必要な物は、3つあります。時間と、仲間と、大会です。ここでは、それぞれの見つけ方・有効な利用法について大学生に向けての一般論的な内容を記します。機会があれば、飲み会の席などで大学の先輩、あるいはディベートのベテランに、それぞれについて個人的に聞いてみてください。

1) 時間の作り方

いかなる部活動でもそうですが、英語ディベートが上手くなるには時間がかかります。日本の普通の高校で教育を受けてきた大学生であれば、初めの1年間は英語の上達がその課題になると思います。時事問題についても、ある程度詳しくなる必要があります。英語ディベートの活動を単なる部活ととらえず、大学での勉強の一環と捉えれば、気持ちの上で負担が減るかもしれません。

社会人であれば、長いスパンで考えてみると良いかもしれません。2週間に一度、どこかの練習会に参加して2試合すれば、1年間で50試合ほど経験します。5年続ければ、250試合もやることになります。それだけやれば、普通の学生ディベーターとも対等に渡り合える様になると思います。

2) 仲間の見つけ方

所属する大学に、部員の多いディベート部があれば幸せです。大会に出場すると、応援団が付き添ってくれます。誕生日には、お祝いをしてもらえるかもしれません。人の多い部に所属す

ればするほど、ディベートが楽しくなります。部活動が続くのはその活動自体を続けたいからよりも、むしろその部活動を通して得られる人間関係を維持したいからです。

もし部があまり活発でなければ「国際機構論」、「国際法」、あるいは「経済学原論」などの授業で知り合った相手や、仲の良い友人を部に誘ってみてください。もし英語ディベート部が無ければ作ってみましょう。ただ、部を作るのには、労力がかかります。あるいはその過程で、報われないと感ずることがあるかもしれません。

3) 出場できる大会には全て参加する

メンバーの多い部に所属すると、出場させてもらえる大会が少なくなってしまうという問題があります。その一方で人の少ない部に所属すると、あるいは自分で部を作ってしまうと、希望する大会には全て出られます。

また、特に大学1年生の方にお勧めなのは、国際大会に参加することです。特に、世界大会は企業のスポンサーがついているため、4つ星ホテルに10日間ほど滞在して、食事代を含めて5万~6万円の参加費で済みます(アジア圏で開催される大会は、特に安上がりです)。もちろん航空券を購入する必要はありますが、海外旅行としてもお勧めです。

SECTION 3. ディベートを続ける人へ

この節は、おまけ的な内容です。試合に負けて「ディベートなんてもう続けるものか」と思った時に、以下の内容を思い出して頂ければ幸いです。

1) ディベートを続ける上で大切なこと

ディベートでは、勝ちにこだわると失望します。受け入れられない判定を受けても、ジャッジに抗議をすることはお勧めできません。一度出た判定が覆ることはありません。ジャッジに対する抗議を繰り返すと、周りの人からの自分への評判が下がります。例えば、ある国際大会で負けになった際、この様な理由を告げられました：

「議論はどちらも優れていて良かったです。判断には、本当に悩みました。でも、とりあえずつけてみたスピーカーズ・ポイントの合計が、肯定側の方が高かったので、肯定側の勝ちにしました。以上です」

この勝敗の決め方には納得できなかったのですが、そのジャッジに対して抗議をしたところ、大会

運営者の一人から休憩時間に呼び出しを受け「ジャッジを苛めるな。今度やったら大会から追い出すぞ」と嚴重注意されてしまいました。大会では、いつもジャッジが不足しています。わざわざ休日を犠牲にしてジャッジをしに来てくれた人に対して抗議をすることは許されません。

確かに、単に大会で勝つことが目的であれば、ディベートはつまらない活動であると思います。ディベートのジャッジは人間です。死刑制度廃止の論題で多くのディベーターが果敢に説得を試みるように、人間は間違いを犯します。納得できない負けを告げられることは、ディベートを続けるとたくさん経験すると思います。期待して待ち望んだ大会の2日目に、自分のチームが予選落ちをしていたことも、あると思います。

でも、自分を含めて多くのディベーターは、大会で優勝するためだけにディベートを続けてはいません。これから先、大切な試合で負けにされ、納得が出来ないこともあると思います。そんな時には、以下のアドバイスを思い起こしてみてください：

「試合に勝つことを目的にしない。勝つことはただの目標」

大会で優勝をすると、確かに嬉しいでしょう。しかし、大会は優勝チームを選ぶために開かれているわけではありません。2人の優勝者を選ぶために、例えば1000人が参加する世界大会が開かれているわけではありません。ディベート自体が好きで、重要な時事問題に関して意見を交換したくて、日頃の練習の成果を披露したくて、より強い相手と戦いたくて、自分のスピーチで聴衆を感動させたくて、ディベーターは大会に出場する物だと自分は思っています。この考えを特に再認識させてくれた出来事が、以前ありました。以下で簡単に触れます。

2) 大切な試合で負けて、立ち直れないときに

ある国際大会の決勝で敗れ、落ち込んでいた際に、ある人がこう書いたメモを残してくれました：

「君が今年もまた韓国に来て、君のディベートを韓国の人が今年も見ることが出来て、とても良かったよ。去年と比べてだいぶ上達したね。優勝できなかったのは残念だけど、今年もトロフィーを持って帰るということは、それだけ君が変わらず成功している事を示していると思う。でも、君のディベートの質は変わっている。どんどん向上している。君のディベートに感動したよ」

自分にとっては、どんな賞状よりもどんなトロフィーよりも、このメモを貰った時が、ディベートを続けてきて良かったと思えた瞬間でした。大学院生として研究し、高校教員として働きながらもディベートを続けるために、多くの事を犠牲にして来ました。けれども、それには意味があったと思えました。

ディベートを続けてきて、誇りに思っている試合が2つあります。北東アジア大会 (North East Asian Open) の2005年と2006年の決勝です。2005年の決勝の論題は「北東アジア諸国にと

って、日本はアメリカよりも良い友人である」でした。2006年のそれは「日本は核武装すべきだ」という物でした。それぞれ自分のチームが肯定側に立ちました。双方とも負けたことには残念ですが、韓国の聴衆を前に、自分が本当に伝えたかったメッセージを伝えられたことに、スピーチを終えた直後はただ満足でした。

自分にとってこれまで、自分が所属している国が、先の大戦およびそれ以前にアジアの他国で行った事をどう捉えるかが、大きなテーマの一つでした。このテーマに対して、そのスピーチを通して自分は一つの答えを出し、聴衆に伝えられた様に思えました。その満足感をそのメモが思い出させてくれました。

自分が英語ディベートを始めたのは、偶然の様でもあり、振り替えれば必然である気もします。家庭の事情で、祖父母に育てられた自分は小さいころ、2人の旧満州からの引き揚げの苦勞話と一緒に、フィリピンで戦死した祖母の弟の話をよく聞きました。その人は航空機関連の技師で、招集される前は、今では大学になっている三鷹にあった研究施設で働いていたと聞かされました。桜の咲く時期に、祖母と一度そこに訪れた時の印象は「外国の大学」という物でした。自分が学部の進学先としてその大学を選んだのは、自分の育った国を一度その外からの視点で学んでみたい、という動機からでした。その目的は、大学の授業と1年間の交換留学での経験と同じぐらい、とある留學生が15年前にその大学に残してくれた英語ディベートを通して果たせたと思います。またその集大成が、東京大学のチームとして出場した、前述の北東アジア大会決勝であった様に今では思えます。

大切な試合に負けた時、予選通過ができなかった時、ディベートを続けてきたことに大きな疑問を持つかもしれません。でも、単純な勝ち負け以上のものを、自分はここに至る過程で得てはいないか、そう聞いてみて下さい。

ディベーターの中には、優勝するためだけにディベートをしているのでは、と疑問を感じさせる人もいます。単に人前に出て、目立った事をして、表彰されたいのでディベートを続けている人も、たまにいます。英語でしゃべって、カッコ良いことを話してみたくて、結果を残したらみんなが誉めてくれる国際大会に出場したくて、ディベートを続けている人もいます。ディベートをする理由は人それぞれで、他人が口をはさむ物ではありません。でも出来れば、そんなディベーターにはならないで下さい。

勝たなくとも、良いスピーチをすれば、必ずそれを見ていてくれる人がいます。あるジャッジをたまたま説得することはできなくても、多くの聴衆を感動させるスピーチが出来ていれば何よりです、負けたとしても、大きな拍手で迎えてくれる人がいるはず。金メッキのトロフィーよりも、もっと大切なものを仲間から貰えるはず。

SECTION 5. おわりに

1) 本テキストの限界

パラメンタリー・ディベートの特徴の1つを、こう記しました：

「専門的な知識を持たない、一般の聴衆であるジャッジを説得させた方が勝ち」というある意味で曖昧な勝敗の判定は、ある時には勝敗の理由をジャッジが明確に説明できない、その理由に必ずしもディベーター自身が納得出来ない問題があります。その一方で、形式に自由度を持つ結果、「より上手な説得をしよう」と様々に話し方を工夫することを、ディベーターに促しました。その結果として、コミュニティ内で話されるスピーチが、より良い物へと磨かれることになりました

自分が本テキストにまとめた内容は、パラメンタリーディベートの1つの解釈です。これから先、より多くの人々がディベートをする様になり、新しい考えが生まれ、スピーチのスタイルがより洗練されると思います。やがて、本書でまとめた内容は陳腐化するか、顧みられなくなるのではと思います。それはむしろ好ましいことです。各団体の指導的な立場にある方は、本書の内容に対して、ぜひ批判や改善点を指摘して頂いて、より良いディベートを目指して頂ければと思います。

2) 今後の改定方針

あと何年か、本書が日本のパラメンタリーディベートのコミュニティでどれだけ受け入れられるかに応じて、改訂版を出していくつもりです。より内容を深めるために、今後はより多くの人を共著者に招いていければと考えています。

【資料 1】 日本における英語ディベート小史

(1) 近代以前

日本にディベートという形式の言語活動が初めて導入されたのは、16世紀にキリスト教の宣教師によってだとされています。修道士が教養として行う教義に関する問答として伝えられました (Chieslik 1965, qtd in Inoue 1994: 60)。しかしながら、キリスト教への弾圧もあり、日本に根付くことはありませんでした。日本におけるディベートの歴史は、明治以前に遡って語られることが、殆どありません。

確かに、日本にもパブリックスピーチの伝統はあり、僧侶の説法・講話などを挙げる事が出来ます。その一方で、議論によって真実を追い求め、より良い意思決定を目指す言語活動、即ち討論の作法が体系化されることはありませんでした。

この理由としては、私見では日本において歴史的に政策決定が上位下達で行われていたことが挙げられます。例えば、雄弁術が発達した古代ローマ・ギリシャにおいては、国家の意思決定は代表者の演説と、市民や議員による投票によって為されました。それ故に、言葉によって聴衆の説得を試みる技術が洗練されました。日本においては、単純化すれば、主に血縁関係と武力の後ろ盾に基づいて、少数による政策決定が行われてきました。この様に、一般市民を取り込んで意思決定を行う政治体制が存在しなかったことが、日本にディベートに類する言語活動が育まれなかった原因である様に思えます。

(2) 明治における導入から戦後の普及まで

この政治体制の導入が日本で試みられたのが、明治時代でした。当時の政府関係者が、新しい政治の枠組みを作るにあたり、欧米の議会に視察に訪れた記録があります。これを受けて、西欧のパブリックスピーチ、そしてディベートを日本に取り入れる試みがいくつか為されました。その中で代表的な例として、福澤諭吉らの取り組みが挙げられます。福澤らは演説用の講堂を造り、「會議辯（会議弁）」という日本語のパブリックスピーチのマニュアルを1873年に作成しました。民権運動家の努力もあり、各地にて演説会が開かれ、広義での討論会も開かれて行きました。

日本語の演説会が開催される様になった一方で、それでは形式・ルールの整った、本テキストで導入が試みられるような英語ディベートは普及し始めたのでしょうか。明治時代の日本語の演説教本、そして英語スピーキングの教科書を分析した小林 (2006)によれば、当時の演説の教科書は「エロキューショナリー・リーディング」という身振り手振りや発声方法に関する海外のマニュアルを翻訳したものが大半で、英語ディベートをする上で参考にできるような、スピーチのフォーマットに関する教本は皆無です。また、国立国会図書館の「近代デジタルライブラリー」に収められた明治期の英語スピーキング教科書を全て確認したところ、“debate”という章を持つ出版物はあった物の、トピックが書かれているだけであり、いかなる手順で議論しあうのかまで述べた物は見当たりません。

その一方で、例えば Ohno (2002) で明らかにされた様に、大正時代前後にいくつかの英語会によってモデル・ディベートが定期的に行われた詳細な記録が残っています。恐らくは、斎藤 (2000) によって例示された新渡戸稲造や岡倉天心など、当時の英語の達人の実践を通じて小規模ながらも英語スピーチ、あるいはディベートのコミュニティが作られていたのではと推察されます。

この様にして日本に根付き始めたパブリック・スピーキング、並びに英語ディベートは第 2 次大戦後、さらなる民主主義の流れの中で注目を浴びることになります。朝日新聞社が主催した大会により、いわゆる「アカデミック・ディベート」という英語ディベート形式が全国に広まりました。これを皮切りに、各地の大学の English Speaking Society が地方大会そして全国大会を運営し始めました(Inoue, 1994)。アカデミック・ディベート普及を目指した幾つもの団体も発足し、幾らかの中学・高等学校において実践が試みられ始めるなど、教育現場において英語ディベートがより身近になりました。

(3) パーラメンタリーディベートの日本への導入

日本の英語ディベートに新しい流れが起こったのが、1990 年代です。この 10 年を経て、海外のディベーターとの繋がりがより密接になり、大学生ディベーターの目標が国内大会における優勝から、国際大会において成績を残す事へと変化しました。新しい流れは、パーラメンタリーディベートの日本への導入と共に起こりました。

野内 (2001a) に拠れば、日本におけるパーラメンタリーディベートの嚆矢は 2 つあります。1 つ目は、関東学生英語会連盟 (KUEL) が 1990 年 8 月に招いた、プリンストン大学のディベーターによるレクチャー会とされています。これをきっかけとして、関東学生英語会連盟主催のワークショップが、日本パーラメンタリーディベート連盟(JPDU)の発足する 1990 年代後半まで開かれて行きました。また、この一行が伝えたスタイルである、北米形式 (North American Style) が、現在まで日本ではパーラメンタリーディベートの主要なスタイルとして定着しています。

2 つ目は、1991 年 10 月の ICU Debating Society の創部です。設立したのは、日本人の学生ではなく、交換留学で来日したヨーロッパのディベートチャンピオンとされています。発足当初は留学生を中心としていた部も、徐々に日本人学生の参加者を増やし、1994 年には大学公認団体として認可を受けるに至りました。ICU Debating Society は 1992 年より ICU トーナメントという海外からのチームも招いた大会を開き、2007 年 3 月にはその第 16 回目を開催するに至っています。また、日本語で書かれた初めてのパーラメンタリーディベートに関する概説書を出版するなど、日本国内にて指導的な役割を果たして来ました (大和田 他, 1999)。

(4) JPDU 発足から国際大会での活躍

日本の大学生レベルにおいて、パーラメンタリーディベートが定着したことを印象付ける出来事として、1998 年の日本パーラメンタリーディベート連盟 (Japan Parliamentary Debate

Union, JPDU)の発足があります。関東学生英語会連盟から発展的に分離した JPDU は、主に各種大会・練習会の開催、ディベート合宿の企画・運営、そして国際大会での日本代表としての意思決定を担っています。また近年は、オーストラリア大使館の支援の下、同国より世界トップレベルのディベーターをコーチとして招聘し、日本人ディベーターの派遣も行っています。

JPDU に加盟する学生団体は 2005 年現在で 37 を数え、競技人口も増加すると主に、国際大会への日本人の積極的な参加が近年特に顕著になりました。また、2005 年に東京大学英語ディベート部が、オーストラリア・アジア大会にて日本人チームとして初めて国際大会にて ESL(英語を第 2 言語とする者用)本選に進出したことを皮切りに、2008 年度世界大会では慶應大学のチームが EFL(英語を外国語として使用する者)部門で優勝するなど、日本人チームがコンスタントに国際大会で結果を残せる様になりました。

(5) 英語ディベートの今後

本テキストで導入を試みているパラメンタリーディベートに関して言えば、ここ数年の傾向として、競技人口の裾野が大学生以外にも広がっていることがあります。数年前より、社会人のみを対象とした大会が、日本英語連盟(English Speaking Union of Japan, ESUJ)によって毎年 6 月に開催されています。また、高校生世界大会に日本の高校からも出場することになり、パラメンタリーディベートを練習する中高生が少しずつ現れ始めています。この傾向が続き、果たして英語ディベートが大学生の部活動に留まらず、より幅広い社会層によって受け入れられる競技と認められるかどうか、今後の課題になるでしょう。

References

- Inoue, N. (1994). Ways of Debating in Japan: Academic Debate in English Speaking Societies. Unpublished Ph.D. Dissertation submitted to University of Hawaii.
 Ohno, H. (2002). English oratory in late Meiji period Japan: Debating at Hitotsubashi. Annual Review of English Language Education in Japan, vol.13. pp.229-238.

大和田貴仁・土淵庄太郎・石田京子・岡史子 (1999). 「Essence of Parliamentary Debate」第 2 版. 東京: ICU Debating Society.

小林良裕. (2006). 日本における英語ディベートの発祥: 明治期における伝来の可能性. 東京大学大学院総合文化研究科 夏季集中講義「英語教育史」学期末レポート

斎藤兆史 (2000). 「英語達人列伝 あっぱれ日本人の英語」 東京: 中央公論社.

野内光二 (2001a). 日本のパラメンタリーディベート活動-過去、現在、未来-.

<http://members.at.infoseek.co.jp/parli/basics/japan1.html>

野内光二 (2001b). パラメンタリーディベートとは?

<http://members.at.infoseek.co.jp/parli/basics/parli.html>

【資料 2】 Manual for Chairperson

議長 (chairperson)の役割は、試合の進行役です。時間を計ること、そして試合の開始・終了の宣言と、各スピーカーを呼びだすことがその仕事です。議長は、必ずしもいなければならない訳ではありません。大会の予選では、ジャッジが議長を兼ねる場合もあります。

(1) 時間の計り方

試合でのスピーチ時間は、立論スピーチ (constructive speech)が7分か8分、そしてリプライ・スピーチ (reply speech) が4分です。

立論スピーチでは、Point of Information が可能な時間の区切りを示すために、1分経過した時と残り時間が1分になった時に合図を出します。合図の出し方は、手を叩くことが一般的です。一回叩きます。手を叩くこと以外にも、ベルがあればベルを1度鳴らします。

また、スピーチ時間が終了した時、つまり7分あるいは8分経過した時にも、合図を出します。今度は手を2度叩きます。30秒超過した場合は3回手を叩き、スピーチを止めるように合図します。大会によっては、手を叩く代わりに、“stop your speech”と言う場合もあります。

4分間のリプライ・スピーチでは、Point of Information が無いため、スピーチ時間の最初と最後の1分間を合図する必要はありません。4分が経過すれば2回手を叩き、30秒超過すれば3回手を叩いて合図することは、立論スピーチと同じです。

(2) ディベートの試合開始、各スピーカーの呼び出し、そして試合終了の宣言

議長の役目は試合の進行役であり、その役割を果たす限りにおいてどの様に進行しても構いません。参考までに、以下ではよく使われている表現を順番に示します。

[試合開始の宣言・PMの呼び出し]

- Preparation time has expired. Now I call this house to order.
- The motion for this round is ~.
- Now, I would like to call upon the prime minister to open this round within 7(あるいは8) minutes. (拍手)

大会では、上の表現にチームとジャッジの紹介が加わります。例えば以下の様な具合です:

“Preparation time has expired. Welcome to the quarter final of (大会名). The government side is (チーム名) and the opposition side is (チーム名). First, let me introduce the honorable adjudicator(s) for this round. He is Mr. ~. He is working for ~. He was the finalist of ~. Now, I would like to call upon the prime minister to open this round within 8 minutes”

次に、1 人目のスピーカーがスピーチを終えた後です（スピーチ中は、上述の通り時間を計ります）。各スピーチを終えた後では、拍手をします。その後で、以下の文を読みます。

[次のスピーカーの呼び出し]

- ・ I thank the (前のスピーカーの名称。例えば Prime Minister) .
- ・ Next, I would like to call upon the (次のスピーカーの名称。例えば、Leader of the Opposition) to deliver their 1st constructive speech within 7 minutes.

1 つ目の表現で、スピーチを終えた論者に謝辞を述べます。2 つ目の表現で、次の論者を呼び出します。スピーチの順番は以下の通りです。スピーカーの名称と、下線で場所を示したスピーチ名、そしてスピーチ時間を入れ替えて、上の表現をそのまま使います。

[スピーチの順番]

- ① Prime Minister, 1st constructive speech
 - ② Leader of the Opposition, 1st constructive
- ③ Member of the Government, 2nd constructive
 - ④ Member of the Opposition, 2nd constructive speech
 - ⑤ Leader of the Opposition, reply speech
- ⑥ Prime minister, reply speech

最後に、全てのスピーチが終わった後で、以下の表現を使い試合の終了を告げます。

[試合の終了の宣言]

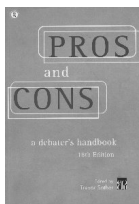
- ・ I thank the prime minister.
- ・ All speeches are over. Thank you for your cooperation. (拍手)

以上が議長の仕事になります。これ以降は、試合の講評等をジャッジ役の人に任せます。

【資料 3】 文献案内 (英語)

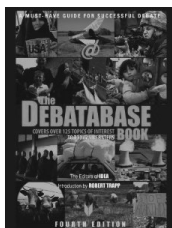
ここでは、ディベーターそしてディベートを指導される方にとって有益と考えられる文献・視聴覚資料を紹介します。それぞれ、2008年8月現在で入手可能な物です。

(1) Pro & Cons: A Debates' Handbook 18th edition. By Trevor S. [ed]



一世代前の英語ディベーターが、ほぼ必ず持っていた本です。網羅的に収められた論題に関して、賛成と反対の議論の例がリストアップされています。Amazon.co.jpで4000円前後で入手できます。ISBNは0415195489です。ただ、現在は次に挙げる類書の方が人気があります。

(2) The Debatabase Book: A Must Have Guide for Successful Debate. 4th ed. By IDEA.



IDEAというディベート普及を目指した団体が編集した、ディベートで頻出の論題に関して賛成・反対の議論を例示した本です。Amazon.co.jpで2000円前後で入手できます。ISBNは、9781932716498です。ちなみに、インターネット版もあります：

<http://www.idebate.org/debatabase/>

(3) The Economist



イギリスのThe Economist社が発行している、週刊のニュース誌です。事実上、世界大会で用いられる論題は、この雑誌の記事で取り上げられたトピックから出されています(世界中で手に入る雑誌なので、どの地域のディベーターにとっても不公平で無い様にと)。1冊1200円と高価で、学割で定期購読をしても年間3万円以上かかります。大学図書館で閲覧して、気になる記事だけコピーして読むか、同社のウェブサイトに出ている記事を読むと良いでしょう。ちなみに、毎日新聞社が発行している「週刊エコノミスト」とは関係がありません。

(4) The International Herald Tribune



こちら、国際大会に出場を志す人は読む必要がある資料です。New York Timesの国際版で、朝日新聞社が日本の代理店となっており、1月3900円で読めます。かつてのAsahi Evening(朝日新聞を翻訳した夕刊の英字新聞)とヘラルド・トリビューンが合わさっています。英語は難し目なので日本の学部生は注意が必要です。より簡単なDaily Yomiuriで英字新聞を読む練習をしてから挑戦してみてください。

【資料 4】 List of the Motions for Practice (古典的)

“THBT”は、“This house believes that” の略称です。“THW”は、“This house would” の事です。“House”とは議会を指し、つまり「本議会は、～と信じる / ～をする」という動議(Motion)を採択するか否かが、ディベートで争われる内容です。

注) 以下の論題は、Book 1 の巻末の論題集のそれとほとんど重なっています。

【List A】 初心者用

1. THBT Debating Society should be the club to choose.
2. THW abolish POI.
3. THBT death penalty should be abolished.
4. THBT coming of age ceremony should be abolished.
5. THBT school uniforms should be abolished
6. THBT English classes should be introduced in elementary school.
7. THBT smoking in all public spaces should be banned.
8. THBT mechanical pencils are better than wooden pencils.
9. THBT smoking is good.
10. THBT Doraemon spoils Nobita.
11. THBT internet shopping is better than going to real shops.
12. THBT cellular phones are not good for students.
13. THBT studying in university is nothing but second priority.
14. THBT marriage should have an expiration date
15. THBT love marriage is better than arranged marriage.
16. THBT single-sex education is better than co-education.
17. THBT gorgeous wedding is better than simple one.
18. THBT contact lens is better than eyeglasses.
19. THBT the couple with double incomes and no kids is better than the couple with a single paycheck and children.
20. THW preserve historic buildings rather than replace them with modern buildings.
21. THBT giving grades discourages students to learn.
22. THBT e-mail made our life worse.
23. THBT package tour is better than to travel independently.
24. THBT university students should take classes in many different fields rather than specializing in one field.
25. THBT the ability to work in a group is more important than the ability to work independently.

26. THBT social community sites such as mixi are bad for students.
27. THBT classmates influence students' success in school more than their parents.
28. THBT a high-paying job with long working hours is better than a lower-paying job with shorter working hours.
29. THBT cellular phones have made the world a better place to live.
30. THBT living in a tropical place is better than living in a place with four seasons.
31. THBT dormitory life is better than living alone for university students.
32. THBT e-mail have made communication between people superficial.
33. THBT preschool children should study rather than play.
34. THBT carefully planned leisure time is better than unplanned one.
35. THBT having a friend who have a lot in common with you is better than having a friend who has little in common.
36. THBT working shorter hours for lower salary is better than working longer hours for higher salary.
37. THBT comic book is a legitimate Japanese culture.
38. THBT having a few close friends is better than having a large number of friends.
39. THBT a man and a woman cannot be true friends.
40. THBT students do not need homework.
41. THBT university students should have part-time job.
42. THBT school libraries should buy new computers instead of new books.
43. THBT borrowing money from a friend damages the friendship.
44. THBT pets should be considered as member of the family.
45. THBT Nobita should choose Jaiko rather than Shizuka.
46. THBT Studying humanities is more important than studying natural sciences.
47. THBT reading books is more enjoyable than watching movies.
48. THBT playing game is fun only when you win.
49. THBT it is better to be a member of a group than to be the leader of a group for first-year university students.
50. THBT items made by hand are better than items made by machine.
51. THW abolish tuition fees.
52. THBT one long vacation in a year is better than several short vacations.
53. THBT studying at home by using internet is better than studying at traditional schools.
54. THBT traditional house is better than modern apartment.
55. THBT libraries of national universities should be opened to all citizens.
56. THBT university classes should be taught in English.

57. THW penalize youth engaging in pre-marital sex.
58. THBT you should not pick up your girlfriend / boyfriend among debaters.
59. THBT it is good to give money to children as birthday present.
60. THW abolish St. Valentine's day.
61. THBT Doraemon should go back to 22nd century forever.
62. THBT it is better to give Odango than chocolate for St. Valentine's Day.
63. THBT Hatsune-Miku (vocaloid) is better than real singers.
64. THW introduce child curfews.
65. THW allow Universities to allot slots for the admission of children of alumni.

【List B】 中級者用

1. THBT the 2008 Olympics was a failure.
2. THBT youth should participate in country's decision making.
3. THBT emission trade saves environment.
4. THW legalize prostitution.
5. THW legalize drugs.
6. THW introduce baby hatch (「赤ちゃんポスト」)
7. THW legalize euthanasia.
8. THW introduce fat tax. 9. THW legalize selling of organs.
10. THW legalize all drugs.
11. THBT ASEAN + 3 needs free trade.
12. THW allow adoption by gay couples.
13. THBT plea bargain is justifiable.
14. THBT UN should have its own standing army.
15. THW introduce compulsory voting.
16. THW open casino in Odaiba.
17. THW raise the rate of consumption-tax.
18. THW stop space exploration.
19. THW ban cosmetic surgery.
20. THW support the flat tax.
21. THBT the vending machines of tobacco should be abolished.
22. THBT gay marriage should be permitted.
23. THBT married couples should be allowed to have different surnames.
24. THBT the names of suspects should be anonymous in news reports.
25. THBT newspaper journalists should sign their names on their articles.
26. THBT the use of nuclear power plants should be prohibited.

27. THBT foreign residents should be given the right to vote.
28. THBT suffrage(the right to vote) should be given at the age of 16.
29. THBT Prime Minister of Japan should be elected directly.
30. THW introduce retirement age in the Diet.
31. THW privatize water business.
32. THBT the introduction of citizen-judge system will do more harms than goods.
33. THBT trials should be broadcasted on TV.
34. THBT media should disclose the information of juvenile suspects in cases of serious crimes.
35. THW revise the constitutional law of Japan.
36. THW give the right to vote to prisoners.
37. THBT textbook inspection should be abolished.
38. THW integrate the history textbooks of Japan, South Korea, and China.
39. THBT genetically modified food should be prohibited.
40. THBT animal testing should be prohibited.
41. THW privatize the management of prisons.
42. THW allow candidates to use the Internet for their election campaign.
43. THBT information of sexual criminals should be disclosed.
44. THBT visiting Yasukuni Shrine by Prime Minister should be supported
45. THBT whale hunting should be permitted.
46. THW control the possessions of guns strictly.
47. THBT Japan should poses nuclear weapons.
48. THBT Japan should become a permanent member of the UN Security Council.
49. THW allow athletes to use performance enhancing drugs.
50. THBT US military bases in Japan should be removed.
51. THW introduce surrogacy for profits.
52. THBT the nuclear technology has brought better society.
53. THBT immigrants should adopt the culture of the new country rather than preserving their own.
54. THBT Japan should welcome more foreign workers.
55. THW allow gay marriage. 56. THW make reparations for slavery.
57. THW cancel the debts of third world countries.
58. THW give national treasures back to its people
59. THW introduce compulsory voting.
60. THW make English second official language of Japan.
61. THW chemically castrate sexual offenders.

62. THBT ban advertisement targeting children.
63. THBT zoo should be abolished
64. THW privatize NHK.
65. THW introduce a common currency in Asia.
66. THW not admit too skinny models.
67. THBT governors of every prefecture should not be reelected more than once.
68. THBT sting operation is justifiable.
69. THW introduce environmental tax.

【List C】 上級者用

1. THW nationalize oil distribution.
2. THW wage war against Russia.
3. THW immediately accept Georgia into NATO.
4. THBT progress towards democracy has halted in the Arab world.
5. THBT Japan is a better friend to North East Asian counties than the United States.
(Northeast Asian Open 2005, Final)
6. THW ban the public exhibition of sacrilegious arts. (Australians 2005, ESL semi-final)
7. THBT ASEAN should end its non-intervention policy.
8. THW lift sanctions on Iran. (UBC 2006, EFL final)
9. THBT the US hegemony will be overturned by Asian Hegemony.
10. THW criminalize paying of ransom (UBC 2006, R4).
11. THBT political assassinations are justifiable. (Toronto 2002, R6. modified)
12. TH supports surrogacy for profits. (Toronto 2002, QF)
13. THW promote immigrations into Japan. (Glasgow 2001, R2. modified)
14. THBT the US should get out of the Middle East. (Glasgow 2001, R4)
15. THW remove patents on pharmaceutical drugs from the 3rd world. (Glasgow, R6)
16. THW allow the use of performance-enhancing drugs in sports. (Glasgow 2001, R8)
17. This house would have harsher sentences for celebrity criminals. (MMU 2005, R6)
18. THBT environmentalists should be radical. (Sydney 2000, R8 modified)
19. THW shut down fast-food chains. (Sydney 2000, QF modified)
20. THBT globalization widens the gaps between the rich and poor countries.
(Manila 99, R2)
21. THBT Media has more power to control the people than the government.
(Manila 99, QF)
22. THBT child labor is necessary for developing countries to develop.
(Manila 99, SF for Masters)

23. THW support global nuclear disarmament. (Manila 99, R1 for Masters)
24. THW protect the rights of smokers. (Athens 98, R9 modifies)
25. THBT developing countries need strong dictatorship. (Stellenbosch 97, R1)
26. THBT a terrorist can also be a freedom fighter from a different point of view.
(Stellenbosch 97, QF modified)
27. THBT CTBT is not necessary. (Cork 96, R2 modified)
28. THW like to have a small government than a big one. (Cork 96, OF)
29. THBT security enforcements against terrorism is justifiable in Japan.
(Melbourne 94, R2)
30. THBT space exploration should be continued. (Melbourne 94, R2)
31. THBT we should negotiate with terrorists.
32. THBT we should impose the death penalty on drug smugglers.
33. THBT India and Pakistan should ratify the Comprehensive Test Ban Treaty.
34. THBT Israel should denuclearize herself.
35. THBT globalization marginalizes the poor.
36. THBT religious doctrines are more important than women's rights.
37. THBT economic sanctions do more harms than benefits.
38. THBT strong dictator is better than weak democracy.
39. THBT economic growth is more important than environmental protection.
40. THBT free trade would bring more harms than goods.
41. THBT the protection of farmers in industrial countries is less important than saving
people in third world countries.
42. THW ban hate speech.
43. THBT middle east peace process is doomed to fail.
44. THBT the UN definition of refugee should include economic persecution.
45. THBT US foreign policy provokes terrorist reprisal.
46. THBT violent sports should not be broadcasted on TV.
47. THBT lobby groups have become an enemy of democracy.
48. THW commercialize organ donations.
49. THBT western aid should focus on development rather than human rights.
50. THW enforce international ban on child labor.
51. THBT civil liberties must be restricted in the interests of security.
52. THW ban prisoners publishing accounts of their crimes.
53. THW ban criminals from voting.
54. THW put a speed limit on human traffic.
55. THW forget debt in the 3rd world.

56. THW remove patents on medicines from the 3rd world.
57. THW ban performance enhancing drugs in sport.
58. TH supports a one child policy.
59. THBT election campaigns should be fully financed by the state.
60. TH favors affirmative action.
61. THBT media is more powerful than Government.
62. THW broadcast trial on TV.
63. THW ban fascist and Neo-Nazi organizations.
64. THBT bloody sports should be banned.
65. THBT Islamic law is unacceptable in the modern world.
66. THBT veto power in U.N. Security Council can no longer be justified.
67. THBT conditions designed to prevent child labor should be attached to trade agreements.
68. THBT coalition government is better than single-party government.
69. THW abolish inheritance tax.

【資料 5】 大会で使われた論題

以下は 2010 年度の、国内の主要な大会の論題です。以前の大会の論題、また国際大会の論題については、東京大学英語ディベート部のサイトが網羅的に収集しており、そちらを参照下さい(utds で検索するとすぐ見つかります)。

◆ 春 JPDU Tournament (JPDU)

R1: Warm Up

THW allow marijuana for pleasure.

THW ban all forms of gambling.

THW legalize euthanasia.

R2: Religion

THBT the state should require all religious schools to teach safe sex regardless of parental consent.

THBT aid agencies should not be allowed to undertake missionary activities.

THW ban wearing veils in public.

R3: Issues in Asia

THBT the Thai government should allow criticisms toward the Royal Monarchy.

THW abolish copyright laws.

THBT Japan should possess nuclear weapons.

R4: Sexuality

THW force all corporations to introduce quotas for women in upper management positions.

THW create separate units for gays in the military.

THW compel HIV infected people to disclose their disease to their sexual partners.

OF: Terrorism

THW negotiate with terrorists.

THW prohibit civilians from entering foreign conflict zones.

THW allow terrorists to air their propaganda.

QF: SNS

THW ban police officers from posing as children on social networking sites to catch pedophiles.

THBT all social networking sites should limit their services to users over the legal age of adulthood.

THBT the U.S. government should subsidize twitter to liberalize oppressed societies.

SF: United States

THW ban political contributions made by financial institutions.

THBT the US government should allow its soldiers to openly criticize the government.

THBT the US should not exclude 'outliers like Iran and North Korea' in its new nuclear policy.

GF: Medical Ethics

THW use financial incentives to increase donations of organs.

THW allow minors to undergo abortion without parental consent.

THBT medical doctors from developing countries should not be allowed to migrate to the developed world.

◆ エリザベス杯 (ICU Debating Society)

R1: THW ban zoo.

R2: THW punish parents for the crimes committed by their children.

R3: THBT it is better to debate here than to help your mom on Mother's day.

R4: THW allow the use of drugs in the Olympics.

◆ 社会人 ESUJ Tournament (ESUJ)

R1: THW allow electoral campaigning over the internet.

R2: THW ban all new and existing offshore oil drilling.

R3: TH prefers a tax increase to more governmental bonds.

R4: THW allow a child to skip a year of compulsory school education.

SF: THBT how much money your spouse make is more important than how much you love him or her.

GF: THBT the World Cup does more to promote peace than the United Nations.

◆ ジェミニ杯 (JPDU)

R1: THW abolish teaching licenses and employ teachers without them.

R2: THW ban abortion at all stages of pregnancy.

R3: THBT the head coach of the Japanese national football team should be decided through the votes of the fans and not by Japan Football Association.

R4: THBT the developed world should unconditionally accept environmental refugees.

OF: THBT the EU parliament should inspect the budget bills of its member states before they are approved by the domestic legislative bodies.

QF: THW ban fictional publications that demonize certain religions, races, or ethnicities.

SF: THW ban companies from going to the third world in order to avoid the first world

restrictions on human drug testing.

GF: THW completely ban the broadcast of suicide.

◆ 秋 JPDU Tournament (JPDU)

R1: THW make parental leave mandatory for both parents.

R2: THBT multinational corporations operating in the developing world should be held liable to environmental regulations based on their country of origin.

R3: THBT government subsidy of sports should only be used for promoting sports in general and not for particular sports.

R4: THBT developing countries should not privatize the water sector.

R5: THW criminalize public display or announcement of burning religious texts.

OF: THW ban political contributions from all interest groups and corporations, and have the government pay for expenses instead.

QF: THW legalize active euthanasia.

SF: THBT prisoners sentenced to life without parole should be allowed to choose the death penalty.

GF: THW require media organizations to provide equal airtime to compelling views on controversial issues.

◆ ESUJ Tournament (ESUJ)

R1: THBT the fairest tax is the consumption tax.

R2: THW permit entering households without a search warrant in cases of suspected child abuse.

R3: THW ban eating animals.

R4: THBT Japan should lift the ban on the export of arms.

QF: THBT removing advanced countries' trade barriers is more beneficial developing countries than giving them aid.

SF: THW introduce conscription.

GF: TH prefers the bicameral system to the unicameral system.

◆ 梅子杯 (津田塾大学 ESS)

R1: THW abolish escalator system in schools.

R2: THBT it is better to get handmade presents from your boyfriend or girlfriend than expensive brand-made ones.

R3: THBT politicians should stop being engaged in other jobs.

R4: THW ban animal experiments.

QF: THW join Trans-Pacific Partnership (TPP).

SF: THW prohibit convicted drunk drivers from driving ever again.

GF: THBT the French government should allow religious freedom in public.

◆ 土筆杯 (IXIA)

R1: THW distribute condoms in school.

R2: THBT American soldiers who engaged in torture during the Bush administration should not be punished.

R3: THBT ESSs/debating clubs should prohibit making boyfriends and girlfriends among their members.

R4: THW make obese citizens fully pay their own medical expenses.

◆ BP Novice (JPDU)

R1: THW invade the Democratic People's Republic of Korea (North Korea).

R2: THW ban homeschooling.

R3: THW prosecute sengoku38 for leaking state secrets.

R4: (Assuming that a placebo effect exists) THW allow doctors to lie to patients about their diagnosis/prognosis.

QF: THBT Afghanistan should be allowed to legally produce opium.

SF: THBT bullfighting should be stopped.

GF: THW not give medical treatment to attempted suicides.

◆ 冬 JPDU Tournament (Japan BP)

R1: THBT leaking classified information is justified.

R2: THBT governments should force patients of witchdoctors to attend medical institutions.

R3: THW allow deaf couples to use medical technology to ensure that they have deaf offspring.

R4: THW subsidize print media.

SF: THBT French government should stop expelling Romanies and rather focus on integrating them into society.

GF: THBT African nations should have a permanent rotating seat on the UN Security Council.

Rookie GF: THBT governments should financially support abortion for socio-economically deprived populations.

◆ 大沢杯 (ICU Debating Society)

R1: Religion

THBT the church should allow homosexual clergies.

THW provide religious education for prisoners.

THW establish religious courts in areas where there are many religious minorities.

R2: Company and Environment

THBT individuals who have commanded pollutions within corporations should be charged with manslaughter.

THW abolish the carbon trading.

THBT the government should limit the amount of debt that corporations can have.

R3: Medication

THBT HIV positive workers should tell their employers of their status.

THBT smokers should be excluded from Medicare system.

THW force sperm banks to reveal the identity of sperm donors upon request of the offspring, upon reaching the age of consent.

R4: Law and Order

THBT in times of war, the state should offer convicts imprisoned for heinous crimes the option to fight for the army in exchange of conditional pardon.

THBT individuals found guilty of crimes overseas should serve their sentences in their country of origin.

THBT assassination of political leaders can be justified.

◆ ディベートのすすめ (Keio Debating Squad)

R1: Working place

THW ban companies from recruiting only new graduate students.

THBT the Japanese government should save whistle-blowers punished by company.

THW incentivize companies not to choose employees based on their academic background

R2: Love and marriage

THBT it is better for university students to fall in love with a working member of society rather than those within universities.

THBT couples should keep their virginity until their marriage.

THBT people who are about to marry should have a divorce agreement before marriage.

R3: School

THBT we should make students together with challenged students in schools.

THBT the U.S should end the affirmative action for entrance exam of universities.

THW make it compulsory for students to learn about at least one another religion in all religious schools.

R4: Politics

THBT prisoners should have right to vote.

THBT governments should allow families to cast proxy votes on behalf of their challenged members.

THW cut the salary of politicians.

QF: Laws and crime

THBT the Japanese government should allow the police to use entrapment in all kinds of investigation.

THW punish pregnant mothers who smoke and drink.

THW abolish the use of insanity as a legal defense.

SF: International problem

THBT China should allow the Yuan to float.

THW prohibit speculative trading of foods.

THW ban mercenaries.

GF: Seek the truth

THW require individuals who had cosmetic surgery to disclose it to anyone whom they wish to marry.

THW force all citizens to take HIV testing.

THBT outing of a public figure is a legitimate tactic to advocate their cause of gay rights movement.

◆ 東京工業大学杯 (東京工業大学 ESS)

R1: THW ban the exports of small arms to countries with conflict zone.

R2: THW prohibit financial institutions from providing loans to the poor.

R3: THW abolish political party based on religion.

R4: THW set air time quota on media to report disasters in foreign countries.

R5: THW legalize duel to the death.

QF: THW not allow women to be enlisted in military.

SF: THBT "Freak show" does more good than harm.

GF: THBT media should not broadcast public demonstrations.

☀ Useful Expressions (パラメタリーディベート用表現集)

◆ **greeting**

Thank you Mr. (Madam) speaker. Hello, honorable judge, and members of this house / Hello, everyone / Good morning, ladies and gentleman /

◆ **definition**

【論題の提示】 Today we are going to debate on ~ / Today, we have the motion that ~. However, this motion has some vague points (words) / Today's motion is ~. However, this motion is not so clear. Therefore, I would like to define some points (words) in this motion

【定義】 Then, let me give you our model (plan) / In this round, we will define the word A as B / In this round, we will limit X to Y / Therefore we propose that ~ / Therefore, our proposal is that ~ / We have one condition. It is that ~ /

◆ **signposting & allocation**

【signposting & allocation】 We have ~ points to support our proposal (plan). The first point is ~, the second point is ~, the last point is ~ / I will explain our first and second points. And my partner will explain the third point.

【議論の説明に移る transition】 Then, let me explain our first argument / Let's move on to the next point / First (second, third) of all /

◆ **development of points**

【議論の説明のための基本表現】

- Our first point is ~
- On this point, I will explain ~ / I am going to prove you that ~ / The reason why we can say ~ is because ...
- Under the current situation (status quo), ~
- However, if we take this plan, ~ / After we introduce our proposal, ~
- For example (instance), ~ / Let's think about ~'s case. / I will give you one example / Here is the evidence that ~ / If ~, / Let's suppose ~ / Please imagine ~ / According to ~ / A recent article in ~ stated ... / ~ said that ...
- This point is important because ~ / As a role of (the government etc.), taking this plan is important because ~
- What do I mean by this? I mean that ~ / Let me make it clear that ~

◆ refutation

a) 反論の開始

Let me refute back to the Gov (Opp) side / I will refute back to their arguments
/ Let me respond to what they have said. I have four responses /

b) 相手の政策案に反論する

Their plan is not necessary [feasible / workable / justifiable] because ~ .

c) 相手の議論を要約する

They (the previous speaker)said that ~.

d) 相手の誤りや弱点を指摘する

- This is not true [not always true / very doubtful]because ~
- Their second argument is not important (significant) because ~
- This is irrelevant because ~
- They could not explain the clear process (mechanism) of how ~
- Even if ~ , it is not always true that
- The mistake the previous speaker has made is ~ / The weakness of their argument is ~ / They failed to explain ~
- There is no reason why ~ .
- They could not show us any evidence (example) of ~ .
- Their argument depends on the misassumption that ~ /

e) 相手の認識不足を指摘する

They are not understanding that ~ / They are not aware of ~ / They ignored (didn't consider) ~

◆ reply

This round has essentially come down to whether ~ / In order to summarize this round, we need to ask three questions / The most important issue in this round is ~ / I would like to point out the crucial failure (mistake) of Gov (Opp) / Please compare the argument of each side / As my partner has clearly explained before, ~ / In order for Gov (Opp) side to win this round, they should have ~. But they failed to do so. On the other hand, we could ... /

◆ conclusion

In summary ~ / Let me summarize ~ .

◆ end of speech

For all these reasons, we strongly believe ~ / Because of these reasons, we beg to propose (oppose) / Therefore, we believe that ~ / Consequently, we insist that ~

☀ Outline for Beginners (パラメンタリーディベート用)

1. 挨拶

まず挨拶をします。型どおりの表現で構わないので、聞き手の人にこれからスピーチを始めるとの注意を促します。

(Hello etc…) Ladies and gentleman. / Thank you Mr.(Madam) chair.

2. 論題の提示

次に、この試合で何についてディベートを行うのか確認をします。必要であれば、定義も行うこととなります (Opposition 側に立った場合は省略されます)。

Today we are going to debate on ~ / Today we have the motion that ~ / The motion before us today is ~ / Today's motion is that ~.

3. 自分たちの立場の設定

自分たちはこのラウンドで、どのようなスタンスを取るのか大まかな理由を示します。

We will propose that ~ because ~. / We strongly believe (insist) that ~ because ...

4. スピーチのアウトラインの提示

次に、自分たちのスピーチがどのような構成で進むのか示します。どのポイントの説明を誰が担当するのか言うのが一般的です (これは各チームの1人目のスピーカーが言います)。

We have ~ points(arguments) to support our proposal(plan). The first point is ~. The second point is ~. The last point is ~. / I will explain~ and my partner will explain ~.

5. 議論の説明

1つ目の議論の導入

First of all ~ / The first argument is ~ / Let me explain our first point.

次の議論に移るとき

Next, I would like to talk about ~ / Another point is ~ / Our second (third) point is~. Now let us turn to ~ / Let me move on to the next argument.

議論の構成 :

- 1) Signpost
- 2) Claim / Assertion (1文でまとめられた主張の要旨)
- 3) Reasoning (どうしてその主張が成り立つかの順を追った説明)
- 4) Evidence / Example
- 5) Importance (どうしてこの議論が重要かの説明)

- 1) Our first point is ~
- 2) On this point, I will explain ~ / I am going to prove you that ~ / The reason why we can say ~ is because ...
- 3) Under the current situation (status quo), ~ / However, if we take this plan, ~ / After we introduce our proposal, ~ /
- 4) For example (instance), ~ / Let's think about ~'s case. / I will give you one example / Here is the evidence that ~
- 5) This point is important because ~ / As a role of (the government etc.), taking this plan is important because ~

6. 結論を述べる

議論を説明し終えた後で、改めて要旨を述べます。

In summary ~ / Let me summarize my arguments. / In conclusion, we have found that ~ / I have explained to you that ~ / .

7. スピーチを終える

最後に、自分のスピーチが終わることを次のような表現で示します。

For all these reasons, we strongly believe that ~ / Because of these reasons, we beg to propose (oppose) / Therefore, we believe that ~ / Consequently, we insist that ~

◆ 反論する

一般的に相手チームへの反論は、自分たちの議論を説明する前に行います。

反論に移る

Let me refute back to the Gov (Opp) side / I will refute back to their arguments / First, let me respond to the previous speaker. I have three responses.

反論の構成は、基本的に右のいずれかを取りま
す。1~4 までは以下の型を使います：

〔 They said ~. However, it is [].
That is because ~. 〕

- 1) not true
- 2) not always true (very doubtful)
- 3) not important (significant)
- 4) not relevant
- 5) that's the opposite
(flip または turn around と呼ばれます)
- 6) 相手の誤った assumption を指摘する

■ 初めての英語パラメンタリーディベート
A New Introduction to Debating in English
【Book 2】 Parliamentary Debate

2007年4月27日 初版発行
2009年9月26日 第3版発行
2011年4月10日 第4版発行
2021年12月29日 KDP版発行

制作 小林良裕 (S.A.D. Works)

発行 S.A.D. Works

kobayashi031198@gmail.com